

岐阜県文化財保護センター

調査報告書 第165集

柿 田 遺 跡 II

2024

岐阜県文化財保護センター

柿 かき 田 だ 遺 跡 趟 II

2024

岐阜県文化財保護センター



C17地点（北から）



水辺の祭祀関連須恵器（C17地点・NR5）

序

柿田遺跡が所在する可児市柿田及び可児郡御嵩町顔戸は、清流可児川によって形成された沖積平野及び沖積平野の南側に展開する浅間丘陵地の扇状地上に位置します。この地は、古代には可児郡の役所があった郡家郷の比定地で、古代七道の一つである東山道が通じていたとされています。また、江戸時代には中山道が通り、交通の要衝として栄えました。

このたび、中日本高速道路株式会社名古屋支社岐阜工事事務所による東海環状自動車道土岐 JCT～美濃加茂 IC 間付加車線設置事業に伴い、柿田遺跡の発掘調査を実施しました。柿田遺跡は縄文時代から近現代にかけての長期間にわたって営まれた遺跡で、今回の発掘調査では、掘立柱建物、溝などを検出しました。また、古代の建築部材や下駄などの木製品や、須恵器や山茶碗をはじめとする土器など、当遺跡での暮らしぶりを窺うことのできる豊富な遺物が出土しました。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、御支援・御協力をいただきました関係諸機関並びに関係者各位、可児市教育委員会、地元地区的皆様に深く感謝申し上げます。

令和6年3月

岐阜県文化財保護センター
所長 岡田 知也

例　言

- 1 本書は、岐阜県可児市柿田及び可児郡御嵩町顔戸に所在する柿田遺跡（岐阜県遺跡番号 21214-088 46）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、東海環状自動車道土岐JCT～美濃加茂IC間付加車線設置事業に伴うもので、中日本高速道路株式会社名古屋支社岐阜工事事務所から岐阜県文化財保護センターが委託を受けた。発掘作業及び整理等作業は、岐阜県文化財保護センターが実施した。
- 3 林正憲独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第3研究室長の指導のもとに、発掘作業は令和3年度に、整理等作業は令和4年度に実施した。
- 4 発掘作業及び整理等作業の担当は、本書第1章第2節に一括掲載した。
- 5 本書の執筆及び編集は片桐由裕が行った。
- 6 発掘作業における現場管理、掘削、測量、景観写真撮影などの支援業務と、出土遺物の洗浄・注記は、株式会社島田組に委託して行った。整理等作業における作業管理、出土遺物の整理作業、挿図・写真図版作成などの支援業務は、橋本技術株式会社岐阜営業所に委託して行った。
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 8 漆塗膜分析は株式会社パレオ・ラボ、木製品の樹種同定は株式会社吉田生物研究所に委託して行い、第4章に掲載した。第4章第1節は片桐が執筆した。
- 9 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。
- 近藤大典、長江真和、長瀬治義、早野浩二、渡邊博人、
可児市文化スポーツ部文化財課
- 10 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第VII系を使用する。
- 11 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2015『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 12 調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目 次

序

例言

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	3
第2章 遺跡の環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	8
第3章 調査の成果	13
第1節 基本層序	13
第2節 時期区分	15
第3節 遺構の概要	17
第4節 遺物の概要	19
第5節 C16・17 地点の遺構・遺物	24
第6節 C18 地点の遺構・遺物	50
第7節 C19 地点の遺構・遺物	58
遺構一覧表、遺物観察表、発掘区全域図・分割図	
第4章 自然科学分析	114
第1節 分析の概要と成果	114
第2節 漆塗膜分析	115
第3節 木製品の樹種同定	118
第5章 総括	127
第1節 文字資料について	127
第2節 土地利用の変遷	133
引用・参考文献	141
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

図 1 遺跡位置図	1	図35 SB 1 出土遺物実測図	50
図 2 試掘・確認調査坑と発掘区	2	図36 SB 1 遺構図	51
図 3 発掘区地区割図	3	図37 SD 2・SR 1・SR 2 遺構図	53
図 4 柿田遺跡周辺の地質概略図	7	図38 SD 2 出土遺物実測図	54
図 5 柿田遺跡周辺遺跡	10	図39 SK24・SK25遺構図	55
図 6 土層柱状図（西壁面）	14	図40 III層（遺物包含層）出土遺物実測図	56
図 7 遺構分類模式図	18	図41 SD 3 出土遺物実測図	58
図 8 連雀下駄の分類	21	図42 SD 3・SD 4 遺構図	59
図 9 曲物底板の分類	21	図43 SD 4 出土遺物実測図	61
図10 柱材の分類	21	図44 SD 6 遺構図	63
図11 柱根の分類	21	図45 SD 6 出土遺物実測図	64
図12 杖の分類	22	図46 SD 7・SD 8 遺構図	66
図13 SP 1 遺構図	24	図47 SD 7 出土遺物実測図（1）	67
図14 SP 2 遺構図・出土遺物実測図	24	図48 SD 7 出土遺物実測図（2）	68
図15 NR 1 遺構図・出土遺物実測図	26	図49 SD 7 出土遺物実測図（3）	69
図16 NR 2 遺構図	27	図50 SD 8 出土遺物実測図	70
図17 NR 2 出土遺物実測図（1）	28	図51 SD 9 遺構図・出土遺物実測図	71
図18 NR 2 出土遺物実測図（2）	29	図52 SK50 遺構図	72
図19 NR 3 遺構図（1）	30	図53 SK51 遺構図	73
図20 NR 3 遺構図（2）・遺物出土状況図	31	図54 II層等出土遺物実測図	74
図21 NR 3 出土遺物実測図（1）	33	図55 発掘区全域図 割付図	99
図22 NR 3 出土遺物実測図（2）	34	図56 発掘区全域図 分割図1	100
図23 NR 3 出土遺物実測図（3）	35	図57 発掘区全域図 分割図2	101
図24 NR 5 遺構図・木製品出土状況図	37	図58 発掘区全域図 分割図3	102
図25 NR 5 出土遺物実測図（1）	38	図59 発掘区全域図 分割図4	103
図26 NR 5 出土遺物実測図（2）	39	図60 発掘区全域図 分割図5	104
図27 NR 5 出土遺物実測図（3）	40	図61 発掘区全域図 分割図6	105
図28 NR 5 出土遺物実測図（4）	41	図62 発掘区全域図 分割図7	106
図29 NR 5 出土遺物実測図（5）	42	図63 発掘区全域図 分割図8	107
図30 III層（遺物包含層）出土遺物実測図（1）	44	図64 発掘区全域図 分割図9	108
図31 III層（遺物包含層）出土遺物実測図（2）	45	図65 発掘区全域図 分割図10	109
図32 III層（遺物包含層）出土遺物実測図（3）、 I層・II層出土遺物実測図	46	図66 発掘区全域図 分割図11	110
図33 扰乱坑出土遺物実測図（1）	47	図67 発掘区全域図 分割図12	111
図34 扰乱坑出土遺物実測図（2）	48	図68 発掘区全域図 分割図13	112
		図69 発掘区全域図 分割図14	113

図70 試料及び生漆の赤外吸収スペクトル	117	図76 IV期の主な遺構配置図	136
図71 V期主要文字資料分布図	128	図77 V期の主な遺構配置図	137
図72 VI期各地点墨書き点数及び主要墨書き内容	130	図78 VI期の主な遺構配置図	138
図73 VII期各地点墨書き点数及び主要墨書き内容	131	図79 VII期の主な遺構配置図	139
図74 II期の主な遺構配置図	133	図80 VIII期の主な遺構配置図	140
図75 III期の主な遺構配置図	134		

表目次

表1 試掘・確認調査結果	2	表25 土器観察表(11)	88
表2 周辺遺跡一覧表	11	表26 土器観察表(12)	89
表3 時期区分一覧	15	表27 土器観察表(13)	90
表4 編年対応表	16	表28 土器観察表(14)	91
表5 遺構種別基数一覧表	17	表29 土器観察表(15)	92
表6 出土遺物点数一覧表	19	表30 土器観察表(16)	93
表7 出土木製品一覧表	20	表31 土器観察表(17)	94
表8 掘立柱建物一覧表	76	表32 土器観察表(18)	95
表9 掘立柱建物付属遺構一覧表	76	表33 土器観察表(19)	96
表10 柱穴一覧表	76	表34 土器観察表(20)	97
表11 溝一覧表	76	表35 木製品観察表	98
表12 自然流路一覧表	76	表36 石器・石製品観察表	98
表13 水制遺構一覧表	76	表37 金属製品観察表	98
表14 土坑一覧表	77	表38 植田遺跡出土木製品の樹種同定結果	114
表15 土器観察表(1)	78	表39 分析対象一覧	115
表16 土器観察表(2)	79	表40 生漆の赤外吸収位置とその強度	116
表17 土器観察表(3)	80	表41 塗膜分析結果	117
表18 土器観察表(4)	81	表42 出土木製品の樹種同定結果一覧	120
表19 土器観察表(5)	82	表43 出土文字資料時期別点数	127
表20 土器観察表(6)	83	表44 墓書き器等出土点数	127
表21 土器観察表(7)	84	表45 墓書き灰釉陶器出土点数	129
表22 土器観察表(8)	85	表46 墓書き山茶碗出土点数	132
表23 土器観察表(9)	86	表47 墓書き山茶碗出土遺構及び層位	132
表24 土器観察表(10)	87		

挿入写真目次

写真1 重機による表土掘削状況	6	写真8 漆製品の塗膜構造と反射電子像	117
写真2 遺物包含層掘削状況	6	写真9 木製品の顕微鏡写真（1）	121
写真3 遺構検出作業状況	6	写真10 木製品の顕微鏡写真（2）	122
写真4 遺構掘削状況	6	写真11 木製品の顕微鏡写真（3）	123
写真5 遺構実測作業状況	6	写真12 木製品の顕微鏡写真（4）	124
写真6 写真撮影作業状況	6	写真13 木製品の顕微鏡写真（5）	125
写真7 遺物写真と試料採取位置	115	写真14 木製品の顕微鏡写真（6）	126

写真図版目次

巻頭図版

- C17地点（北から）
水辺の祭祀関連須恵器（C17地点・NR5）

- 図版11 出土遺物（1）
図版12 出土遺物（2）
図版13 出土遺物（3）
図版14 出土遺物（4）

巻末図版

- 図版1 発掘区全景（1）
図版2 発掘区全景（2）
図版3 C16地点の遺構（1）
図版4 C16地点の遺構（2）、C17地点の遺構（1）
図版5 C17地点の遺構（2）
図版6 C18地点の遺構（1）
図版7 C18地点の遺構（2）
図版8 C18地点の遺構（3）、C19地点の遺構（1）
図版9 C19地点の遺構（2）
図版10 C19地点の遺構（3）

- 図版15 出土遺物（5）
図版16 出土遺物（6）
図版17 出土遺物（7）
図版18 出土遺物（8）
図版19 出土遺物（9）
図版20 出土遺物（10）
図版21 出土遺物（11）
図版22 出土遺物（12）
図版23 出土遺物（13）
図版24 出土遺物（14）

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

柿田遺跡は、可児川により形成された沖積平野上及び浅間丘陵地の北側に展開する扇状地上に広がる遺跡で、可児市柿田及び可児郡御嵩町顔戸に所在する（図1）。東海環状自動車道建設事業に先立ち、財團法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター（現岐阜県文化財保護センター）が平成11・12・13年度に発掘調査（以下、「平成調査」という。）を実施し、縄文時代から近現代までの複合遺跡であることが明らかになった¹⁾。

東海環状自動車道における土岐JCT～美濃加茂IC間付加車線設置事業の事業予定地が柿田遺跡に含まれることから、中日本高速道路株式会社名古屋支社岐阜工事事務所長（以下、「岐阜工事事務所長」という。）から岐阜県知事（以下、「県知事」という。）あてに試掘・確認調査の実施依頼（令和2年6月5日付け中高名岐工第334号）があり、令和2年6月24・25日及び9月23・24・25日に岐阜県環境生活部県民文化局文化伝承課（以下、「県文化伝承課」という。）が試掘・確認調査を実施した。試掘・確認調査では、当遺跡の範囲内及びその周辺の事業予定地内に8箇所（TP 1～TP 8）の試掘・確認調査坑が設定された（図2）。調査の結果、TP 3・7において遺構が検出され、TP 1・2・3・7において遺物包含層が確認された（表1）。

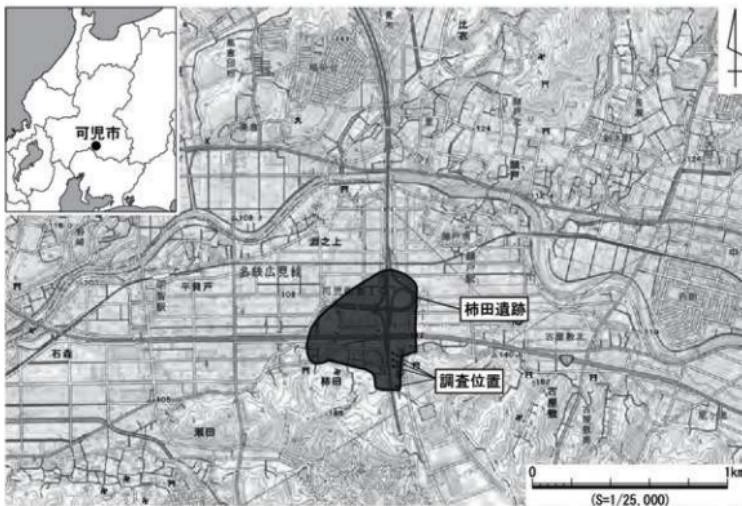


図1 遺跡位置図

（令和4年国土地理院発行電子地形図 25000「美濃加茂」に加筆）

2 第1章 調査の経過

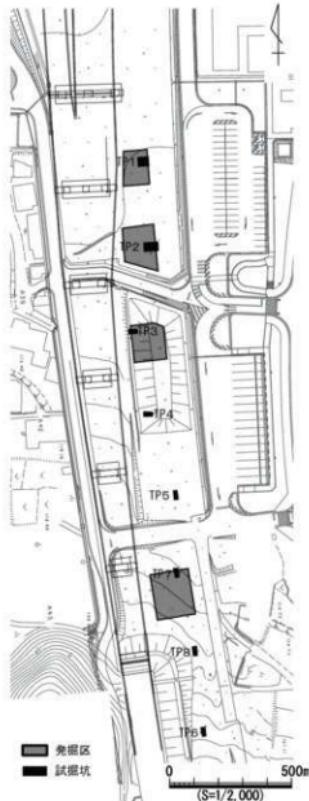


図2 試掘・確認調査坑と発掘区

試掘・確認調査結果をもとに、県文化伝承課により、令和2年12月21日に令和2年度第2回岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討会が開催され、1,260.5 m²について本発掘調査が必要との意見がまとめられた。

本工事については、文化財保護法第94条第1項の規定に基づき、岐阜工事事務所長から県知事あてに埋蔵文化財発掘通知（令和2年8月24日付け中高名岐工第473号）が提出され、同条第4項の規定に基づき、県知事から岐阜工事事務所長あてに発掘調査実施勧告（令和2年12月25日付け文伝第104号の159）を通知した。岐阜工事事務所長は岐阜県文化財保護センター（以下、「当センター」という。）所長に発掘調査の実施を依頼（令和3年1月14日付け中高名岐工第12号）し、当センターが発掘調査を実施した。当センター所長は調査着手後、文化財保護法第99条第1項の規定に基づく発掘調査の報告（令和3年5月13日付け文財セ第107号）を県知事に提出した。

表1 試掘・確認調査結果

調査坑 No.	検出遺構 (基数)	出土遺物点数							合計
		土師器	須恵器	灰釉 陶器	山茶碗	中近世 陶磁器	木製品	石製品	
TP 1		47	12	39	39	6	4	2	149
TP 2		2	2	6	6	0	1	0	17
TP 3	拂(1)	3	13	9	3	1	0	0	29
TP 4		1	0	0	0	0	0	0	1
TP 5		0	0	0	0	0	0	0	0
TP 6		0	0	0	1	0	0	0	1
TP 7	拂(2)	2	11	6	12	1	0	0	32
TP 8		0	0	0	0	1	0	0	1

第2節 調査の方法と経過

1 調査の方法

発掘調査は、発掘調査対象地を北側からC16地点～C19地点の4箇所に分割し、1,260.5m²を実施した。発掘調査対象地は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターが平成11年度から平成13年度にかけて実施した発掘調査（以下、「平成調査」という。）のC地区に含まれ、平成調査ではC15地点までの調査が実施されたことから、地点の名称はその続番とした。また、発掘調査対象地は東海環状自動車道付加車線の橋脚部分にあたるため、発掘区は飛び地となっている。

発掘区には世界測地系座標のX=63260、Y=5995を原点として、100m×100mの大グリッド（A、B）を設定した。各大グリッドには5m×5mの小グリッドを設定し、南北列にA～Tのアルファベット、東西列に1～10のアラビア数字を付した。個別のグリッド名（以下、「グリッド」という。）は大グリッドと小グリッドを合わせた名称とした。そのため、発掘区の北東隅のグリッドは「AA5」、南西隅のグリッドは「BT6」となる（図3）。

表土掘削は重機を用いて実施し、遺物包含層掘削・遺構検出・遺構掘削はスコップ・草刈り鎌・移植ゴテなどを用いて人力で実施した。遺物包含層掘削は、遺物包含層上面から約10cm下までを遺物包含層①、約10～20cm下を遺物包含層②というように、およそ10cm単位の人工層位を設定し、掘削した。遺構掘削は、遺構を半蔵又は4分割して土層堆積状況を観察し、必要な記録を作成したあとに完掘した。また、検出後に遺構埋土と基盤層との識別が困難な場合は、サブトレンチを設定し、土層観察により識別を明確にした上で遺構を掘削した。なお、発掘区内は周辺からの引水が激しかったため、発掘区の形状に応じて壁面沿いに排水溝を掘削し、排水作業を行った。

遺物包含層掘削及び遺構検出の際に出土した遺物は、原則としてグリッド単位、層位ごとに取り上げた。また遺構出土遺物は半蔵前後で取り上げ方法を変えた。すな

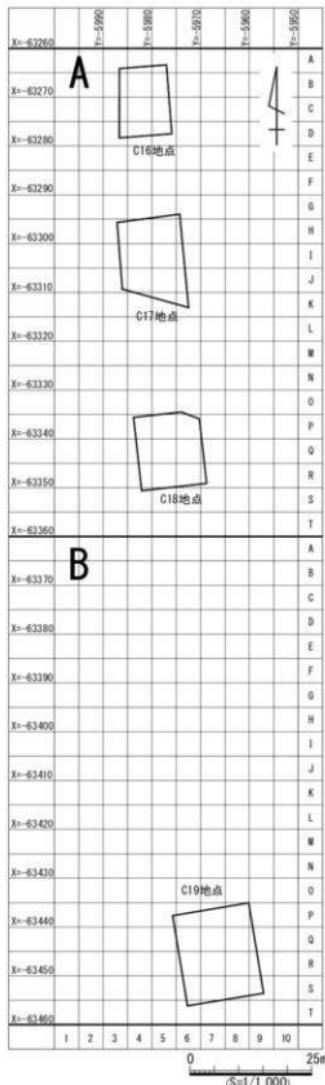


図3 発掘区地区割図

4 第1章 調査の経過

わち、半截前は検出面から約5cmまでをa層、約5～10cm下をb層というように遺構内をおよそ5cm単位の人工層位で取り上げ、半截後は半截時に分層した単位ごとに取り上げた。なお、大溝及び自然流路の出土遺物については、土層観察用畦では分層した層位ごとに取り上げ、土層観察用畦以外では人工層位で取り上げた。なお、遺構の時期や性格を表す可能性がある遺物は出土位置を測定し、特徴的な出土状況の遺物は出土状況図を作成した。

出土した遺物は、取上げ順を原則として遺物番号(通番)を付し、取上げ単位ごとに遺物ラベルを添付した。遺物ラベルには「遺跡番号(発掘作業年度の西暦下2桁と柿田遺跡の遺跡記号KD)」、「グリッド・遺構名」、「層位」、「遺物番号」、「出土月日」、「遺物名」を記入し、遺物ラベルをもとに遺物台帳を作成した。

遺構は、原則として検出順に調査番号(通番)を付し、「S」と3桁の数字により「S001」のように表記した。調査番号は、整理等作業時に遺構種別で分類し、種別ごとの通番に付け替え、例えば自然流路の場合「NR1」のように表記した。

遺構等の実測作業は、平面図、土層断面図ともデジタル測量にて実施した。

写真撮影は、デジタル一眼レフカメラとコンパクトデジタルカメラを使用した。また、発掘区の景観写真撮影は、高所作業車を用いて実施した。

2 調査の経過

現地での調査経過は以下のとおりである。

- 第1週 (5/10～5/14) 10日、C16地点表土掘削開始。13日、C16地点表土掘削終了。C16地点グリッド杭打設。14日、C16地点排水溝掘削開始。
- 第2週 (5/17～5/21) C16地点排水溝掘削継続。
- 第3週 (5/24～5/28) 25日、C16地点排水溝掘削終了。C16地点遺物包含層掘削開始。
- 第4週 (5/31～6/4) 1日、C16地点遺物包含層掘削終了。3日、NR1・NR2・NR3検出。
- 第5週 (6/7～6/11) 8日、SP2検出。10日、NR1完掘。11日、NR2完掘。C18地点表土掘削開始。
- 第6週 (6/14～6/18) 18日、SP2完掘。
- 第7週 (6/21～6/25) 22日、C16地点景観写真撮影。23日、SP1検出及び完掘。NR3完掘。土師器の壺(102)出土。C16地点調査終了。C18地点表土掘削終了。24日、C18地点グリッド杭打設。C18地点排水溝掘削開始。
- 第8週 (6/28～7/2) 28日、C18地点遺物包含層掘削開始。29日、C18地点排水溝掘削終了。
- 第9週 (7/5～7/9) C18地点遺物包含層掘削継続。
- 第10週 (7/12～7/16) 16日、SB1-SP1検出。
- 第11週 (7/19～7/21) 21日、SB1-SP3検出。
- 第12週 (7/26～7/30) 26日、C18地点遺物包含層掘削終了。27日、SB1-SP1完掘。28日、C16地点埋め戻し開始。C17地点表土掘削開始。29日、SB1-SP3完掘。30日、SB1-SP4検出。SD2検出。
- 第13週 (8/2～8/6) 2日、SB1-SP2検出。SB1-SP4完掘。3日、SB1-SP2完掘。4日、SD2完掘。C18地点景観写真撮影。C18地点調査終了。5日、C17地点表土掘削終了。6日、C16地点

埋め戻し終了。C17 地点グリッド杭打設。C17 地点遺物包含層掘削開始。

第14週（8/10～8/13） 夏期休業。

第15週～第17週（8/16～9/3） C17 地点遺物包含層掘削継続。

第18週（9/6～9/10） 6日、C17 地点遺物包含層掘削終了。7日、NR5 検出。

第19週（9/13～9/17） 16日、NR5 より曲物底板（152）・建築部材（153）等の木製品が出土。

第20週（9/21～9/24） 21日、NR5 完掘。22日、C17 地点景観写真撮影。C17 地点調査終了。24日、C17 地点埋め戻し開始。C19 地点表土掘削開始。

第21週（9/27～10/1） C17 地点埋め戻し継続。C19 地点表土掘削継続。

第22週（10/4～10/8） 5日、C17 地点埋め戻し終了。C19 地点表土掘削終了。C19 地点グリッド杭打設。C19 地点排水溝掘削開始。7日、C19 地点排水溝掘削終了。8日、SD3・SD4 検出。

第23週（10/11～10/15） SD3・SD4 掘削継続。

第24週（10/18～10/22） 20日、SD3 完掘。

第25週（10/25～10/29） SD4 掘削継続。

第26週（11/1～11/5） 4日、SD4 完掘。SD6・SD7 検出。

第27週（11/8～11/12） 11日、SD8 検出。12日、SD6 完掘。

第28週（11/15～11/19） 16日、SD9 検出。17日、SD8 完掘。

第29週（11/22～11/26） 25日、SD9 完掘。26日、SD7 完掘。

第30週（11/29～12/3） 30日、C19 地点景観写真撮影。1日、長江真和氏（可児市文化スポーツ部 文化財課）現地指導。C19 地点調査終了。C19 地点埋め戻し開始。

第31週（12/6～12/10） 10日、C19 地点埋め戻し終了。

一次整理作業（出土遺物の洗浄や注記作業など）は令和3年度、整理等作業（遺物実測や挿図作成など）は令和4年度に、それぞれ当センターにおいて実施した。

整理等作業時には、林正憲氏（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）から総括に関する指導を受けた。また、須恵器類に関する指導を渡邊博人氏から受けた。

漆塗膜構造分析は株式会社パレオ・ラボ、木製品樹種同定及び保存処理は株式会社吉田生物研究所に委託して実施した。

3 調査体制

発掘作業及び整理等作業の体制は、以下のとおりである。

センター所長 岡田知也（令和3・4年度）

総務課長 布施三千代（令和3年度）、中通珠子（令和3・4年度）

調査課長 三輪晃三（令和4年度）

調査担当係長 長谷川幸志（令和3年度）、大本直人（令和4年度）

担当調査職員 片桐由裕（令和3・4年度）

注

1) 財團法人岐阜県教育文化財團文化財保護センター2005『柿田跡』

（岐阜県教育文化財團文化財保護センター調査報告書第92集）



写真1 重機による表土掘削状況



写真2 遺物包含層掘削状況



写真3 造構検出作業状況



写真4 造構掘削状況



写真5 造構実測作業状況



写真6 写真撮影作業状況

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

柿田遺跡は、可児川により形成された沖積平野上及び沖積平野の南側に展開する浅間丘陵地の扇状地上に位置する。可児川は瑞浪市を水源とする一級河川で、可児市西端で木曾川に合流する。当遺跡付近では西から東へ屈曲して流れ、至るところで過去の氾濫によって形成された自然堤防や旧河道の痕跡を確認することができる。可児川によって形成された沖積平野は面積が広く、その勾配は緩い。これは、可児川の河口付近に木曾川泥流が堆積し、河口部がふさがれたことで形成された淡水湖に、上流からの土砂が堆積して埋没谷が形成されたためと考えられている。

可児川により形成された沖積平野の南側に展開する浅間丘陵地は、浅間山から東西方向に伸びるなだらかな丘陵地で、新第三紀中新世の堆積層（可児層群）を基盤とする。なかでも当遺跡が立地するのは中村層と呼ばれる、褐炭層を挟む凝灰質砂岩及びシルト岩で形成された層である。緩やかな斜面をもつ丘陵と扇状地の発達は、岩盤が比較的削られやすく、堆積物を供給しやすいという、中村層の特性によるものと考えられる¹⁾。

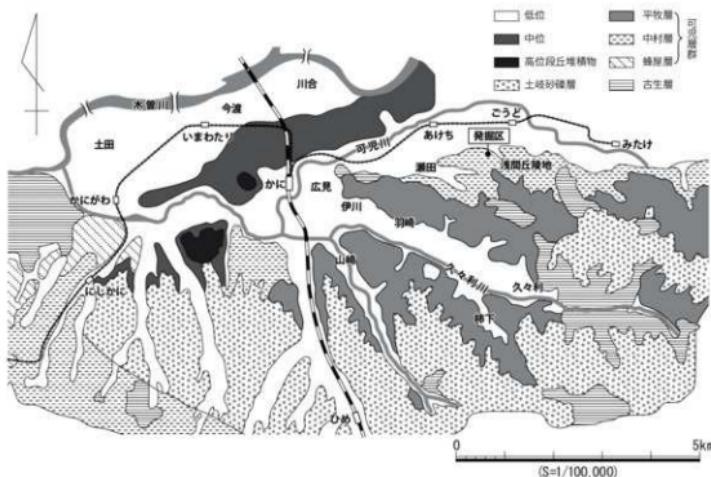


図4 柿田遺跡周辺の地質概略図（可児町 1980『可児町史』（通史編）を基に作成）

第2節 歴史的環境

本節では、当遺跡の歴史的環境について、図5で示す範囲（以下、「当遺跡周辺」という。）における主要な遺跡の概要に触れながら、時代順に記す²⁾。図5・表2は、『改訂版岐阜県遺跡地図』（岐阜県教育委員会 2007）を基に、遺跡の種類・時代などに関する新たな成果を踏まえて作成した。なお、当遺跡周辺の遺跡の所在地は可児市若しくは可児郡御嵩町であり、文中の遺跡名に続く括弧内の番号は、図5及び表2と一致する。

旧石器時代 当遺跡（1）周辺では旧石器時代の遺跡は確認されていないが、金ヶ崎遺跡（37）では、遺物包含層からナイフ型石器1点が出土している。

縄文時代 可児市北部に位置する川合地区を中心に、中期の遺跡が複数確認されているが、当遺跡周辺では集落遺跡は確認されていない。顔戸南遺跡（73）では、中期と晩期の土坑墓が3基確認されている。

弥生時代 当遺跡では、中期及び後期から古墳時代初頭の竪穴建物や水田跡が確認されている。また、金ヶ崎遺跡では、終末期から古墳時代初頭の墳墓群が確認されている。神崎山遺跡（90）では、後期の盛土を伴う方形土坑から土器片とともに石包丁を加工した槍先が出土している。可児市東部に位置する久々利地区からは後期の近畿式銅鐸が出土している。

古墳時代 当遺跡周辺には、古墳時代に属する遺跡が最も多い。その大部分は古墳であるが、顔戸南遺跡や当遺跡のように、集落跡や水田跡が確認されている遺跡もある。

当遺跡では、竪穴建物30棟、掘立柱建物6棟の他、溝、自然流路、水制構造などが確認されている。なかでも水制構造は、構造が複雑化するとともに、比較的幅の広い流路内に設けられた大規模なものが多く確認され、当遺跡に北接する顔戸南遺跡でも、長さ約35mにわたる築堤の基礎構築が確認されたことから、当該時期に、当遺跡周辺で広範囲にわたる大規模な治水・利水事業がなされたと考えられる。

可児地域における前期古墳は、木曾川が形成した中・高位段丘面上を中心に大型のものが築かれ、伏見地区に位置する高倉山古墳（26）や東寺山古墳群（70）、前波地区に位置する野中古墳（55）・西寺山古墳（56）・長塚古墳（57）（前波の三ツ塚）などがある。なかでも長塚古墳は、東美濃地方最大の前方後円墳で、国史跡に指定されている。なお、中期古墳は確認されていない。後期古墳は丘陵部にも造設城を拡大し、当遺跡南北の丘陵上にも、柿田古墳（84）など、数多くの古墳が確認されている。なかでも前山古墳群（85）と杉ヶ洞古墳群（87）は発掘区に近接する。杉ヶ洞古墳群は5基からなる古墳群で、3号古墳及び5号古墳が発掘調査されている。いずれも6世紀末から7世紀前半に属する横穴式石室を主体部とする円墳である。3号古墳の石室からは須恵器、玉類、馬具、刀子などが出土し、5号古墳の石室からは須恵器、耳環、鉄鎌、小刀などが出土している。前山古墳群は2基からなる古墳群で、2号古墳が発掘調査されている。2号古墳は6世紀後半に属する横穴式石室を主体部とする円墳で、石室からは須恵器、玉類、耳環、鉄製品などが出土している。杉ヶ洞古墳群及び前山古墳群は7世紀前半の須恵器窯として知られる馬乗洞古窯跡（93）と近接するが、古墳に副葬されていた須恵器はすべて猿投窯産であった。

古代 7世紀後半になると、伏見廃寺跡（25）などの古代寺院の建立が進むとともに、律令的な地方支配機構が整えられていく。古代において当遺跡が所在する可児市及び可児郡御嵩町は、美濃国可児郡に属し、当遺跡は郡家郷内に存在していたと考えられている。郡家という郷名は、郡の行政拠点である「郡家」に由来すると考えられることから、当遺跡周辺に可児郡の「郡家」があった可能性が高いと考えられる。江戸時代における中山道の経路から、当遺跡近辺が東山道の推定経路に比定されている。顔戸南遺跡から当遺跡にかけて、条里地割の坪境となる場所に道路遺構が確認されたことから、当遺跡付近一帯にも条里が施行されたといえ、その時期は出土遺物から8世紀代と考えられる。また、当遺跡では堅穴建物13棟、掘立柱建物7棟が確認されており、そのほとんどが浅間丘陵地の扇状地上に位置し、本調査の発掘区に接するC9地点でも掘立柱建物5棟が確認されている。また、自然流路や溝から形代などの木製祭祀具や墨書き土器が多数出土した。

中・近世 律令制が崩壊すると、可児郡内には寄進地系莊園が出現し、当遺跡は明知莊に含まれたと考えられている。当遺跡では中世前期に属する掘立柱建物が33棟確認された。その多くは可児川が形成した沖積平野上で確認されるとともに、床面積が100 m²を超える大型建物も2棟含まれ、古代と様相が異なる。中世後期になると掘立柱建物の確認は3棟にとどまるが、低地部のほとんどで方向を条里地割に規制された畦畔を伴う水田跡が確認された。顔戸南遺跡で確認された畦畔の基軸とほぼ一致していることから、広域に及ぶ水田の再開発が計画的になされたと考えられる。また、金ヶ崎遺跡では中世から近世にかけての土坑墓や火葬墓が多数確認されている。

当遺跡周辺には中世の山城が点在する。明智光秀が誕生したとされる長山城跡（102）などがあげられる。また、当遺跡の北東に位置する顔戸城跡（47）は平地に築かれた居館形式の城跡である。山城が多く築かれていた当時としては珍しく、美濃国守護土岐氏の重臣斎藤妙椿が築いたとされる。顔戸城跡の北方には美濃金山城跡（3）がある。美濃金山城跡の発掘調査では、天守や門に使用された瓦、古銭、石製の容器などが出土しており、国史跡に指定されている。なお美濃金山城は織田信長から森可成に与えられた城で、関ヶ原合戦後の1601年に破却されるが、その後も城下町（金山城下町遺跡（2））は栄えた。

注

- 1) 地質に関する記述は、以下の文献を参考にした。

可児市 2007『可児市史』第4巻（自然編）

可児市教育委員会 1996『可児の地層と化石』（可児市の文化財第8集）

可児町 1980『可児町史』（通史編）

岐阜県文化財保護センター 2014『今渡遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第130集）

久馬一剛・永塚慎男編 1987『土壤学と考古学』。博友社

工楽善通 1991『水田の考古学』（UP 考古学選書12）。東京大学出版会

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2003『杉ヶ洞3・5号古墳 前山2号古墳』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第85集）

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2005『柿田遺跡』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第92集）

御嵩町 1992『御嵩町史』（通史編）



図5 植田遺跡周辺遺跡

(令和4年国土地理院発行電子地形図 25000「美濃加茂」・「小泉」に加筆)

(S=1/25,000)

表2 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名(所在地)	種別	時代
1	桔梗遺跡(可児市・御嵩町)	集落跡・生産遺跡	縄文～近現代
2	金山城下町(可児市)	城郭跡	中世・近世
3	美濃盆地城跡(可児市)	城郭跡(田史跡)	中世
4	兼山城跡(可児市)	その他の遺跡(赤瓦跡)	中世・近世
5	森坂北口・長成寺(可児市)	その他の墓	中世
6	妙向尼寺(可児市)	その他の墓	不明
7	伝可成寺跡(可児市)	寺跡	中世
8	東中國古墳(御嵩町)	古墳	古墳
9	トノヤマ古墳(美濃加茂市)	古墳	古墳
10	下尾古墳(八百津町)	古墳	古墳
11	火塚古墳(美濃加茂市)	古墳	古墳
12	小戸戸1号古墳(美濃加茂市)	古墳	古墳
13	小戸戸2号古墳(美濃加茂市)	古墳	古墳
14	貝戸戸古墳(美濃加茂市)	古墳	古墳
15	神明遺跡(美濃加茂市)	集落跡	縄文
16	岐大農耕遺跡(美濃加茂市)	散布地	縄文
17	花之下遺跡(美濃加茂市)	散布地	古代・中世
18	杉ヶ岡古墳群(御嵩町)	古墳	古墳
19	市洞古墳群(御嵩町)	古墳	古墳
20	新藤村跡(御嵩町)	その他の遺跡	近世
21	新発見古墳群(御嵩町)	古墳	古墳
22	山田柄山古跡(御嵩町)	礎穴墓(熱史跡)	古墳
23	生沢古墳(御嵩町)	古墳	古墳
24	伏見白山神社古墳(御嵩町)	古墳	古墳
25	伏見尾山跡(御嵩町)	寺跡	古代
26	高倉山古墳(御嵩町)	古墳	古墳
27	山本藤原・新川物語跡(御嵩町)	城郭跡	近世
28	念事ヶ平古墳群(御嵩町)	古墳	古墳
29	鶴荷山古墳群(御嵩町)	古墳	古墳
30	青木古墳群(御嵩町)	古墳	古墳
31	青木宿場墓(御嵩町)	礎穴墓	古墳
32	打越古墳群(御嵩町)	古墳	古墳
33	打越1号古墳(御嵩町)	古墳	古墳
34	打越2号古墳(御嵩町)	古墳	古墳
35	打越3号古墳(御嵩町)	古墳	古墳
36	跡ヶ崎古墳群(御嵩町)	古墳	古墳
37	金ヶ崎古墳群(御嵩町)	集落跡	弥生～近世
38	金ヶ崎1号古墳(御嵩町)	古墳	古墳
39	金ヶ崎8号古墳(御嵩町)	古墳	古墳
40	金ヶ崎古墳群(御嵩町)	古墳	古墳
41	坂本天守山古墳(御嵩町)	古墳	古墳
42	諭訪神代古墳(御嵩町)	古墳	古墳
43	坂本古墳群(御嵩町)	古墳	古墳
44	比良ヶ崎古山跡跡(御嵩町)	生産遺跡	古代
45	花嫁古墳(御嵩町)	古墳	古墳
46	恵那寺跡(御嵩町)	寺跡	中世
47	戸戸城跡(御嵩町)	城郭跡	中世
48	前ノ屋坂古墳(御嵩町)	古墳	古墳
49	孤羅古墳(可児市)	古墳	古墳
50	長坂古墳(可児市・御嵩町)	古墳	古墳
51	浦坂古墳(御嵩町)	古墳	古墳
52	浦坂遺跡(御嵩町)	集落跡	中世・近世
53	上恩士野跡(御嵩町)	城郭跡	中世・近世
54	野中西古墳(可児市)	古墳	古墳
55	野中古墳(可児市)	古墳	古墳
56	西寺山古墳(可児市)	古墳	古墳
57	長坂古墳(可児市)	古墳(国史跡)	古墳
58	久々上古墳(可児市)	集落跡	縄文～中世
59	上野船谷古墳(可児市)	古墳	古墳
60	御野2号古墳(可児市)	古墳	古墳
61	上恩士野古墳跡(御嵩町)	生産遺跡	古代
62	上野船谷古墳丘墓(可児市)	古墳	弥生
63	上野船谷仲生古墳丘墓(可児市)	古墳	弥生
64	梅原山古墳(御嵩町)	古墳	古墳
65	大塚古墳群(御嵩町)	古墳	古墳
66	土器田古墳(御嵩町)	古墳	古墳
67	伏見尾山古墳(御嵩町)	古墳	古墳
68	豊根古墳(御嵩町)	古墳	古墳

番号	遺跡名(所在地)	種別	時代
69	女郎屋(御嵩町)	その他の墓	近世
70	東山古墳群(御嵩町)	古墳(史跡)	古墳
71	伏見東坂古墳群(御嵩町)	生産遺跡	古代
72	伏見東坂南古墳(御嵩町)	散布地	弥生～近世
73	御西古墳跡群(御嵩町)	散布地	中世
74	御西古墳跡A地点(可児市)	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
75	御西古墳跡B地点(可児市)	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
76	御西古墳跡C地点(可児市)	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
77	御西古墳跡D地点(可児市)	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
78	御西古墳跡E地点(可児市)	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
79	御西古墳跡F地点(可児市)	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
80	御西古墳跡G地点(可児市)	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
81	御山古墳跡(御嵩町)	散布地	弥生・古墳
82	在原行平墓群(御嵩町)	その他の墓	近世
83	御月丹遺跡(可児市)	集落跡	古代・中世
84	御月古墳(可児市)	古墳	古墳
85	前田古墳群(可児市)	古墳	古墳
86	前田山古墳群(可児市)	集落跡	中世・近世
87	松ヶ岡古墳(可児市)	古墳	古墳
88	柏ノ木古墳群(御嵩町)	古墳	古墳
89	柏ノ木経塚(御嵩町)	その他の遺跡	近世
90	神龍山遺跡(可児市)	古墳(須文安跡)	古墳
91	北ノ岡1号古墳(可児市)	古墳	古墳
92	北ノ岡2号古墳(可児市)	古墳	古墳
93	馬鹿瀬古墳跡(可児市)	生産遺跡	古墳
94	梓古墳(可児市)	古墳	古墳
95	伏見山古墳群(可児市)	古墳(須文安跡)	古墳
96	中岡寺1号古墳(可児市)	古墳	古墳
97	御坂古墳(可児市)	古墳(史跡)	古墳
98	羽黒北洞古墳(可児市)	古墳	古墳
99	松下古墳(可児市)	古墳	古墳
100	レムコニ環状古墳(可児市)	古墳	古墳
101	風来寺古墳(可児市)	古墳	古墳
102	大山城跡(可児市)	城郭跡	中世
103	七ツ原古墳群(可児市)	古墳	古墳
104	七ツ原5号古墳(可児市)	古墳	古墳
105	大崩山山麓古墳(可児市)	古墳	古墳
106	羽黒大洞1号古墳(可児市)	古墳	古墳
107	羽黒大洞2号古墳(可児市)	古墳	古墳
108	羽黒大洞3号古墳(可児市)	古墳	古墳
109	羽黒大洞4号古墳(可児市)	古墳	古墳
110	羽黒城跡(可児市)	城郭跡	中世
111	中央峰横穴墓群(可児市)	横穴墓	古墳
112	羽崎寺岡1号古墳(可児市)	古墳	古墳
113	羽崎寺岡2号古墳(可児市)	古墳	古墳
114	羽崎古窓墓群(可児市)	横穴墓	古墳
115	羽崎山寺横穴墓群(可児市)	横穴墓	古墳
116	御山山麓穴1号古墳(可児市)	古墳	古墳
117	羽崎吉古墳群(可児市)	古墳	古墳
118	羽崎山洞横穴墓群(可児市)	横穴墓	古墳
119	羽崎山洞古墳(可児市)	古墳(熱史跡)	古墳
120	羽崎中岡2号古墳(可児市)	古墳	古墳
121	不動寺釋迦塔(可児市)	古墳(史跡)	古墳
122	羽原寺古墳(可児市)	古墳	古墳
123	大崩山地蔵古墳(可児市)	古墳	古墳
124	羽崎山洞横穴墓群(可児市)	横穴墓	古墳
125	松下環状古墳(可児市)	古墳	古墳
126	西山横穴墓群(可児市)	横穴墓	古墳
127	我田横穴墓群(可児市)	横穴墓	古墳
128	猿頭横穴墓群(可児市)	横穴墓	古墳
129	庚申横穴墓群(可児市)	横穴墓	古墳
130	御山山洞横穴墓群(可児市)	横穴墓	古墳
131	二郎山細石器堆积(可児市)	古墳	古墳
132	野寺段塚(可児市)	横穴墓	古墳
133	御山古墳(可児市)	その他の墓	古墳
134	福井横穴墓群(可児市)	横穴墓(熱史跡)	古墳
135	野原段塚(可児市)	集落跡	古墳～中世
136	番場遺跡(可児市)	散布地	古墳

2) 歴史的環境に関する記述は、以下の文献を参考にした。

可児郷土歴史館 2005『発掘スペシャル可児へ埋もれていた柿田の歴史~』

可児市 2007『可児市史』第1巻(通史編 考古・文化財)

可児市 2007『可児市史』第2巻(通史編 古代・中世・近世)

可児市教育委員会 1997『美濃の焼き物と可児』(可児市の文化財第9集)

可児市教育委員会 2006『可児市内道路発掘調査報告書』(可児市理文報告36)

可児市教育委員会 2009『柿田遺跡馬乗洞地点』(可児市理文報告42)

可児市教育委員会 2014『柿田遺跡(道の駅地点)・ほうの木古窯跡』(可児市理文報告45)

可児市教育委員会 2017『可児市の古墳ガイドブック』

可児町 1980『可児町史』(通史編)

可児町教育委員会 1974『可児町柿下古窯発掘調査報告書』

岐阜県教育委員会・可児町教育委員会 1973『可児町杉ヶ洞古墳発掘報告書』

岐阜県文化財保護センター 2014『今渡遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第130集)

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2000『額戸南遺跡』(岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第58集)

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2003『金ヶ崎遺跡・青木横穴墓』(岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第78集)

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2003『杉ヶ洞3・5号古墳 前山2号古墳』(岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第85集)

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2005『柿田遺跡』(岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第92集)

中山道みたけ館 2006『平成18年度中山道みたけ館特別展「いにしえの御嵩を訪ねて」～金ヶ崎遺跡・額戸南遺跡・浦畠遺跡・上恵士城跡発掘調査より～』、御嵩町教育委員会

長瀬治義 1994『柿田馬乗洞古窯の須恵器』『美濃の古陶』(美濃古窯研究会会報第7号)、美濃古窯研究会

御嵩町 1992『御嵩町史』(通史編)

第3章 調査の成果

第1節 基本層序

基本層序は、令和2年度に県文化伝承課が実施した試掘・確認調査で確認された層序と発掘調査における結果を基に、以下のとおりⅠ層からⅣ層に設定した。発掘区の標高は南から北に向かって低くなっている、調査前の標高は、南端が約119.50m、北端が約112.50mと約7mの差がある（図6）。

Ⅰ層 造成土等

発掘区全域で確認した。層厚は約0.80m～2.80mである。東海環状自動車道建設に伴う造成土等をまとめてⅠ層とした。2.5Y4/4オリーブ褐色～10YR2/1黒色を呈する土で、角礫やコンクリートブロックが多く混じる。

Ⅱ層 造成前の表土

発掘区全域で確認した。層厚は約0.15m～0.95mである。近世から東海環状自動車道建設前までの堆積をまとめてⅡ層とした。2.5Y5/1黄灰色～5Y3/2オリーブ黒色を呈する粘質土で、微砂や炭粒が均一に混じり、鉄分沈着が顕著にみられる。

Ⅲ層 遺物包含層

C16地点北半部及びC19地点を除く発掘区全域で確認した。層厚は約0.10m～0.60mである。中世の耕作土とみられる堆積をまとめてⅢ層とした。2.5Y3/1黒褐色を呈する粘質土で、微砂や炭粒が均一に混じる。弥生時代末期から中世の遺物を含む。

Ⅳ層 基盤層

発掘区全域で確認した。無遺物層。今回の調査で検出された遺構の基盤となっている堆積をまとめてⅣ層とした。大半は地山（岩盤）及びそれに由来する5G4/1暗緑灰色を呈するシルト～粘土であるが、C18地点南半部は旧河道に伴う砂礫であった。この層の上面で遺構検出を行った。

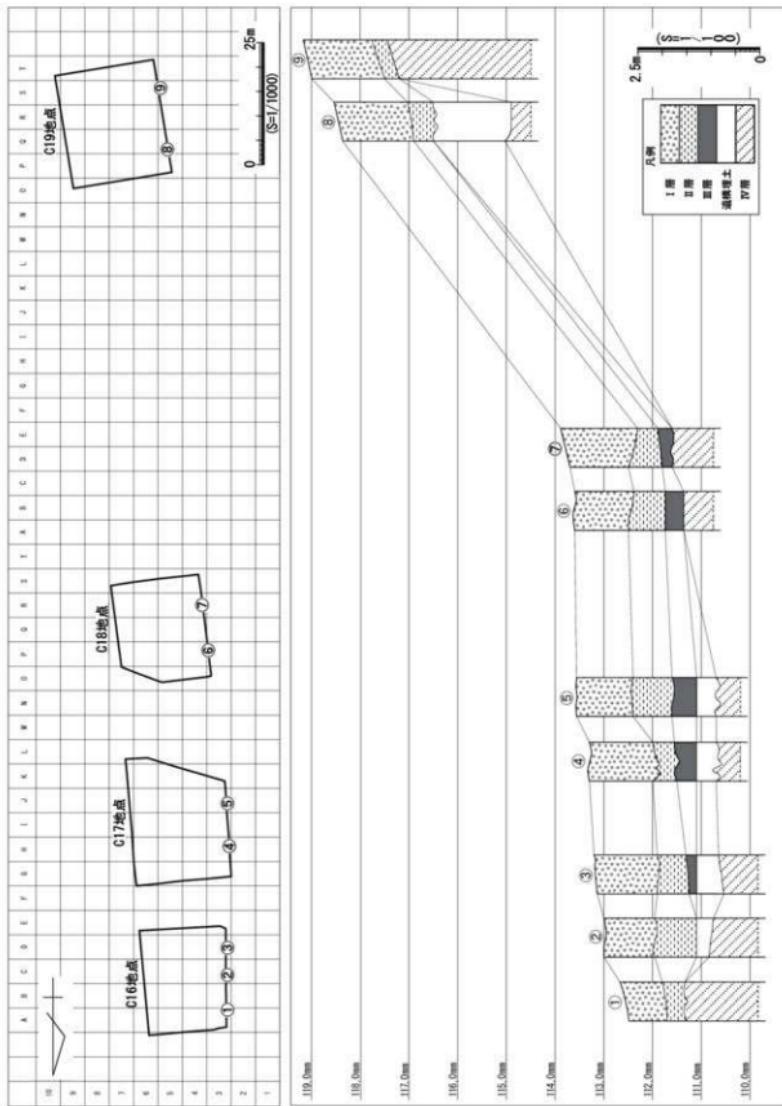


図6 土層柱状図(西壁面)

第2節 時期区分

本報告書では、平成調査における時期区分¹⁾を踏襲した。ただし、今回の調査における出土遺物に関連する時期の曆年代観については、近年の土器編年研究の成果²⁾を踏まえ、表3のように設定した。なお、時期区分と土器編年との対応関係は表4のとおりである。

表3 時期区分一覧

時期	土器編年	曆年代	時代・時代区分
II-3期	山中I・II式	1世紀後葉～2世紀中葉	弥生時代後期
II-4期	廻間I～III式	2世紀中葉～4世紀中葉	弥生時代末～古墳時代前期前半
III-1期	松河戸I・II式	4世紀中葉～5世紀中葉	
III-2期	宇田I式	5世紀中葉	古墳時代前期後半
IV-1期	東山48号窯式～東山11号窯式	5世紀中葉～6世紀初頭	
IV-2期	東山10号窯式～東山44号窯式	6世紀前葉～7世紀初頭	古墳時代後期
IV-3期	東山15号窯式～岩崎101号窯式	7世紀前葉～中葉	
V-1期	岩崎17号窯式～岩崎41号窯式	7世紀後葉～末	
V-2期	高藏寺2号窯式～黒佐14号窯式	8世紀初頭～9世紀後葉	古代
V-3期	光ヶ丘1号窯式～西坂1号窯式	9世紀後葉～11世紀後葉	
VI-1期	矢戸上野2号窯式～窯洞1号窯式	11世紀後葉～13世紀初頭	
VI-2期	白土原1号窯式	13世紀前葉～中葉	中世前期
VII-1期	明和1号窯式～大谷洞14号窯式	13世紀後葉～14世紀末	
VII-2期	大洞東1号窯式～生田2号窯式	15世紀初頭～後葉	中世後期
VII-3期	大窯第1～4段階	15世紀末～17世紀初頭	
VIII-1期	登窯第1～2段階	17世紀前葉～18世紀中葉	
VIII-2期	登窯第3段階	18世紀後葉～19世紀中葉	近世
VIII-3期		19世紀後葉～20世紀前半	近代

*I期(縄文土器)、II-1期、II-2期(いずれも弥生土器)については、今回の調査で当該時期の遺物が出土していないため省略した。

*土器編年は、今回の調査における出土遺物の主たる産地の型式若しくは窯式を表記した。

16 第3章 調査の成果

注

- 1) 財團法人岐阜県教育文化財團文化財保護センター2005『柿田遺跡』第1分冊（岐阜県教育文化財團文化財保護センター調査報告書第92集）25・26頁
平成調査における時期区分において基準とされた土器の種別は、I期は繩文土器、II期は弥生土器、III期は土師器、IV期は須恵器、V期は須恵器・灰釉陶器、VI期は山茶碗、VII期は山茶碗・大窯、VIII期は近世近代陶器である。
- 2) 縱年代観は、以下の文献を参考にした。
 愛知県史編さん委員会2007『愛知県史 別編 宗教2 中世・近世 漢戸系』、愛知県
 愛知県史編さん委員会2012『愛知県史 別編 宗教3 中世・近世 常滑系』、愛知県
 愛知県史編さん委員会2015『愛知県史 別編 宗教1 古代 鎌投系』、愛知県
 赤塚次郎・早野浩二2001『松河戸・宇田様式の再編』『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第2号、愛知県埋蔵文化財センター
 公益財團法人愛知県教育・スポーツ振興財團愛知県埋蔵文化財センター2015『石座神社遺跡』第1分冊（愛知県埋蔵文化財センタ
 一調査報告書第189集）
 山内伸哉2008「東農地域における灰釉陶器・山茶碗生産の一様相」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考
 古学協会2008年度愛知県大会実行委員会
 渡邊博人2008「美濃須衛窯について」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会2008年度愛知県大会
 実行委員会

表4 編年対応表

時期区分	弥生土器・土師器	中近世陶器			
		美濃須衛窯		須須窯	瀬戸美濃窯
II-3期	中山I・II式				
II-4期	解説I～Ⅳ式				
III-1期	松戸I・II式				
III-2期	宇田I式				
IV-1期	宇田Ⅱ式～篠町式	東山10～東山11			
IV-2期		東山10～東山14			
IV-3期		東山15～岩崎101	Ⅱ期後半～Ⅲ期前半		
V-1期		岩崎15～岩崎41	Ⅲ期後半		
V-2期		高藏寺2～黒塙14	IV-1期～V-1期		
V-3期		黒塙90～古代寺	V-2期～VII期		
VI-1期	第3～5型式	雄摩	矢戸上野2～雄摩1	1～4型式～4型式	古瀬戸草創期～前Ⅰ期
VI-2期	第6型式	IV期	白土原1	5型式	古瀬戸前Ⅱ期～前Ⅲ期
VI-3期	第7型式～第9型式		明和1～大谷原14	6～9型式～9型式	古瀬戸前Ⅳ期～後Ⅱ期
VI-4期	第10型式～第11型式		大原東1～生田2	9型式～10型式	古瀬戸後Ⅳ期～後Ⅲ期新
VI-5期				11型式～12型式	大栗第1～4段階
VI-6期					登録第1～2段階
VI-7期					登録第3段階

第3節 遺構の概要

1 概要

今回の調査では、弥生時代末期以降の遺構を検出した。検出した遺構数は表5のとおりである。遺構の時期決定は、出土遺物や遺構の重複関係などから判断した。また、出土遺物が複数の時期にまたがる場合は原則として新しい時期を選択したが、出土状況や出土量も判断材料とした。

本報告書では、これらの遺構のうち、遺跡の変遷や周辺の土地利用の移り変わりなどを検討する上で重要な遺構や、一括性の高い遺物が出土した遺構などを抽出して掲載した。なお、各遺構の説明文の「遺物出土状況」に記載した出土点数は、接合前の破片数を示す。

表5 遺構種別基數一覧表

地点	SB	SB-P	SP	SD	NR	SR	SK	合計
C16	0	0	2	0	3	0	9	14
C17	0	0	0	1	1	0	6	8
C18	1	4	0	1	0	2	11	19
C19	0	0	0	11	1	0	24	36
合計	1	4	2	13	5	2	50	77

2 遺構の分類

今回の調査で確認した遺構は、それぞれの形状、規模、構造をもとに以下のように分類した。また、北側の地点から順に、原則として北西の遺構から略号とともに番号を付した。各遺構の分類基準と略号は以下のとおりである。

掘立柱建物（SB） 一定の間隔で並ぶ柱列が向かい合って2辺以上認められ、上屋構造を有すると推定できる遺構を掘立柱建物とした。また、建物を構成する柱穴は、「(付属するSBの番号) -P●」と表記した。
柱穴（SP） 柱根が現存しているものや土層に柱痕跡が確認できたものの、底部に礎盤石若しくは根石、柱あたりが確認できた遺構のうち、規則的な配列が確認できず、建物や構として認定できなかったものを柱穴とした。

溝（SD） 人為的に掘られた、細長い平面形（短軸と長軸比=1：3以上）となる遺構を溝とした。

自然流路（NR） 埋土に流水や帶水の痕跡が確認でき、人為的に掘削されていないと判断できる遺構を自然流路とした。

水制遺構（SR） 「堤防」「護岸施設」「堰」など水流を調整する機能を有すると推定できる遺構を水制遺構とした。

土坑（SK） 人為的な掘り込みは確認できるが、明確に性格付けができない遺構を土坑とした。

3 遺構一覧表

各遺構の位置や規模などの基礎的情報は、それぞれ種別ごとに作成した遺構一覧表に示した。遺構種別により一覧表の項目は異なるが、共通する項目の内容は以下のとおりである。

地点名 検出した地点をC16からC19のいずれかで表記した。

調査番号・遺構番号 調査番号は現地調査時点で付した番号、遺構番号は全地点の遺構について種別毎に通し番号を付したものと示す。

地区割り 第1章第2節の1で示したとおりである。

検出面 基本層序の層位名を使用し、IV層上面で検出した遺構は「IV上」のように、遺構を検出した面について略号で示した。

平面形状・底面形状 形状を以下のとおり分類し、数字で表記した。

- 1 圓形又は橢圓形、2 方形又は長方形、3 不定形、4 不明

堆積状況 以下のとおり分類し、アルファベットで表記した。

- a 埋土が単一層、b ほぼ水平な堆積、c 中央がU字状に窪むような堆積、
d 窪みが偏った堆積、e 柱痕跡状の土層があるもの、f その他の特徴をもつ堆積、g 不明

断面形状 形状を以下のとおり分類し、ローマ数字で表記した。

- I 底面が丸い形状、II 底面が平坦で壁面が垂直に立ち上がる形状、
III 中に向かって凹む形状、IV 底面が平坦で壁面が外側に開いて立ち上がる形状、
V 底面が検出面より広がる形状、VI テラスをもち2段に掘り込む形状、
VII 不定形な形状、VIII 不明

規模 単位はmである。()は全形が確認できなかった遺構の残存長の規模を示す。

重複関係 「新>旧」の関係を示す。「新」には、その遺構より重複が新しいもの、「旧」には、その遺構より重複が古いものを示した。

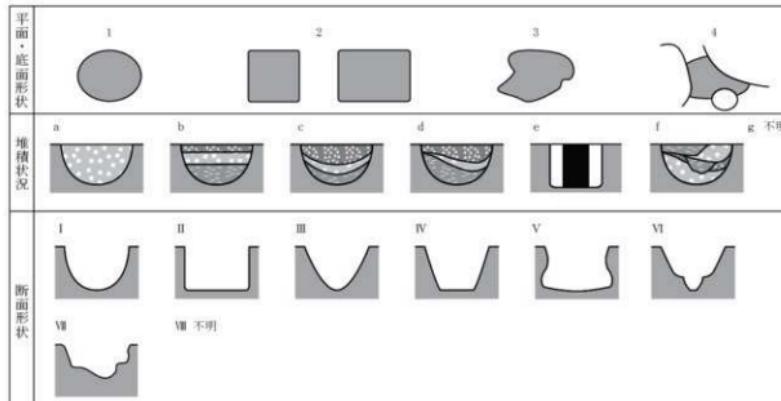


図7 遺構分類模式図

第4節 遺物の概要

1 概要

今回の調査では、土師器（弥生土器を含む）、須恵器、灰釉陶器、中近世陶磁器などの土器類と、木製品、土製品、石器・石製品、金属製品が出土した。それらの出土数は表6のとおりで、土師器、山茶碗の出土数が多い。本報告書では、これらの遺物のうち、構造の性格や時期などを検討する上で必要な遺物や、遺跡の性格を端的に示す遺物、分類別の代表的な遺物を中心に抽出して報告した。以下、各遺物の概要を記す。

表6 出土遺物点数一覧表

種類 別 破片 数等	上 級 别					土 器 類 合 計	木 製 品	土 質 品	石 器 ・ 石 製 品	金 屬 製 品	合 計
	上 面 器	須 恵 器	灰 釉 陶 器	山 茶 碗	中 近 世 陶 磁 器						
総合的破片数	9,026	6,050	2,872	8,547	368	26,933	85	4	19	2	27,043
接合後破片数	8,960	6,035	2,835	8,527	364	26,741	85	4	19	2	26,861

2 遺物の分類

出土遺物の細分類を含む器種分類や編年観及び年代観については、原則として既存の研究¹¹⁾を参考とした。また、バレススタイル壺は「バレス壺」、く字状口縁台付甕は「く字甕」、S字状口縁台付甕は「S字甕」と略し、記載した。

土師器 弥生時代末期から中世にかけて製作された素焼き製品をすべて土師器とした。器種については弥生時代末期から古墳時代では壺や壺、高杯、古代から中世では皿や甕、鍋などがある。

須恵器 遺跡全体としては蓋坏の出土が多いが、高杯、壺、甕、瓶などが出土している。猿投窯産のものが大半を占め、東山44号窯式期から折戸10号窯式期までが確認できる。出土数の多い蓋坏については、平成調査における分類を踏襲し、それぞれA類～C類に分類した。坏身A類は立ち上がりがあり蓋受けを持つもの、坏身B類は無台坏のうち蓋受けのないもの、坏身C類は有台坏のものとした。坏蓋A類は立ち上がりがあり受け部を持つもの、坏蓋B類は口縁部内面に返りを持つもの、坏蓋C類は口縁端部を折り返す、若しくは直截するものとした。

灰釉陶器 碗、皿、鉢、甕、壺などが出土している。東濃窯産のものが大半を占め、光ヶ丘1号窯式期から西坂1号窯式期までが確認できる。猿投窯産のものも若干認められ、黒雀90号窯式期から百代寺窯式期までが確認できる。

山茶碗 碗、小碗、小皿、片口鉢などが出土している。東濃型が大半を占め、尾張型が続く。また若干美濃須衛型も確認できる。東濃型は矢戸上野2号窯式期から生田2号窯式期までが確認できる。尾張型は第3型式から第10型式までが確認できる。美濃須衛型はⅦ期からⅨ期までが確認できる。

中近世陶磁器 古瀬戸系施釉陶器（以下、「古瀬戸」という。）、大窯製品、常滑陶器、貿易陶磁器、登窯製品等が出土している。古瀬戸は後期のものが大半を占める。

木製品 下駄、漆器（漆塗りの木製品、椀及び皿）、曲物底板、火付け木、杭、柱材などが出土している。製品ごとの出土数は表7のとおりである。製品名は平成調査における名称を踏襲した。また、連歯下駄、曲物底板、柱材、柱根、杭については、平成調査における分類に従い、以下のように細分類した。

連歯下駄：前壺の位置と歯裏の幅により分類し、A1類、B2類などと呼称した。（図8）

A類 前壺を左右どちらかに寄せて開けたもの、B類 前壺を台のほぼ中央に開けたもの

1類 歯裏が台の幅と同じもの、2類 歯裏が台の幅より広いもの

曲物底板：形状により、円形、耳付円形、楕円形、耳付楕円形、方形、四葉形に分類した。（図9）

柱材：横架材との仕口部の形態から以下のように分類した。（図10）

A1類 V字状の枝分れ部分を利用するもの

A2類 L字状の枝分れ部分を利用するもの

B1類 柱頭に施された出柄の断面形が円形を呈するもの

B2類 柱頭に施された出柄の断面形が方形を呈するもの

C1類 柱頭に縦の半蔵距離が短い脛太（びんた）を作り出すもの

C2類 柱頭に縦の半蔵距離が長い脛太を作り出すもの

柱根：木取り、断面形、底部の形態より分類し、A1a類、B2a類などと呼称した。（図11）

A類 丸木を分割した材を用いているもの、B類 芯持材を用いているもの

1類 多角形が明瞭な断面形を呈するもの、2類 円形を基本とする断面形を呈するもの

a類 底部がほぼ平坦な形態を呈するもの、b類 底部が平坦でない形態を呈するもの

杭：木取り、先端の形状、加工状況により分類し、IAa類、IICb類などと呼称した。（図12）

木取り

I類 丸木芯持ち材、II-1類 単なる割り材、II-2類 芯部側を削り角状にした割り材、

II-3類 木肌側を削り角状にした割り材、II-4類 半割材、III類 角材、IV類 板材

先端の形状

A類 周縁方向から比較的鋭角に先端を削り出したもの

B類 周縁方向から比較的鈍角に先端を削り出したもの

C類 1～2方向もしくは片面から比較的鋭角に先端を削り出したもの

D類 1～2方向もしくは片面から比較的鈍角に先端を削り出したもの

加工状況

a類 削り面に数度にわたる緻密な削り痕を残すもの、b類 単純な削り痕を残すもの

なお、出土位置、残存率、製品名の判別可否等の観点をもとに抽出した32点は樹種同定を、漆器はすべて漆塗膜分析を実施し、その結果を第4章に記載した。

表7 出土木製品一覧表

分類群	基準・基準品	容器			祭把具	雑具	土木材	建築部材			用途不明品		
		器種	下駄	椀	皿	曲物身	火付け木	杭	柱	横架材	板状木製品	棒状木製品	角材
器種細分	連歯下駄	漆器椀	漆器皿	漆器曲物身	—	—	—	柱材	柱根	—	板材	棒状材	角材
点数	1	1	1	1	1	15	11	2	4	1	35	11	1

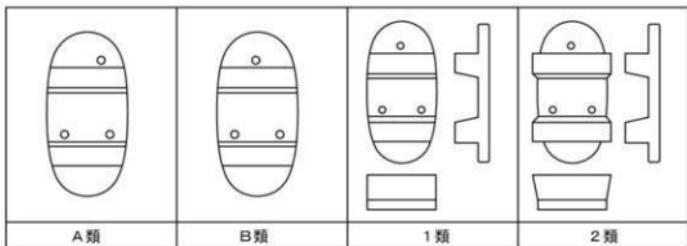


図8 連歯下駄の分類

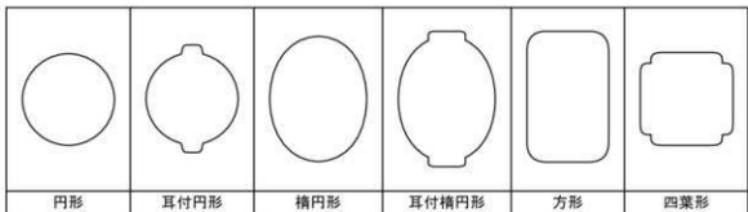


図9 曲物底板の分類

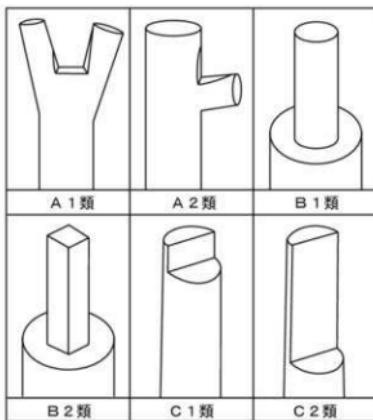


図10 柱材の分類

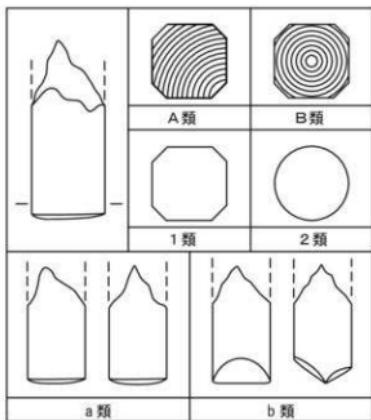


図11 柱根の分類

木取り						
I	II - 1	II - 2	II - 3	II - 4	III	IV
						

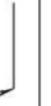
先端の形状と加工状況						
	A	B	C	D		
a						
b						

図12 杭の分類

土製品 瓦及び不明製品が4点出土している。

石器・石製品 剥片、砥石などが19点出土している。

金属製品 銛などの鉄製品が2点出土している。

3 遺物観察表

本報告書に掲載した遺物の観察表は、それぞれ種別ごとに作成した。種別により一覧表の項目は異なるが、主な項目の内容は次のとおりである。

出土地点 出土した地点を記載した。

遺構名・グリッド 遺構名は遺構番号を記載した。グリッドは原則として出土位置が明らかなものについて第1章第2節の1で示したグリッド名を記載した。

層位 I～III層から出土した場合は、基本層序名を記載した。また、遺構出土の場合、土層分層前は埋土を深さ約5cmごとに区切り、上層から順に「a・b・c…」の順に記載し、土層分層後はその土層番号(1・2・3….)を記載した。

口径等 土器の()で示した値は、口径及び底径は復元径を、器高は残存高を記載した。

長さ等 石製品、木製品の()で示した値は残存長を記載した。

胎土 含有物は肉眼観察による。混和材の量により、「粗」、「やや粗」、「密」に分けて記載した。

調整 内面と外面の調整について記載した。

注

- 1) 出土遺物の器種分類や編年観及び年代観は、以下の文献を参考とした。この他に参考とした文献は巻末に一括して記載した。なお土師器については早野浩二氏、須恵器については渡辺博人氏、在地産の土器については長瀬治義氏の指導を得たが、最終的な判断は執筆担当者が行った。
愛知県史編さん委員会2007『愛知県史 別編 家業2 中世・近世 漢戸系』、愛知県
愛知県史編さん委員会2010『愛知県史 資料編4 考古4 飛鳥～平安』、愛知県
愛知県史編さん委員会2012『愛知県史 別編 家業3 中世・近世 常滑系』、愛知県
愛知県史編さん委員会2015『愛知県史 別編 家業1 古代 猿投系』、愛知県
赤塚次郎・早野浩二2001「松河戸・宇田様式の再編」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第2号、愛知県埋蔵文化財センター
北村和宏1994「尾張の「伊勢型鍋」」『鍋と甕そのデザイン』（第4回東海考古学フォーラム）、東海考古学フォーラム尾張大会
実行委員会
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『石座神社遺跡』第1分冊（愛知県埋蔵文化財センター
一調査報告書第189集）
財団法人愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集）
財団法人愛知県埋蔵文化財センター1994『松河戸遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第48集）
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所2010『出土建築部材における調査方法についての研究報告』
奈良国立文化財研究所1985『木器集成図録 近畿古代編』（奈良国立文化財研究所史料第27冊）
藤沢良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『三重県埋蔵文化財センター研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター
山内伸浩2008「東農地域における灰釉陶器・山茶碗生産の一様相」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会2008年度愛知県大会実行委員会

第5節 C16・17地点の遺構・遺物

1 柱穴

SP 1 (図13)

検出状況 C16地点AA 5 グリッド、IV層上面で検出した。

平面形は明瞭であった。他の遺構との重複はない。

規模・形状 平面形は円形である。底面は概ね平坦である。東側壁面は2段に掘り込む形状である。

埋土 4層に分層した。1層は柱根部分の堆積土、2層～4層は掘方埋土である。

遺物出土状況 柱根が残存し、4層に接した状態で出土した。

出土遺物 柱根は腐食が激しく、取上げを断念した。他に遺物は出土しなかった。

時期 他の遺構との重複がなく、柱根以外の遺物が出土しなかったため、本遺構の時期は不明である。

SP 2 (図14)

検出状況 C16地点AA 5 グリッド、IV層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK 2と重複し、本遺構はSK 2より新しい。

規模・形状 平面形は円形である。底面は平坦である。南東壁面はほぼ垂直に立ち上がり、北西壁面



図13 SP 1 遺構図

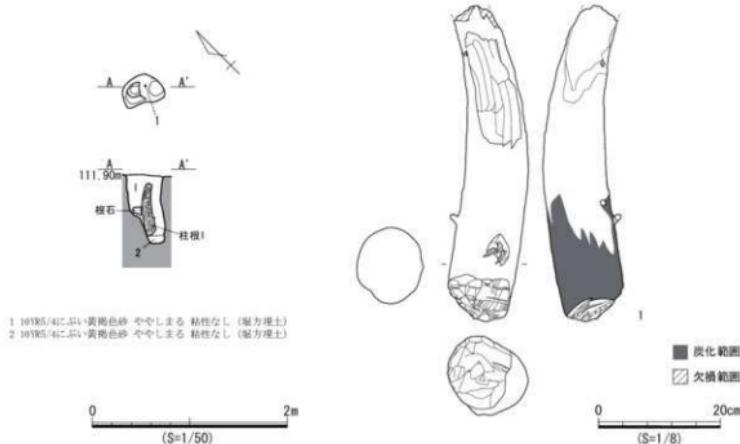


図14 SP 2 遺構図・出土遺物実測図

は2段に掘り込む形状である。段の平坦部で柱根を支えたと考えられる根石を確認した。

埋土 2層に分層した。いずれも掘方埋土である。柱根は上部が腐食により欠損しているが、柱根上部に柱痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況 掘方埋土から土師器1点、山茶碗3点が出土した。柱根（掲載番号1、以下括弧内は掲載番号のみを記載）が残存していた。

出土遺物 柱根を図示した。土器類は小片のため図示しなかった。1はB2b類に分類される柱根である。底部は2方向から切断され、先端には斧痕が明瞭に残る。下端は削り込みにより尖り、明瞭な刃痕が確認できる。刃幅は2~3cmである。胴部の右上方はよく調整され、滑らかになっている。上端部は欠失し、表面下部は炭化している。

時期 掘方埋土から大畠大洞4号窯式期の東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構の構築は14世紀初頭以降と考えられる。

2 自然流路

NR1(図15)

検出状況 C16地点AD4・AD5グリッド、IV層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。NR2・NR3と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状 発掘区の南端に位置し、南側は発掘区外に続く。平面形は不定形である。底面は南側に向かって緩やかに下がる。北側壁面はやや急に立ち上がる。

埋土 10層に分層した。埋土は砂砾（1層～7層、10層）とシルト（8層及び9層）に大別できる。堆積状況から、当初は一定量の水量が流れていたが、その後流水が少なくなり、再び一定量の水量が流れたと考えられる。

遺物出土状況 1層～7層から土師器44点、須恵器55点、灰釉陶器9点（2）、山茶碗14点（3・4）が散在して出土した。8層及び9層から土師器8点、須恵器32点（5）、灰釉陶器8点（6）、山茶碗5点が散在して出土した。10層から土師器31点、須恵器174点（7～13）、灰釉陶器10点（14）、山茶碗10点（15）、石器1点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器8点、灰釉陶器3点、山茶碗3点を図示した。2は東濃窯産の灰釉陶器で、虎渓山1号窯式期の碗である。3・4はいずれも東濃型山茶碗で、3は谷迫間2号窯式期の碗、4は窯洞1号窯式期の碗である。5は猿投窯産の須恵器で、岩崎25号窯式期の壺身C類である。6は東濃窯産の灰釉陶器で、大原2号窯式期の碗である。7・8はいずれも猿投窯産の須恵器で、7は高藏寺2号窯式期の壺蓋C類、8は東山15号窯式期の壺蓋A類である。9～12はいずれも美濃須衛窯産の須恵器で、9はⅢ期第3小期からⅣ期第1小期の壺身B類、10はⅣ期第1小期の壺身B類、11はⅣ期第2小期の壺身B類、12はⅢ期第3小期の壺である。13は在地産の須恵器で、岩崎41号窯式期から高藏寺2号窯式期併行の壺蓋B類若しくはC類である。14は東濃窯産の灰釉陶器で、光ヶ丘1号窯式期の皿である。15は美濃須衛型山茶碗でⅧ期の広口壺である。

時期 NR2との重複関係、図示した15から、本遺構は12世紀後葉と考えられる。

NR2(図16～18)

検出状況 C16地点AB3～AD5グリッド、IV層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。NR1・NR3と重複する。本遺構はNR1より古く、NR3より新しい。

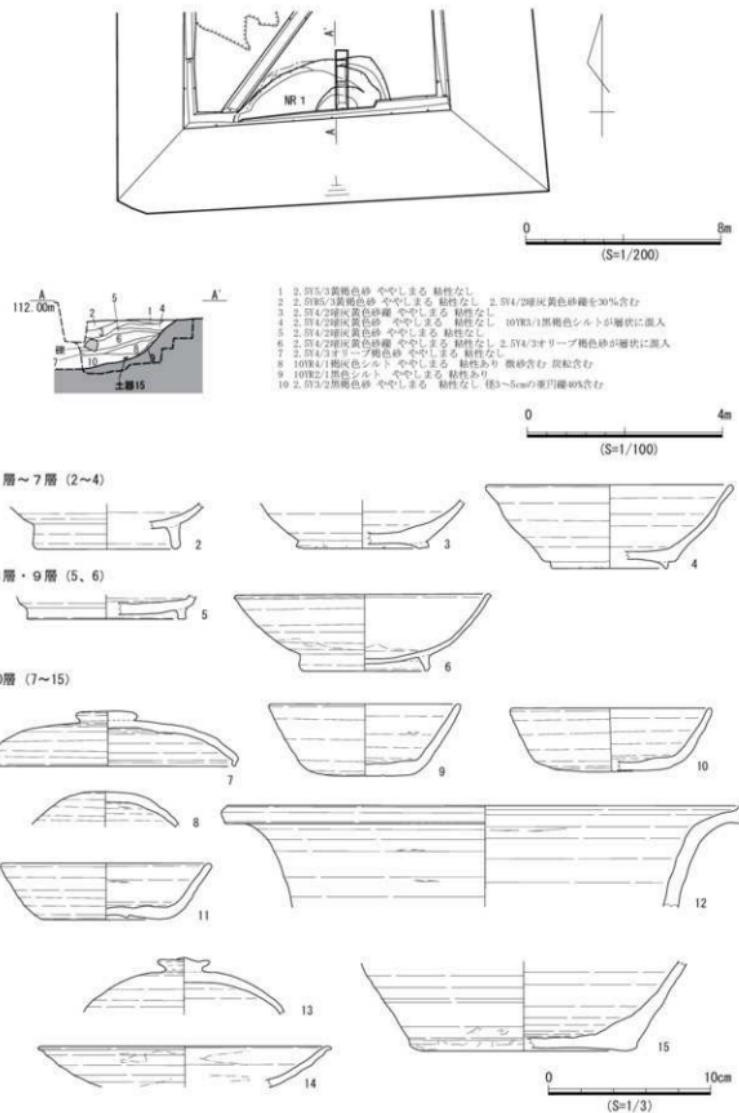
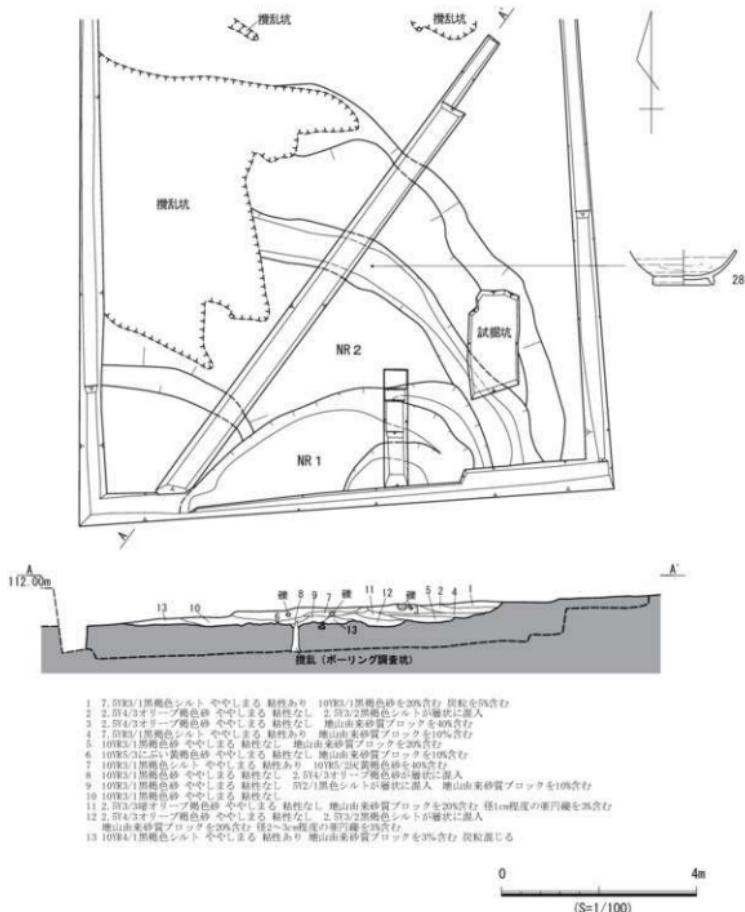


図15 NR 1 遺構図・出土遺物実測図

規模・形状 発掘区のほぼ全域に位置する。南側は発掘区外に続き、西側は擾乱坑により消失するため、全容は不明である。底面は南西側は平坦で、北東側は丸い。壁面の立ち上がりは南西側は緩やかで、北東側はやや急である。

埋土 13層に分層した。埋土は砂（2層、3層、5層、6層、8～12層）とシルト（1層、4層、7層、13層）に大別でき、地山（岩盤）に由来すると考えられる砂質ブロックが混じる。堆積状況から、一定量の水量が流れていた時期と、流水量が少なくなる時期が繰り返されていたと考えられる。



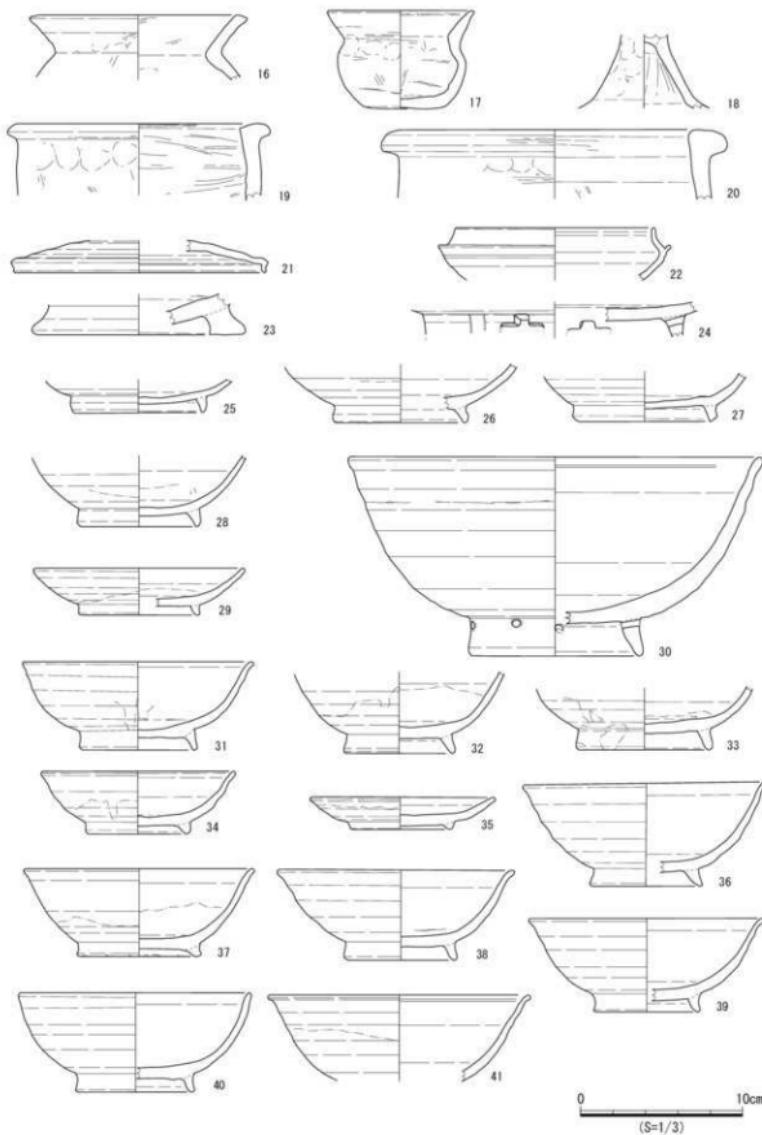


図17 NR2 出土遺物実測図（1）

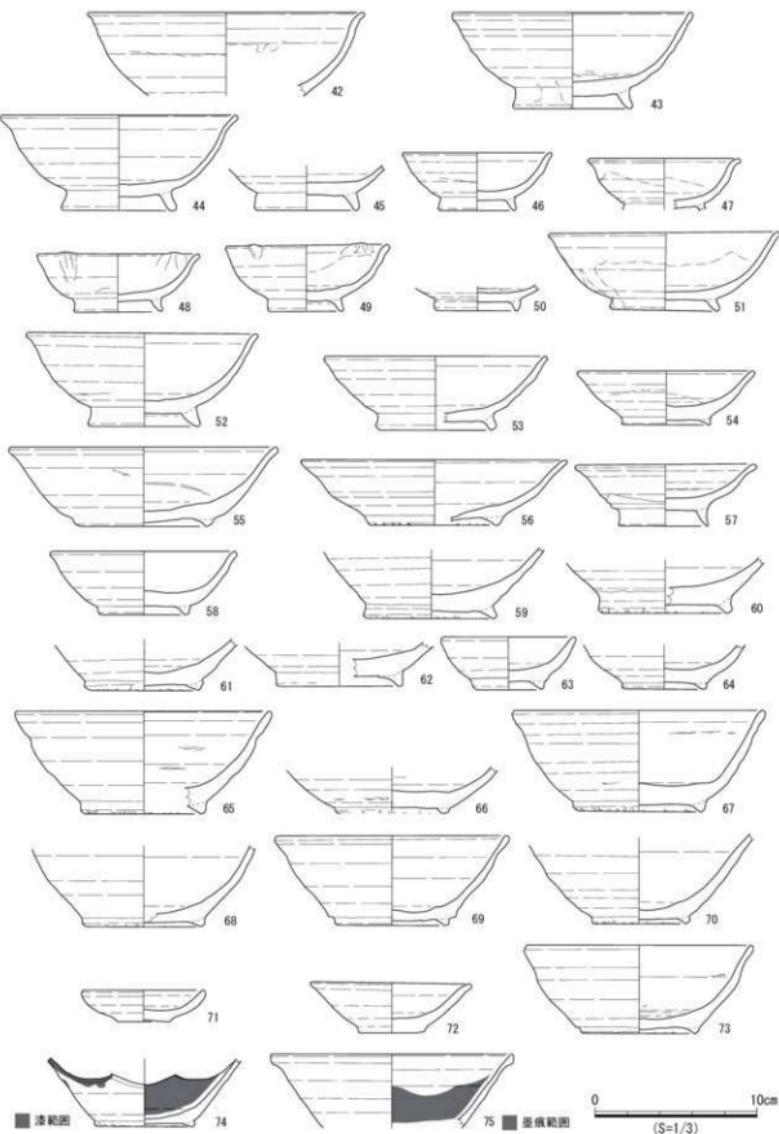


図18 NR2出土遺物実測図（2）

遺物出土状況 埋土から土師器771点(16~20)、須恵器525点(21~24)、灰釉陶器567点(25~54)、山茶碗482点(55~75)、古瀬戸3点、石器1点が出土した。28は13層底面から出土した。

出土遺物 土師器5点、須恵器4点、灰釉陶器30点、山茶碗21点を図示した。16は宇田I式から宇田II式の甕である。17は松河戸II式から宇田I式の小型壺である。18は松河戸II式から宇田I式の高坏である。19・20は北村和宏による古代清郷型鍋編年の第II段階第3小期(北村2001)の清郷型鍋である。21~23はいずれも猿投窯産の須恵器で、21は鳴海32号窯式期の坏蓋C類、22は蝮ヶ池窯式期から東山44号窯式期の坏身A類、23は高藏寺2号窯式期から鳴海32号窯式期の広口瓶である。24は美濃須衛窯産の須恵器で、IV期第1小期からV期第1小期の盤である。25~54はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、25・26は光ヶ丘1号窯式期の碗、27は大原2号窯式期の碗、28は虎渓山1号窯式期の碗、29は虎渓山1号窯式期の皿、30は虎渓山1号窯式期から丸石2号窯式期の鉢、31~33は丸石2号窯式期の碗、34は丸石2号窯式期の小碗、35は丸石2号窯式期の皿、36~45は明和27号窯式期の碗、46・47は明和27号窯式期の小碗、48・49は明和27号窯式期の輪花碗、50は明和27号窯式期の皿、51~53は西坂1号窯式期の碗、54は西坂1号窯式期の小碗である。55・56はいずれも尾張型山茶碗で、第5型式の碗である。57は美濃須衛型山茶碗で、VII期の小碗である。58~75はいずれも東濃型山茶碗で、58は矢戸上野2号窯

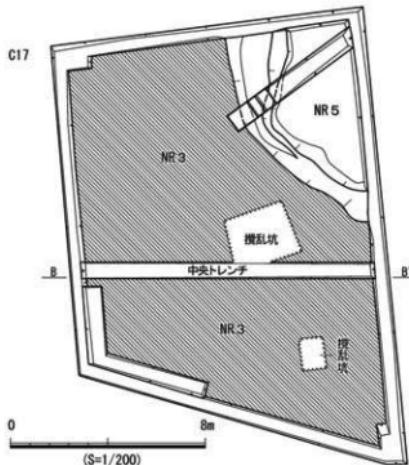
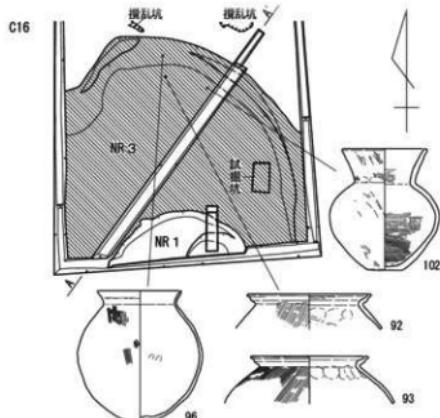
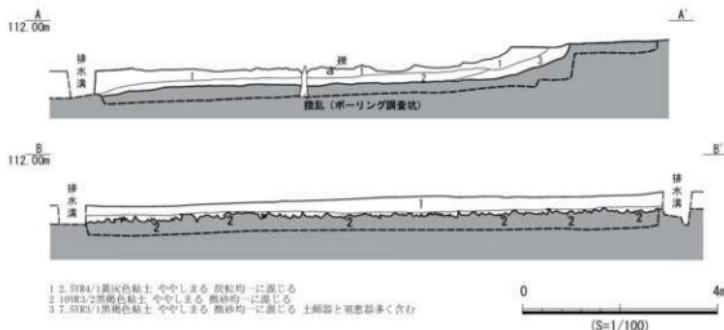


図19 NR 3 遺構図(1)



遺物出土状況図

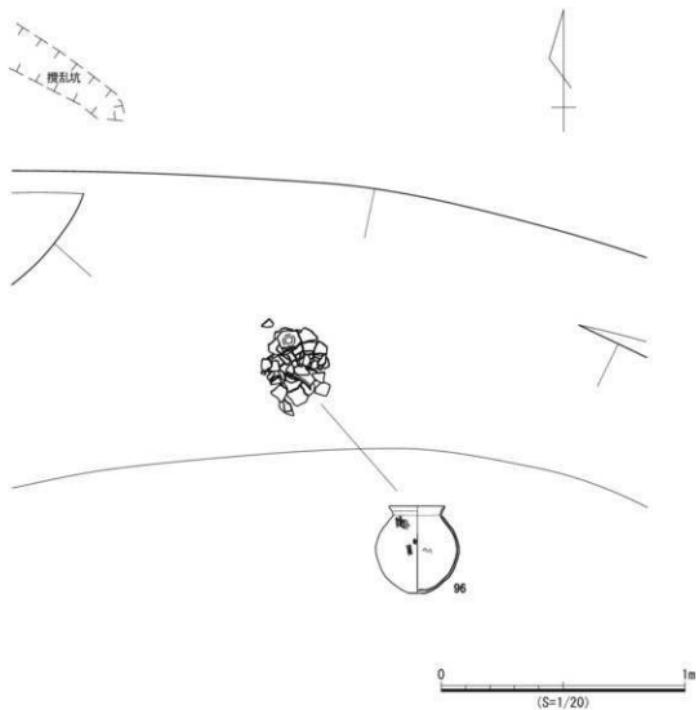


図20 NR 3 遺構図(2)・遺物出土状況図

式期の小碗、59～62は谷迫間2号窯式期の碗、63・64は谷迫間2号窯式期の小碗、65～67は浅間窯下1号窯式期の碗、68～70は丸石3号窯式期の碗、71は丸石3号窯式期の小皿、72は丸石3号窯式期の平高台皿、73は窯洞1号窯式期の碗、74は白土原1号窯式期の碗、75は白土原1号窯式期から明和1号窯式期の碗である。74は内面及び破断面に漆が付着する。75は内面の体部下半に墨痕が確認できる。

時期 NR1との重複関係、図示した28から、本遺構は10世紀中葉から12世紀中葉と考えられる。

NR3（図19～23）

検出状況 C16地点AB3～AD5グリッド及びC17地点AH3～AK6グリッド、IV層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。C17地点においては、中央トレンチ壁面（B-B'断面）における土層確認の結果、標高、埋土の土質及び堆積状況、出土遺物の様相等から、C16地点において検出した本遺構と同一遺構であると判断し、遺構の掘削は実施しなかった。NR1・NR2・NR5・SK9・SK10・SK14・SK15と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 C16地点及びC17地点発掘区のほぼ全域に位置する。南側、西側、東側は発掘区外に統くため、全容は不明である。底面は概ね平坦で、A-A'断面における北東壁面はやや急に立ち上がる。

埋土 3層に分層した（A-A'断面、B-B'断面）。埋土は微砂及び炭粒を含む粘土である。概ね水平に堆積するが、B-B'断面における3層と基盤との層界は乱れる。堆積状況から、湿地性堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土（C16地点）から土師器4,844点（76～128）、須恵器553点（129～131）、木製品1点（132）、石器4点（133・134）が出土した。埋土（C17地点）から土師器13点、須恵器15点（135）、木製品11点（136）が出土した。96は本遺構の肩部から破片がまとまって出土した（図20）。102は完形に近い状態で逆位で出土した（図版4）。92・93はいずれも本遺構の肩部から出土した。

出土遺物 土師器53点、須恵器4点、板状木製品1点、火付け木1点、石器2点を図示した。76は廻間II式から廻間III式のく字甕である。77は松河戸I式から松河戸II式のく字甕である。78～85は松河戸I式から宇田I式のく字甕である。86～88は廻間I式から廻間III式のS字甕である。89～91は廻間II式のS字甕である。92・93は廻間III式のS字甕である。94は儀町式の甕である。95は廻間II式のバレス甕である。96は廻間III式の広口甕である。97～100は廻間III式の二重口縁甕である。97は内面に赤色塗彩が確認できる。99・100は外面に赤色塗彩が確認できる。101は松河戸I式から松河戸II式の有段口縁甕である。102は廻間III式の小型甕である。103は宇田I式から宇田II式の小型甕である。104は廻間III式の甕である。105は松河戸I式から宇田I式の甕である。106は松河戸I式の大型高坏である。107・108は松河戸I式から松河戸II式の大型高坏である。109・110は宇田I式から宇田II式の楕状坏部高坏である。111は廻間II式から廻間III式の高坏である。112は廻間III式の高坏である。113～118は松河戸I式から松河戸II式の高坏である。119～121は松河戸I式から宇田I式の高坏である。122・123は松河戸II式から宇田I式の高坏である。124は宇田I式から宇田II式の高坏である。125は廻間II式から廻間III式の器台である。126は松河戸II式から宇田I式の鉢である。127は宇田I式の楕である。128は儀町式の鍋若しくは瓶である。129・130はいずれも猿投窯産の須恵器で、129は岩崎17号窯式期の坏蓋B類、130は東山15号窯式期の水瓶である。131は在地産の須恵器で、東山10号窯式期併行の坏身A類である。132は板状木製品である。133は砾石、134は剥片である。135は猿投窯産の須恵器で、

C16地点

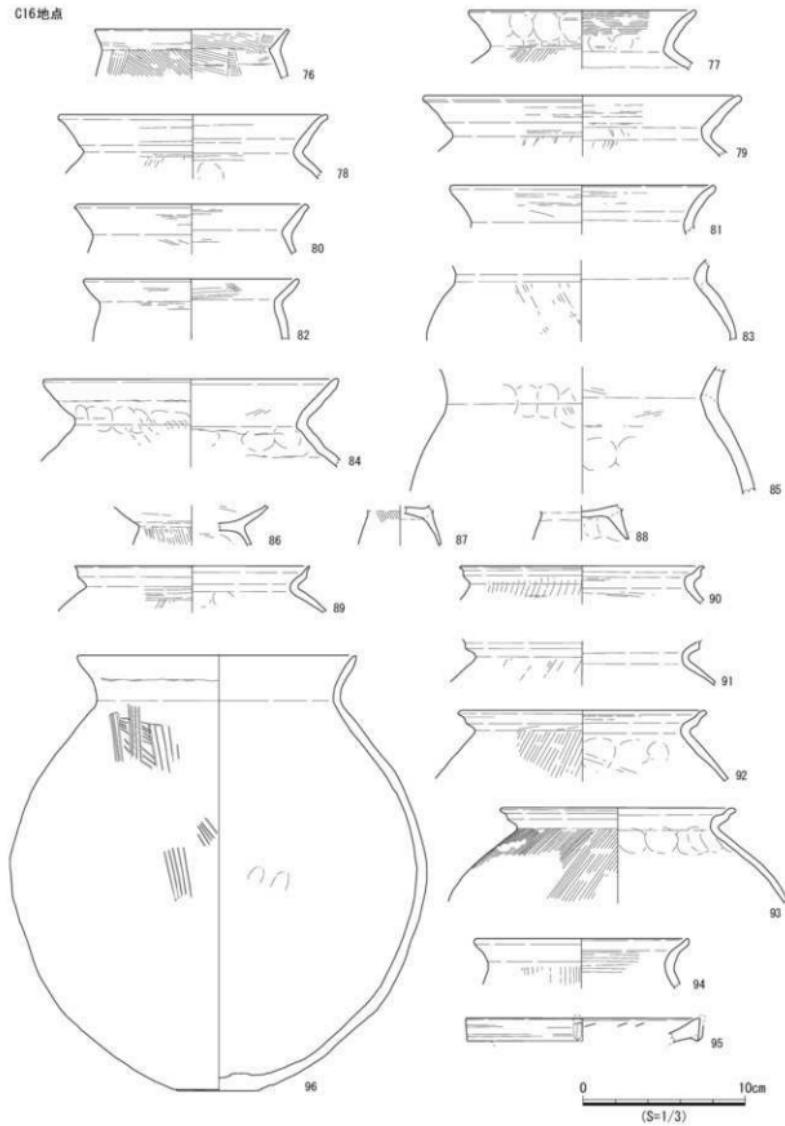


図21 NR3 出土遺物実測図（1）

C16地点

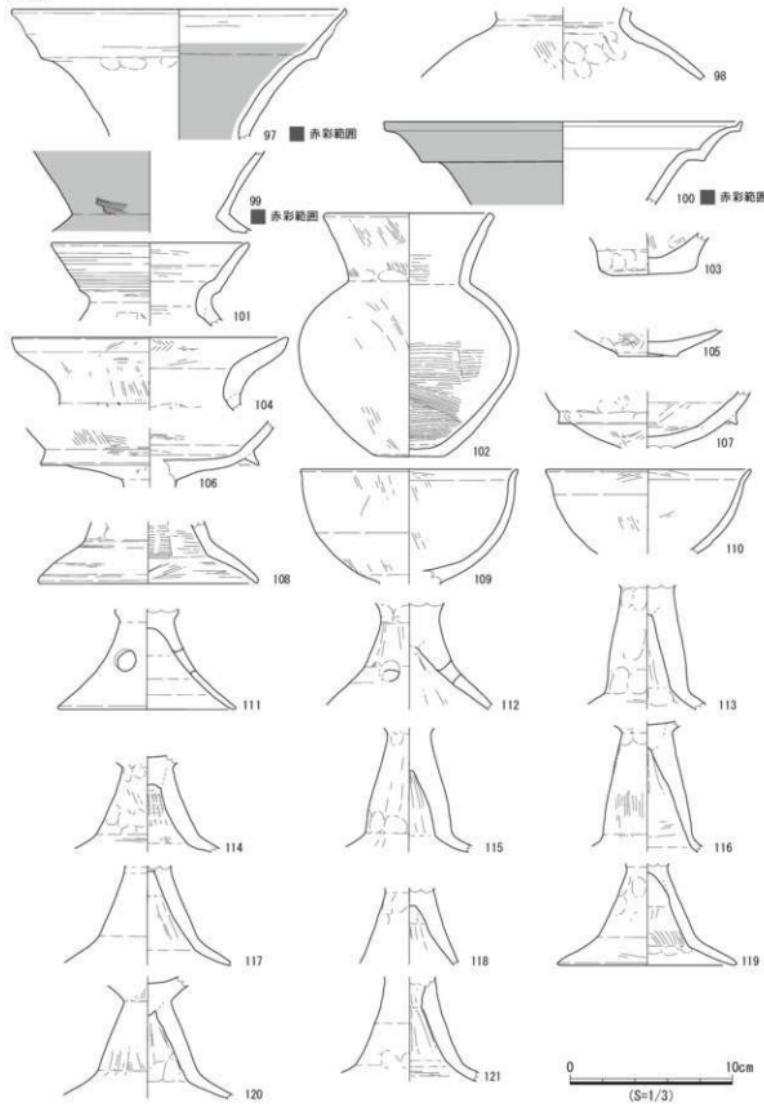


図22 NR3 出土遺物実測図（2）

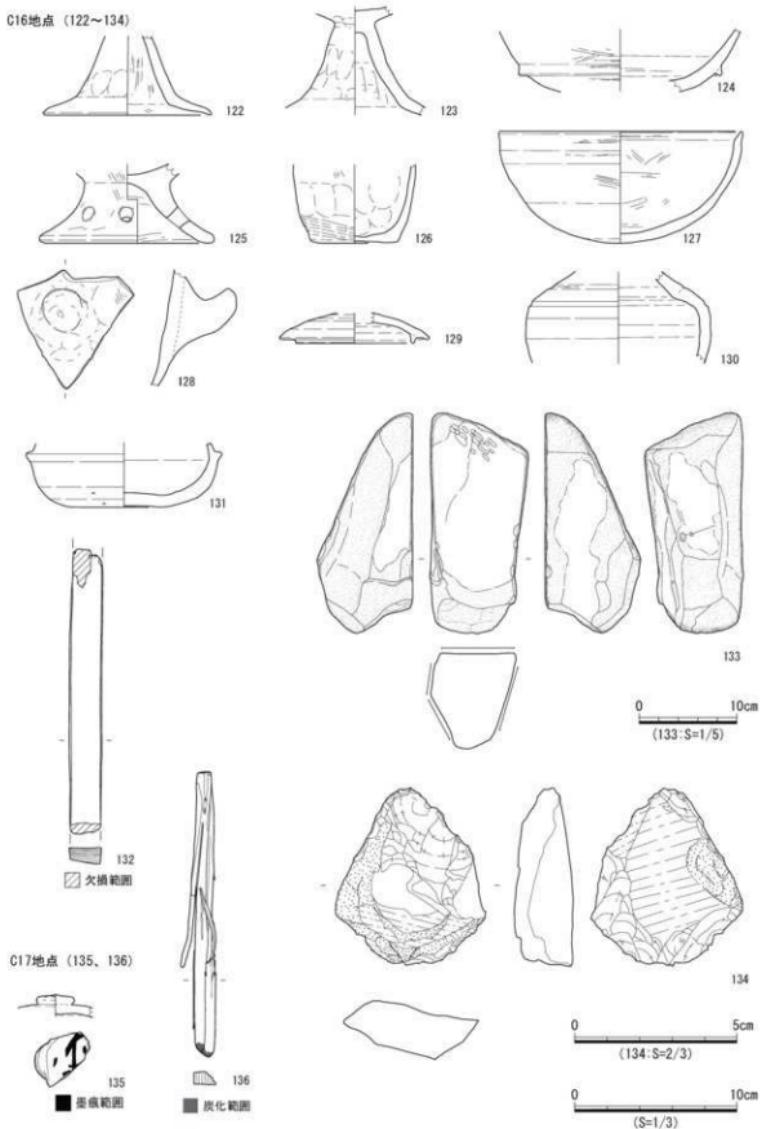


図23 NR 3 出土遺物実測図 (3)

岩崎41号窯式期の坏蓋C類である。内面に墨痕が確認できる。136は火付け木である。

時期 NR2・NR5との重複関係、図示した92・93・96・102から、本遺構は3世紀後葉から7世紀末と考えられる。

NR5（図24～29）

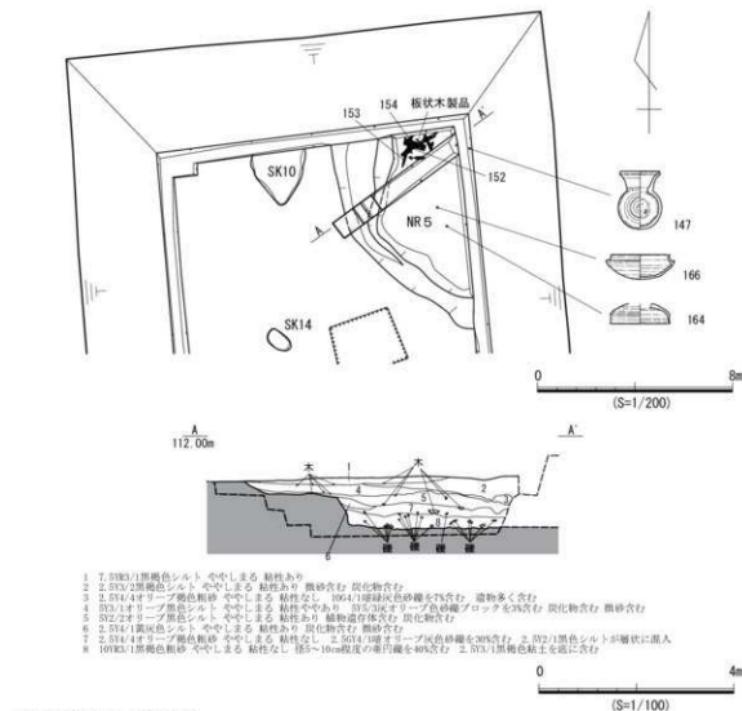
検出状況 C17地点AH5～AI6グリッド、IV層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SD1・NR3・SK11・SK12・SK13と重複する。本遺構はSD1・SK11・SK12・SK13より古く、NR3より新しい。

規模・形状 発掘区の北東端に位置する。本遺構の北側及び東側は発掘区外に続くため、全容は不明である。底面は平坦である。西側壁面は2段に立ち上がる。西側の壁面上段では犬走状の平坦面が存在するが、南側では消失する。

埋土 8層に分層した。埋土は上層と下層に大別できる。上層（1層～6層）はシルトであり、2層と4層の間に粗砂（3層）を挟む。下層（7層及び8層）は粗砂である。

遺物出土状況 1層～6層から土師器155点（137・138）、須恵器244点（139～151）、灰釉陶器4点、木製品14点（152～162）、石器1点が出土した。7層及び8層から土師器37点（163）、須恵器18点（164～169）、木製品14点（170～177）、石器2点（178）が散在して出土した。土器類の大半は1層～6層から出土した。3層からは完形に近いミニチュアの提瓶（147）が出土し、周辺からは須恵器甕や横瓶（145）の破片を確認した（図版4）。この提瓶は祭祀に関わるものと考えられる。また、5層底面からは木製品がまとまって出土した（図24、152～154）。

出土遺物 土師器3点、須恵器19点、柱材3点、板状木製品5点、曲物底板1点、斎串1点、火付け木5点、棒状木製品4点、石器1点を図示した。137・138は永井宏幸による古代土師器甕編年の第2段階から第3段階（永井1995）の長胴甕である。139～145はいずれも猿投窯産の須恵器で、139は岩崎25号窯式期の坏蓋C類、140は東山15号窯式期から岩崎101号窯式期の坏身A類、141は岩崎25号窯式期の坏身B類、142・143は高藏寺2号窯式期の坏身C類、144は高藏寺2号窯式期の壺、145は岩崎41号窯式期の横瓶である。146・147はいずれも美濃須衛窯産の須恵器で、146はIV期第1小期の坏身B類、147はIV期第1小期のミニチュアの提瓶である。148は馬乗洞古窯産の可能性がある在地産の須恵器で東山44号窯式期併行の坏身A類である。149は猿投窯産の須恵器で、岩崎25号窯式期の坏身C類である。内面には黒漆が施されている。150・151は產地不明の須恵器である。150は坏蓋C類、151は坏身C類で、いずれも岩崎25号窯式期併行である。152は耳付梢円形に分類される曲物底板である。側板を乗せる周縁段上に紐孔が二箇所みられ、周縁段の内側は垂直に仕上げられている。内面には黒漆が施され使用痕とみられる座みが複数確認できる。外面には刃物痕が直線的に残る。153はB1類に分類される柱材である。柱頭部には出柄が施され、その先端は炭化している。下端部は欠損及び腐食のため加工方法は判然としない。154は板状木製品で、表面がよく調整され滑らかに仕上げられている。ヤリガンナ痕とみられる刃物痕が左半分は真横に右半分は斜めに展開する。155は板状木製品である。156は斎串である。157～161は火付け木である。162は棒状木製品である。163は第1段階（永井1995）の長胴甕である。164～169はいずれも猿投窯産の須恵器で、164・165は東山44号窯式期の坏蓋A類、166・167は東山44号窯式期の坏身A類、168は岩崎41号窯式期の壺、169は東山15号窯式期の高坏である。170はB1類に分類される柱材である。表面上部及び右側面内部は炭化し、その他部分も被熱により薄黒く変色している。柱頭部には出柄が施され、その一部は炭化している。171～173は板状木製品である。



木製品出土状況図（5層底面）

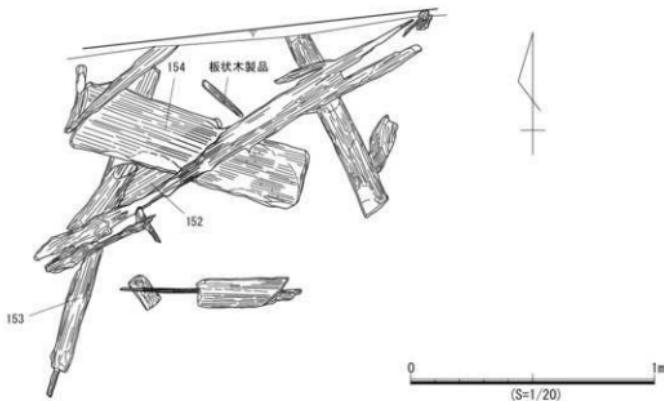


図24 NR 5造構図・木製品出土状況図

上層（3層）

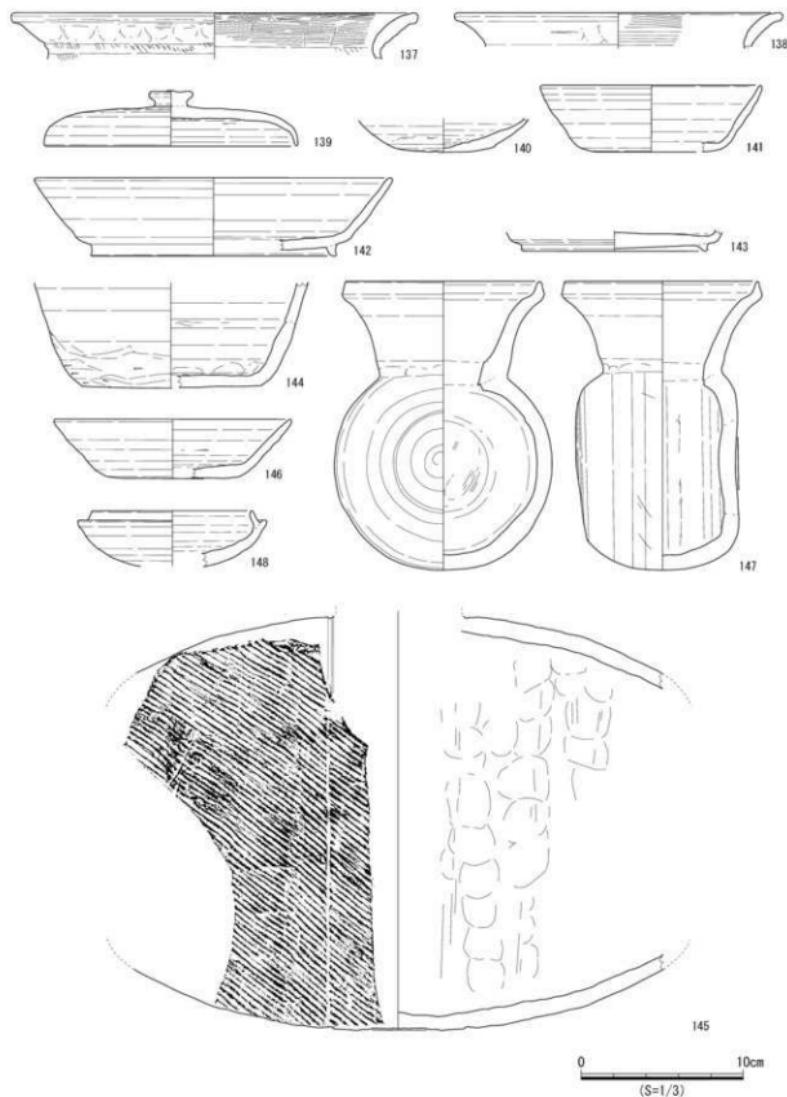
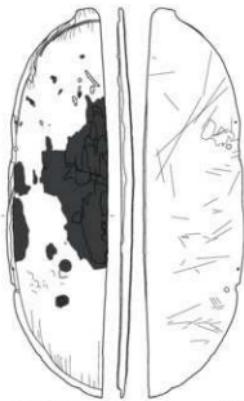


図25 NR5 出土遺物実測図（1）

上層（3層以外）

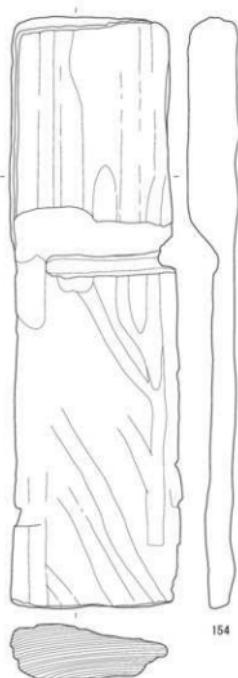


0 10cm
(土器類 : S=1/3)



0 20cm
(152 : S=1/8)

0 40cm
(153 : S=1/12)



■ 炭化範囲
□ 欠損範囲

0 10cm
(154, 155 : S=1/3)

図26 NR 5 出土遺物実測図（2）

上層（3層以外）

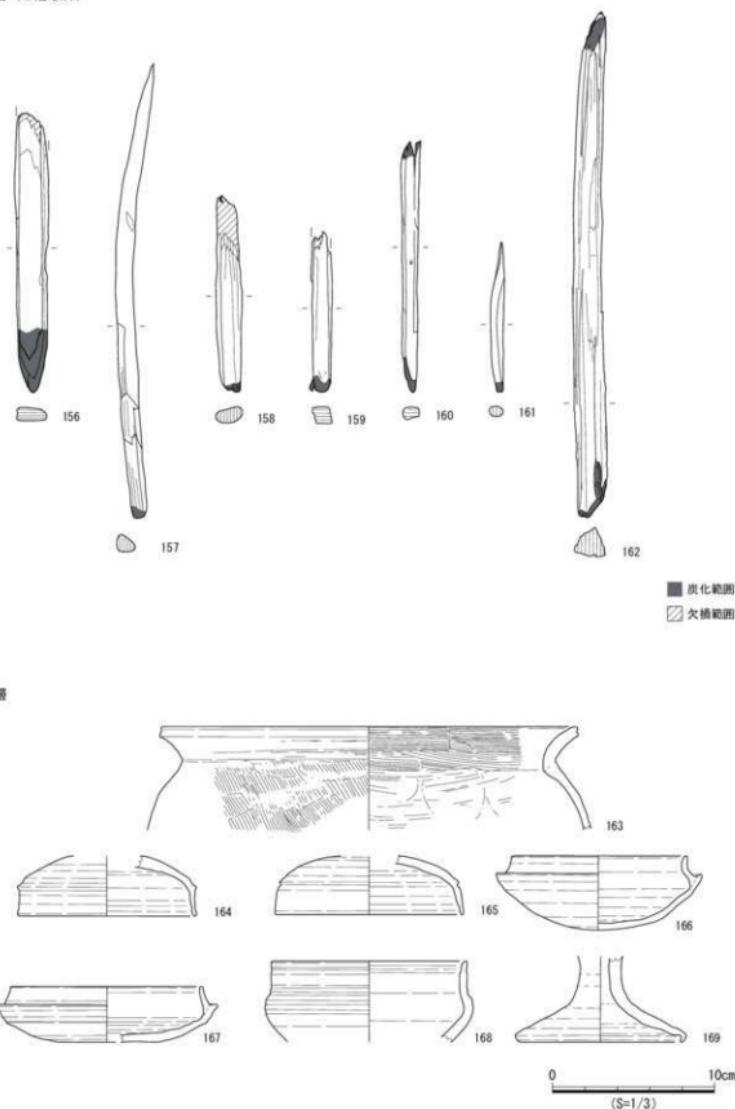


図27 NR 5 出土遺物実測図（3）

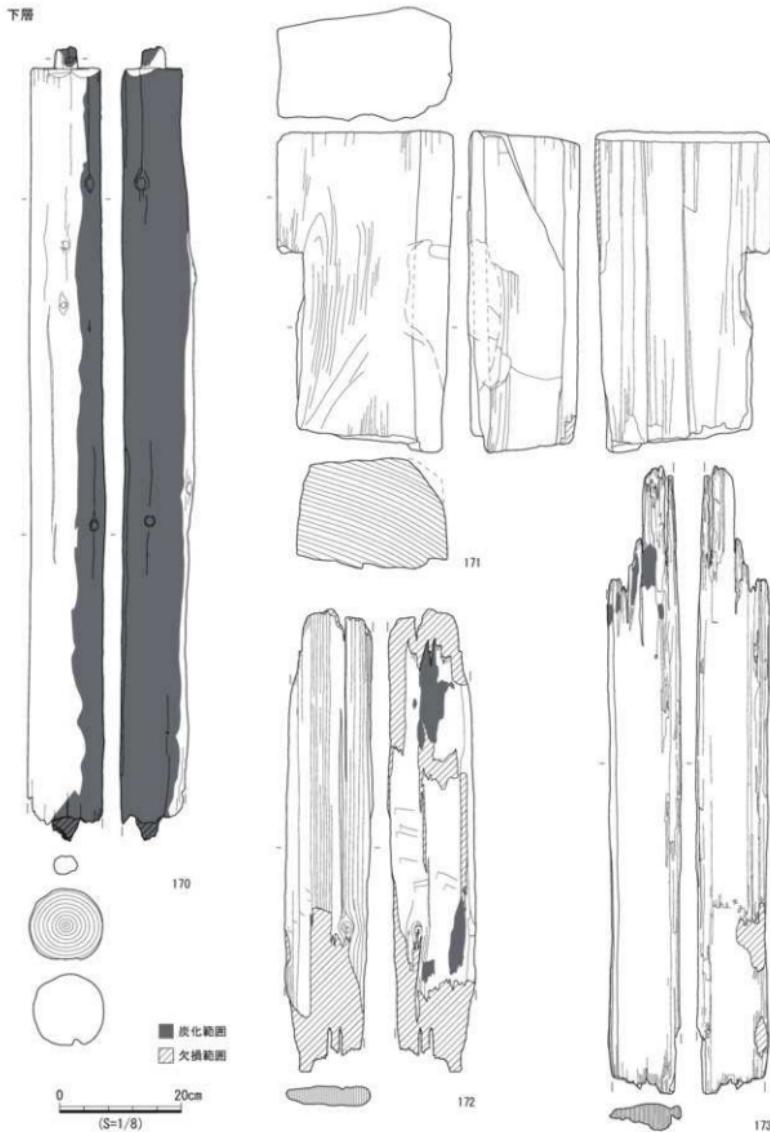


図28 NR5 出土遺物実測図 (4)

下層

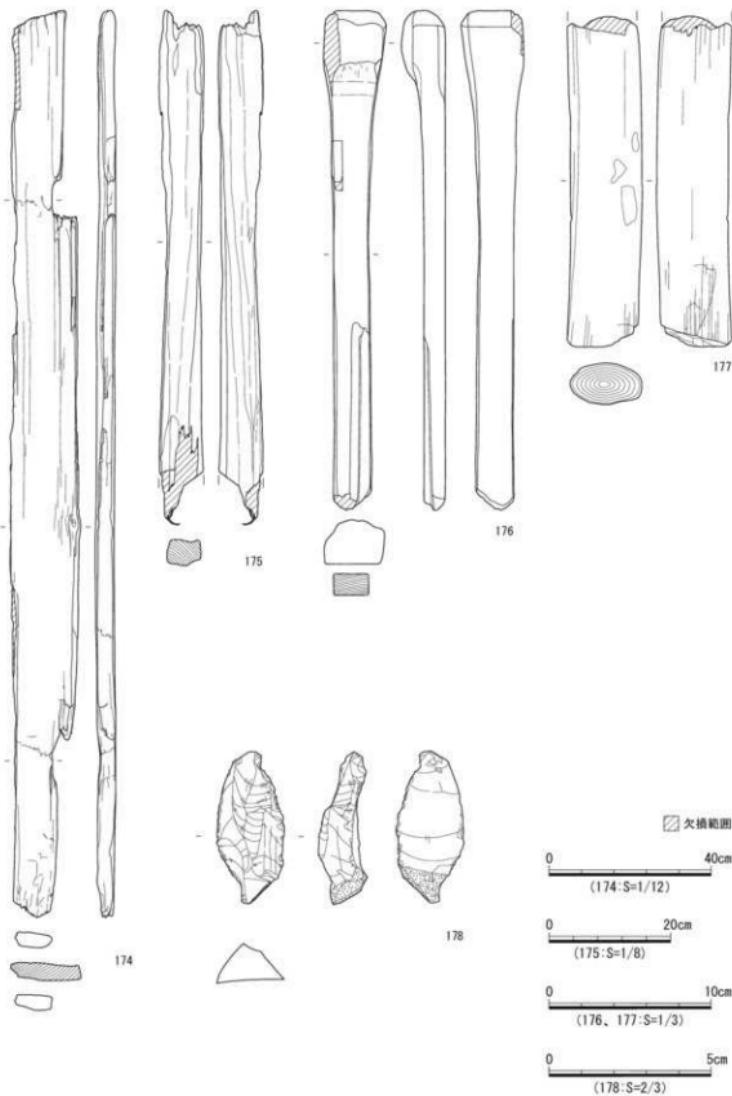


図29 NR5 出土遺物実測図（5）

171は下端部にハツリ痕、上端部に鋸痕があり、左側面には鑿を用いて加工したとみられる溝がある。端材を活用した未製品と考えられる。174は横架材である。表面はよく調整され滑らかである。五平形の仕口を二つ有し、アテ痕とみられる窪みが確認できる。175～177は棒状木製品である。178は剥片である。

時期 図示した164・166から、下層は6世紀末から7世紀前葉に堆積したと考えられる。NR3との重複関係、図示した147から上層は8世紀初頭から8世紀前葉に堆積したと考えられる。

3 III層（遺物包含層）等出土遺物（図30～34）

III層からは、土師器833点（179～181）、須恵器705点（182～188）、灰釉陶器540点（189～191）、山茶碗1655点（192～208）、古瀬戸40点（209～214）、常滑産陶器19点、白磁13点（215～218）、青磁5点（219）、木製品11点（220～222）、石器2点、金属製品1点（223）が出土した。I層及びII層からは、土師器179点（224）、須恵器119点、灰釉陶器150点（225・226）、山茶碗428点（227～229）、古瀬戸13点、常滑産陶器7点、大窯製品15点（230）、登窯製品10点が出土した。また、擾乱坑からは、土師器308点（231～237）、須恵器325点、灰釉陶器487点（238～254）、山茶碗395点（255～266）、古瀬戸7点、常滑産陶器6点（267・268）、木製品1点（269）が出土した。

出土遺物のうち土師器11点、須恵器7点、灰釉陶器22点、山茶碗32点、古瀬戸6点、常滑産陶器2点、白磁4点、青磁1点、大窯製品1点、木製品4点、金属製品1点を図示した。179は宇田I式から宇田II式の壺である。180は東山72号窯式期併行の甕である。181は第2段階から第3段階（永井1995）の長胴甕である。182～186はいずれも猿投窯産の須恵器で、182は高藏寺2号窯式期の壺蓋C類、183は岩崎25号窯式期の壺身B類、184は高藏寺2号窯式期の壺身C類、185は高藏寺2号窯式期から鳴海32号窯式期の長頸瓶、186は高藏寺2号窯式期の鉢である。182は内面に刻書が確認でき、「大徳」と釈読できる。186は底部外面に刺突により孔が蜂の巣状に施される。187・188はいずれも美濃須衛窯産の須恵器で、187はIV期第2小期の壺身C類、188はIV期第1小期からIV期第3小期の手付鍋である。189～191はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、189は大原2号窯式期の長頸瓶、190は丸石2号窯式期の碗、191は丸石2号窯式期の皿である。190は底部外面に墨書及び墨痕が確認できる。墨書は釈読できない。191は底部外面に墨書が確認できるが、釈読できない。192は美濃須衛型の山茶碗で、IX期の鉢である。193～208はいずれも東濃型山茶碗である。193～197は谷迫間2号窯式期の碗で、いずれも底部外面に墨書が確認できる。193は「天」、195は「十」（漢数字）、196は「大」と釈読できる。194・197は釈読できない。198は谷迫間2号窯式期の高足高台碗である。199・200は浅間窯下1号窯式期の碗で、いずれも底部外面に墨書が確認できる。199は「太」と釈読できるが、200は釈読できない。201は浅間窯下1号窯式期の小皿、202は丸石3号窯式期の碗、203は丸石3号窯式期の小皿、204は白土原1号窯式期から明和1号窯式期の小皿、205は明和1号窯式期の小皿、206は大畠大洞4号窯式期の小皿、207は大洞東1号窯式期の碗、208は大洞東1号窯式期の小皿である。206・207は底部外面に墨書が確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。208は底部外面に墨書が確認でき、「一」（漢数字）と釈読できる。209・210は古瀬戸後II期の灰釉平碗、211は古瀬戸後II期から後III期の鉄釉天目茶碗、212は古瀬戸後IV期古段階から後IV期新段階の擂鉢、213は古瀬戸後IV期新段階の擂鉢、214は古瀬戸後I期から後IV期新段階の尊式花瓶である。215～217は尾張型山茶碗第4型式併行の白磁玉縁碗である。218は尾張型山茶碗第4型式併行の白磁碗である。219は尾張型山茶碗第6型式から第7型式併行の龍泉窯系青磁碗である。

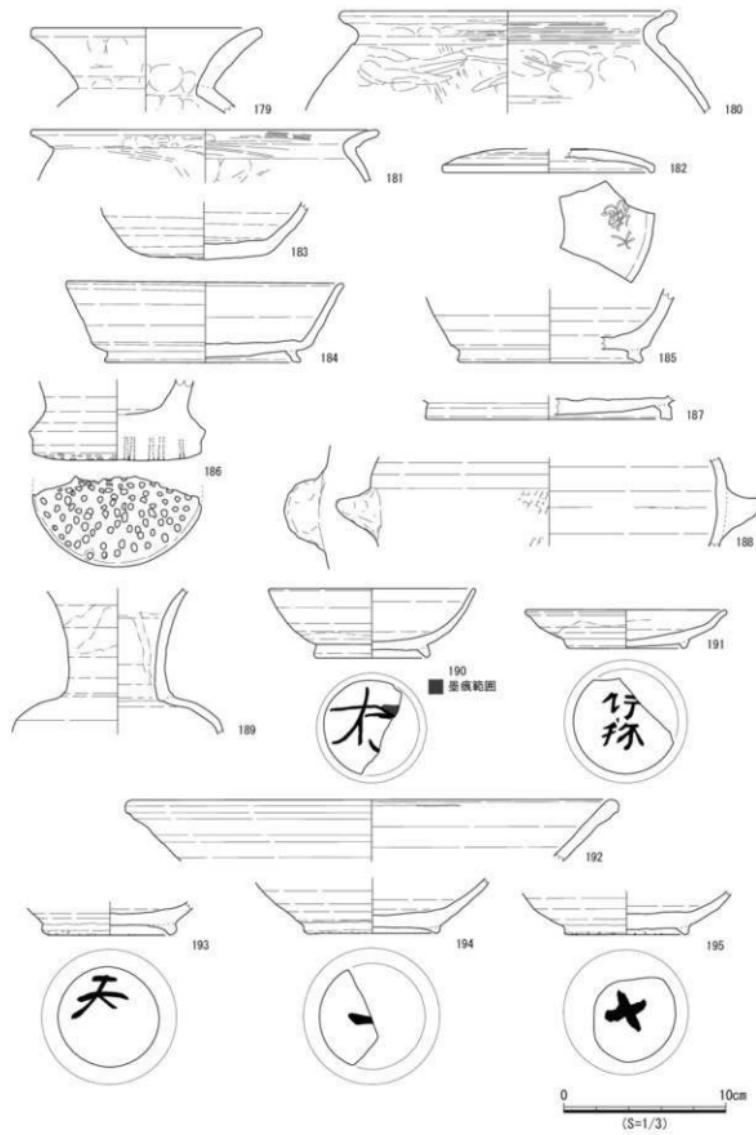


図30 III層（遺物包含層）出土遺物実測図（1）

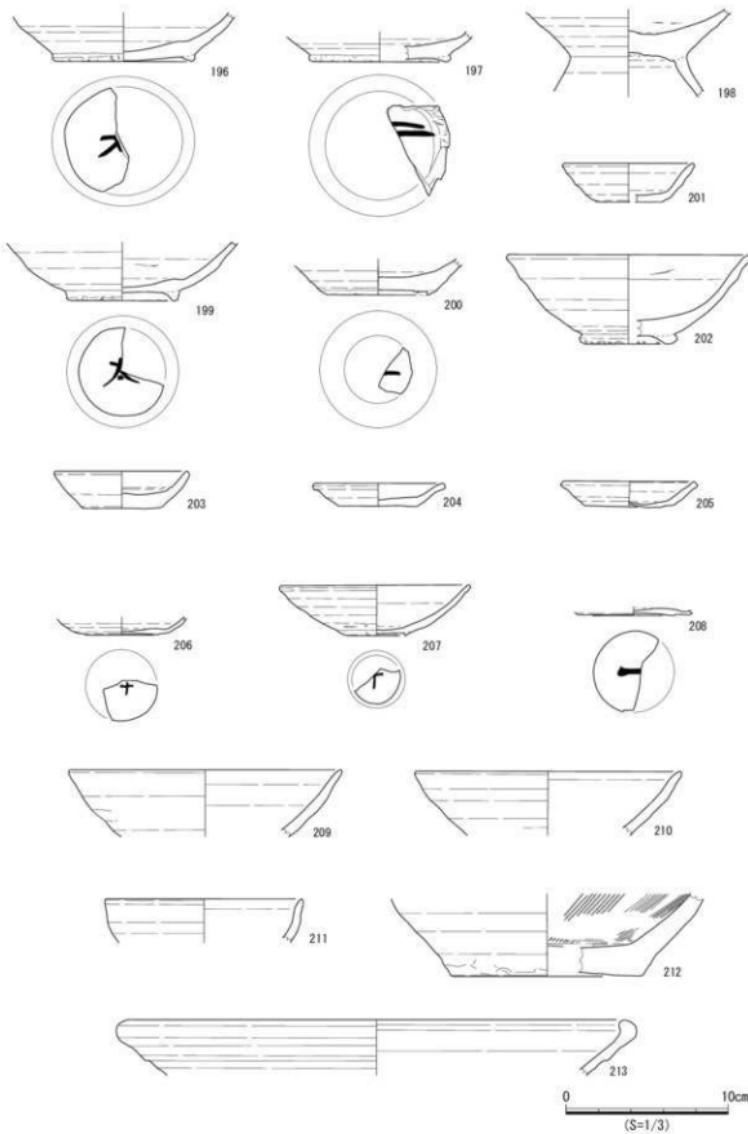
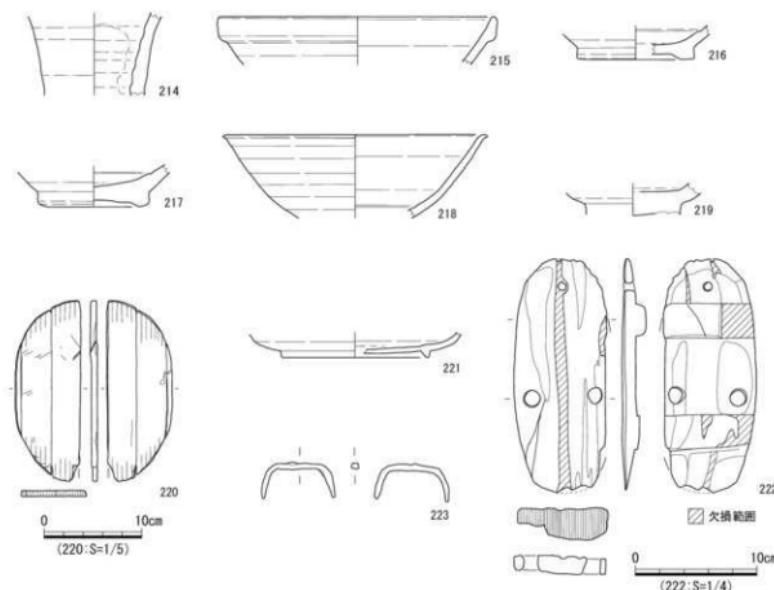


図31 Ⅲ層（遺物包含層）出土遺物実測図（2）

Ⅲ層 (214~223)



I層・II層 (224~230)

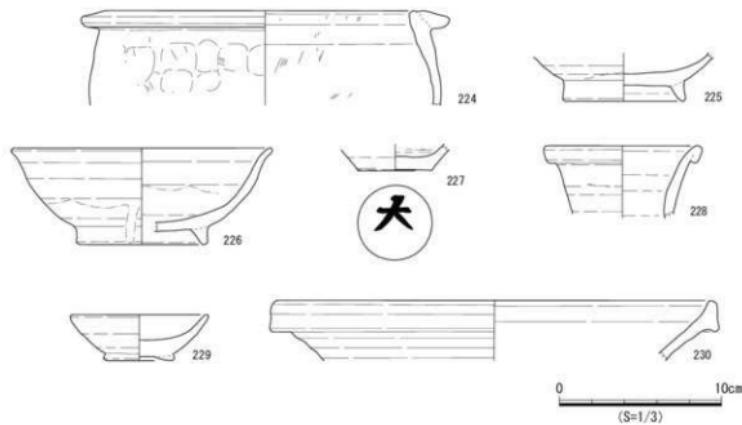


図32 Ⅲ層(遺物包含層)出土遺物実測図(3)、I層・II層出土遺物実測図

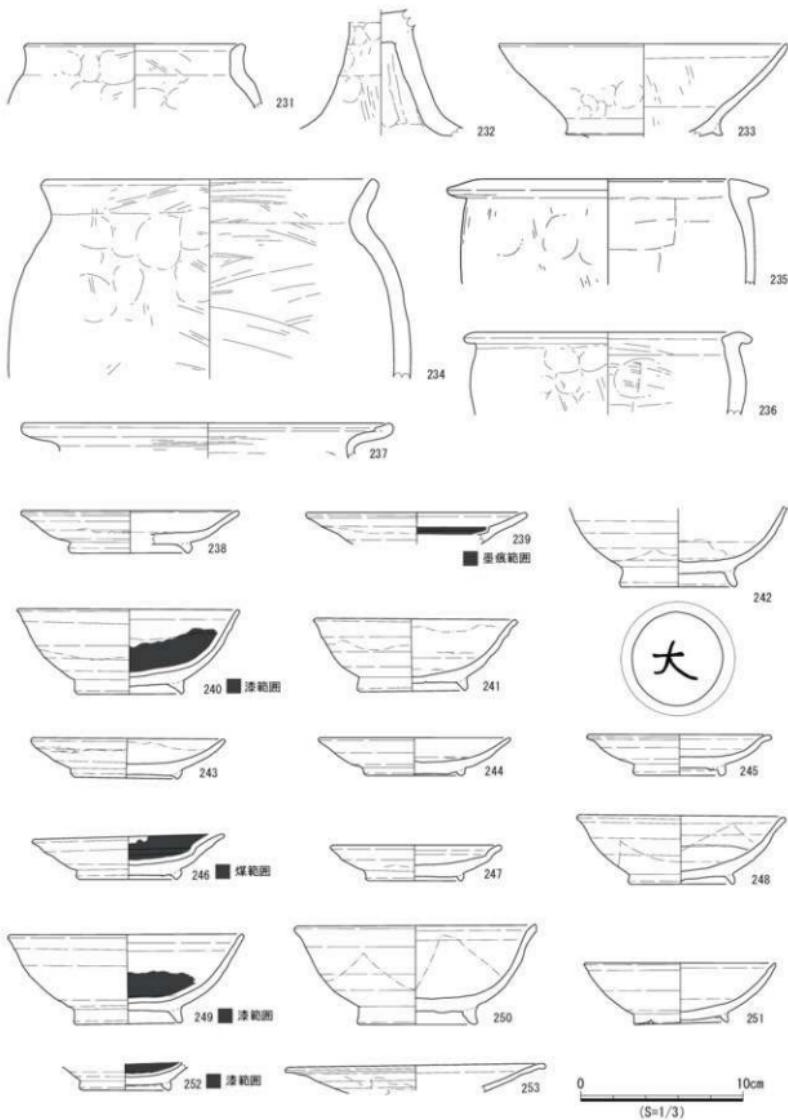


図33 撥乱坑出土遺物実測図（1）

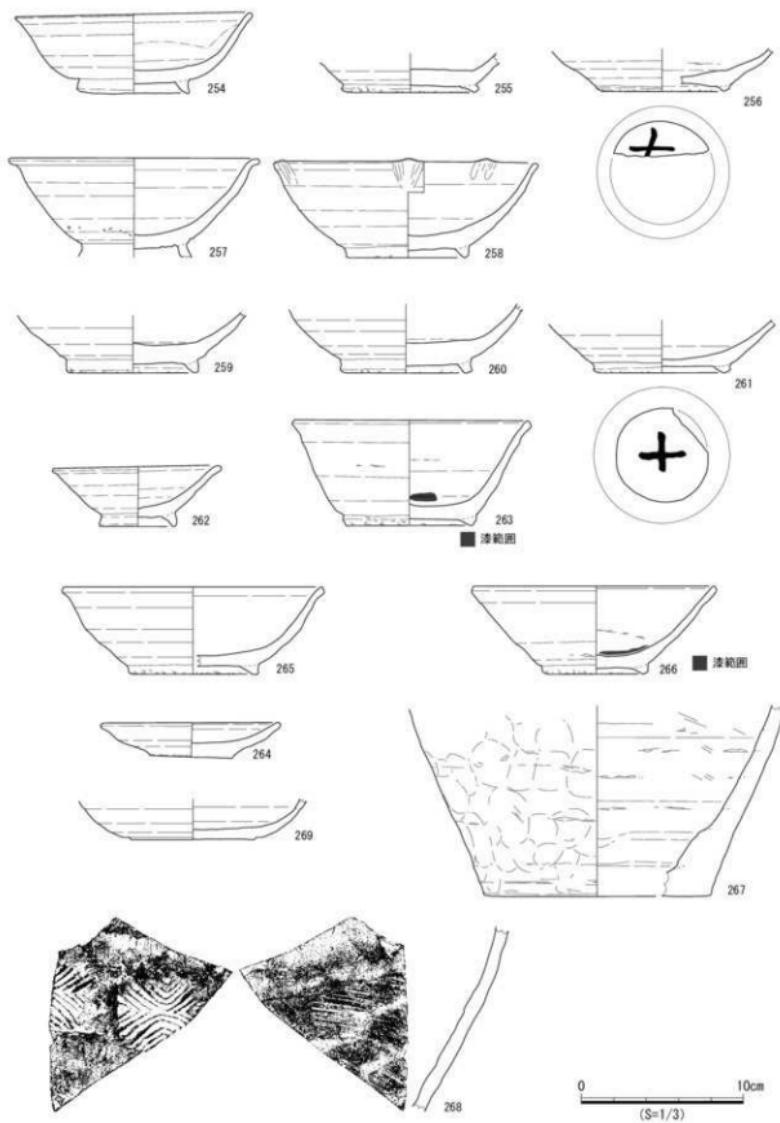


図34 撥乱坑出土遺物実測図（2）

220は板状木製品である。221は漆塗りの皿である。全体に黒漆が施され、剥落が少ない。塗膜分析の結果、炭粉漆下地に透明塗膜が1層塗られる構造と判明した（第4章第2節参照）。222は下駄である。歯の摩滅が激しく、表面前部に指圧痕が明確に残る。223は鉄製の鍔である。224は第II段階第2小期（北村2001）の清郷型鍋である。225・226はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、明和27号窯式期の碗である。227は尾張型山茶碗で、第5型式の小皿である。底部外面に墨書きが確認でき、「大」と釈読できる。228は美濃須衛型山茶碗で、IX期の四耳壺である。229は東濃型山茶碗で、谷追間2号窯式期の小碗である。230は大窯第2段階の播鉢である。231は松河戸I式から宇田I式の平底甕である。232は松河戸I式から松河戸II式の高坏である。233は松河戸II式から宇田I式の大型高坏である。234は第I段階第5小期（北村2001）の清郷型鍋である。235・236は第II段階第2小期（北村2001）の清郷型鍋である。237は北村和宏による中世伊勢型鍋編年の第I期第3小期から第II期第1小期（北村1996）の伊勢型鍋である。238～252はいずれも東濃窯産の灰釉陶器である。238虎渓山1号窯式期の皿、239は虎渓山1号窯式期の段皿、240は丸石2号窯式期の碗、241は丸石2号窯式期の小碗、242は丸石2号窯式期の碗である。239は内面の体部下半に墨痕が確認できる。240は内面の体部下半に漆が付着する。242は底部外面に墨書きが確認でき、「大」と釈読できる。243～245は丸石2号窯式期の皿、246は丸石2号窯式期の段皿、247は丸石2号窯式期の折縁皿、248は丸石2号窯式期から明和27号窯式期の小碗、249・250は明和27号窯式期の碗、251は明和27号窯式期の小碗、252は西坂1号窯式期の小碗である。246は体部内面に煤が付着する。249は内面の体部下半に漆が付着する。252は内面に漆が付着する。253・254はいずれも猿投窯産の灰釉陶器で、253は黒窪90号窯式期の段皿、254は百代寺窯式期の碗である。255・256はいずれも尾張型山茶碗で、255は第4型式の碗、256は第5型式の碗である。256は底部外面に墨書きが確認でき、「大」と釈読できる。257は美濃須衛型山茶碗で、VII期の碗である。258～266はいずれも東濃型山茶碗で、258は矢戸上野2号窯式期の輪花碗。259～261は谷追間2号窯式期の碗、262は谷追間2号窯式期の小碗、263は浅間窯下1号窯式期の碗、264は浅間窯下1号窯式期から丸石3号窯式期の小皿、265は丸石3号窯式期の碗、266は黒洞1号窯式期の碗である。261は底部外面に墨書きが確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。263・266は内面に漆が付着する。267は1a型式から5型式の常滑産の甕である。268は1b型式から4型式の常滑産の甕である。体部外面に押印文が確認できる。269は漆塗りの碗である。内面底部及び外面に施された漆は剥落する。塗膜分析の結果、炭粉漆下地に透明塗膜が1層塗られる構造と判明した（第4章第2節参照）。

第6節 C18地点の遺構・遺物

1 堀立柱建物

SB 1 (図35・36)

検出状況 AQ4～AR5グリッド、IV層上面で検出した。1間×1間の建物と考えられる。各柱穴の平面形はP2とP4は明瞭であったが、P1とP3は不明瞭であった。他の遺構との重複はない。

規模・形状 長軸方位はN-18°-Eである。桁行1間(4m)、梁行1間(3.8m)である。

柱穴 柱穴の平面形は円形である。P1とP3で柱根(P1:273、P3:274)を確認し、P2とP4で礎盤石を確認した。なおP2、P4では柱痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況 P1の掘方埋土(2層)から土師器4点、須恵器1点(270)、P2の掘方埋土(1層)から須恵器2点(271)、P3の掘方埋土(2層)から須恵器1点、P4から須恵器1点(272)が散在して出土した。

出土遺物 須恵器3点と柱根2点を図示した。270～272はいずれも猿投窯産の須恵器で、270は高藏寺2号窯式期の坏身C類、271は岩崎41号窯式期の坏身C類、272は東山44号窯式期の坏蓋A類である。273はA2 b類の柱根である。胴部の断面から三分割にみかん割した材を加工していることが推定される。底部は大きく3方向から切断されており、先端はやや尖る。底部には斧の刃痕が明瞭にみられ、その幅は6cm程度である。274はA2 a類の柱根である。腐食が激しく、欠損範囲が広いため、加工痕等は判然としない。底部は概ね平坦である。

時期 図示した270から、本遺構の構築は8世紀初頭以降と考えられる。

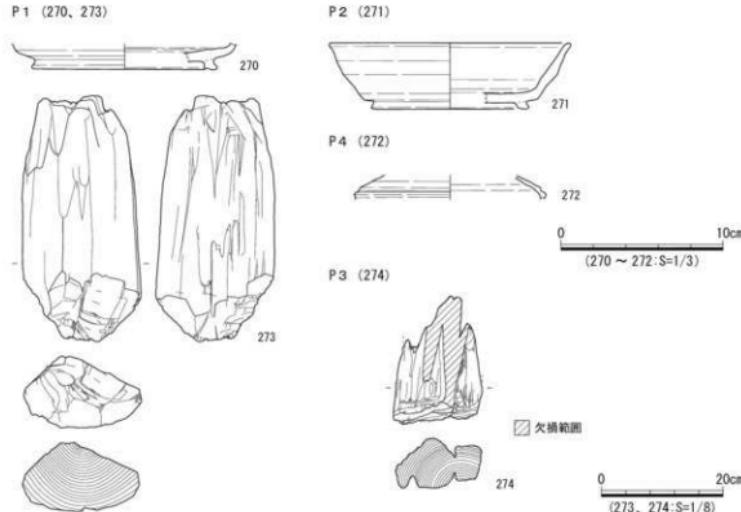


図35 SB 1出土遺物実測図

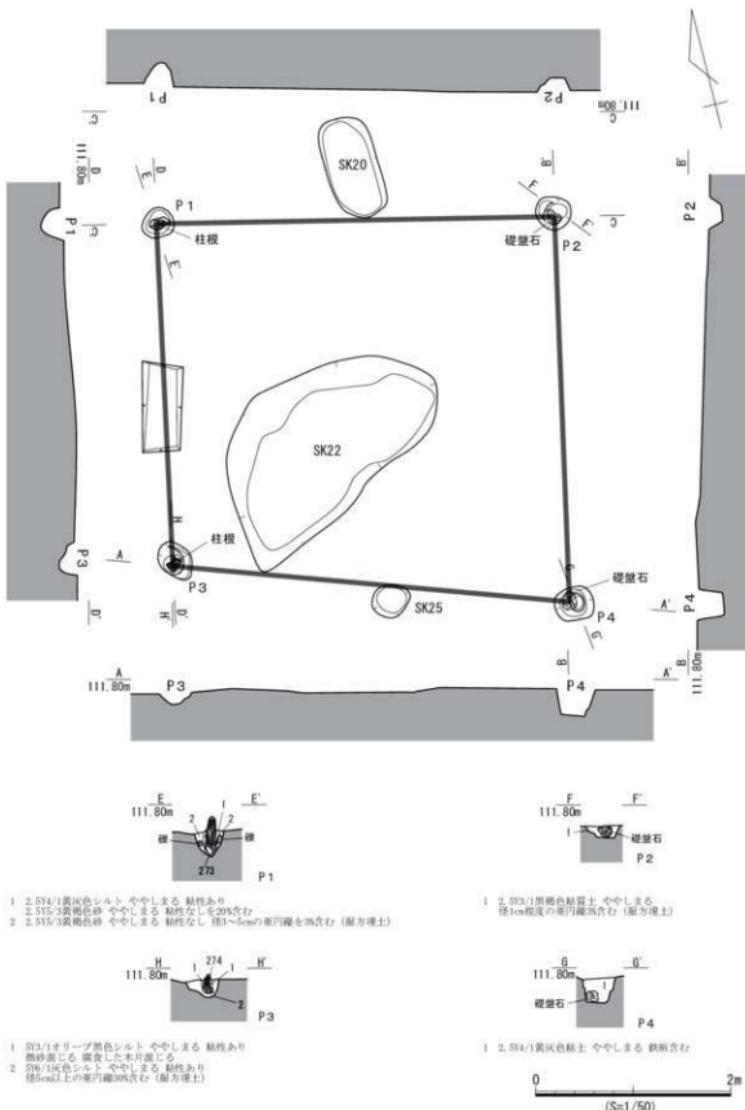


図36 SB 1 遺構図

2 溝

SD 2 (図37・38)

検出状況 AP 6・AP 7 グリッド、IV層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK16・SK17・SK18・SK19と重複し、本遺構はSK16・SK18・SK19より古く、SK17より新しい。

規模・形状 南東から北西に向かってやや湾曲して延びる。本遺構の北西側及び南東側は発掘区外に続くため、全容は不明である。北西半部は幅0.7m～1.0m程度、南東半部は幅2.0m程度である。底面は北西に向かって緩やかに下がる。北西半部（A-A'断面）の壁面は2段に掘り込む形状である。南東半部（B-B'断面及びC-C'断面）の壁面は緩やかに立ち上がる形状である。

埋土 A-A'断面及びB-B'断面では2層に分層した。C-C'断面では単層であった。埋土は亜円礫を含まない砂若しくはシルト（以下、「埋土①」という。）と亜円礫を含む粗砂（以下、「埋土②」という。）に大別できる。埋土①はA-A'断面1～2層及びB-B'断面1層に堆積し、埋土②はB-B'断面2層及びC-C'断面1層に堆積する。埋土①は流水量が少ない時期の自然堆積と考えられる。埋土②は土石流等に由来する堆積と考えられる。B-B'断面における堆積状況から、埋土①は埋土②により南東半部が埋没した後に堆積したと考えられる。

遺物出土状況 埋土①から土師器5点、須恵器10点（275）、木製品10点（276・277）が出土した。埋土②から土師器32点（278～280）、須恵器44点（281～286）、木製品1点が散在して出土した。大半は埋土②からの出土であるが、埋土による出土遺物の時期差はない。

出土遺物 土師器3点、須恵器7点、板状木製品1点、角柱状木製品1点を図示した。275は猿投窯産の須恵器で、東山15号窯式期の高坏である。276は板状木製品である。側面が直線的な形状に加工された材である。277は角柱状木製品である。表面は凹凸が少なく滑らかで、炭化している箇所が複数確認できる。残存状態が悪く、本来の形状等は判然としない。278～280は土師器である。278・279は宇田I式の平底甕で同一個体と考えられる。280は宇田I式のく字甕である。281～286はいづれも猿投窯産の須恵器で、281は東山15号窯式期の高坏、282～284は東山44号窯式期の坏蓋A類、285は蟻ヶ池窯式期の坏蓋A類、286は東山15号窯式期の坏身A類である。281は古墳や祭祀に関わる遺構から出土することが多い。

時期 SK17との重複関係、図示した275・281・286から、本遺構は7世紀前葉と考えられる。

3 水制遺構

SR 1 (図37)

検出状況 AP 6 グリッド、SD 2 の東側屈曲部の肩（IV層上面）で検出した。SD 2 南東半部、東肩付近の埋土を10cm程度掘り下げたところで本遺構を構成する木杭の頭部を確認した（図37）。木杭はSD 2 の肩からSD 2 の外側に向かって斜めに打ち込まれているため、SD 2 に伴う溝の肩部を守る護岸施設と考えられる。

遺物出土状況 木杭11本を確認した。横木等は確認できなかった。杭間の距離に規則性はなく、無造作に打ち込まれているが、打設方向は一定である。

出土遺物 木杭は図示しなかった。木杭は、I C b類6本、I D b類2本、I A b類1本、I B b類1本、I D a類1本である。すべてが丸木芯持ち材で、単純な削り痕を残す。

時期 SD 2 に伴う遺構であることから、本遺構は7世紀前葉と考えられる。

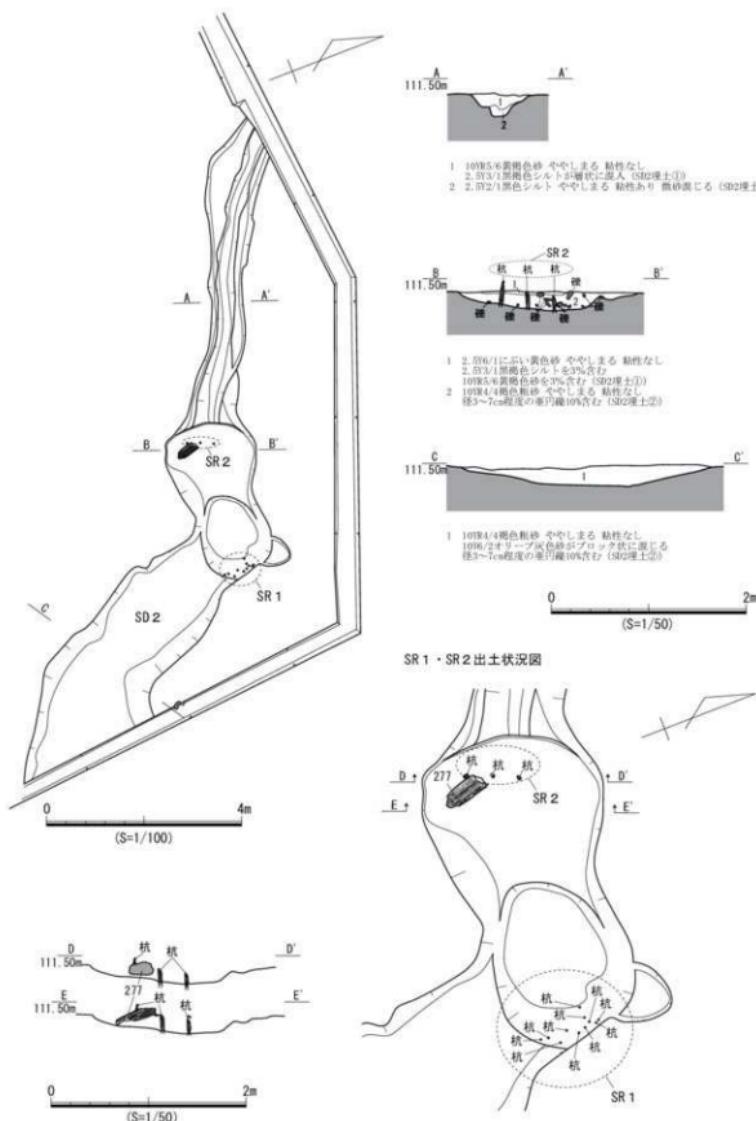
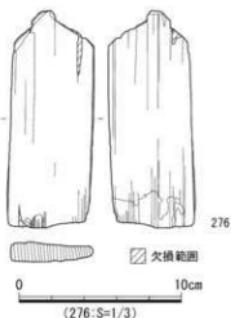
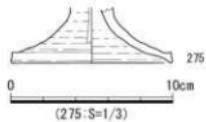


図37 SD2・SR1・SR2遺構図

埋土①(275 ~ 277)



埋土②(278 ~ 286)

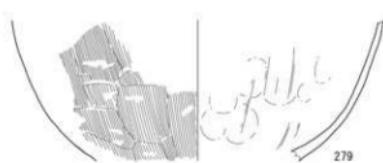
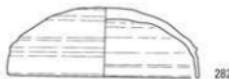
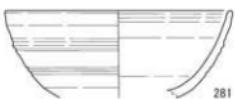
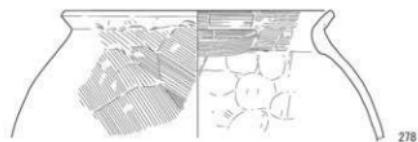


図38 SD 2 出土遺物実測図

SR2 (図37)

検出状況 AP6グリッド、SD2の幅が狭くなる部分の埋土上面(IV層上面)で検出した。SD2検出時に木杭1本(頭部欠失)を確認した。SD2における土層断面(B-B'断面)記録時の掘削により、SD2埋土①で木杭2本を確認した。SD2に伴う堰と考えられる。

遺物出土状況 木杭3本を確認した。木杭は杭間約30cmで直線的に等間隔に打ち込まれている。杭列の方向はSD2に対して直交する。木杭はSD2上方から垂直に打設され、先端部は基盤層に達する。

出土遺物 木杭は図示しなかった。木杭は、すべてIAb類である。すべてが丸木芯持ち材で、単純な削り痕を残す。

時期 SD2に伴う遺構であることから、本遺構は7世紀前葉と考えられる。

4 土坑

SK24 (図39)

検出状況 AR5グリッド、IV層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構との重複はない。

規模・形状 平面形は円形である。底面は概ね平坦である。壁面はやや急に立ち上がる。

埋土 単層である。

遺物出土状況 埋土から土師器1点が出土した。

出土遺物 小片のため図示しなかった。

時期 埋土から土師器が出土したことから、本遺構は2世紀中葉以降と考えられる。

SK25 (図39)

検出状況 AR5グリッド、IV層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構との重複はない。

規模・形状 平面形は円形である。底面は平坦である。壁面は垂直に立ち上がる。

埋土 単層である。

遺物出土状況 埋土から土師器2点、山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 小片のため図示しなかった。

時期 埋土から明和1号窯式期の東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は13世紀後葉以降と考えられる。

5 III層(遺物包含層)等出土遺物(図40)

III層からは、土師器1,131点(287)、須恵器1,517点(288~299)、灰釉陶器60点、山茶碗514点(300

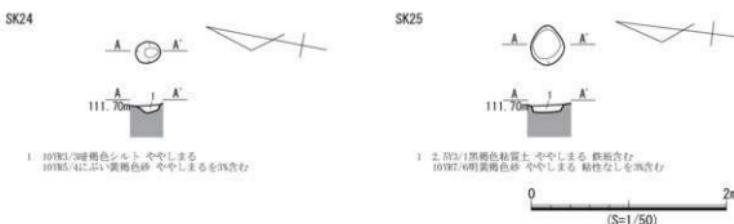


図39 SK24・SK25遺構図

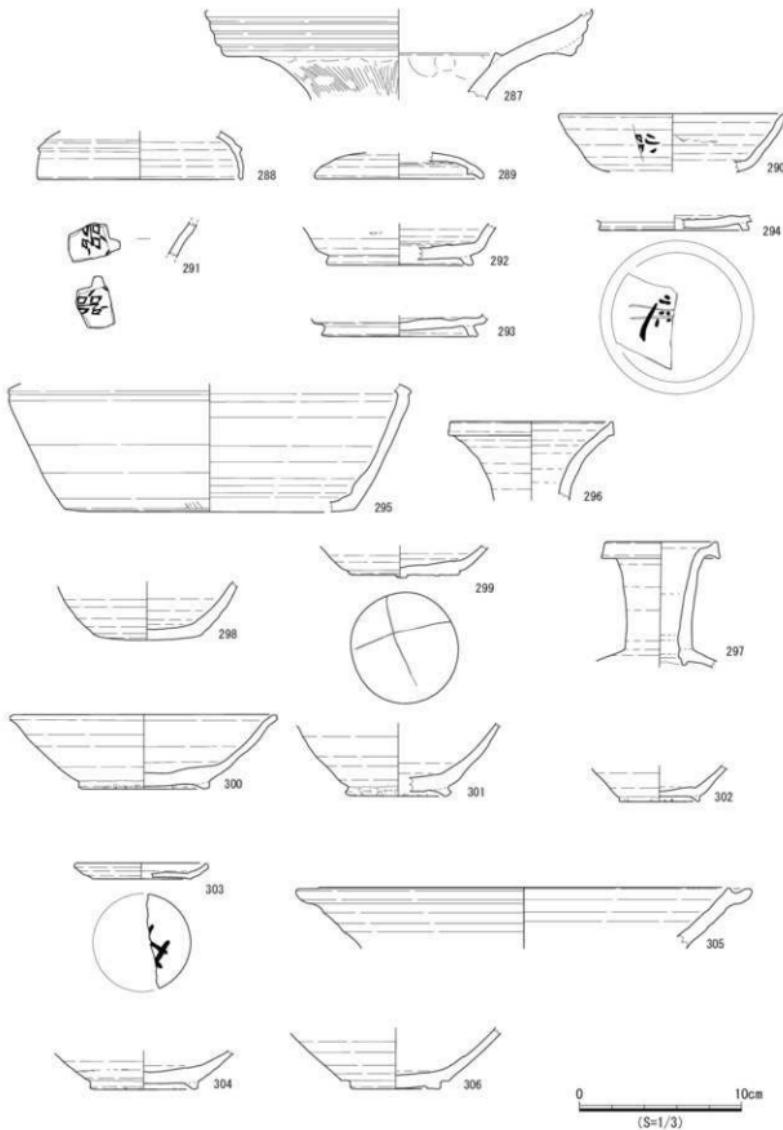


図40 III層（遺物包含層）出土遺物実測図

～305)、古瀬戸5点(306)、常滑産陶器2点、大窯製品2点、木製品2点、石器5点が出土した。II層からは、土師器1点、須恵器1点、山茶碗15点、大窯製品2点が出土した。

出土遺物のうち土師器1点、須恵器12点、山茶碗6点、古瀬戸1点を図示した。287は廻間I式から廻間II式のバレス壺である。288～299は須恵器で、288～297は猿投窯産、298・299は美濃須衛窯産である。288は東山44号窯式期の坪蓋A類、289は岩崎17号窯式期の坪蓋B類である。290は高藏寺2号窯式期の坪身B類である。体部外面に2文字の墨書が確認でき、1文字目は「小」と釈読できる。2文字目は上部のみが残存するが、「器」と推測できる。291は高藏寺2号窯式期から鳴海32号窯式期の坪身B類若しくはC類である。体部外面に墨書が確認でき、「器」と釈読できる。「器」の上部にも文字の一部が確認できるが、釈読できない。292は高藏寺2号窯式期から鳴海32号窯式期の坪身C類である。293は高藏寺2号窯式期から岩崎25号窯式期の坪身C類である。294は高藏寺2号窯式期から鳴海32号窯式期の坪身C類である。底部外面に2条の線刻とともに墨書が確認できる。墨書は釈読できない。295は高藏寺2号窯式期の平瓶である。296・297は鳴海32号窯式期の長頸瓶である。298はIV期第1小期からIV期第3小期の坪身B類である。299はIV期第3小期の鉢である。底部外面に「×」の線刻が確認できる。300～303は東濃型山茶碗である。300は谷迫間2号窯式期の碗、301は丸石3号窯式期の碗、302は明和1号窯式期の碗である。303は大畑大洞4号窯式期若しくは大谷洞14号窯式期の小皿である。底部外面に墨書が確認できるが、釈読できない。304・305は尾張型山茶碗である。304は第5型式の碗、305は第10型式の片口鉢である。306は古瀬戸後II期の灰釉平碗である。

第7節 C19地点の遺構・遺物

1 溝

SD 3 (図41・42)

検出状況 BP 6 ~ BQ 8 グリッド、IV層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SD 4・SD 5・SK32と重複し、本遺構はいずれの遺構より新しい。

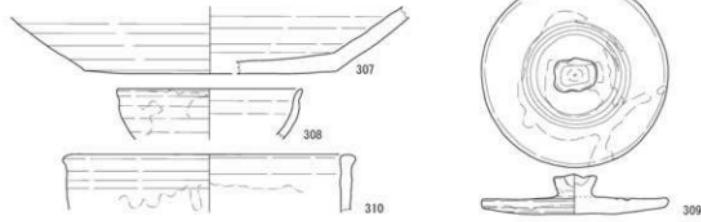
規模・形状 西から東に向かってやや湾曲して延びる。西側は発掘区外に続き、東側は擾乱坑により消失するため、全容は不明である。溝幅は1.5m程度である。底面は概ね平坦である。壁面は緩やかに立ち上がる。

埋土 7層に分層した。1層及び2層はブロック土が含まれることから、埋戻し土と考えられる。3層から7層は自然堆積層と考えられる。

遺物出土状況 1層及び2層から土師器5点、須恵器6点、灰釉陶器2点、山茶碗46点、古瀬戸3点(307)、大窯製品4点(308)、登窯製品3点(309・310)が散在して出土した。3層~7層から須恵器8点(311)、灰釉陶器7点、山茶碗33点(312)、大窯製品5点、登窯製品5点(313)が散在して出土した。他、土師器3点、須恵器9点、灰釉陶器2点、山茶碗39点、古瀬戸1点、大窯製品2点(314)、登窯製品2点(315)が散在して出土したが出土層位は不明である。

出土遺物 須恵器1点、山茶碗1点、古瀬戸1点、大窯製品2点、登窯製品4点を図示した。307は古瀬戸後III期から後IV期の直線大皿である。308は大窯第3段階の天目茶碗である。309は登窯第1段階の水指蓋である。310は登窯第1段階の香炉である。311は美濃須衛窯産の須恵器で、IV期第3小期の环身C類である。312は東濃型山茶碗で、大畑大洞4号窯式期の小皿である。313は登窯第1段階の柿

1層・2層 (307 ~ 310)



3層~7層 (311 ~ 313)

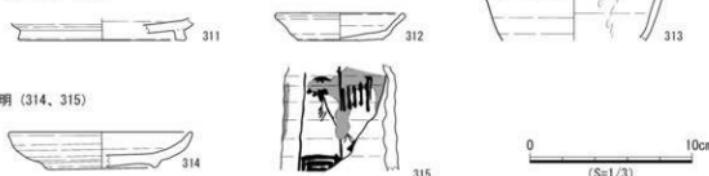


図41 SD 3 出土遺物実測図

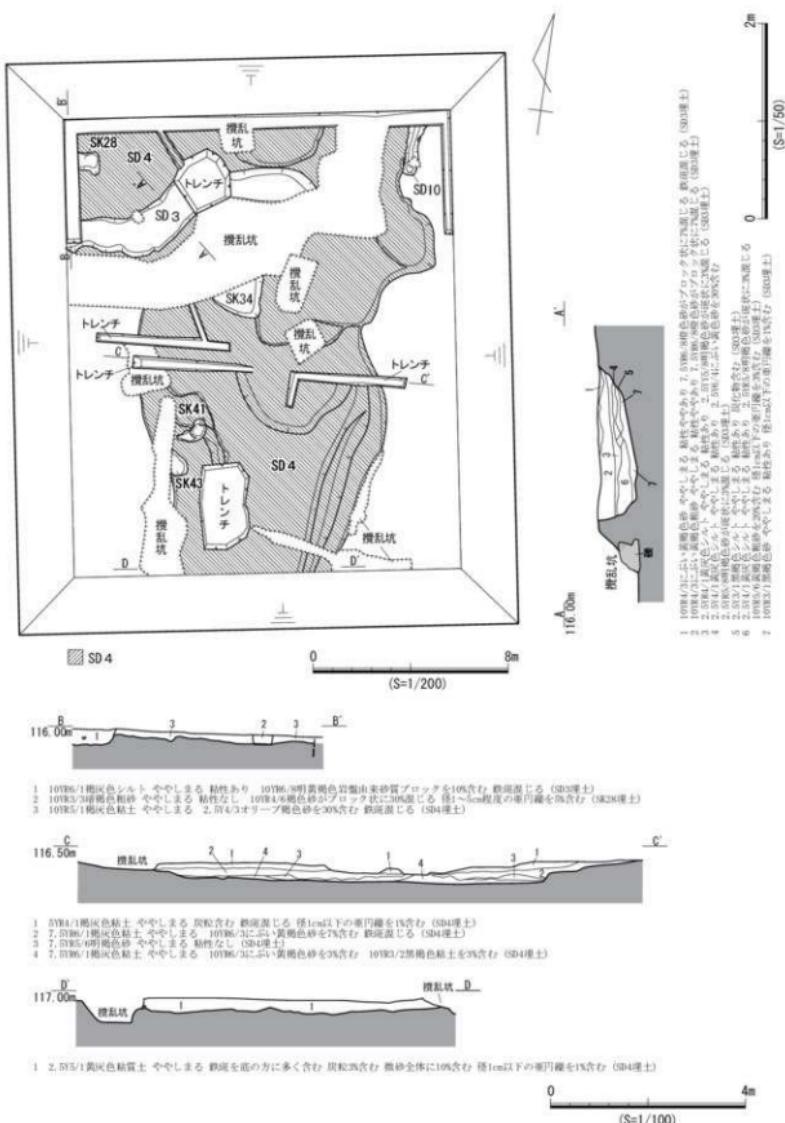


図42 SD3・SD4遺構図

釉灰流し碗である。314は大窯第4段階の志野丸皿である。315は登窯第1段階の織部筒向付である。

時期 図示した313から、本遺構は17世紀前葉から17世紀後葉と考えられる。

SD 4（図42・43）

検出状況 BP 6～BT 8 グリッド、IV層上面で検出した。発掘区のほぼ全域に位置する。平面形は不明瞭であった。SD 3・SD 6・SD 10・SD 13・NR 7・SK 28・SK 29・SK 33・SK 34・SK 36・SK 41・SK 43・SK 46・SK 49・SK 51・SK 52と重複し、本遺構はSD 3・SD 10・SK 28・SK 33・SK 34・SK 41・SK 43より古く、SD 6・SD 13・NR 7・SK 29・SK 36・SK 46・SK 49・SK 51・SK 52より新しい。

規模・形状 北側、南側、西側は発掘区外に続き、所々が擾乱坑により消失するため、全容は不明である。底面は概ね平坦である。肩部は地山（岩盤）を削って形成されており、掘削痕が明瞭に残る。

埋土 C-C'断面では4層に分層した。概ね水平に堆積する。B-B'断面及びD-D'断面では単層であった。埋土は主として搅拌の進んだ粘土で、微粒砂や鉄斑が混じる。

遺物出土状況 埋土から土師器130点、須恵器278点（316～329）、灰釉陶器148点（330～333）、山茶碗656点（334～339）、古瀬戸5点（340・341）、白磁4点（342・343）、青磁2点（344・345）、陶器41点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器14点、灰釉陶器4点、山茶碗6点、古瀬戸2点、白磁2点、青磁2点を図示した。316～324はいずれも猿投窯産の須恵器で、316は東山15号窯式期の坏蓋A類、317は岩崎25号窯式期の坏蓋C類、318は岩崎41号窯式期の坏身C類、319は岩崎25号窯式期の坏身C類、320は岩崎25号窯式期から鳴海32号窯式期の坏身C類である。321は岩崎25号窯式期の盤である。322は高藏寺2号窯式期の鉢である。323は岩崎25号窯式期の甕である。324は鳴海32号窯式期から折戸10号窯式期の長頸瓶である。325～329はいずれも美濃須衛窯産の須恵器で、325はIV期第3小期の坏身B類、326～328はIII期第3小期の坏身C類、329はIV期第3小期の坏身C類である。330～333はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、330は大原2号窯式期の碗、331は虎渓山1号窯式期の碗、332は丸石2号窯式期の碗、333は西坂1号窯式期の碗である。334～339はいずれも東濃型山茶碗で、334は矢戸上野2号窯式期の小碗、335・336は大洞東1号窯式期の碗、337は脇之島3号窯式期の碗、338・339は生田2号窯式期の碗である。340は古瀬戸後II期から後III期の折縁深皿である。341は古瀬戸後II期の直縁大皿である。342は13～14世紀の中国製白磁A群の白磁玉縁碗である。343は16世紀の中国製白磁E群の白磁碗である。344は14世紀の中国製青磁D類の龍泉窯系青磁碗で、口縁端部はやや外反し、体部内外は無文である。345は14世紀の中国製青磁B類の同安窯系青磁碗で、体部外面に櫛目文を有し、体部内面にヘラ片切彫による花文を有する。

時期 SD 3・SD 6との重複関係、図示した338・339から、本遺構は14世紀末から15世紀末と考えられる。

SD 6（図44・45）

検出状況 BP 6～BT 8 グリッド、SD 4 底面（IV層上面）で検出した。平面形は不明瞭であった。SD 4・SD 7・SD 8・SD 9・NR 7・SK 31・SK 33・SK 34・SK 37・SK 42・SK 46・SK 51・SK 52と重複し、本遺構はSD 4・SK 31・SK 33・SK 34・SK 42・SK 46・SK 51・SK 52より古く、SD 7・SD 8・SD 9・NR 7・SK 37より新しい。

規模・形状 北側、南側は発掘区外に続き、擾乱坑により消失するため、全容は不明である。底面は

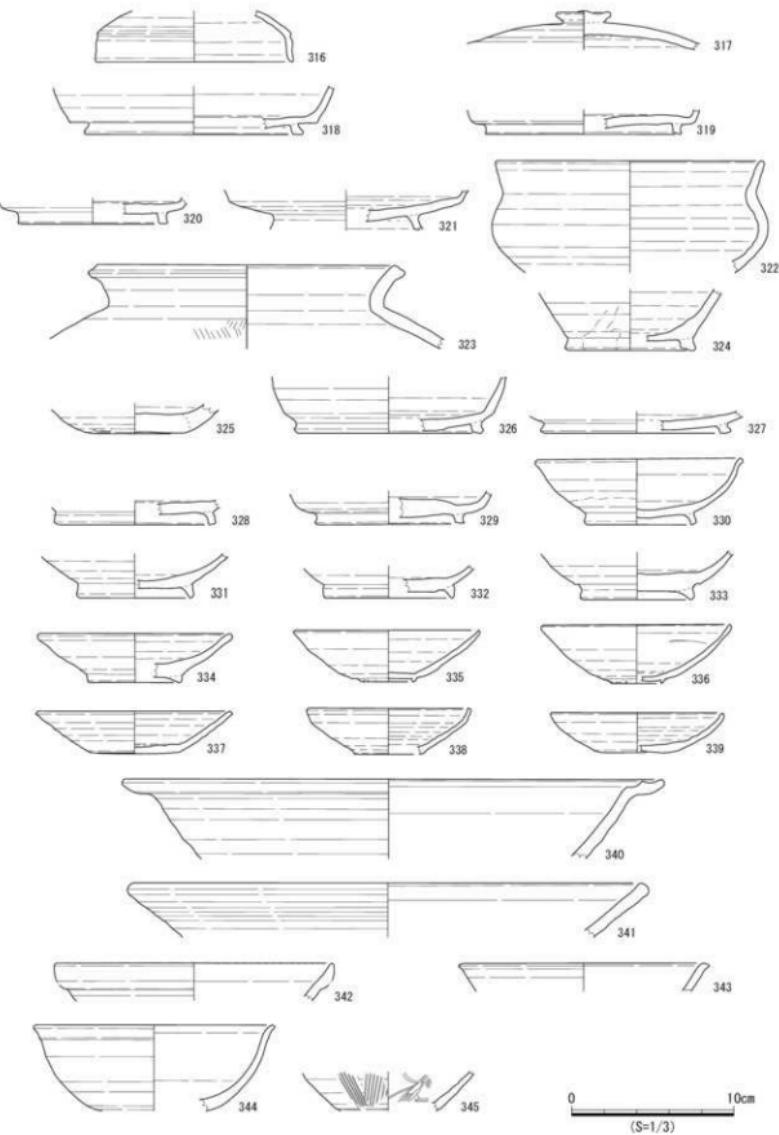


図43 SD 4 出土遺物実測図

概ね平坦である。肩部は地山（岩盤）を削って形成されており、掘削痕が明瞭に残る。

埋土 A-A' 断面では3層に分層した。概ね水平に堆積する。B-B' 断面では単層であった。埋土はいずれも搅拌の進んだ粘土で、微粒砂や鉄斑が混じる。B-B' 断面1層に含まれる明黄褐色砂質ブロックは地山（岩盤）に由来すると考えられる。

遺物出土状況 埋土から土師器62点（346～349）須恵器247点（350～359）、灰釉陶器64点（360・361）、山茶碗312点（362～367）、古瀬戸4点、常滑産陶器3点、白磁1点、石器1点（368）が散在して出土した。

出土遺物 土師器4点、須恵器10点、灰釉陶器2点、山茶碗6点、石器1点を図示した。346～349はいずれも土師器で、346は廻間I式からII式の加飾壺である。347は宇田II式から儀町式の甕である。348・349は第2段階から第3段階（永井1995）の長胴甕である。350～359はいずれも猿投窯産の須恵器で、350は岩崎101号窯式期の坏蓋B類、351は岩崎41号窯式期の坏蓋C類、352は高藏寺2号窯式期から岩崎25号窯式期の坏蓋C類、353は岩崎101号窯式期から岩崎17号窯式期の坏身A類、354は高藏寺2号窯式期の坏身C類、355・356は高藏寺2号窯式期から岩崎25号窯式期の坏身C類、357は高藏寺2号窯式期から岩崎25号窯式期の盤、358は鳴海32号窯式期の長頸瓶、359は岩崎41号窯式期から高藏寺2号窯式期の甕である。360・361はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、360は虎渓山1号窯式期の碗、361は丸石2号窯式期の碗である。362は尾張型山茶碗で、第5型式の碗である。363～367はいずれも東濃型山茶碗で、363は浅間窯下1号窯式期の碗、364は黒洞1号窯式期の碗、365は白土原1号窯式期の碗、366は明和1号窯式期の小皿、367は大谷洞14号窯式期の碗である。364は底部外面に墨書が確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。365は底面外部に墨書が確認できるが、釈読できない。368は砾石である。

時期 SD 4・SD 8との重複関係、図示した367から、本遺構は14世紀中葉から14世紀末と考えられる。

SD 7（図46～49）

検出状況 BP 6～BQ 8グリッド、SD 7底面（IV層上面）で検出した。平面形は不明瞭であった。SD 6・SD 8・SD 9・SK27・SK32と重複し、本遺構はSD 6・SD 8より古く、SD 9・SK27・SK32より新しい。

規模・形状 西から東に向かって概ね直線的に延びる。北側及び西側は発掘区外に続き、東側は擾乱坑により消失するため、全容は不明である。南側壁面は地山（岩盤）を削って形成されており、ほぼ垂直に立ち上がる。A-A' 断面における8層底面は平坦である。

埋土 8層に分層した（A-A' 断面）。埋土は亜円礫を多く含む粗砂（1～3層、以下、「埋土①」という。）、亜円礫を含まない砂若しくはシルト（4～6層、以下、「埋土②」という。）、植物遺体を含む砂若しくは粘土（7層及び8層、以下、「埋土③」という。）に大別できる。埋土①は洪水等に由来する堆積と考えられる。埋土②及び埋土③は流水量が少ない時期の自然堆積と考えられる。A-A' 断面における堆積状況から、本遺構は埋土③堆積後に再掘削され、埋土②が堆積し、その後埋土①により埋没したと考えられる。

遺物出土状況 埋土①から土師器73点（369・370）須恵器321点（371～380）、灰釉陶器280点（381～383）、山茶碗1,719点（384～420）、古瀬戸14点、白磁1点（421）、常滑産陶器9点（422）、木製品2点（423・424）、石器1点、金属製品1点が散在して出土した。埋土②から土師器30点、須恵器46点（425・426）、灰釉陶器40点、山茶碗354点（427～433）、古瀬戸2点が散在して出土した。埋土③から土師器

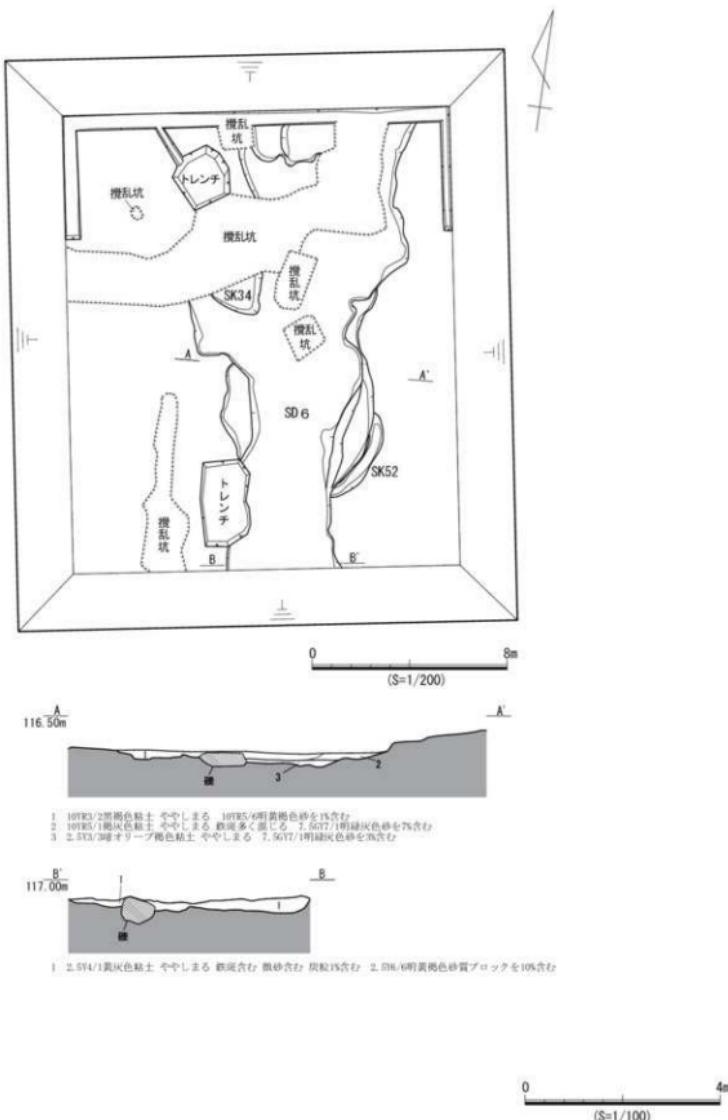


図44 SD 6 遺構図

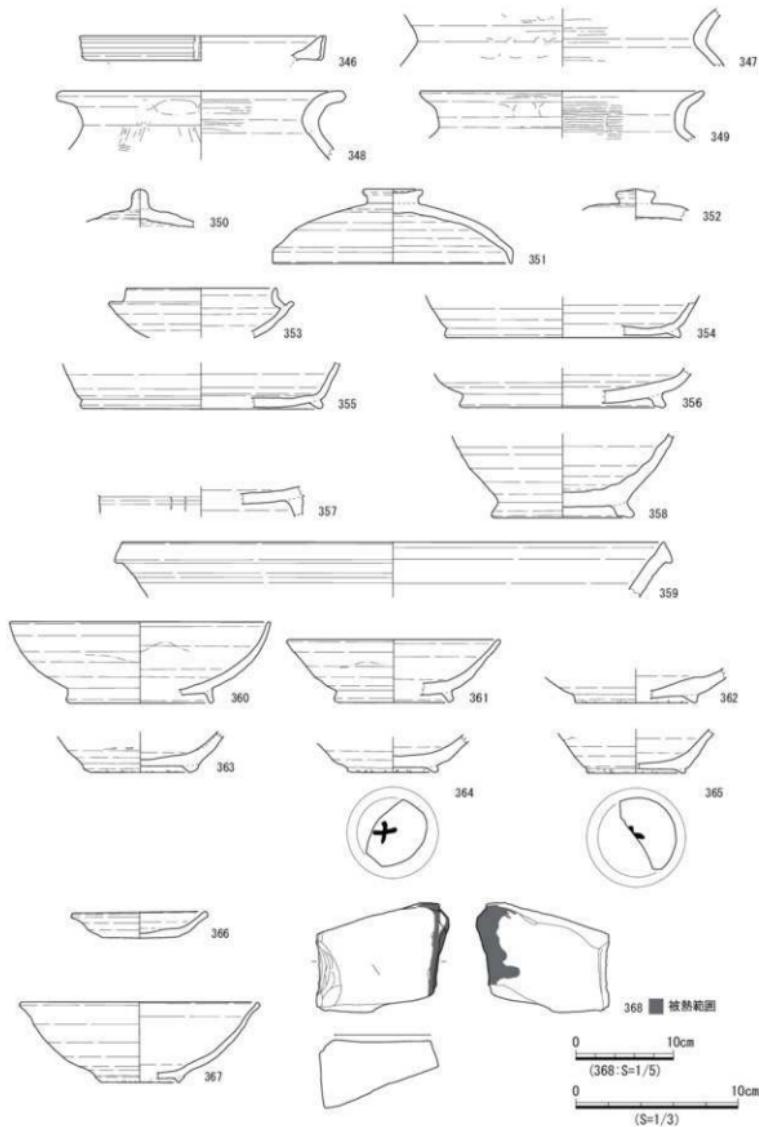


図45 SD 6 出土遺物実測図

35点、須恵器38点（434）、灰釉陶器31点、山茶碗237点（435～438）が散在して出土した。

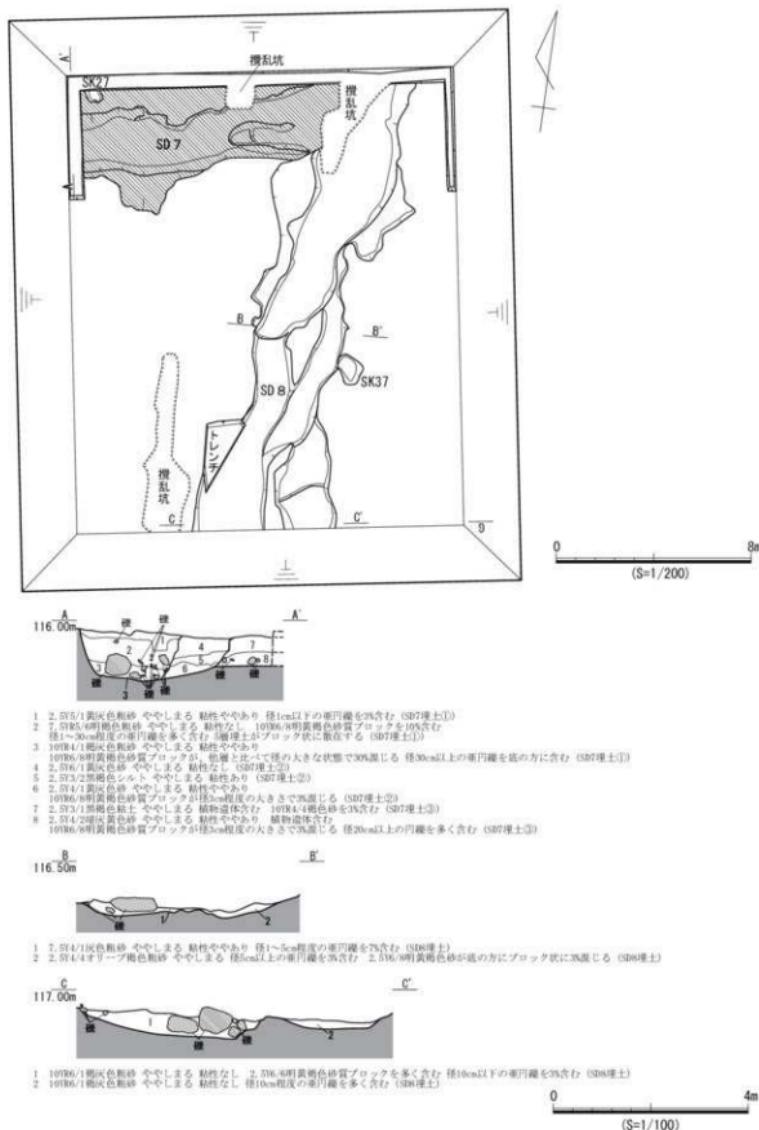
出土遺物 土師器2点、須恵器13点、灰釉陶器3点、山茶碗48点、白磁1点、木製品2点を図示した。369は松戸戸I式のく字甕である。370は尾張型山茶碗第6型式併行の土師器皿C1類である。371～378はいずれも猿投窯産の須恵器で、371は高蔵寺2号窯式期の坏蓋C類、372は高蔵寺2号窯式期から鳴海32号窯式期の坏蓋C類、373は岩崎25号窯式期の坏身C類、374は鳴海32号窯式期の坏身C類、375は岩崎41号窯式期から岩崎25号窯式期の鉢、376は高蔵寺2号窯式期から鳴海32号窯式期の平瓶、377は岩崎17号窯式期から岩崎41号窯式期の甕、378は鳴海32号窯式期の長頸瓶である。379・380はいずれも美濃須衛窯産の須恵器で、379はIV期第1小期の坏身B類、380はIV期第1小期からIV期第3小期の太頭瓶である。381～383はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、381は明和27号窯式期の小碗、382は西坂1号窯式期の碗、383は西坂1号窯式期の玉縁碗である。384・385はいずれも尾張型山茶碗で、384は第4型式の碗、385は第5型式の碗である。386は美濃須衛型山茶碗で、VII期の片口鉢である。387～420はいずれも東濃型山茶碗である。387は矢戸上野2号窯式期の碗である。388～390は谷迫間2号窯式期の碗である。391～394は谷迫間2号窯式期の小碗である。395・396は浅間窯下1号窯式期の碗である。397は浅間窯下1号窯式期の玉縁碗で、口縁外縁に幅1.3cmの縁帯を形成する。398～401は丸石3号窯式期の碗である。402～405は丸石3号窯式期の小皿である。406～409は窯洞1号窯式期の碗である。406は底部外面に墨書が確認でき、「大」と釈読できる。410・411は窯洞1号窯式期の小皿である。411は底部外面に墨書が確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。412～416は白土原1号窯式期の碗である。412は底部外面に墨書が確認できるが、釈読できない。413は底部外面に墨書が確認でき、「品」と釈読できる。414は底部外面に墨書が確認できるが、釈読できない。417は白土原1号窯式期から明和1号窯式期の碗である。418は明和1号窯式期の碗である。419・420は明和1号窯式期の小皿である。421は13～14世紀の中国製白磁A群と思われる。422は6a型式の常滑窯の甕である。423は火付け木である。上端分は欠損し、下端部には炭化が見られる。424は板状木製品である。厚さが均一な材で、上部は欠損している。表面は滑らかに仕上げられている。425は猿投窯産の須恵器で、岩崎17号窯式期から岩崎41号窯式期の高坏である。426は产地不明の須恵器で、岩崎17号窯式期から岩崎41号窯式期併行の高坏である。427～433はいずれも東濃型山茶碗で、427は矢戸上野2号窯式期の碗、428は浅間窯下1号窯式期の碗。429は丸石3号窯式期の小皿、430は窯洞1号窯式期の碗、431は白土原1号窯式期の碗、432は白土原1号窯式期の小壺、433は明和1号窯式期の小皿である。430は底部外面に墨書が確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。434は猿投窯産の須恵器で、岩崎101号窯式期の高坏である。435～438はいずれも東濃型山茶碗で、435は浅間窯下1号窯式期の碗、436・437は窯洞1号窯式期の小皿、438は白土原1号窯式期の小皿である。437は底部外面に墨書が確認できるが、釈読できない。

時期 SD8・SD9との重複関係、図示した419・420から、本遺構は12世紀末から13世紀後葉と考えられる。

SD8（図46・50）

検出状況 BP7～BS8グリッド、SD7底面（IV層上面）で検出した。平面形は不明瞭であった。SD6・SD7・SD9・SK37と重複し、本遺構はSD6・SK37より古く、SD7・SD9より新しい。

規模・形状 南から北に向かって概ね直線的に延び、中央部（B-B'断面付近）及び南部（C-C'断面付近）では二条となるが、上部がSD6により消失しているため、全体を一条の溝と判断した。



埋土① (369~397)

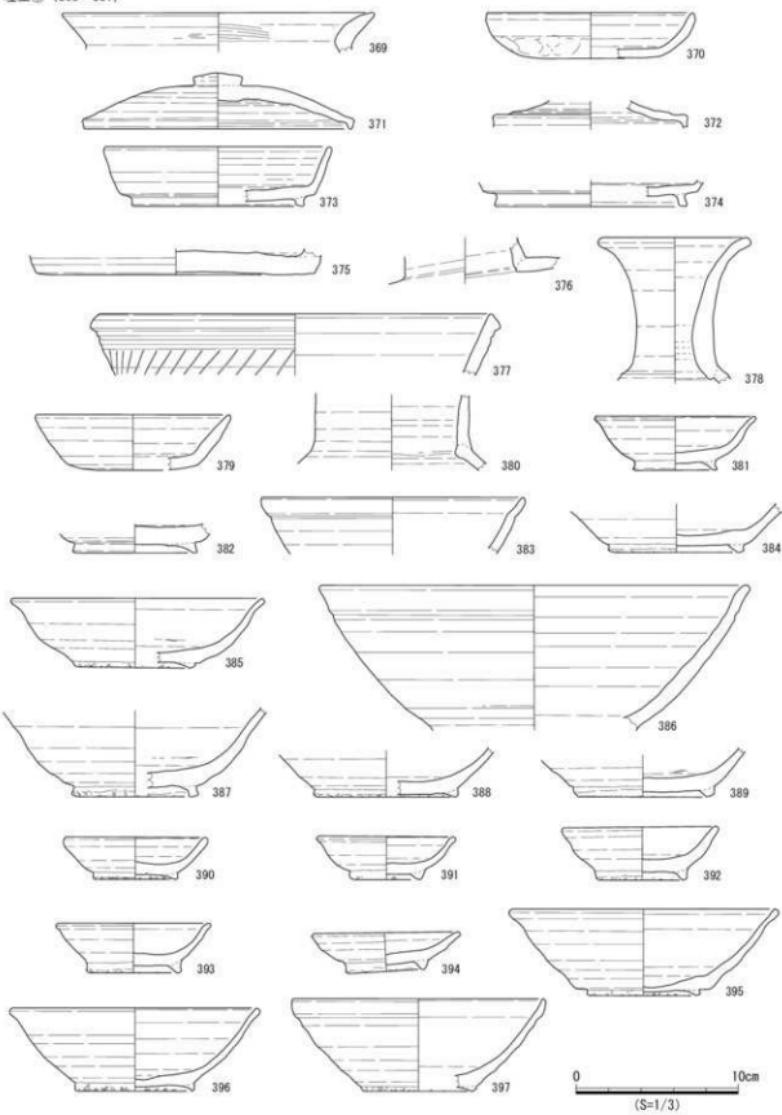


図47 SD 7 出土遺物実測図 (1)

埋土① (398~424)

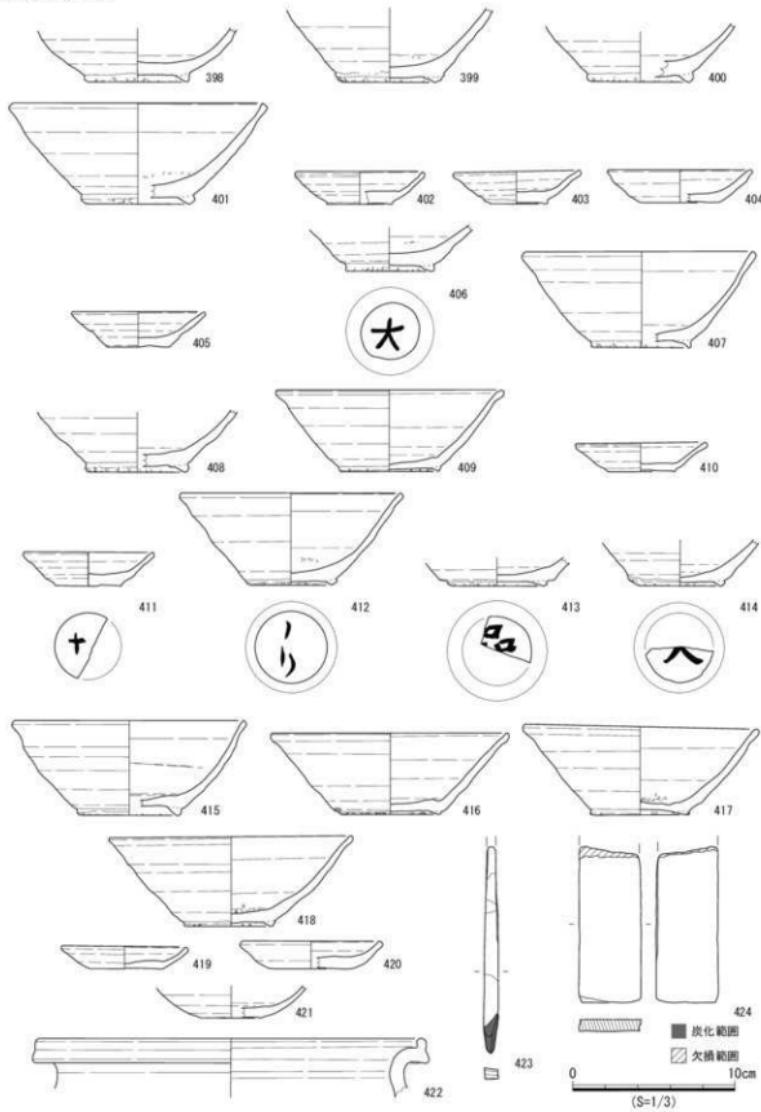


図48 SD 7 出土遺物実測図 (2)

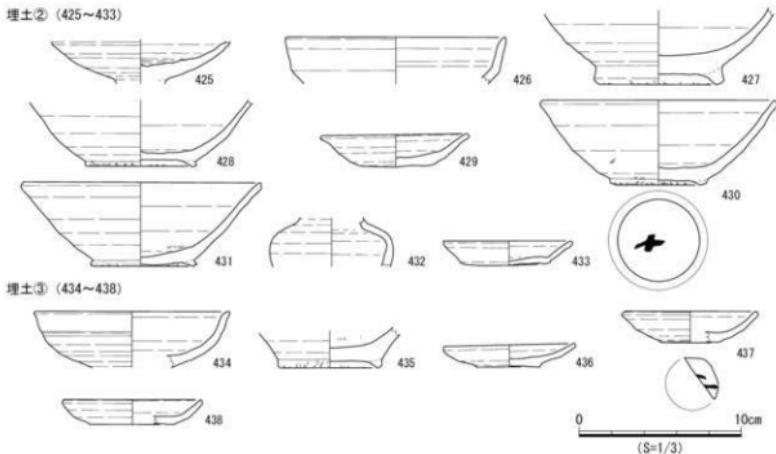


図49 SD7出土遺物実測図（3）

北側は擾乱坑により消失するため、全容は不明である。底面は概ね平坦である。肩部は地山（岩盤）を削って形成されており、掘削痕が明瞭に残る。

埋土 2層に分層した（B-B'断面及びC-C'断面）。埋土は亜円礫を含む粗砂である。C-C'断面1層に含まれる明黄褐色砂質ブロックは地山（岩盤）に由来すると考えられる。

遺物出土状況 埋土から土師器61点、須恵器310点（439~445）、灰釉陶器139点（446~448）、山茶碗563点（449~467）、古瀬戸8点（468）が散在して出土した。

出土遺物 須恵器7点、灰釉陶器3点、山茶碗19点、古瀬戸1点を図示した。須恵器はいずれも猿投窯産で、439は岩崎17号窯式期の壺蓋B類、440は高藏寺2号窯式期の壺蓋C類、441は高藏寺2号窯式期の壺身B類、442は高藏寺2号窯式期から岩崎25号窯式期の壺身C類、443は折戸10号窯式期の長頸瓶、444は高藏寺2号窯式期から鳴海32号窯式期の甕、445は高藏寺2号窯式期から岩崎25号窯式期の壺である。灰釉陶器はいずれも東濃窯産で、446は大原2号窯式期の碗、447は虎渓山1号窯式期の段皿、448は丸石2号窯式期の丸皿である。449は尾張型山茶碗で、第5型式の碗である。450~467はいずれも東濃型山茶碗で、450は谷迫間2号窯式期の小碗、451~455は谷迫間2号窯式期の碗、456~457は浅間窯下1号窯式期の碗、458は浅間窯下1号窯式期の小皿、459~462は丸石3号窯式期の碗、463~465は窪洞1号窯式期の碗、466は白土原1号窯式期の碗、467は大畑大洞4号窯式期の碗である。466は底部外面に墨書が確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。468は古瀬戸後I期の綠釉小皿である。

時期 SD6・SD7との重複関係、図示した467から、本遺構は13世紀末から14世紀中葉と考えられる。

SD9（図51）

検出状況 BQ7~BR8グリッド、SD8底面（IV層上面）で検出した。平面形は不明瞭であった。SD6・SD7・SD8・NR7と重複し、本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 南西から北東に向かって概ね直線的に延びる。北東側は擾乱坑により消失するため、全

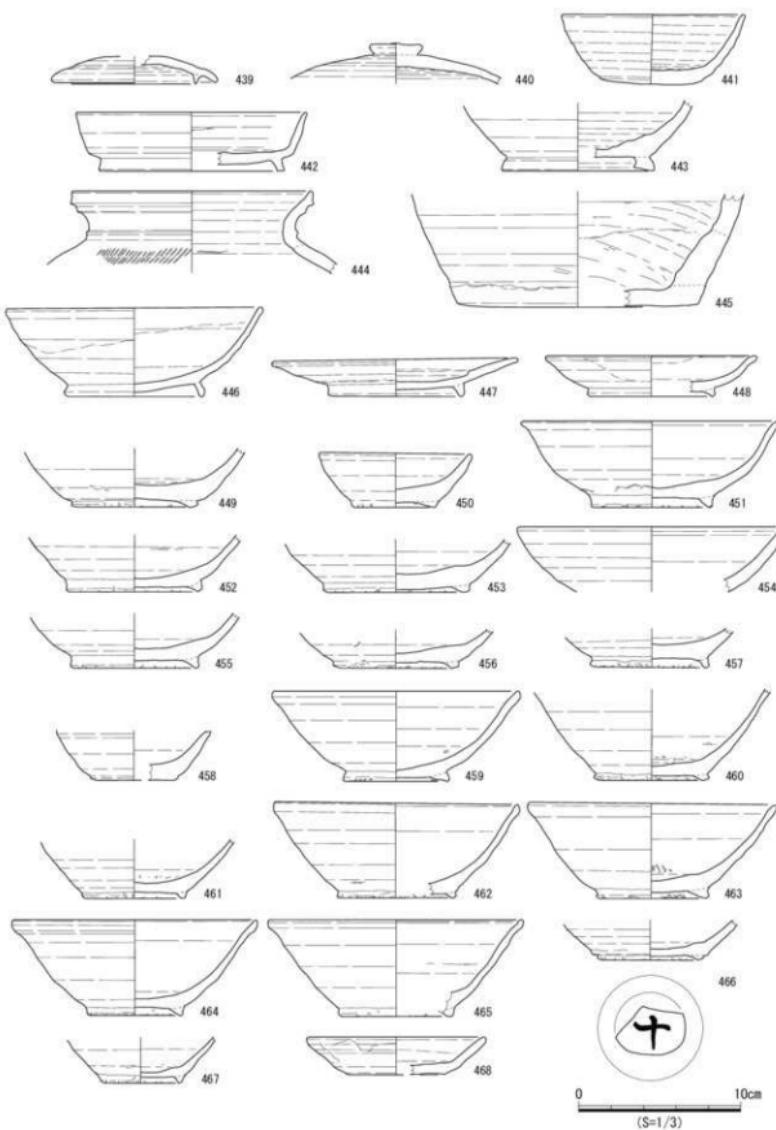


図50 SD 8 出土遺物実測図

容は不明である。底面は概ね平坦である。肩部は地山（岩盤）を削って形成されており、掘削痕が明瞭に残る。

埋土 3層に分層した。概ね水平に堆積する。1層に含まれる青灰色砂質ブロックは地山（岩盤）に由来すると考えられる。

遺物出土状況 埋土から土師器7点、須恵器14点(469)、灰釉陶器13点(470)、山茶碗52点(471・472)が散在して出土した。

出土遺物 須恵器1点、灰釉陶器1点、山茶碗2点を図示した。469は美濃須衛窯産の須恵器で、IV期第3小期の壺身C類である。470は東濃窯産の灰釉陶器で、西坂1号窯式期の片口鉢である。471は尾張型山茶碗で、第4型式の碗である。472は東濃型山茶碗で、谷迫間2号窯式期の碗である。

時期 SD8との重複関係、図示した472から、本遺構は12世紀中葉から12世紀後葉と考えられる。

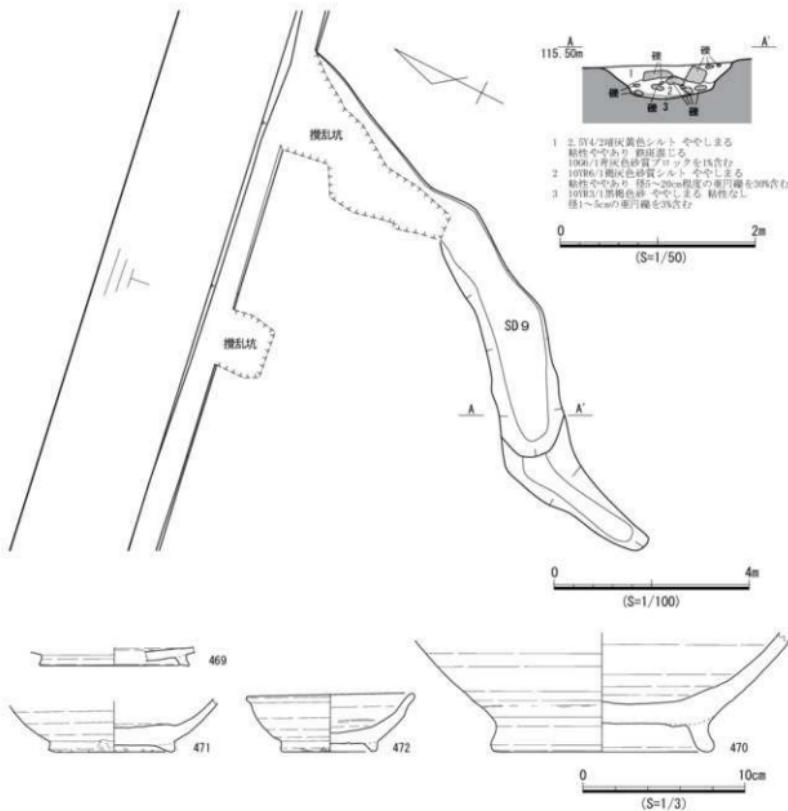


図51 SD9遺構図・出土遺物実測図

2 土坑

SK50（図52）

検出状況 BR 6～BT 7 グリッド、IV 層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK38・SK39と重複し、本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状 発掘区の南西部に位置する。本遺構の北側及び東側は擾乱坑により消失するため、全容は不明である。底面は平坦であり、平坦部の面積が広い。底面及び西側壁面は地山（岩盤）を削って形成されており、掘削痕が明瞭に残る。西側壁面は緩やかに立ち上がる。

埋土 単層である。ブロック土が含まれることから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、山茶碗1点が散在して出土した。

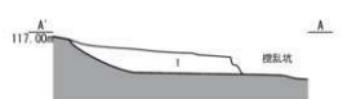
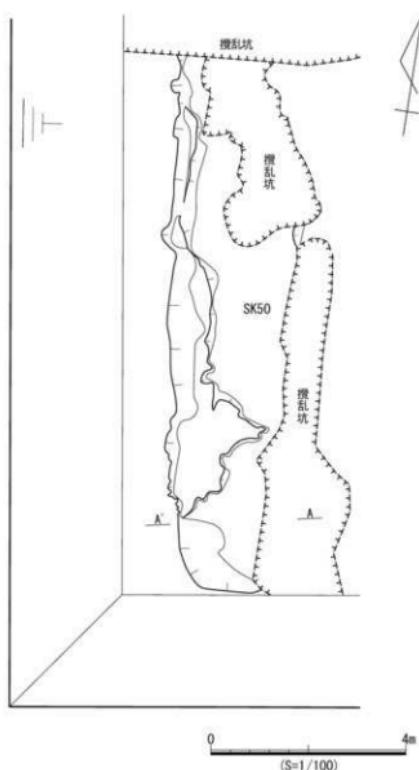
出土遺物 小片のため図示しなかつた。

時期 重複するSK38・SK39から大谷洞14号窯期の東濃型山茶碗が出土したこと、本遺構埋土から出土した山茶碗は極めて小片で時期判断ができないことから、本遺構の埋没は中世以降と考えられる。

SK51（図53）

検出状況 BR 6・BR 7 グリッド、IV 層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SD 4・SD 6・SK41と重複し、本遺構はSD 4・SK41より古く、SD 6より新しい。

規模・形状 平面形は不定形である。SK41及び擾乱坑により焼失するため、全容は不明である。底面は概ね平坦である。壁面は垂直に立ち上がるが、



I 10YR 4/3に近い黄褐色砂 しまる 素性なし
10YR 6/8弱黄褐色砂がブロック状に3段じぐ
10YR 4/2灰黄褐色粘土を35含む
1cm～5cm程度の牽引繊を7%含む

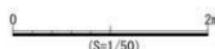


図52 SK50遺構図

南西側ではその上部で緩やかに立ち上がり二段となる。

埋土 単層である。黄褐色砂を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 埋土から土師器2点、須恵器6点、灰釉陶器5点、山茶碗27点が散在して出土した。

出土遺物 小片のため図示しなかった。

時期 埋土から大谷洞14号窯式期の東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は14世紀中葉と考えられる。

3 II層等出土遺物（図54）

II層からは、土師器40点、須恵器77点（473）、灰釉陶器47点（474）、山茶碗258点（475）、古瀬戸11点（476）、常滑産陶器7点、大窯製品20点（477）、登窯製品9点が出土した。遺構検出面（IV層上面）に設定したトレンチからは、土師器50点（478・479）、須恵器133点（480）、灰釉陶器158点（481～483）、山茶碗288点（484～489）、古瀬戸7点（490）、常滑産陶器3点、大窯製品2点、登窯製品5点（491～494）が出土した。これらはIV層上面に存在する遺構の埋土に含まれる遺物と考えられるが、帰属する遺構が特定できなかったためトレンチ出土遺

物として取り扱う。また、擾乱坑からは、土師器15点、須恵器45点、灰釉陶器29点、山茶碗105点（495～497）、古瀬戸5点、常滑産陶器4点、大窯製品2点、登窯製品3点が出土した。なお、C19地点ではIII層（遺物包含層）は後世の擾乱により消失したと考えられ、確認できなかった。

出土遺物のうち土師器2点、須恵器2点、灰釉陶器4点、山茶碗10点、古瀬戸2点、大窯製品1点、登窯製品4点を図示した。473は猿投窯産の須恵器で、岩崎25号窯式期の無台碗である。474は東濃窯産の灰釉陶器で、丸石2号窯式期の碗である。475は東濃型山茶碗で、谷迫間2号窯式期の碗である。破断面及び底部内面に墨痕が確認できる。転用硯と考えられる。476は古瀬戸後I期から後III期の捕鉢である。477は大窯第4段階の志野丸皿である。478は第1段階から第2段階（永井1995）の長胴甕である。479は第2段階から第3段階（永井1995）の長胴甕である。480は猿投窯産の須恵器で、東山11号窯式期から東山44号窯式期の蓋である。481～483はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、481は光ヶ丘1号窯式期の碗、482は光ヶ丘1号窯式期の広口瓶、483は西坂1号窯式期の碗である。484は尾張型山茶碗で、第9型式から第10型式の片口鉢である。485～489はいずれも東濃型山茶碗で、485は谷迫間2号窯式期の碗、486は浅間窯下1号窯式期の碗、487は浅間窯下1号窯式期の小皿、488は窪窓1号窯式期の碗、489は大窯大洞4号窯式期の碗である。486は底部外面に墨書が確認でき、「一」（漢数字）と釈読できる。488は底部外面に墨書が確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。490は古瀬戸後IV期新段

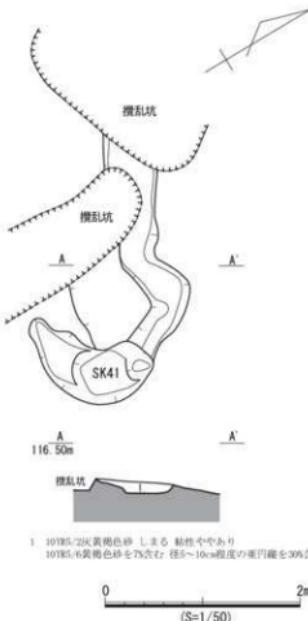
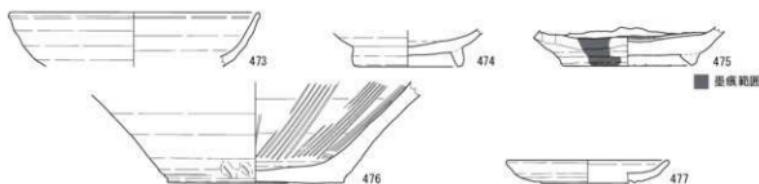
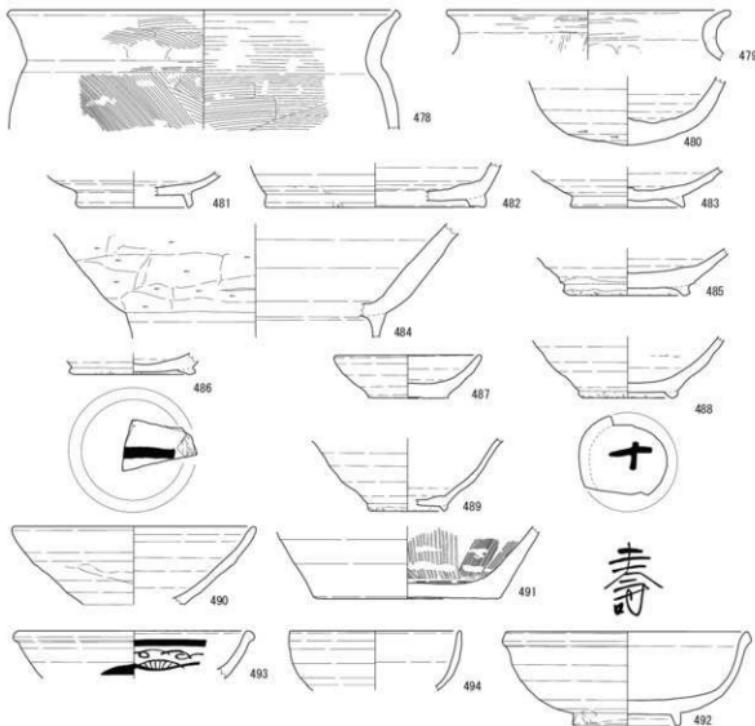


図53 SK51遺構図

II層(473~477)



トレンチ(478~494)



擾乱坑(495~497)

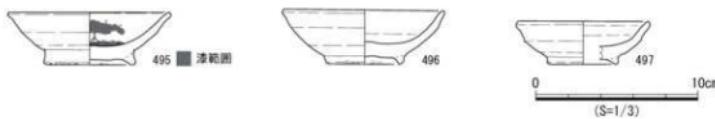


図54 II層等出土遺物実測図

階の灰釉平碗である。491は登窯第2段階の擂鉢である。492は登窯第3段階の碗で「壽」の染付が内面見込に施される。493は登窯第3段階の染付皿である。494は登窯第3段階の灰釉丸碗である。495～497(はいづれも東濃型山茶碗で、495は矢戸上野2号窯式期の小碗、496は谷迫間2号窯式期の碗、497は谷迫間2号窯式期の小碗である。

表 8 据立柱建物一覧表

地点名	測量番号	造構物番号	地区割り		接上面		間往		規模(m)		主方位	重複關係		接圖	図版
			大区	南北	東西	北行	南行	長軸長	短軸長	新	旧	新	旧		
C18	-	SB1	A	Q-R	4-5	IV上	1間	1間	4.00	3.80	N18° E			36	6

表9 据立柱建物付属遺構一覧表

地点名	測定番号	諸構造符号	地区割り		縦断面	平面形状	底面形状	側面形状	規模(m)				複雑関係		接続	因版						
									上端		下端		漂さ									
			南北	東西					長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		新	旧							
C18	5021	SB1-SP1	A	Q	6	IV上	1	e	III	0.30	(0.18)	(0.07)	0.04	0.27		36	6					
C18	5037	SB1-SP2	A	Q	5	IV上	1	e	IV	0.36	0.32	0.18	0.17	0.12		36	6					
C18	5025	SB1-SP3	A	R	4	IV上	1	e	IV	0.36	(0.21)	0.17	(0.02)	0.18		36	6					
C18	5033	SB1-SP4	A	R	5	IV上	1	l	II	0.40	0.34	0.13	0.11	0.24		36	6					

表10 柱穴一览表

地點名	測量番号	道構造番号	地区割り			検出面	平面形状	延面形状	堆積状況	断面形状	規模(m)						重複関係		捲掛	図版		
			大区		南北						上端			下端			横軸					
			南北	東西							長軸長	短軸長	長軸長	短軸長	横軸長	横軸幅	新	旧				
C16_5017	SP1	A	A	B	IV上	1	1	1	e	V1	0.34	(0.14)	0.23	(0.06)	0.32				13	3		
C16_5008	SP2	A	A	B	IV上	1	1	1	a	V1	0.42	0.30	0.16	0.15	0.66				SK2	14	3	

表11 清一貫表

堆栈名	调查 査定番号	地区割り			規格(m)						重複関係		押版				
		検出面		底面形状	断面形状		上端		下端		深さ	新					
		大区画	南北		上	下	日	1.81	0.23	1.69	0.12						
C17_5044	SD1	A	H	5	Ⅳ上	1	1	s	日	1.81	0.23	1.69	0.12	0.05	NBS		
C18_5030	SD2	A	P	6-7	Ⅳ上	3	3	b	Ⅰ	(13.82)	0.73	(13.82)	0.18	0.31	SK16, SK18, SK19	SK17	37 7
C19_5052	SD3	B	P-Q	6-8	Ⅳ上	4	4	b	Ⅳ	(10.55)	1.10	(10.12)	0.88	0.37	SD3, SD10, SK28, SK33, SK34, SK41, SK49, SK51, SK52	SD4, SD5, SK32	42 8
C19_5051	SD4	B	P-T	6-8	Ⅳ上	3	3	b	Ⅷ	(16.72)	5.50	(18.72)	4.10	0.28	SD3, SD10, SK28, SK33, SK34, SK41, SK49, SK51, SK52	SD6, SD13, NK7, SK29, SK36, SK46, SK49, SK51, SK52	42 8
C19_5061	SD5	B	Q	6	Ⅳ上	4	4	s	Ⅰ	(3.12)	0.34	(3.03)	0.22	0.08	SD3		
C19_5074	SD6	B	P-T	6-8	Ⅳ上	3	3	b	Ⅷ	(17.30)	4.70	(18.20)	4.30	0.22	SD4, SK11, SK33, SK34, SK42, SK46, SK51, SK52	SD7, SD8, SD9, NK7, SK27	44 9
C19_5097	SD7	B	P-Q	6-8	Ⅳ上	4	4	d	Ⅰ	(9.55)	2.68	(9.64)	2.56	0.67	SD6, SK8	SD6, SK27, SK32	46 9
C19_5080	SD8	B	P-S	7-8	Ⅳ上	3	3	f	Ⅷ	(18.82)	3.00	(11.80)	1.04	0.28	SD6, SK37	SD7, SK9	46 9
C19_5087	SD9	B	Q-R	7-8	Ⅳ上	4	4	b	Ⅰ	12.16	0.62	9.12	0.40	0.34	SD6, SD7, SD8, NK7		51 10
C19_5070	SD10	B	P	8	Ⅳ上	4	4	s	Ⅲ	(4.04)	0.49	(1.94)	0.16	0.26	SD4, SK39		
C19_5060	SD11	B	R-S	7	Ⅳ上	4	4	d	Ⅰ	(2.92)	0.26	(2.82)	0.11	0.21			
C19_5089	SD12	B	R	8-9	Ⅳ上	4	4	n	Ⅷ	(1.96)	0.42	(1.92)	0.22	0.08			
C19_5066	SD13	B	R-S	7	Ⅳ上	4	4	n	Ⅳ	(4.61)	0.63	(3.86)	0.21	0.11	SD4		

表12 自然流路一览表

地名 所在区	測量 査定番号	道構 造番号	地区割り			検出面	平面形状	底面形状	堆積状況	断面形状	規模(m)				重複關係		排 水	固 定	
			大区 南北		東西						上端		下端		深さ	新			
			北	南	西						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		北	南	西	
C16 5007	NR1	A	D	4-5	IV上	4	d	v	W	6.48	1.16	4.92	(0.60)	0.95				NR2, NR3	15 3
C16 5004	NR2	A	B-D	3-5	IV上	4	4	f	VII	(7.50)	6.56	(7.50)	0.56	0.41	NR1			NR3	16 3
C16 5005	NR3	A	B-D	3-5	IV上	4	b	vII	10.78	(9.30)	9.42	(8.23)	0.6	NR1, NR2, NR5, SK9, SK10, SK14, SK15				19 4 20	
C17 5050	NR5	A	H-I	5-6	IV上	4	4	f	VII	(9.55)	(5.42)	(6.98)	(3.72)	1.04	SD1, SK11, SK12, SK13			NR3	24 4 5
C19 5058	NR7	B	Q-R	6-7	IV上	4	4	f	VII	(4.57)	0.70	(4.47)	0.40	0.08	SD4, SD6, SK33, SK34	SD9			

表13 水制清擦一覽表

表14 土坑一覧表

地點名 測定番号	造構番号	地区割り				検出面	平面形状	直面形状	堆積状況	断面形状	規模(m)				重複関係		地図 図版		
		大区		南北	東西						上場		下場		深さ	重複関係			
		北	南	東	西						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		新			
C16 5009 SK1	A	A	4	IV上	1	1	b	II	0.33	0.31	0.15	0.13	0.56						
C16 5011 SK2	A	A	5	IV上	1	1	c	VI	0.23	0.22	0.10	0.08	0.44	SP2	SK3				
C16 5012 SK3	A	A	5	IV上	1	1	a	II	0.27	0.20	0.15	0.15	0.20	SK2					
C16 5003 SK4	A	A	5	IV上	2	2	a	II	(1.01)	0.82	(0.95)	0.68	0.08						
C16 5002 SK5	A	B	4	IV上	4	4	a	II	0.68	(0.65)	0.60	(0.58)	0.03						
C16 5013 SK6	A	B	4	IV上	1	1	a	I	0.48	0.42	0.36	0.35	0.08						
C16 5001 SK7	A	B	4-5	IV上	1	1	a	II	1.15	0.70	0.96	0.55	0.07						
C16 5010 SK8	A	B	4	IV上	1	1	a	III	0.48	0.38	0.40	0.30	0.05						
C16 5015 SK9	A	C	4	IV上	1	1	a	VI	0.74	0.72	0.30	0.27	0.15						
C17 5043 SK10	A	H	4	IV上	4	4	a	II	(2.12)	2.00	(2.06)	1.85	0.04						
C17 5045 SK11	A	H	5-6	IV上	3	3	a	II	(2.58)	1.15	(2.85)	1.00	0.02						
C17 5046 SK12	A	H	5-6	IV上	4	4	c	VII	1.18	(0.77)	0.92	(0.42)	0.36	SK11	SK5				
C17 5047 SK13	A	H	6	IV上	1	1	a	I	0.75	0.50	0.62	0.37	0.04	SK11	SK5				
C17 5049 SK14	A	I	4	IV上	1	1	f	II	1.08	0.64	0.97	0.57	0.03						
C17 5048 SK15	A	I	5	IV上	1	1	a	II	0.19	0.18	0.13	0.12	0.04						
C18 5018 SK16	A	P	4-5	IV上	4	4	f	II	4.55	(1.54)	4.39	(1.50)	0.07						
C18 5041 SK17	A	P	6	IV上	4	4	a	VII	(1.22)	(0.52)	(1.22)	(0.54)	0.01	SD2					
C18 5028 SK18	A	Q	6-7	IV上	1	1	b	VI	1.36	(0.50)	0.48	(0.32)	0.17						
C18 5033 SK19	A	Q-R	6-7	IV上	4	4	a	I	(1.29)	0.98	(1.23)	0.85	0.03						
C18 5020 SK20	A	Q	5	IV上	1	1	a	II	1.04	0.55	0.96	0.45	0.04						
C18 5029 SK21	A	R	4	IV上	1	1	a	VII	1.58	(0.56)	1.36	(0.48)	0.12						
C18 5019 SK22	A	R	5	IV上	1	1	a	I	2.62	1.44	2.26	1.00	0.05						
C18 5038 SK23	A	R	6	IV上	1	1	a	I	0.32	0.24	0.13	0.13	0.07						
C18 5027 SK24	A	R	5	IV上	1	1	a	I	0.25	0.22	0.14	0.10	0.07				39	8	
C18 5036 SK25	A	R	5	IV上	1	1	a	II	0.40	0.34	0.29	0.28	0.06				39	8	
C18 5039 SK26	A	R	6	IV上	1	1	a	II	0.34	0.27	0.20	0.20	0.07						
C19 5096 SK27	B	P	6	IV上	4	4	a	I	0.64	(0.54)	(0.50)	0.36	0.08	SD7					
C19 5095 SK28	B	P	6	IV上	2	2	a	I	0.93	(0.93)	0.52	(0.77)	0.12						
C19 5086 SK29	B	P-Q	6	IV上	1	1	a	I	2.55	0.68	2.11	0.37	0.16	SD4					
C19 5072 SK30	B	P	8	IV上	4	4	b	II	0.92	(0.44)	0.48	(0.22)	0.14	SD10					
C19 5076 SK31	B	P-Q	8	IV上	4	4	a	II	2.32	(0.58)	1.52	(0.53)	0.14						
C19 5081 SK32	B	Q	6-7	IV上	4	4	b	VII	2.70	(0.84)	2.62	(0.78)	0.15	SD3, SD7					
C19 5083 SK33	B	Q-R	6-7	IV上	4	4	a	VII	1.40	(0.18)	1.08	(0.16)	0.15						
C19 5057 SK34	B	Q-R	7	IV上	4	4	b	II	2.25	(1.47)	1.94	(1.15)	0.24						
C19 5085 SK35	B	R	8	IV上	1	1	a	IV	0.47	0.44	0.31	0.28	0.14						
C19 5088 SK36	B	R	8-9	IV上	4	4	d	I	(3.60)	0.44	(0.44)	0.28	0.25	SD4					
C19 5082 SK37	B	R	8	IV上	1	1	b	I	1.12	0.71	0.78	0.56	0.10	SD6					
C19 5065 SK38	B	H	6	IV上	1	1	a	IV	0.34	0.26	0.27	0.16	0.04	SK39	SK50				
C19 5066 SK39	B	R-S	6-7	IV上	4	4	a	I	2.62	(0.31)	2.30	(0.28)	0.14						
C19 5071 SK40	B	R-S	7	IV上	1	1	a	I	0.47	0.36	0.32	0.20	0.08	SK41					
C19 5069 SK41	B	R-S	7	IV上	3	3	e	VII	1.13	0.54	0.93	0.12	0.12	SD40	SK51				
C19 5079 SK42	B	R-S	7	IV上	2	2	f	IV	1.38	0.77	1.28	0.23	0.10						
C19 5066 SK43	B	S	7	IV上	1	1	a	II	0.97	(0.64)	0.65	(0.52)	0.04						
C19 5084 SK44	B	S	6	IV上	1	1	a	I	0.41	(0.25)	0.36	(0.13)	0.04						
C19 5063 SK45	B	S	6	IV上	1	1	a	II	0.40	(0.18)	0.30	(0.15)	0.04						
C19 5077 SK46	B	S	7	IV上	1	1	b	II	0.29	0.11	0.12	0.07	0.18	SD4	SD6				
C19 5090 SK49	B	S	8	IV上	4	4	a	VII	0.90	(0.35)	0.84	(0.34)	0.10	SD4					
C19 5092 SK50	B	R-T	6-7	IV上	2	2	b	IV	(10.82)	2.28	(10.82)	2.24	0.36	SK38, SK39			52	10	
C19 5073 SK51	B	R	6-7	IV上	4	4	b	II	(1.92)	0.42	(1.92)	0.22	0.17	SD4, SK41	SD6		53	10	
C19 5078 SK52	B	R-T	8	IV上	3	3	a	VII	3.75	0.84	3.44	0.38	0.18	SD4	SD6				

表15 土器観察表(1)

開拓番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調査(内面)	調査(外面)	油土	焼成	備考	採団番号	因版番号	
2	C16	-	NR1	a-c	371-1	火耕陶器	罐	東濃産	虎次山1	-	(8.5)	(2.8)	同軸ナダ ダフ	同軸ナダ、同軸 ヘラ削り、貼付 高台	密	良好		15		
3	C16	-	NR1	a-c	372-1	山系縦	罐	東濃型	谷追間2	-	(8.6)	(3.0)	同軸ナ ダ	同軸ナダ、底部 切欠き、貼付 高台	やや 粗	良好	板状底	15		
4	C16	-	NR1	a-c	372-2	山系縦	罐	東濃型	窓瓶1	15.0	6.8	5.2	同軸ナ ダ	同軸ナダ、底部 切欠き、貼付 高台	密	良好	板状底	15	11	
5	C16	-	NR1	8-9	540-2	須恵器	环身C	須恵器	岩崎25	-	(9.6)	(1.4)	同軸ナ ダ	同軸ナダ、底部 切欠きへラ削り、 貼付高台	密	良好		15		
6	C16	-	NR1	j-1	387-1	火耕陶器	罐	東濃産	大原2	(15.5)	7.5	4.7	同軸ナ ダ	同軸ナダ、同軸 ヘラ削り、底部 同軸ヘラ削り。 貼付高台	密	不良		15		
7	C16	-	NR1	w-o	446-1	須恵器	环唇C	須恵器	高藏寺2	15.5	-	3.4	同軸ナ ダ	同軸ナダ、同軸 ヘラ削り	密	良好		15		
8	C16	-	NR1	w-o	492-7	須恵器	环唇A	須恵器	東山15	-	-	(2.2)	同軸ナ ダ	同軸ナダ、同軸 ヘラ削り	密	良好		15		
9	C16	-	NR1	南壁12	656-1	須恵器	环身B	美濃須恵 性	III期-3~ IV期-1	(11.5)	(6.3)	4.4	同軸ナ ダ、跡 止ナダ	同軸ナダ、底部 同軸ヘラ削り	密	良好		15		
10	C16	-	NR1	10	542-1	須恵器	环身B	美濃須恵 性	IV期-1	(12.2)	(7.2)	3.9	同軸ナ ダ	同軸ナダ、底部 同軸ヘラ削り後 ナダ	密	不良		15		
11	C16	-	NR1	南壁12	655-1	須恵器	环身B	美濃須恵 性	IV期-2	(12.8)	(7.8)	3.5	同軸ナ ダ	同軸ナダ、底部 同軸ヘラ削り	密	不良		15		
12	C16	-	NR1	w-o	403-1	須恵器	便	美濃須恵 性	III期-3	(31.5)	-	(6.2)	同軸ナ ダ	同軸ナダ	密	良好		15		
13	C16	-	NR1	10	542-5	須恵器	环唇B 小平唇C	在地盤	岩崎41~ 高藏寺2 併行	-	-	(3.5)	同軸ナ ダ	同軸ナダ、同軸 ヘラ削り	やや 粗	良好		15		
14	C16	-	NR1	10	543-1	火耕陶器	且	東濃産	光ヶ丘1	(17.7)	-	(2.5)	同軸ナ ダ	同軸ナダ、同軸 ヘラ削り	密	良好	内側面灰釉面 毛摺り	15		
15	C16	-	NR1	w-o	447-1	山系縦	広口壺	美濃須恵 型	V期	-	(14.0)	(5.5)	同軸ナ ダ	同軸ナダ、同軸 ヘラ削り、底部 砂輪施及び指頂 圧痕	密	不良		15	11	
16	C16	AB5	NR2	j-1	317-2	土師器	甕	-	宇田II~ II	(13.3)	-	(3.9)	ナダ、 指押	ナダ、ハケ、指 押	やや 粗	不良		17		
17	C16	-	NR2	j-1	296-1	土師器	小型壺	-	佐野河戸II ~宇田I	(8.9)	4.5	6.0	不定方 向ナダ	不定方向ナダ	相	不良	内外面に粘土 結合痕有	17	11	
18	C16	AC4	NR2	j-1	532-1	土師器	高坪	-	松川河II ~宇田I	-	-	(4.5)	ナダ	指押え	やや 粗	不良		17		
19	C16	AC5	NR2	j-1	389-1	土師器	須恵型 縫	-	段階-3	(15.3)	-	(4.8)	同軸ナ ダ	ナナメナダ、指 押痕	密	良好		17	12	
20	C16	AC5	NR2	w-c	288-2	土師器	須恵型 縫	-	II段階-3	(21.2)	-	(4.3)	ナダ	ナダ、指押	やや 粗	良好		17	12	
21	C16	-	NR2	6-10	647-4	須恵器	环唇C	須恵器	船形32	(15.5)	-	(2.0)	同軸ナ ダ	同軸ナダ、同軸 ヘラ削り	密	良好		17		
22	C16	AC5	NR2	j-1	449-6	須恵器	环身A	須恵器	坂ヶ丘~ 東山44	-	(12.1)	-	(3.3)	同軸ナ ダ	同軸ナダ、同軸 ヘラ削り	密	良好	口縁部内面 凹凸ある、体 部外面擦摩有	17	
23	C16	AB5	NR2	j-1	318-3	須恵器	広口壺	須恵器	高藏寺2 ~船形32	-	(12.6)	(3.5)	宇田II 指頂痕	底部同軸ナダ	密	良好	垂み跡有	17		
24	C16	AC4	NR2	d-f	364-1	須恵器	甕	美濃須恵 性	IV期-1~ V期-1	-	-	(2.1)	同軸ナ ダ	同軸ナダ、底部 同軸ヘラ削り	密	良好	高台部十二字落 し及びスレ特 徴有	17	11	
25	C16	AC4	NR2	d-f	417-11	火耕陶器	罐	東濃産	光ヶ丘1	-	(7.8)	(2.1)	同軸ナ ダ	同軸ナダ、同軸 ヘラ削り、貼付 高台	密	良好		17		
26	C16	-	NR2	d-f	294-9	火耕陶器	罐	東濃産	光ヶ丘1	-	(7.8)	(3.6)	同軸ナ ダ	同軸ナダ、同軸 ヘラ削り、貼付 高台	密	良好	体部内面上 半灰釉毛摺 り	17		

表16 土器観察表(2)

同種番号	出土地点	グリッド名	層位	取上番号	様式	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調量(内面)	調量(外面)	土色	情況	備考	標因番号	図版番号
27	C16	AD4	NR2	d-f	276-2	灰釉陶器	碗	東濃產	大形2	-	(8, 6)	(3, 0)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。回転輪底。底部凹輪ナダ削り。貼付高台	密	良好		17
28	C16	-	NR2	d-i	467-1	灰釉陶器	碗	東濃產	虎渕山1	-	7.1	(4, 4)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹切。貼付高台	密	良好	内部に高台接着紙	17
29	C16	AD5	NR2	j-i	319-2	灰釉陶器	且	東濃產	虎渕山1	(12.7)	(7, 1)	2.9	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪ナダ削り。貼付高台	密	良好		17
30	C16	AC4	NR2	d-f	381-1	灰釉陶器	鉢	東濃產	虎渕山1 ～丸石2	(25.2)	(10, 33)	12.3	凹輪ナダ	凹輪ナダ削り。底部凹輪品削り。貼付高台	密	良好	穿孔有	17 11
31	C16	AC5	NR2	g-i	322-1	灰釉陶器	碗	東濃產	丸石2	(14.1)	6.8	5.5	凹輪ナダ	凹輪ナダ削り。底部凹輪品削り。貼付高台	密	良好		17
32	C16	AC5	NR2	j-i	356-1	灰釉陶器	碗	東濃產	丸石2	-	6.6	(5, 0)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪品削り。貼付高台	密	良好		17
33	C16	-	NR2	11-12	653-1	灰釉陶器	碗	東濃產	丸石2	-	7.9	(3, 9)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪ナダ削り。貼付高台	密	不良		17
34	C16	AC4	NR2	a-c	341-4	灰釉陶器	小瓶	東濃產	丸石2	(11.7)	6.0	3.9	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪品削り後凹輪ナダ。貼付高台	密	良好		17
35	C16	AD5	NR2	a-c	283-1	灰釉陶器	且	東濃產	丸石2	11.3	6.0	2.0	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪品削り後凹輪ナダ。貼付高台	密	良好		17 11
36	C16	-	NR2	d-f	295-1	灰釉陶器	碗	東濃產	明和27	(14.8)	(6, 6)	6.3	凹輪ナダ	凹輪ナダ。貼付高台	密	良好		17
37	C16	-	NR2	11-12	653-2	灰釉陶器	碗	東濃產	明和27	(13.9)	7.0	5.4	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部高台凹輪ナダ削り。貼付高台	密	良好		17
38	C16	-	NR2	d-i	461-1	灰釉陶器	碗	東濃產	明和27	(14.4)	6.5	5.5	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪品削り。貼付高台	密	良好		17 11
39	C16	-	NR2	d-i	462-1	灰釉陶器	碗	東濃產	明和27	(14.3)	(6, 2)	5.8	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪ナダ削り。貼付高台	密	良好		17
40	C16	AC5	NR2	j-i	355-1	灰釉陶器	碗	東濃產	明和27	(14.2)	(6, 9)	6.1	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪ナダ削り。貼付高台	密	良好	使用痕、高台接着紙有	17
41	C16	-	NR2	d-i	458-1	灰釉陶器	碗	東濃產	明和27	(16.0)	-	(5, 3)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。凹輪ナダ削り。凹輪ナダ	密	良好	口縁部内面沈黙1条有	17
42	C16	-	NR2	d-i	463-1	灰釉陶器	碗	東濃產	明和27	(16.7)	-	(5, 1)	凹輪ナダ	凹輪ナダ	密	不良	施成甘く袖白痕	18
43	C16	AC5	NR2	d-f	303-1	灰釉陶器	碗	東濃產	明和27	(14.6)	7.0	5.9	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪ナダ削り。貼付高台	密	不良		18
44	C16	AC5	NR2	j-i	352-2	灰釉陶器	碗	東濃產	明和27	(14.4)	6.8	5.9	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪ナダ削り。貼付高台	密	良好		18
45	C16	-	NR2	d-f	295-3	灰釉陶器	碗	東濃產	明和27	-	6.0	(2, 3)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪品削り。貼付高台	密	良好		18
46	C16	-	NR2	d-i	455-1	灰釉陶器	小瓶	東濃產	明和27	(9, 1)	4.6	3.6	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪ナダ削り。貼付高台	密	良好		18
47	C16	AC5	NR2	j-i	391-2	灰釉陶器	小瓶	東濃產	明和27	(9, 2)	-	(3, 3)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪品削り。貼付高台	密	良好		18
48	C16	AC4	NR2	d-f	347-2	灰釉陶器	輪花瓶	東濃產	明和27	9.9	5.2	3.6	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部高台凹輪品削り凹輪ナダ。貼付高台	密	良好	輪花ナダによる輪花4箇所有	18 11
49	C16	-	NR2	d-i	456-1	灰釉陶器	輪花瓶	東濃產	明和27	(9, 9)	4.4	4.1	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部外縁下平貼付有	密	良好	体部外縁下平貼付有	18

表17 土器観察表（3）

同番 番号	出土 地点	グリ ッド	遺構 名	層位	取上 番号	種別	器種	産地等	分類等	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	腹壁 (内面)	腹壁 (外面)	胎土	備成	備 考	拂田 番号	因版 番号
50	C16	-	NB2	d-f	465-1	灰釉陶器	皿	東濃産	明治27	-	4.9	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ、底部 切、貼付 高台	密	不良		18	
51	C16	AC4	NB2	d-f	417-2	灰釉陶器	碗	東濃産	西京1	14.0	6.4	4.8	回転ナデ	回転ナデ、底部 ハラカタ、貼付 後ナデ	密	不良		18 11	
52	C16	AC5	NB2	j-l	359-1	灰釉陶器	碗	東濃産	西京1	(14.0)	6.6	5.8	回転ナデ	回転ナデ、底部 ナデ、貼付	密	良好		18	
53	C16	-	NB2	d-f	295-4	灰釉陶器	碗	東濃産	西京1	(13.5)	(6.8)	4.5	回転ナデ	回転ナデ、底部 切後回転 ナデ、貼付高台	密	不良		18	
54	C16	AD4	NB2	d-f	276-3	灰釉陶器	小碗	東濃産	西京1	(10.7)	5.2	3.3	回転ナデ	回転ナデ、底部 切、貼付 高台	密	良好		18	
55	C16	AD4	NB2	d-f	267-1	山茶碗	碗	足型	第5型式	16.2	7.6	4.9	回転ナデ	回転ナデ、底部 切、貼付 高台	密	良好	底部内面重ね 接ぎ痕、接合 部	18	
56	C16	AC4	NB2	g-i	454-2	山茶碗	碗	足型	第5型式	(16.2)	(7.6)	4.0	回転ナデ	回転ナデ、底部 切、貼付 高台	密	良好	接合痕	18	
57	C16	AC1	NB2	a-c	341-2	山茶碗	小碗	失透直腹 型	腹	11.0	5.4	3.8	回転ナデ	回転ナデ、底部 切、貼付 高台	密	不良		18 12	
58	C16	-	NB2	6-10	649-3	山茶碗	小碗	東濃型	矢戸上野 2	(11.3)	5.2	3.9	回転ナデ	回転ナデ、底部 直腹回転 ナデ、貼付高台	密	良好		18	
59	C16	AC4	NB2	d-f	417-1	山茶碗	碗	東濃型	谷追間2	-	(7.6)	(4.3)	回転ナデ	回転ナデ、底部 切、植物 状压痕。貼付 高台	密	良好		18	
60	C16	AC4	NB2	d-f	418-1	山茶碗	碗	東濃型	谷追間2	-	7.7	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ、底部 切後側、 回転ナデ、貼付 高台	密	良好	接合痕	18	
61	C16	AD4	NB2	d-f	275-2	山茶碗	碗	東濃型	谷追間2	-	6.6	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ、貼付 高台	やや 粗	良好	接合痕	18	
62	C16	AC5	NB2	a-c	278-1	山茶碗	碗	東濃型	谷追間2	-	(7.4)	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ、底部 切、貼付 高台	やや 粗	良好	接合痕	18	
63	C16	AC4	NB2	g-i	454-1	山茶碗	小碗	東濃型	谷追間2	8.1	4.0	3.3	回転ナデ	回転ナデ、底部 切、貼付 高台	密	良好	底部内面高台 接合痕、接合 部	18 12	
64	C16	AC5	NB2	a-c	280-1	山茶碗	小碗	東濃型	谷追間2	-	4.8	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ、底部 切後側、 回転ナデ、貼付 高台	密	良好		18	
65	C16	AD4	NB2	d-f	275-8	山茶碗	碗	東濃型	丸窓葉下 1	15.6	7.0	6.3	回転ナデ	回転ナデ、貼付 高台	密	良好	接合痕	18	
66	C16	AC5	NB2	a-c	279-1	山茶碗	碗	東濃型	丸窓葉下 1	-	6.5	(2.9)	回転ナデ	回転ナデ、底部 切、板目 状压痕。貼付高 台	密	良好	接合痕	18	
67	C16	AD4	NB2	d-f	267-2	山茶碗	碗	東濃型	丸窓葉下 1	(15.3)	(7.5)	6.2	回転ナデ	回転ナデ、底部 切、板目 状压痕、貼付高 台	密	不良	接合痕	18	
68	C16	AD4	NB2	d-f	268-1	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	-	(7.6)	(5.0)	回転ナデ	回転ナデ、底部 切、貼付 高台	密	良好	接合痕	18	
69	C16	AD4	NB2	d-f	267-3	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	14.0	6.6	5.5	回転ナデ アーチ 底部 接合痕	回転ナデ、底部 切、接合 痕压痕。貼付高 台	密	良好	接合痕	18	
70	C16	AD4	NB2	d-f	265-1	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	-	5.7	(5.4)	回転ナデ	回転ナデ、底部 切、貼付 高台	密	良好	接合痕	18	

表18 土器観察表(4)

査定番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	埋地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	腹盤(内面)	頭盤(外面)	土色	焼成	備考	博物館番号	図版番号
71	C16 AD4	NR2	d-f	256-1	(ii)茶碗	小皿	束縫型	丸石3	7.3	3.2	19.5	凹輪ナダ。底部 凹輪系切。底付 高台	黒	良好		18	11		
72	C16 AC4	NR2	d-f	418-4	(ii)茶碗	平高台 皿	束縫型	丸石3	9.8	4.0	3.2	凹輪ナ ダ。	凹輪ナダ。底部 凹輪系切。	黒	良好	底部内部摩耗	18	12	
73	C16 AD4	NR2	d-f	275-5	山茶碗	碗	束縫型	集田1	14.0	7.0	5.5	凹輪ナ ダ。底部 凹輪系切。底付 高台	黒	良好	桜紋瓶	18	11		
74	C16 AD4	NR2	d-f	275-1	山茶碗	碗	束縫型	白土原1	-	5.9	(4.2)	凹輪ナ ダ。	凹輪ナダ。底部 凹輪系切。板目 鉄正。底付高 台	黒	良好	内面全体及び 破断面一部焦 化により漆狀 付着物付着、 鉄被覆	18	12	
75	C16 AD4	NR2	d-f	276-8	山茶碗	碗	束縫型	白土原1 (明和)	(14.9)	-	(4.5)	凹輪ナ ダ。	凹輪ナダ	黒	良好	体部内面下半 部付着物	18		
76	C16 -	NR3	15-16	676-18	土師器	<字彙	-	側開口～ 皿	(11.6)	-	(2.1)	ヨコハ タケ	ヨコナダ。ナナ メハケ	灰	不良		21		
77	C16 AB4	NR3	g-i	621-11	土師器	<字彙	-	松河戸I ～II	(13.9)	-	(3.6)	ナダ。 ヨコハ タケ。指押文	ナダ。ナナメハ ケ。指押文	灰	不良		21		
78	C16 AC4	NR3	g-i	615-3	土師器	<字彙	-	松河戸I ～宇田1	(16.4)	-	(4.0)	ヨコナ ダ。指 押文	ヨコナダ。ハケ	やや 粗	不良	白色軟質粘土	21		
79	C16 AC4	NR3	g-i	622-61	土師器	<字彙	-	松河戸I ～宇田1	(19.3)	-	(3.8)	ナダ。 ヨコハ タケ	ナダ。ハケ	やや 粗	不良	白色軟質粘土	21		
80	C16 AC5	NR3	g-i	612-11	土師器	<字彙	-	松河戸I ～宇田1	(14.2)	-	(3.0)	ナダ。 ヨコナ ダ。	ナダ。ヨコナダ	やや 粗	不良	赤褐色粘土	21		
81	C16 AC4	NR3	g-i	615-9	土師器	<字彙	-	松河戸I ～宇田1	(16.1)	-	(2.9)	ヨコナ ダ。	ヨコナダ	やや 粗	不良		21		
82	C16 -	NR3	15-16	676-12	土師器	<字彙	-	松河戸I ～宇田1	(13.0)	-	(3.8)	ナダ	ナダ	やや 粗	不良		21		
83	C16 AC5	NR3	j-i	582-49	土師器	<字彙	-	松河戸I ～宇田1	-	-	(4.9)	ナダ	ナダ。ハケ	やや 粗	不良		21		
84	C16 AC5	NR3	g-i	559-1	土師器	<字彙	-	松河戸I ～宇田1	(17.9)	-	(5.4)	ナダ。 指押文	ナダ。ハケ。指 押文	粗	不良		21		
85	C16 AB5	NR3	j-i	579-3	土師器	<字彙	-	松河戸I ～宇田1	-	-	(7.8)	ナダ。 指押文	ナダ。指押文	粗	不良		21		
86	C16 AC5	NR3	j-i	582-68	土師器	S字彙	-	側開口～ 皿	-	-	(2.5)	ナダ	ナナメハケ	粗	不良		21		
87	C16 AC4	NR3	j-i	624-166	土師器	S字彙	-	側開口～ 皿	-	-	(2.4)	ナダ	不詳	やや 粗	不良	全体に摩耗著 しい	21		
88	C16 AB4	NR3	j-i	621-29	土師器	S字彙	-	側開口～ 皿	-	-	(2.2)	指押文	ヨコナダ	やや 粗	不良	全体に摩耗著 しい	21		
89	C16 AC5	NR3	j-i	582-131	土師器	S字彙	-	側開口	(14.2)	-	(2.9)	ナダ。 ヨコハ タケ	ナダ。ヨコハ タケ。ナナメハケ	粗	不良	全体に摩耗著 しい	21		
90	C16 AC5	NR3	j-i	611-13	土師器	S字彙	-	側開口	(14.9)	-	(2.4)	ナダ。 ハケ	ナダ。タテハケ	粗	不良		21		
91	C16 AC5	NR3	j-i	582-13	土師器	S字彙	-	側開口	(14.6)	-	(2.9)	不詳	不詳	粗	不良	全体に摩耗著 しい	21		
92	C16 -	NR3	j-i	626-3	土師器	S字彙	-	側開口	(15.0)	-	(4.3)	ナダ。 指押文	ナダ。ハケ	やや 粗	良好		21	12	
93	C16 -	NR3	j-i	626-1	土師器	S字彙	-	側開口	(14.2)	-	(5.9)	ナダ。 ヨコナ ダ。指 押文	ヨコナダ。ナナ メハケ	やや 粗	良好		21	12	
94	C16 AC4	NR3	d-f	499-5	土師器	甕	-	側開口	(13.1)	-	(3.0)	ヨコナ ダ。ヨ コハケ	ヨコナダ。タテ ハケ	粗	不良		21		
95	C16 AC5	NR3	j-i	582-119	土師器	バレッジ 甕	-	側開口	(14.3)	-	(1.4)	不詳	不詳	黒	不良	口縁細胞沈澱 2条有。伴状 浮文有。口縁 部内面に棘形 の痕跡有	21		

表19 土器観察表(5)

番号	出土 地点	グリ ッド	遺構 名	層 位	取上 番号	種 別	器 種	産地等	分類等	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	腹整 (内面)	腹整 (外面)	胎土	焼成	備 考	標誌 番号	固有 番号	
96	C16	-	NB3	-	679-1	土師器	広口盃	-	腹開口	(17.2)	4.9	26.8	ナデ、指押文 銀	ナデ、ハケ	やや 相	良好	全体に摩耗著 しい。	21	12	
97	C16	A06	NB3	j-1	579-2	土師器	二重口 銀盃	-	腹開口	(20.5)	-	(3.3)	ナデ	ナデ、指押文	粗	不良	内面市彩	22	13	
98	C16	A05	NB3	j-1	579-6	土師器	二重口 銀盃	-	腹開口	(20.5)	-	(6.1)	ナデ	ナデ、指押文	粗	不良		22	13	
99	C16	A05	NB3	g-i	555-1	土師器	二重口 銀盃	-	腹開口	-	-	(4.9)	小詳	小詳	やや 相	良好	表面市彩、全 体に摩耗著 しい。	22		
100	C16	A05	NB3	j-1	579-1	土師器	二重口 銀盃	-	腹開口	(22.0)	-	(6.0)	ナデ	ナデ	やや 相	良好	表面市彩、全 体に摩耗著 しい。	22		
101	C16	-	NB3	g-i	741-1	土師器	有段口 銀盃	-	松河戸I ～II	(12.0)	-	(5.0)	ヨコナ ダ	板ナゲ	やや 相	不良	赤鉄酸化併行 比較有	22	13	
102	C16	-	NB3	16	662-1	土師器	小型盃	-	腹開口	(10.0)	4.2	15.0	ナデ、ハケ、ヘラミガ キ	粗	不良	底部外面底座 有	22	13		
103	C16	AC4	NB3	g-i	621-2	土師器	小型盃	-	平田I～ II	-	6.0	(2.5)	ナデ、 指押文	ナデ、指押文	やや 相	良好		22		
104	C16	AC4	NB3	j-1	624-5	土師器	盃	-	腹開口	(16.7)	-	(4.5)	ナデ	ナデ、ハケ	やや 相	不良	胎土数分多く 赤褐色呈す	22		
105	C16	AC5	NB3	w-c	493-3	土師器	盃	-	松河戸I ～宇田田I	-	3.8	(1.6)	ナデ、 指押文	ハケ、指押文	相	不良		22		
106	C16	AC4	NB3	j-1	624-3	土師器	大型高 环	-	松河戸I	-	-	(4.0)	ナデ	ナデ、ハケ	やや 相	不良	环部下半黒斑 有	22		
107	C16	AC5	NB3	j-1	582-5	土師器	大型高 环	-	松河戸I ～II	-	-	(3.5)	ハケ	ナデ、指押文	やや 相	不良	全体に摩耗著 しい。	22		
108	C16	AC4	NB3	j-1	624-2	土師器	大型高 环	-	松河戸I ～II	-	13.5	(3.9)	ナデ、 ヨコナ ダ	ヨコナデ	相	不良		22		
109	C16	-	NB3	15-16	476-2	土師器	輪状环 部环	-	平田I～ II	(13.2)	-	(7.1)	ナデ	ナデ	やや 相	不良	胎土数分多く 赤褐色呈す	22		
110	C16	AB4	NB3	w-c	544-3	土師器	輪状环 部环	-	平田I～ II	(12.5)	-	(5.2)	ナデ	ナデ	やや 相	不良	胎土数分少く 赤褐色呈す	22		
111	C16	AB4	NB3	g-i	605-1	土師器	高环	-	腹開口I～ III	-	10.8	(6.2)	小詳	小詳	やや 相	良好	2方向に穿孔 有。全体に摩 耗著しい。	22	13	
112	C16	AB4	NB3	j-1	620-2	土師器	高环	-	腹開口	-	-	(6.5)	ナデ	ナデ、タテハ ケ、指押文	やや 相	不良	胎土数分多く 赤褐色呈す	22		
113	C16	AC5	NB3	j-1	582-2	土師器	高环	-	松河戸I ～II	-	-	(7.5)	ナデ、 ヨコナ ダ	ナデ、指押文	やや 相	不良	全体に摩耗著 しい。	22		
114	C16	AC5	NB3	g-i	547-1	土師器	高环	-	松河戸I ～II	-	-	(5.5)	ナデ、 ヨコナ ダ	ナデ、指押文	相	不良	胎土数分多く 赤褐色呈す	22		
115	C16	AC4	NB3	j-1	624-7	土師器	高环	-	松河戸I ～II	-	-	(7.6)	ナデ、 ヨコナ ダ	指押文後ナゲ	相	不良		22		
116	C16	-	NB3	g-i	741-2	土師器	高环	-	松河戸I ～II	-	-	(7.0)	タテハ ケ、指 押文	ナゲ	やや 相	不良		22		
117	C16	AC5	NB3	g-i	581-3	土師器	高环	-	松河戸I ～II	-	(10.3)	(6.1)	タテナ ダ	不詳	相	不良	全体に摩耗著 しい。	22	13	
118	C16	AC4	NB3	j-1	624-6	土師器	高环	-	松河戸I ～II	-	-	(4.6)	ナデ、 段ナ ダ、指 押文	ナデ、指押文	相	不良	胎土数分多く 赤褐色呈す	22		
119	C16	AC4	NB3	g-i	622-1	土師器	高环	-	松河戸I ～平田I	-	-	(10.6)	(6.3)	ナデ、 板ナ ダ、指 押文	ナデ、指押文	やや 相	不良	胎土数分多く 赤褐色呈す	22	13

表20 土器観察表 (6)

番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	油土	候成	備考	博物館番号	図版番号
120	C16 ACS	NB3	J-1	582-1	土師器	高环	-	松河戸I ～宇田I	-	-	(7.5)	ナダ	タテハケ後ナダ	密	不良		22		
121	C16 ACS	NB3	g-1	581-1	土師器	高环	-	松河戸I ～宇田I	-	-	(6.5)	ナダ ヨコナ ダ	ナダ、指押え	密	不良		22		
122	C16 ACS	NB3	g-1	622-2	土師器	高环	-	松河戸II ～宇田I	-	10.2	(4.9)	ナダ 指押え	ナダ、指押え	密	良好	新土器分多く赤褐色呈す	23		
123	C16 ACS	NB3	g-1	559-4	土師器	高环	-	松河戸II ～宇田I	-	-	(6.6)	ナダ 板ナダ	指押え後ナダ	やや粗	良好		23		
124	C16 ACS	NB3	g-1	547-5	土師器	高环	-	平田I ～II	-	-	(3.9)	ナダ	ナダ	密	不良	全体に摩耗著しい	23		
125	C16	-	NB3	w-o	342-1	土師器	器台	-	廻間II～III	-	(10.4)	(4.9)	ヨコナ ダ	ナダ、ハケ	やや粗	良好	穿孔有	23	13
126	C16 ACS	NB3	g-1	581-2	土師器	鉢	-	松河戸II ～宇田I	-	5.3	(4.8)	ナダ 指押え	ナダ、ハケ、指 押え	やや粗	不良	断面呈する	23		
127	C16 A05	NB3	J-1	574-1	土師器	鉢	-	平田I	(14.8)	-	6.9	ナダ	ナダ	やや粗	不良	口端背面黒 斑有	23		
128	C16 ACS	NB3	w-c	493-2	土師器	縦S瓶	-	鹿町	-	-	(7.1)	ナダ	ハケ、指押え	やや粗	良好		23		
129	C16	-	NB3	g-1	305-2	直底器	壺II	猪股座	岩崎17	(9.3)	-	(1.9)	回転ナ ダ	回転ヘラ削り	密	良好		23	
130	C16	-	NB3	14	672-2	直底器	水瓶	猪股座	東山15	-	-	(5.6)	回転ナ ダ	回転ヘラ削り後 手持ちヘラ削り	密	良好	外底周辺粘土 結着有	23	
131	C16	-	NB3	15-16	677-1	直底器	环身A	在地座	東山10伊 行	-	6.2	(3.9)	回転ナ ダ	回転ナダ	やや粗	良好		23	13
135	C17 AJ6	NB3	-	1571-1	直底器	环身C	猪股座	岩崎41	-	-	(1.4)	回転ナ ダ	回転ナダ、回転 ヘラ削り	密	良好	内面墨付有	23		
137	C17	-	NB5	3	1527-1	土師器	長柄甕	-	第2～3段 隔	(24.8)	-	(2.6)	ナダ ヨコハ ケ	ナダメハケ、指 押え	やや粗	良好		25	
138	C17	-	NB5	3	1518-3	土師器	長柄甕	-	第2～3段 隔	(20.1)	-	(2.1)	ヨコハ ケ	ナダ、ヨコナダ	やや粗	良好		25	
139	C17	-	NB5	3	1595-5	直底器	环身C	猪股座	岩崎25	(15.4)	-	3.4	回転ナ ダ	回転ナダ	密	良好		25	
140	C17	-	NB5	3	1595-3	直底器	环身A	猪股座	東山15～ 岩崎101	-	6.6	(2.1)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 回転ヘラ切り後 斜土削り	密	良好		25	
141	C17	-	NB5	3	1595-13	直底器	环身B	猪股座	岩崎25	(13.4)	(7.0)	4.1	回転ナ ダ	回転ナダ、底部 回転ヘラ削り	密	不良		25	
142	C17	-	NB5	3	1528-10	直底器	环身C	猪股座	高藏寺2	(21.7)	(4.9)	4.8	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 回転ヘラ削り。 船付高台	密	良好		25	
143	C17	-	NB5	3	1595-2	直底器	环身C	猪股座	高藏寺2	-	(11.2)	(1.3)	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り。底部 回転ヘラ削り。 船付高台	密	不良	内面墨着有 難解、軽く剥 離有	25	14
144	C17	-	NB5	3	1528-5	直底器	壺	猪股座	高藏寺2	-	(10.9)	(6.6)	回転ナ ダ	回転ナダ。静止 ヘラ削り。指押 え	密	良好		25	
145	C17	-	NB5	3	1528-3	直底器	横瓶	猪股座	岩崎41	-	-	(25.5)	ナダ 指押え	タガキ	密	良好		25	
146	C17	-	NB5	3	1529-11	直底器	环身B	美濃革垂 座	IV期-1	(14.4)	(8.6)	3.6	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 回転ヘラ切り	密	良好		25	
147	C17	-	NB5	3	1581-1	直底器	投瓶	美濃革垂 座	IV期-1	(12.0)	-	17.8	回転ナ ダ	回転ヘラ削り。 指押え	密	良好		25	14
148	C17	-	NB5	3	1595-9	直底器	环身A	在地座	東山10伊 行	(9.8)	-	(3.4)	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り	密	良好	新土器分多く 含む。細化夷 型有。器底 2.5mm方に 長い黄褐色、外 底2.5mmに 赤褐色	25	14

表21 土器観察表(7)

開拓番号	出土地点コード	名機名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	腹巻(内面)	腹巻(外面)	胎土	焼成	備考	拂田番号	因版番号	
149	C17	-	NBS	b-1	1497-1	須恵器	环身C	瓶投産	岩崎25 行	(14.8)	(10.8)	3.3	回転ナダ	回転ナダ。底面 ハラ削り。胎土 貼付高台	密	良好	内面擦付着	26	14
150	C17	-	NBS	3	1590-6	須恵器	环身C	不明	岩崎25 行	(15.2)	-	3.1	回転ナダ	回転ナダ。回転 ハラ削り。	密	良好	重ね焼き痕 有	26	14
151	C17	-	NBS	d-f	1502-1	須恵器	环身C	不明	岩崎25 行	(10.4)	(8.0)	3.7	回転ナダ	回転ナダ。回転 ハラ削り。底面 静止ナダ	やや 粗	良好	胎土やや暗い 火色を呈す	26	
163	C17	-	NBS	7	1553-1	土師器	長胴甕	-	第1段階	(25.4)	-	(6.3)	ナダ。 ヨコハ ケ。指 押え。	ナダ。ナタメハ ケ。	やや 粗	良好		27	
164	C17	-	NBS	x	1545-1	須恵器	环蓋A	瓶投産	東山44	(10.8)	-	(3.7)	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ハラ削り。	密	良好		27	14
165	C17	-	NBS	w-o	1533-1	須恵器	环蓋A	瓶投産	東山44	(11.4)	-	(3.6)	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ハラ削り。	密	良好		27	14
166	C17	-	NBS	r	1537-1	須恵器	环身A	瓶投産	東山44	10.8	-	4.5	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ハラ削り。	密	良好		27	14
167	C17	-	NBS	w-o	1533-2	須恵器	环身A	瓶投産	東山44	(11.6)	(6.2)	3.4	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ハラ削り。	密	良好		27	
168	C17	-	NBS	7	1558-1	須恵器	蓋	瓶投産	岩崎41	(11.8)	-	(4.9)	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ハラ削り強ナダ	密	良好	胎土から体部 膨張有、胎土 砂少なく緻 密で硬質	27	
169	C17	-	NBS	r	1539-1	須恵器	高坏	瓶投産	東山45	-	(9.8)	(5.3)	回転ナ ダ	回転ナダ	密	良好		27	14
179	C16	AC3	-	III	74-1	土師器	蓋	-	平田I ~ II	(14.0)	-	(5.2)	指押え	ナダ。指押え	やや 粗	不良		30	
180	C16	AD4	-	III	13-1	土師器	幾	-	東山72併 行	20.3	-	(6.3)	ナダ。 ヨコナ ダ。ヨ コハケ。 指押 え。	ナダ。指押え。 ハラ削り工具に よる丸方向静止 削り	やや 粗	良好		30	
181	C17	AJ6	-	III	1380-1	土師器	長胴甕	-	第2~3段 階	(21.3)	-	(2.1)	ナダ。 ヨコナ ダ。ヨ コハケ。 指押 え。	ナダ。ナタメハ ケ。指押え	やや 粗	良好		30	
182	C17	AB6	-	III	1384-1	須恵器	环蓋C	瓶投産	高麗寺2	(12.8)	-	(1.5)	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ハラ削り。	密	良好	内面擦剥 大	30	18
183	C17	AG6	-	III	1212-1	須恵器	环身B	瓶投産	岩崎25	-	7.6	(3.5)	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ハラ削り。	密	良好		30	
184	C17	AG6	-	III	1211-1	須恵器	环身C	瓶投産	高麗寺2	16.9	11.8	5.0	回転ナ ダ。底 部静止 ナダ	回転ナダ。底面 ハラ削り。胎土 貼付高台	密	良好	底部底部重ね 焼き有。胎土 硬質	30	14
185	C16	AD4	-	III	169-1	須恵器	長頸瓶	瓶投産	高麗寺2 ~32	-	(11.0)	(4.4)	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 ハラ削り。	密	良好	底部に深度0.5 ~1.5cmの剥 離孔	30	
186	C16	AD5	-	III	94-1	須恵器	林	瓶投産	高麗寺2	-	10.2	(5.0)	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 ハラ削り。	密	良好		30	14
187	C17	AB5	-	III	1412-1	須恵器	环身C	美濃須陶 度	IV期-2	-	(15.0)	(2.0)	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ハラ削り。胎付 高台	密	良好		30	
188	C16	AB5	-	III	220-11	須恵器	手付罐	美濃須陶 度	IV期-1~ IV期-3	-	-	(5.5)	ナダ	ナナメタキ後 削り。ナダ	密	良好		30	
189	C16	AD4	-	III	117-1	灰釉陶器	長頸瓶	東濃産	人頭2	-	-	(9.0)	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ハラ削り。	密	断面内底面 輪郭有		30	
190	C16	AC3	-	III	66-1	灰釉陶器	蓋	東濃産	丸62	(12.5)	6.7	4.3	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 切欠。胎付 高台	密	底面外面剥 離不能及 び崩壊有		30	19
191	C16	AC5	-	III	159-1	灰釉陶器	皿	東濃産	丸62	(12.2)	6.8	2.4	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 切欠。胎付 高台	密	底面外面に墨 書き(模波不能)		30	

表22 土器觀察表(8)

開拓番号	出土地点	グリッド	通様名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	土色	機成	備考	辨認番号	固版番号
192	C17	A14	-	Ⅲ	1302-1	山茶碗	鉢	美濃須陶 空	IX期	(29.6)	-	(3.8)	回転ナダ	回転ナダ	黒	良好		30	
193	C16	AB4	-	Ⅲ	227-1	山茶碗	鉢	東濃型	谷迫窯2	-	7.6	(2.1)	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転糸切。貼付 高台	やや 粗	良好	底部外面墨書き「大」。模版板	30	19
194	C16	AC4	-	Ⅲ	189-1	山茶碗	鉢	東濃型	谷迫窯2	-	(7.6)	(3.4)	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転糸切なし。 貼付高台	やや 粗	良好	底部外面墨書き (模版不 規)	30	
195	C17	AB5	-	Ⅲ	1391-1	山茶碗	鉢	東濃型	谷迫窯2	-	7.2	(2.7)	回転ナダ、 底部指正 糸切	回転ナダ。底部 回転糸切。貼付 高台	やや 粗	良好	底部外面墨書き「大」。底部内面 摩耗。模版板	30	
196	C16	AC5	-	Ⅲ	235-1	山茶碗	鉢	東濃型	谷迫窯2	-	(8.4)	(3.0)	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転糸切。貼付 高台	やや 粗	良好	底部外面墨書き (模版不 規)	31	
197	C16	AC5	-	Ⅲ	160-21	山茶碗	鉢	東濃型	谷迫窯2	-	(8.3)	(1.8)	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転糸切。板目 状正板。貼付 高台	やや 粗	良好	底部外面墨書き (模版不 規)	31	
198	C17	A16	-	Ⅲ	1406-1	山茶碗	高足高 台輪	東濃型	谷迫窯2	-	-	(5.4)	回転ナダ	回転ナダ。貼付 高足高台	やや 粗	良好		31	
199	C17	AB6	-	Ⅲ	1400-1	山茶碗	鉢	東濃型	浅間窯下 1	-	6.5	(3.7)	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転糸切。貼付 高台	黒	不良	底部外面墨書き (大)。模版 板	31	
200	C16	AC5	-	Ⅲ	272-1	山茶碗	鉢	東濃型	浅間窯下 1	-	(6.2)	(2.2)	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転糸切。貼付 高台	黒	良好	底部外面墨書き (-)。模版 板	31	
201	C16	AC5	-	Ⅲ	272-7	山茶碗	小皿	東濃型	浅間窯下 1	(9.0)	(4.0)	2.4	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転糸切	黒	良好		31	15
202	C17	AB4	-	Ⅲ	1289-1	山茶碗	鉢	東濃型	丸石3	-	(5.7)	5.5	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転糸切。貼付 高台	黒	良好	模版板	31	
203	C16	AD4	-	Ⅲ	202-1	山茶碗	小皿	東濃型	丸石3	8.1	4.7	2.3	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転糸切	黒	良好	底部外面使用 板	31	
204	C17	A16	-	Ⅲ	1580-1	山茶碗	小皿	東濃型	白土原1 ~明和1	7.9	4.8	1.4	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転糸切。板目 状正板	黒	良好	底部内面摩耗	31	
205	C17	A14	-	Ⅲ	1256-2	山茶碗	小皿	東濃型	明和1	8.0	5.6	1.6	回転ナダ、 底部 指正 糸切	回転ナダ。底部 回転糸切	黒	良好		31	
206	C17	A14	-	Ⅲ	1323-9	山茶碗	小皿	東濃型	大塚六個 4	-	(4.0)	(1.1)	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転糸切。板目 状正板	黒	良好	底部外面に墨 書き「」	31	
207	C17	A15	-	Ⅲ	1360-1	山茶碗	鉢	東濃型	大洞東1	(11.7)	(3.5)	3.1	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転糸切。貼付 高台	黒	良好	底部外面墨書き (十)。模版 板	31	
208	C17	A14	-	Ⅲ	1256-1	山茶碗	小皿	東濃型	大洞東1	-	5.0	(0.4)	回転ナダ	回転ナダ 糸切	黒	良好	底部外面墨書き (-)	31	
209	C17	A14	-	Ⅲ	1257-1	古瓶	灰釉平 輪	-	後Ⅱ期～ 後Ⅲ期	(16.7)	-	(4.0)	回転ナダ	回転ナダ	黒	良好	内外底面灰施 輪。(下くぼ入あり 底緑色)	31	
210	C17	A14	-	Ⅲ	1257-2	古瓶	灰釉平 輪	-	後Ⅱ期	(16.3)	-	(4.0)	回転ナダ	回転ナダ	黒	良好	体部内面上半 から内面に薄く 灰施	31	
211	C17	AB5	-	Ⅲ	1283-1	古瓶	鐵釉天 日茶碗	-	後Ⅱ期～ 後Ⅲ期	(12.0)	-	(2.7)	回転ナダ	回転ナダ	黒	良好	内外底面灰施 輪。褐色の鐵釉施 輪	31	
212	C17	AB4	-	Ⅲ	1279-1	古瓶	鐵輪	-	後Ⅳ期古 ～新	-	(11.8)	(5.0)	回転ナダ	回転ナダ 糸切	黒	不良	輪釉全面施 輪	31	
213	C17	A15	-	Ⅲ	1265-1	古瓶	鐵輪	-	後Ⅳ期	(30.7)	-	(3.4)	回転ナダ	回転ナダ	黒	良好	内外底面に茶 褐色の鐵釉施 輪	31	
214	C17	A15	-	Ⅲ	1262-1	古瓶	青花 花瓶	-	後Ⅰ期～ 後Ⅳ期	(4型式併 行)	-	(5.0)	回転ナダ	回転ナダ。回転 ヘラ刷り	黒	良好	鐵釉施輪	32	
215	C17	A15	-	Ⅲ	1265-2	寶昌陶器	白磁玉 經輪	-	花瓶型第 4型式併 行	(16.8)	-	(3.0)	回転ナダ	回転ナダ。回転 ヘラ刷り	黒	良好	内外底面に施輪	32	

表23 土器観察表(9)

開拓番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種類	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	腹巻(内面)	腹盤(外面)	抽土	焼成	備考	博認番号	回収番号	
216	C16	AD4	-	Ⅲ	120-3	貿易陶器 29	白磁玉 錐	-	瓦形型第 4型式併 行	-	(7.2)	(2.0)	回転ナ ダ	回転ナ ダヘラ削り	密	良好		32		
217	C16	AB5	-	Ⅲ	241-2	貿易陶器 29	白磁玉 錐	-	瓦形型第 4型式併 行	-	6.7	(2.6)	回転ナ ダ	回転ナ ダヘラ削り	密	良好	内面施釉、内 面ヘラ削り沈 縫1条有	32		
218	C16	AC5	-	Ⅲ	273-1	貿易陶器 29	白磁錐	-	瓦形型第 4型式併 行	-	(5.9)	-	(5.1)	回転ナ ダ	回転ナ ダヘラ削り	密	良好	内外面に施釉	32	
219	C17	AJ4	-	Ⅲ	1324-1	貿易陶器 29	青磁錐 錐	錐底深窓 6~7型式併 行	-	-	-	(1.9)	回転ナ ダ	回転ナ ダヘラ削り	密	良好	近距離に青 磁錐錐、底部 内面使用痕	32		
224	C16	AC3	-	I-II	25-1	土器部	漢型 錐	-	I段階-2	(22.6)	-	(5.7)	ナダ	ナダ、指押丸、 やや相	良好			32		
225	C16	-	-	II	9-1	火候陶器 錐	陶	東濃產	明和27	-	7.3	(3.0)	回転ナ ダ	回転ナ ダ切、貼付 高台	密	良好			32	
226	C16	AC3	-	II	68-1	火候陶器 錐	陶	東濃產	明和27	(15.7)	(7.5)	5.9	回転ナ ダ	回転ナ ダ切、貼付 高台	密	不良			32	
227	C16	-	-	II	9-5	山茶碗	小豆	瓦型	第5型式	-	4.6	(1.6)	回転ナ ダ、底 部中央 斜 止ナダ	回転ナ ダ切、貼付 高台	やや相	良好	近距離に墨書 「人」	32	19	
228	C16	AA4	-	II	73-2	山茶碗	四足立 高脚	高脚高脚 型	IX期	(9.3)	-	(4.5)	回転ナ ダ	回転ナ ダ	密	良好	胎土黄褐色	32		
229	C16	-	-	II	8-1	山茶碗	小豆	瓦型	谷追間2	(8.4)	4.0	2.9	回転ナ ダ	回転ナ ダ切、貼付 高台	やや相	良好	内面全体墨 跡(最上絞での 重複絞)	32		
230	C16	AA4	-	II	209-1	大衆製品	盆鉢	-	第2段階	(26.6)	-	(3.6)	回転ナ ダ	回転ナ ダ	密	良好	緑全表面釉	32		
231	C16	AC4	-	埋乱	130-10	土師器	平底甕	-	松戸口I ~平田口I	(13.2)	-	(3.9)	ナダ、 指押丸	ナダ、指押丸	粗	不良		33		
232	C16	AC4	-	埋乱	146-1	土師器	高杯	-	松戸口I ~II	-	-	(7.8)	ナダ	ナダ、指押丸	密	不良	外側一部赤色 変色	33		
233	C16	AC4	-	埋乱	138-2	土師器	大型高 杯	-	松戸口II ~宇田口I	(17.6)	-	(5.7)	ナダ	ナダ、指押丸	密	不良		33		
234	C16	AC4	-	埋乱	138-1	土師器	漢型 錐	-	I段階-5	(20.1)	-	(12.2)	ナダ	ナダ、指押丸	やや相	良好		33		
235	C16	AC4	-	埋乱	130-1	土師器	漢型 錐	-	II段階-2	(19.8)	(6.0)	ナダ、 板ナダ	ナダ、指押丸	やや相	良好		33	14		
236	C16	AB3	-	埋乱	130-6	土師器	漢型 錐	-	II段階-2	(17.6)	-	(5.0)	ヨコナ ダ、板 ナダ、 指押丸	板ナダ、指押丸	密	良好		33		
237	C16	AC4	-	埋乱	130-11	土師器	伊勢型 錐	-	I期-3 II期-1	(22.4)	-	(2.0)	ヨコナ ダ	ヨコナ ダ	やや相	良好		33		
238	C16	AC4	-	埋乱	140-42	火候陶器 錐	陶	東濃產	虎尾山I	(13.1)	(7.1)	2.6	回転ナ ダ	回転ナ ダヘラ削り、貼付 高台	密	良好		33		
239	C16	AC4	-	埋乱	140-15	火候陶器 錐	陶	東濃產	虎尾山I	13.5	-	(1.9)	回転ナ ダ	回転ナ ダ	密	不良		33		
240	C16	AC4	-	埋乱	147-1	火候陶器 錐	陶	東濃產	丸石2	(13.5)	6.3	5.2	回転ナ ダ	回転ナ ダ切、貼付 高台	密	良好	内面底絞着	33	15	
241	C16	AC4	-	埋乱	140-2	火候陶器 錐	陶	東濃產	丸石2	12.3	7.4	4.5	回転ナ ダ	回転ナ ダ切、貼付 高台	密	良好		33	15	
242	C16	AC4	-	埋乱	132-2	火候陶器 錐	陶	東濃產	丸石2	-	6.9	(4.9)	回転ナ ダ	回転ナ ダ切、貼付 高台	密	良好	近距離に墨書 「人」	33	19	
243	C16	AC3	-	埋乱	129-1	火候陶器 錐	陶	東濃產	丸石2	11.7	6.3	2.5	回転ナ ダ	回転ナ ダ切、貼付 高台	密	良好		33		

表24 土器観察表(10)

開拓番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	様式	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調量(内面)	調量(外面)	油土	焼成	備考	辨認番号	回収番号	
244	C16	AC4	-	埋乱	141-3	灰釉陶器	皿	東濃產	丸石2	(11.7)	6.6	2.4	回転ナダ	底面 凹凸切、貼付 高台	密	不良	焼成不良のた の底板ライン 不明瞭	33		
245	C16	AC4	-	埋乱	132-14	灰釉陶器	皿	東濃產	丸石2	(11.1)	5.2	2.5	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 凹凸切。植物 状痕	密	良好		33		
246	C16	AC4	-	埋乱	140-12	灰釉陶器	段皿	東濃產	丸石2	(11.7)	(6.6)	2.7	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 凹凸切。貼付 高台	密	不良	灯明蓋として 利用か。	33		
247	C16	AB3	-	埋乱	136-1	灰釉陶器	折縁皿	東濃產	丸石2	(10.3)	5.7	2.2	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 凹凸切回転ナ ダ。貼付高台	密	良好		33		
248	C16	AC4	-	埋乱	132-4	灰釉陶器	小碗	東濃產	丸石2~ 3切27		12.6	6.4	4.3	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 凹凸切。貼付 高台	密	良好		33	15
249	C16	AB4	-	埋乱	140-1	灰釉陶器	碗	東濃產	明和27	14.3	6.2	5.5	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 凹凸切。貼付 高台	密	良好	内面擦付着	33	15	
250	C16	AC4	-	埋乱	132-7	灰釉陶器	碗	東濃產	明和27	(14.6)	7.0	6.1	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 凹凸切回転ナ ダ。貼付高台	密	良好		33	15	
251	C16	AC4	-	埋乱	133-31	灰釉陶器	小碗	東濃產	明和27	12.0	5.8	3.8	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 凹凸切回転ナ ダ。貼付高台	密	不良		33	15	
252	C16	AC4	-	埋乱	140-1	灰釉陶器	小碗	東濃產	西板3	-	5.3	(1.7)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 凹凸切。貼付 高台	密	良好	内面擦付着	33		
253	C16	AC4	-	埋乱	132-35	灰釉陶器	段皿	旅投産	黒谷90	(15.6)	-	(1.7)	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ナダ付	密	良好	体部内外面回 転崩れ着け	33		
254	C16	AC4	-	埋乱	132-3	灰釉陶器	碗	旅投産	百代寺	14.6	6.9	4.9	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 凹凸切回転ナ ダ。貼付高台	密	不良	底部内面重ね 燒き痕	34	15	
255	C16	AC3	-	埋乱	128-2	山茶碗	碗	尾張型	第4型式	-	7.8	(2.4)	回転ナ ダ、底 部中央 斜削ナ ダ	回転ナダ。底面 凹凸切。貼付 高台	やや 粗	良好	桙骨痕	34		
256	C16	AC4	-	埋乱	133-25	山茶碗	碗	尾張型	第5型式	-	(7.6)	(2.6)	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 凹凸切。貼付 高台	やや 粗	良好	底部外側 黒斑	34		
257	C16	AC4	-	埋乱	133-32	山茶碗	碗	美濃県御 賀型	15期	15.2	7.0	6.2	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 凹凸切。貼付 高台	密	不良	無精	34	15	
258	C16	AC4	-	埋乱	133-27	山茶碗	梅花碗	東濃型	矢戸上野 2	16.0	7.0	6.1	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 凹凸切。貼付 高台	密	良好	桙骨痕	34		
259	C16	AC3	-	埋乱	128-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫窓2	-	7.6	(3.8)	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 凹凸切。貼付 高台	密	良好	底部内面黒化 植物痕	34		
260	C16	AC3	-	埋乱	129-2	山茶碗	碗	東濃型	谷迫窓2	-	7.3	(4.2)	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 凹凸切。貼付 高台	密	良好	桙骨痕	34		
261	C16	AC4	-	埋乱	133-24	山茶碗	碗	東濃型	谷迫窓2	-	7.7	(3.3)	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 凹凸切。貼付 高台	やや 粗	良好	底部外側 黒斑「ト」	34		
262	C16	AC4	-	埋乱	133-7	山茶碗	小碗	東濃型	谷迫窓2	10.2	4.6	3.7	回転ナ ダ、底 部相汪 痕	回転ナダ。底面 凹凸切。貼付 高台	密	不良		34		
263	C16	AC3	-	埋乱	115-2	山茶碗	碗	東濃型	浅間窓下 1	14.4	7.6	6.5	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 凹凸切。贴目 状正、貼付高 台	密	良好	底部内面中央 小突起有、内 面擦付着、桙 骨痕	34	15	
264	C16	AC4	-	埋乱	141-1	山茶碗	小碗	東濃型	浅間窓下 1~3.63	10.9	5.1	2.1	回転ナ ダ	回転ナダ。底面 凹凸切	密	良好	平高台有	34	15	

表25 土器観察表(11)

番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	腹(内面)	縁(外面)	油土	焼成	備考	排回番号	因版番号	
265	C16	AC3	-	鹿丘	88-1	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	(15.8)	(7.6)	5.4	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪ホラ削り。胎付高台	密	良好	緑釉灰	34		
266	C16	AC3	-	鹿丘	115-3	山茶碗	碗	東濃型	窓附	14.8	5.8	5.4	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪ホラ削り。胎付高台	密	良好	内面進行着。胎土結構精緻、板状質	34	15	
267	C16	AC4	-	鹿丘	134-1	常滑	甕	-	1a~5型式	-	(13.9)	(11.7)	ナダ	ヨコナダ。無い	凹輪底。底部砂目底	密	良好	洗きぬ陶器	34	
268	C16	AC4	-	鹿丘	84-2	常滑	甕	-	1b~4型式	-	-	(11.4)	板ナダ	ナダ	密	良好	体外選擇印文有	34		
270	C18	-	SB1-SF1	a	956-1	須恵器	环身C	瓶投産	高瀬寺2	-	(11.0)	(1.6)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。凹輪ヘラ削り。胎付高台	密	良好		35		
271	C18	-	SB1-SF2	a	1108-2	須恵器	环身C	瓶投産	岩崎41	(14.7)	(9.7)	4.1	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪ヘラ削り。胎付高台	密	良好		35		
272	C18	-	SB1-SF4	b	1097-1	須恵器	环身A	瓶投産	東山44	-	-	(1.5)	凹輪ナダ	凹輪ナダ	密	良好		35		
275	C18	-	SB2	c-d	1107-3	須恵器	高坪	瓶投産	東山15	-	(9.8)	(3.4)	凹輪ナダ	凹輪ナダ	密	良好	胎土埋灰色全見	38		
278	C18	-	SB2	c-d	1130-1	土師器	平底甕	-	平田1	(16.3)	-	(8.0)	板ナダ、ヨコナダ、ハケ、押さえ	ナダ、ナナメハケ	やや粗	良好		38		
279	C18	-	SB2	c-d	1130-2	土師器	平底甕	-	平田1	(16.3)	-	(8.5)	板ナダ、ヨコナダ、ハケ、押さえ	ナダ、ナナメハケ	やや粗	良好		38		
280	C18	-	SB2	c-d	1130-5	土師器	く字甕	-	平田1	(17.8)	-	(3.1)	ヨコハケ、角押さえ	ヨコナダ、ハケ	やや粗	良好		38		
281	C18	-	SB2	a-b	1129-1	須恵器	高坪	瓶投産	東山15	(13.8)	-	(5.4)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。凹輪ヘラ削り	密	良好		38		
282	C18	-	SB2	2	1133-1	須恵器	环身A	瓶投産	東山44	(11.7)	-	4.3	凹輪ナダ	凹輪ナダ。凹輪ヘラ削り	密	良好		38	16	
283	C18	-	SB2	a-b	1099-3	須恵器	环身A	瓶投産	東山44	(11.7)	-	(3.7)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。凹輪ヘラ削り	密	良好		38		
284	C18	-	SB2	a	1119-1	須恵器	环身A	瓶投産	東山44	(11.4)	-	3.8	凹輪ナダ	凹輪ナダ。凹輪ヘラ削り	密	良好		38		
285	C18	-	SB2	a-b	1099-2	須恵器	环身A	瓶投産	桜ヶ池	(13.0)	-	(3.4)	凹輪ナダ	凹輪ナダ	密	良好		38		
286	C18	-	SB2	a-b	1099-1	須恵器	环身A	瓶投産	東山15	(10.0)	-	(3.8)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。凹輪ヘラ削り	密	良好		38	16	
287	C18	AP4	-	III	1039-1	土師器	バレット	-	脚間I~II	(23.5)	-	(5.0)	ナダ	タテハケ	やや粗	不良	内面黒文3条、内面赤彩係5に残る	40	16	
288	C18	AQ7	-	III	1055-8	須恵器	环身A	瓶投産	東山44	(12.5)	-	(3.0)	凹輪ナダ	凹輪ナダ	密	良好		40		
289	C18	AQ6	-	III	1049-3	須恵器	环身B	瓶投産	岩崎17	(10.2)	-	(1.6)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。凹輪ヘラ削り	密	良好		40		
290	C18	AQ6	-	III	1069-14	須恵器	环身B	瓶投産	高瀬寺2	(13.8)	-	(3.6)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪ヘラ削り	密	良好	外側墨書き「小」、「碧」	40	19	
291	C18	AQ6	-	III	909-1	須恵器	环身B	小环身C	瓶投産	高瀬寺2~船海32	-	-	(2.3)	凹輪ナダ	凹輪ナダ	密	不良	底部外面墨書き「口部」	40	19
292	C18	AQ6	-	III	1069-10	須恵器	环身C	瓶投産	高瀬寺2~船海32	-	(8.8)	(2.6)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。底部凹輪ヘラ削り。胎付高台	密	良好		40		
293	C18	AP5	-	III	1041-1	須恵器	环身C	瓶投産	高瀬寺2~云母25	-	(9.4)	(1.3)	凹輪ナダ	凹輪ナダ。凹輪ヘラ削り。底部凹輪ヘラ削り。胎付高台	密	良好	輪州斑の使用有	40	16	

表26 土器觀察表 (12)

開拓番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	様式	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	腹盤(内面)	脚盤(外面)	土色	備考	備考	掉査番号	固査番号
294	C18	AP6	-	Ⅲ	898-1	須恵器	环身C	盤投壺	高麗寺2～鬼面32	-	(9.3)	(0.9)	回転ナダ	底部回転ヘラ削り、貼付高台	褐	良好	底部外腹黒帯(祝波不能)、底部外腹ヘラ抹平、沈没2条有	40	19
295	C18	AP5	-	Ⅲ	1041-5	須恵器	平瓶	盤投壺	高麗寺2	-	(17.7)	(7.9)	回転ナダ	回転ナダ、回転ヘラ削り	褐	良好	内部全体空気膨脹による圓凸有	40	
296	C18	AG6	-	Ⅲ	1069-2	須恵器	長頸瓶	盤投壺	船形32	(9.8)	-	(4.8)	回転ナダ	回転ナダ	褐	良好		40	
297	C18	AP6	-	Ⅲ	906-1	須恵器	長頸瓶	盤投壺	船形32	6.8	-	(7.7)	回転ナダ	回転ナダ	やや褐	良好		40	16
298	C18	AB5	-	Ⅲ	894-1	須恵器	环身B	夷遺葉面壺	IV期-1～IV期-3	-	(6.7)	(3.6)	回転ナダ	回転ナダ、底部回転ヘラ削り	褐	不良		40	
299	C18	AP6	-	Ⅲ	988-1	須恵器	鉢	夷遺葉面壺	IV期-3	-	6.6	(2.0)	回転ナダ	回転ナダ、底部回転ヘラ削り	褐	良好	底部外腹黒帯(×)、調整粗錐	40	18
300	C18	AB7	-	Ⅲ	1159-1	山茶碗	碗	束縫型	谷追間2	16.2	7.4	4.6	回転ナダ	回転ナダ、底部回転ヘラ削り	やや粗	良好	底部内腹摩耗、脱脂灰	40	
301	C18	AG5	-	Ⅲ	878-1	山茶碗	碗	束縫型	丸石3	-	(5.8)	(4.5)	回転ナダ	回転ナダ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	褐	良好	模倣灰	40	
302	C18	AP4	-	Ⅲ	898-1	山茶碗	碗	束縫型	明和1	-	4.7	(2.2)	回転ナダ	回転ナダ、底部回転ヘラ削り、放目状正灰、貼付高台	褐	良好	模倣灰	40	
303	C18	AP5	-	Ⅲ	835-1	山茶碗	小皿	束縫型	大腹六割4～大谷割14	(8.0)	(6.0)	1.0	回転ナダ	回転ナダ、底部回転ヘラ削り	褐	良好	底部外腹黒帯(祝波不能)	40	
304	C18	AP5	-	Ⅲ	892-1	山茶碗	碗	尾張型	第5型式	-	6.1	(2.4)	回転ナダ	回転ナダ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	やや粗	良好	模倣灰	40	
305	C18	AP5	-	Ⅲ	835-2	山茶碗	片口鉢	尾張型	第10型式	(27.8)	-	(3.8)	回転ナダ	回転ナダ	やや粗	良好		40	
306	C18	AG5	-	Ⅲ	879-1	古窯II	灰輪平瓶	-	後IV期	-	(5.4)	(3.8)	回転ナダ	回転ナダ、底部回転ヘラ削り	褐	良好	内面全体灰暗輪(火炎ある焼成黄灰色)	40	
307	C19	-	S23	a	1762-1	古窯II	直縫大皿	-	後III期～後IV期	-	(15.5)	(5.0)	回転ナダ	回転ヘラ削り、底部回転糸切	褐	良好		41	
308	C19	-	S23	c	1781-1	大業製品	天日茶碗	-	第3段階	(11.3)	-	(3.1)	回転ナダ	回転ナダ	褐	良好	内面外腹黒帯	41	
309	C19	-	S23	e-f	2270-1	登美製品	水指舟	-	第1段階	11.4	-	2.4	回転ヘラ削り	回転ナダ	褐	良好	外腹ヘラ削り2条有、外腹(上面)に繊維状施釉、その後灰流し	41	16
310	C19	-	S23	b	1773-1	登美製品	香炉	-	第1段階	(17.0)	-	(3.5)	回転ナダ	回転ナダ	やや粗	良好	体部外腹黒帯	41	
311	C19	-	S23	b-i	1903-1	須恵器	环身C	夷遺葉面壺	IV期-3	-	(10.0)	(1.3)	回転ナダ	回転ナダ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	褐	良好		41	
312	C19	-	S23	f-g	1893-1	山茶碗	小皿	束縫型	大腹六割4	7.7	5.2	1.7	回転ナダ	回転ナダ、底部回転ヘラ削り	褐	良好	底部内腹摩耗	41	
313	C19	-	S23	f-g	1898-2	登美製品	精輪灰流し碗	-	第1段階	(11.5)	-	(4.8)	回転ナダ	不詳	褐	良好		41	16

表27 土器観察表(13)

調査 番号	出土 地点	グリ ッド	遺構 名	層 位	取上 番号	種 別	器 種	産地等	分類等	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調 整 (内面)	調 整 (外 面)	土 色	状 成	備 考	辨認 番号	因縁 番号
314	C19	-	S03	-	2319-2	大室製品	志野丸 皿	-	形4深皿	(11.1)	(6.6)	2.3	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ、底面 凹輪ナ ダ削り	密	良好	長石熱全面施 釉	41	16
315	C19	-	S03	-	2319-1	登紫製品	縦部削 向付	-	第1設置	-	-	(6.3)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ	密	良好	鉄錆斑長石輪 施釉。その後 脚跡削済し器 口	41	16
316	C19	B08	S04	e-f	2119-3	須恵器	环唇A	旗投產	東山15	(12.0)	-	(3.1)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ、凹輪 ナヘラ削り	密	良好		43	
317	C19	B08	S04	e-f	2143-2	須恵器	环唇C	旗投產	岩崎25	-	-	(2.4)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ、凹輪 ナヘラ削り	密	不良	内面摩耗	43	
318	C19	B08	S04	e-f	2143-3	須恵器	环身C	旗投產	岩崎41	-	(13.3)	(3.1)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ、凹輪 ナヘラ削り。點付	密	良好		43	
319	C19	B08	S04	e-f	2114-1	須恵器	环身C	旗投產	岩崎25	-	(11.9)	(1.5)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ、底部 凹輪ナ ダ削り。 點付高台	密	良好		43	
320	C19	B08	S04	e-f	2155-6	須恵器	环身C	旗投產	岩崎25～ 崎海32	-	(9.6)	(1.6)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ、凹輪 ナヘラ削り。點付	密	良好		43	
321	C19	B08	S04	e-f	2155-2	須恵器	盤	旗投產	岩崎25	-	-	(2.4)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ、凹輪 ナヘラ削り。底部 凹輪ナ ダ削り。 點付高台	密	良好		43	
322	C19	B08	S04	e-f	2155-3	須恵器	盘	旗投產	高麗寺2	(16.2)	-	(6.8)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ、凹輪 ナヘラ削り	密	良好		43	
323	C19	B08	S04	e-d	2275-1	須恵器	盤	旗投產	岩崎25	(18.3)	-	(5.1)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ。タタ キ	密	不良		43	
324	C19	B07	S04	a-f	2183-1	須恵器	長頸瓶	旗投產	崎海32～ 折戸10	-	(7.8)	(3.8)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ、凹輪 ナヘラ削り。底部 凹輪ナ ダ削り。 點付高台	密	良好		43	
325	C19	B07	S04	e-f	2136-1	須恵器	环身C	美濃須彌 座	IV期-3	-	(6.1)	(1.8)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ切欠	やや 粗	不良	調整板剥 離	43	
326	C19	B08	S04	e-f	2179-2	須恵器	环身C	美濃須彌 座	III期-3	-	(11.3)	(3.5)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ、凹輪 ナヘラ削り。底部 凹輪ナ ダ削り。 點付高台	密	良好	内面摩耗	43	
327	C19	B08	S04	a-h	1934-3	須恵器	环身C	美濃須彌 座	III期-3	-	(11.3)	(1.4)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ、凹輪 ナヘラ削り。底部 凹輪ナ ダ削り。 點付高台	密	良好		43	
328	C19	B08	S04	a-b	1934-7	須恵器	环身C	美濃須彌 座	III期-3	-	(9.9)	(1.5)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ削り。 點付高台	密	良好		43	
329	C19	B08	S04	a-j	1972-1	須恵器	环身C	美濃須彌 座	IV期-3	-	(8.7)	(2.1)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ、凹輪 ナヘラ削り。底部 凹輪ナ ダ削り。 點付高台	密	良好	内面摩耗	43	
330	C19	B08	S04	c-d	2436-1	火耕陶器	罐	東濃產	大原2	12.4	6.4	4.1	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ、底部 凹輪ナ ダ削り。 底部 凹輪ナ ダ削り後 凹輪ナ ダ。點付	密	良好	内外面縁部 から体部及び 高台部無剥離 毛剥け	43	
331	C19	B08	S04	e-f	2144-1	火耕陶器	罐	東濃產	虎渕山1	-	(6.8)	(2.7)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ切欠後削 い ナ。點付高台	密	不良		43	
332	C19	B07	S04	a-b	1870-1	火耕陶器	罐	東濃產	丸62	-	(7.7)	(2.6)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ。底部 凹輪ナ ダ削り。點付	密	良好		43	
333	C19	B06	S04	e-d	2198-1	火耕陶器	罐	東濃產	西坂1	-	(6.6)	(3.0)	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ。底部 凹輪ナ ダ削り。	密	良好		43	
334	C19	B07- 8	S04	g-h	2084-2	山系罐	小罐	東濃型	知立上野 2	(12.0)	(5.4)	3.0	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ切欠。底部 凹輪ナ ダ削り。點付	密	良好	粗粒底	43	
335	C19	B08	S04	e-f	2181-1	山系罐	罐	東濃型	大須東1	11.8	3.0	3.2	凹輪ナ ダ	凹輪ナ ダ切欠。底部 凹輪ナ ダ削り。點付	密	良好		43	16

表28 土器観察表 (14)

査定番号	出土地点	グリッド	通様名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	縁幅(cm)	調査面(内面)	油土	焼成	備考	掉面番号	底面番号
336	C19	B58	S24	a-b	1936-1	山茶碗	碗	変造型	大深口	(11.4)	(3.2)	3.6	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転み切。船付 高台	密	良好	板状底	43	
337	C19	B56	S24	c-d	2029-1	山茶碗	碗	変造型	脇之鳥3	(11.8)	(5.3)	2.6	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転み切。板目 状底板	密	良好		43	
338	C19	B57	S24	e-f	2136-2	山茶碗	碗	変造型	生田2	(10.0)	(4.3)	2.9	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転み切	密	良好		43	
339	C19	B56	S24	c-d	2199-1	山茶碗	碗	変造型	生田2	(10.4)	(4.0)	2.4	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転み切	密	良好		43	
340	C19	B57	S24	e-f	2248-1	古窯戸	折縁深皿	-	後Ⅱ期～ 後Ⅲ期	(33.0)	-	(4.9)	回転ナダ	回転ナダ	密	良好	内外面に灰釉 施釉(光沢質 あり)黄灰 色灰土	43	
341	C19	B57	S24	e-f	2089-1	古窯戸	直縁大皿	-	後Ⅱ期	(31.2)	-	(3.3)	回転ナダ	回転ナダ	密	良好		43	
342	C19	B57	S24	a-f	2186-2	中国製白 磁五瓣碗	-	A群	(16.9)	-	(2.3)	回転ナダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り	密	良好		43	16	
343	C19	B56	S24	c-d	1862-1	中国製白 磁碗	-	E群	(15.3)	-	(1.7)	回転ナダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り	密	良好	内外面施釉	43	16	
344	C19	B58	S24	e-f	2241-1	中国製青 磁碗	粗足要系	D類	(14.6)	-	(5.3)	回転ナダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り	密	良好	輪脚中心空化 を帯びる	43	16	
345	C19	B58	S24	a-j	1975-1	中国製青 磁碗	青磁碗	同窯系	H類	-	-	(2.4)	回転ナダ	施釉のため不詳	密	良好	内外面青磁 施釉、内面片 切り裏り繩摺 花文有	43	16
346	C19	B58	S26	a-b	2408-6	土師器	加賀益	-	昭和I～ II	(15.0)	-	(1.5)	ナダ	ナダ	密	不良	全体に摩耗 有り	45	
347	C19	B55	S26	a-b	2408-2	土師器	甕	-	平成Ⅱ～ 横町	-	-	(2.5)	ヨコナ ダ	ナダ。指押え	粗	不良		45	
348	C19	B58	S26	c-d	2426-1	土師器	長柄甕	-	第2～3段 間	(17.6)	-	(4.2)	ヨコハ ケ	タハケ、指押 え	粗	不良		45	
349	C19	B58	S26	a-b	2433-1	土師器	長柄甕	-	第2～3段 間	(17.3)	-	(3.0)	ヨコハ ケ	ナダ。指押え	粗	不良		45	
350	C19	B56	S26	a-b	2244-1	須恵器	环形B	瓶投壺	岩崎101	-	-	(2.4)	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り	密	良好		45	
351	C19	B58	S26	a-b	2409-3	須恵器	环形C	瓶投壺	岩崎41	(14.6)	-	4.6	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り	密	良好		45	
352	C19	B58	S26	c-d	2424-1	須恵器	环形C	瓶投壺	高藏寺2～ 岩崎25	-	-	(1.9)	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り	やや 粗	良好		45	
353	C19	B58	S26	c-d	2427-9	須恵器	环身A	瓶投壺	岩崎101～ 岩崎17	(9.2)	-	(3.0)	回転ナ ダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り	密	良好		45	
354	C19	B58	S26	a-b	2409-5	須恵器	环身C	瓶投壺	高藏寺2～ 岩崎25	-	(14.2)	(2.7)	回転ナ ダ	回転ナダ。同転 ヘラ削り。底部 回転ヘラ削り。 船付高台	密	良好		45	
355	C19	B58	S26	a-b	2409-8	須恵器	环身C	瓶投壺	高藏寺2～ 岩崎25	-	(14.6)	(2.9)	回転ナ ダ	回転ナダ。同転 ヘラ削り。底部 回転ヘラ削り。 船付高台	密	良好		45	
356	C19	B58	S26	a-b	2375-1	須恵器	环身C	瓶投壺	高藏寺2～ 岩崎25	-	(12.3)	(2.4)	回転ナ ダ	回転ナダ。同転 ヘラ削り。底部 回転ヘラ削り。 船付高台	密	良好		45	
357	C19	B57	S26	a-b	2297-2	須恵器	盤	瓶投壺	高藏寺2～ 岩崎25	-	-	(1.8)	回転ナ ダ	回転ナダ。同転 ヘラ削り。底部 回転ヘラ削り。 船付高台	密	良好	脚部外側ヘラ 摺擦痕有	45	
358	C19	B58	S26	a-b	2409-1	須恵器	長柄瓶	瓶投壺	船山32	-	(8.4)	(5.1)	回転ナ ダ	回転ナ ダ	密	良好		45	
359	C19	B58	S26	a-b	2409-10	須恵器	盤	瓶投壺	岩崎41～ 高藏寺2	(33.3)	-	(3.4)	回転ナ ダ	回転ナ ダ	密	良好		45	
360	C19	B58	S26	c-d	2428-1	須恵器	碗	変造型	虎尾山1	(15.8)	(8.7)	5.0	回転ナ ダ	回転ナ ダ	密	良好		45	

表29 土器観察表(15)

開拓番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	腹巻(内面)	腹巻(外面)	胎土	焼成	備考	種別番号	因版番号
361	C19	B88	S96	a-b	2310-2	灰釉陶器	罐	東濃型	丸石2	(12.9)	(6.8)	3.9	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、底面 高台	密	良好		45	
362	C19	B88	S96	c-d	2356-2	山茶碗	碗	尾張型	第5型式	-	(7.3)	(2.1)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、底面 高台切、貼付	やや 粗	良好	板盤底	45	
363	C19	B77	S96	a-b	2455-1	山茶碗	碗	東濃型	浅腹窓下 1	-	6.0	(2.5)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、底面 高台切、蓋付 压痕、貼付高台	密	良好	体部に粘土貼 付による補修痕、 斜修正	45	
364	C19	B87	S96	e-f	2726-1	山茶碗	碗	東濃型	窓原1	-	(5.0)	(2.3)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、底面 高台切、板口 状痕痕、贴付高 台	密	良好	底部外面墨書き 「十三」、移設 痕	45	
365	C19	B88	S96	c-d	2356-1	山茶碗	碗	東濃型	白土原1	-	(5.8)	(2.7)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、底面 高台切、板口 状痕痕、系縄、 贴付高台	密	不良	底部外面墨書き (史密不能)、 移設痕	45	
366	C19	B87	S96	e	2600-1	山茶碗	小豆	東濃型	明知1	8.2	4.6	1.7	回転ナデ ⁺ ダ、 底部静止 状痕	回転ナデ ⁺ 、底面 高台切、板口 状痕痕	密	良好		45 17	
367	C19	B77	S96	g-l	2548-1	山茶碗	碗	東濃型	大谷原14	(14.6)	(4.8)	4.9	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、底面 状痕痕、板口 状痕痕、贴付高 台	密	良好	板盤底	45	
369	C19	-	S97	k-n	3814-1	土師器	く字壺	-	松河戸1	(19.0)	-	(2.3)	ナデ ⁺ ヨコハケ	ヨコナデ ⁺	粗	不良		47	
370	C19	-	S97	5-6	2942-1	土師器	土師25 皿	-	尾張型 6型式併 行	(12.7)	7.2	2.8	回転ナデ ⁺ ダ、静 止ナデ ⁺	回転ナデ ⁺ 、指押 印	密	良好		47	
371	C19	-	S97	k-n	2815-1	須恵器	环身C	旗投座	高瀬寺2	(16.6)	-	3.5	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、回転 ヘラ削り	密	良好		47	
372	C19	-	S97	k-n	2829-23	須恵器	环身C	旗投座	高瀬寺2 ~高瀬32	(11.7)	-	(1.7)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、柯輪 ヘラ削り	密	良好		47	
373	C19	-	S97	k-n	3841-3	須恵器	环身C	旗投座	岩崎25	(13.8)	(10.5)	3.6	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、回転 ヘラ削り、底部 回転ヘラ削り、 贴付高台	密	良好		47	
374	C19	-	S97	k-n	2829-26	須恵器	环身C	旗投座	岩崎32	-	(11.6)	(1.6)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、回転 ヘラ削り、底部 回転ヘラ削り、 贴付高台	密	良好		47	
375	C19	-	S97	g-j	2805-1	須恵器	林	旗投座	岩崎21~ 岩崎25	-	(17.0)	(1.6)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、 回転ヘラ削り	密	良好		47	
376	C19	-	S97	k-n	2829-41	須恵器	平瓶	旗投座	高瀬29 ~高瀬32	-	-	(2.0)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺	密	良好		47	
377	C19	-	S97	k-n	2829-19	須恵器	集	旗投座	岩崎17~ 岩崎41	(24.1)	-	(3.8)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、回転 ヘラ削り	密	良好	外底へ拂平 行状有	47 16	
378	C19	-	S97	k-n	2830-1	須恵器	長頸瓶	旗投座	岩崎32	(8.8)	-	(9.0)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺	密	良好		47	
379	C19	-	S97	a-b	2709-1	須恵器	环身B	夷濃京阪 江	IV窓-1	(11.8)	(8.0)	3.4	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、回転 ヘラ削り	やや 粗	良好		47	
380	C19	-	S97	k-n	2829-16	須恵器	大頭瓶	夷濃須衛 座	IV窓-1~ IV窓-3	-	-	(4.6)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺	やや 粗	良好		47	
381	C19	-	S97	g-j	2806-1	灰釉陶器	小瓶	東濃型	明知27	(9.7)	(4.9)	3.3	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、底面 高台	密	良好		47	
382	C19	-	S97	k-n	2829-13	灰釉陶器	罐	東濃型	西坂1	-	(6.4)	(1.7)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、底面 高台切痕回転 ナデ ⁺ 、贴付高 台	密	良好		47	
383	C19	-	S97	k-n	2832-79	灰釉陶器	玉鉢	東濃型	西坂1	(16.1)	-	(3.5)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺	密	不良	口縁外縁に幅 1.2cmの縞帶を 形成	47	
384	C19	-	S97	k-n	2823-1	山茶碗	碗	尾張型	第5型式	-	7.8	(3.0)	回転ナデ ⁺ ダ	回転ナデ ⁺ 、底面 高台	やや 粗	良好		47	

表30 土器観察表 (16)

開拓番号	出土地点	グリッド	通様名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	腹(内面)	腹(外面)	油土	焼成	備考	標因番号	固版番号
385 C19	-	S07	k-n	2832-13	山茶碗	碗	足型	第3型式	(15.9) (7.6)	4.4	回転ナダ ⁺ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。貼付 高台	やや 粗	良好	板紋瓶	47			
386 C19	-	S07	k-n	2829-1	山茶碗	片口杯	足型	第3型式	(26.4)	-	(9.0)	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。回転 丸切	密	良好		47		
387 C19	-	S07	k-n	2843-1	山茶碗	碗	束型	矢戸上野 2	-	(7.5)	(5.4)	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。貼付 高台	密	良好	上位からの圧 により高台備 れ台形狀を呈す。 板紋瓶	47		
388 C19	-	S07	k-n	2781-6	山茶碗	碗	束型	谷迫間2	-	(8.6)	(3.0)	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。貼付 高台	密	不良	板紋瓶	47		
389 C19	-	S07	k-n	2832-1	山茶碗	碗	束型	谷迫間2	-	7.8	(3.1)	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。貼付 高台	やや 粗	良好		47		
390 C19	-	S07	k-n	2822-1	山茶碗	碗	束型	谷迫間2	8.8	4.9	2.6	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。貼付 高台	密	良好	板紋瓶	47		
391 C19	-	S07	k-n	2812-10	山茶碗	小碗	束型	谷迫間2	8.4	4.2	2.7	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。貼付 高台	密	良好	底部内部摩 耗、板紋瓶	47	17	
392 C19	-	S07	g-j	2807-10	山茶碗	小碗	束型	谷迫間2	(9.0)	(5.1)	3.3	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。貼付 高台	密	良好	板紋瓶	47		
393 C19	-	S07	k-n	2831-30	山茶碗	小碗	束型	谷迫間2	(9.3)	(5.5)	3.1	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切後回転 ナダ ⁺ 。貼付高台	密	良好	板紋瓶	47		
394 C19	-	S07	k-n	2827-5	山茶碗	小碗	束型	谷迫間2	8.9	4.7	2.4	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 束型側面凹切 ゲ、貼付高台	密	良好		47		
395 C19	-	S07	k-n	2832-5	山茶碗	碗	束型	茂間葉下 1	(16.1)	(6.6)	5.3	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。板目 状压痕。貼付高 台	密	不良		47		
396 C19	-	S07	g-6	2945-3	山茶碗	碗	束型	茂間葉下 1	15.0	7.0	8.1	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。貼付 高台	密	良好	板紋瓶	47		
397 C19	-	S07	k-n	2781-4	山茶碗	玉縁碗	束型	茂間葉下 1	(15.4)	-	8.7	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。貼付 高台	密	良好	口縁外線に幅 1.3cmの縦滑形成、 板紋瓶	47	17	
398 C19	-	S07	k-n	2812-13	山茶碗	碗	束型	丸石3	-	(6.1)	(3.3)	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。板目 状压痕。貼付高 台	密	良好	板紋瓶	48		
399 C19	-	S07	g-j	2807-5	山茶碗	碗	束型	丸石3	-	5.5	(4.6)	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。貼付 高台	密	良好	板紋瓶	48		
400 C19	-	S07	k-n	2812-14	山茶碗	碗	束型	丸石3	-	(5.9)	(3.6)	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。板目 状压痕。貼付高 台	密	良好	板紋瓶	48		
401 C19	-	S07	k-n	2820-1	山茶碗	碗	束型	丸石3	(15.3)	(6.3)	6.2	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。貼付 高台	密	不良	板紋瓶	48		
402 C19	-	S07	g-6	2945-10	山茶碗	小皿	束型	丸石3	(8.0)	(4.0)	2.0	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切	密	良好		48		
403 C19	-	S07	k-n	2827-4	山茶碗	小皿	束型	丸石3	7.8	3.6	2.1	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切	密	良好	底部内部摩耗	48	16	
404 C19	-	S07	k-n	2827-10	山茶碗	小皿	束型	丸石3	(8.8)	(4.0)	2.0	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切	密	良好		48		
405 C19	-	S07	g-6	2945-26	山茶碗	小皿	束型	丸石3	8.2	3.9	2.2	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切	密	良好		48		
406 C19	-	S07	k-n	2781-3	山茶碗	碗	束型	葉柄3	-	5.2	(2.8)	回転ナ ゲ	回転ナダ ⁺ 。底部 回転丸切。板目 状压痕。貼付高 台	密	良好	底部外面磨耗 「大」、板紋瓶	48		

表31 土器観察表(17)

開拓番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	產地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	腹巻(内面)	腹巻(外面)	胎土	焼成	備考	博物館番号	因版番号
407 C19 - S07 k-n 2831-3	山茶園	縦	束縛型	白土原I	(14.0)	(5.8)	5.9	円転ナダ	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。板目 状圧痕。貼付高 台	密	良好	粗粒灰		48					
408 C19 - S07 k-n 2802-29	山茶園	縦	束縛型	白土原I	-	(6.0)	(3.8)	円転ナダ	凹輪ナダ。底部 凹輪大切。板目 状圧痕。貼付高 台	密	良好	粗粒灰		48					
409 C19 - S07 k-n 2781-11	山茶園	縦	束縛型	白土原I	13.8	6.0	5.0	円転ナダ	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。貼付 高台	密	良好	内部D線から 体面摩耗。粗 粒灰		48					
410 C19 - S07 g-j 2807-14	山茶園	小豆	束縛型	白土原I	8.0	4.1	1.8	円転ナダ	凹輪ナダ。底部 凹輪大切	密	良好			48	17				
411 C19 - S07 5-6 2945-1	山茶園	小豆	束縛型	白土原I	7.8	4.1	2.1	円転ナダ、底面 凹輪大切。板目 状圧痕	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。板目 状圧痕	密	良好	底面外部墨書き 「十」。底面 内部摩耗		48	19				
412 C19 - S07 k-n 2797-1	山茶園	縦	束縛型	白土原I	13.6	5.1	5.6	円転ナダ	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。貼付 高台	密	良好	底面外部墨書き (积泥不 透)、粗粒灰		48					
413 C19 - S07 k-n 2812-86	山茶園	縦	束縛型	白土原I	-	(5.6)	(1.8)	円転ナダ	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。板目 状圧痕。貼付高 台	密	不良	底面外部墨書き 「高」。粗 粒灰		48					
414 C19 - S07 k-n 2833-1	山茶園	縦	束縛型	白土原I	-	(5.6)	(2.9)	円転ナダ	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。貼付 高台	密	良好	底面外部墨書き (积泥不 透)、粗粒灰		48					
415 C19 - S07 k-n 2812-11	山茶園	縦	束縛型	白土原I	(13.4)	(5.6)	5.8	円転ナダ	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。貼付 高台	密	良好	粗粒灰		48					
416 C19 - S07 g-j 2768-1	山茶園	縦	束縛型	白土原I	14.4	6.0	5.0	円転ナダ	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。貼付 高台	密	良好	粗粒灰		48					
417 C19 - S07 k-n 2812-1	山茶園	縦	束縛型	白土原I ～明和I	14.3	5.9	5.6	円転ナダ、底 面指圧痕	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。貼付 高台	密	良好	内部摩耗。粗 粒灰		48	17				
418 C19 - S07 k-n 2781-2	山茶園	縦	束縛型	明和II	(15.0)	5.3	5.6	円転ナダ	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。貼付 高台	密	良好	粗粒灰		48	17				
419 C19 - S07 g-j 2767-2	山茶園	小豆	束縛型	明和II	7.6	4.4	1.4	円転ナダ、底 面指圧痕	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。板目 状圧痕	密	良好			48					
420 C19 - S07 g-j 2750-3	山茶園	小豆	束縛型	明和II	(8.3)	(4.6)	1.7	円転ナダ、底 面指圧痕	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。板目 状圧痕	密	良好			48					
421 C19 - S07 k-n 2834-4	中国製罐 白磁皿	-	A群	-	(3.8)	(2.0)	1.7	円転ナダ	凹輪ナダ	密	良好			48					
422 C19 - S07 k-n 2813-6	高塚	甕	-	Ku型式	(23.3)	-	(3.6)	円転ナダ	凹輪ナダ	やか 相	良好			48					
425 C19 - S07 k-n 2961-1	須恵器	高环	須恵器	岩崎17～ 岩崎41	-	-	(2.7)	円転ナダ	凹輪ナダ。凹輪 ～へり	密	良好			49					
426 C19 - S07 e-h 2906-2	須恵器	高环	不明	岩崎17～ 岩崎41併行	(13.3)	-	(2.9)	円転ナダ	凹輪ナダ。凹輪 へり	密	良好	胎土埋い色調 を呈す		49					
427 C19 - S07 9 2957-2	山茶園	縦	束縛型	矢戸上野 2	-	7.2	(4.7)	円転ナダ	凹輪ナダ。底面 凹輪大切後凹輪 ナダ。貼付高台	密	良好	粗粒灰		49					
428 C19 - S07 e-d 2900-3	山茶園	縦	束縛型	茂間原下 1	-	6.4	4.1	円転ナダ	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。貼付 高台	密	良好	底面内部重ね 焼き痕。粗 粒灰		49					
429 C19 - S07 e-d 2905-1	山茶園	小豆	束縛型	丸石3	9.0	4.4	2.0	円転ナダ、底 面指圧痕	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。貼付 高台	密	良好			49					
430 C19 - S07 e-d 2900-1	山茶園	縦	束縛型	白土原I	14.4	5.2	5.2	円転ナダ	凹輪ナダ。底面 凹輪大切。貼付 高台	密	良好	底面外部墨書き 「十」。粗 粒灰		49					

表32 土器觀察表 (18)

開拓番号	出土地点	グリッド	通様名	層位	取上番号	様別	器種	產地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	腹量(内面)	腹量(外面)	油土	情況	備考	辨認番号	固版番号
431	C19	-	S07	e-h	2911-1	山系縦	縫	束縛型	白土原1	14.7	6.3	5.2	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転丸切。貼付 高台	密	良好	板紋底	49	17
432	C19	-	S07	e-h	2916-1	山系縦	小縫	束縛型	白土原1	-	-	(3.0)	回転ナダ	回転ナダ	密	良好		49	
433	C19	-	S07	e-h	2907-1	山系縦	小縫	束縛型	明和1	7.8	4.6	1.5	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転丸切。板目 状正規、貼付高台	密	良好	底部内面摩耗	49	
434	C19	-	S07	a-b	2854-1	直底器	高环	弦溝底	岩崎101	(11.8)	-	(3.4)	回転ナダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り	密	良好	表面ヘラ削成 面有	49	
435	C19	-	S07	a-b	2848-1	山系縦	縫	束縛型	浅間窓下1	-	6.0	(2.5)	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転丸切。板目 状正規、貼付高台	密	良好	板紋底	49	
436	C19	-	S07	e-f	2896-1	山系縦	小縫	束縛型	窓側1	8.0	3.9	1.4	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転丸切。板目 状正規	密	良好	底部内面摩耗	49	
437	C19	-	S07	e-f	2896-2	山系縦	小縫	束縛型	窓側1	(8.0)	(3.5)	1.9	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転丸切	密	良好	底部外面墨書き (祝證不能)	49	
438	C19	-	S07	a-b	2856-2	山系縦	小縫	束縛型	白土原1	(8.0)	(5.2)	1.5	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転丸切	密	良好		49	
439	C19	B98	S08	w-n	2630-1	直底器	环身B	弦溝	岩崎10	(9.8)	-	1.7	阿輪ナダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り	密	不良		50	
440	C19	B57	S08	w-b	2626-1	直底器	环身C	弦溝	高麗寺2	-	-	(2.5)	回転ナダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り	密	良好		50	
441	C19	B58	S08	c-d	2644-1	直底器	环身B	弦溝	高麗寺2	(11.2)	6.3	4.3	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転丸切	密	良好	油土砂粒を若干含む	50	
442	C19	B57	S08	c-d	2640-1	直底器	环身C	弦溝	高麗寺2 ～岩崎25	(14.0)	(11.3)	3.6	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転丸切、 貼付高台	密	良好	新土灰色を呈す	50	
443	C19	B98	S08	c-d	2471-2	直底器	長縫縦	弦溝	折戸10	-	(9.3)	(4.4)	回転ナダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り、底部 回転丸切削り	密	良好		50	
444	C19	B98	S08	g-h	2560-3	直底器	縫	弦溝	高麗寺2 ～岩崎32	(14.6)	-	(6.0)	回転ナダ	回転ナダ。平行 タキタ	密	良好	新土灰色を呈す	50	
445	C19	B98	S08	w-n	1822-1	直底器	縫	弦溝	高麗寺2 ～岩崎25	-	(14.7)	(7.0)	砂ナダ	回転ナダ。押 え	密	良好		50	
446	C19	B98	S08	g-b	2561-1	火柄陶器	縫	束縛型	大原2	15.5	8.3	5.5	回転ナダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り、底部 回転丸切削り	密	良好	三日月高台	50	17
447	C19	B77	S08	c-d	2647-1	火柄陶器	設置	束縛型	虎渕山1	(14.9)	7.9	2.2	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転丸切、底部 回転丸切削り。 貼付高台	密	良好		50	
448	C19	B98	S08	g-b	2561-4	火柄陶器	丸底	束縛型	丸石2	(12.2)	(7.5)	2.5	回転ナダ	回転ナダ。回転 ヘラ削り。貼付 高台	密	良好		50	
449	C19	B97	S08	w-n	2690-1	山系縦	縫	束縛型	第3形式	-	7.0	(3.6)	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転丸切、板目 状正規、貼付高台	やや 粗	良好	板紋底	50	
450	C19	B98	S08	c-d	2473-1	山系縦	小縫	束縛型	谷迫窓2	9.2	5.0	3.4	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転丸切、貼付 高台	やや 粗	良好	底部内面摩耗、 輕體底	50	17
451	C19	B98	S08	g-h	2524-1	山系縦	縫	束縛型	谷迫窓2	15.7	8.6	5.3	回転ナダ、 底部紹生ナダ	回転ナダ。底部 回転丸切、貼付 高台	密	良好	板紋底	50	17
452	C19	B97	S08	c-d	2588-1	山系縦	縫	束縛型	谷迫窓2	-	7.9	(3.5)	回転ナダ	回転ナダ。底部 回転丸切、貼付 高台	やや 粗	良好	板紋底	50	

表33 土器観察表(19)

開拓番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	該巻(内面)	該巻(外面)	油土	焼成	備考	採団番号	回叢番号	
453	C19	B69	S26	e-n	2665-1	山系縦	縦	束縛型	谷沿縁2	-	8.3	(3.2)	回転ナダ 底部窓 中央付 身ナダ	回転ナダ。底部 窓切欠。板付 状圧瓦。貼付高 台	やや 粗	良好		50		
454	C19	B69	S26	g-h	2562-8	山系縦	縦	束縛型	谷沿縁2	(16.3)	-	(4.0)	回転ナ ダ	回転ナダ	密	不良		50		
455	C19	B88	S26	c-d	2464-1	山系縦	縦	束縛型	谷沿縁2	-	7.6	(3.4)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠(横)、 回転ナダ。貼付 高台	密	良好	板殻瓶	50		
456	C19	B87	S26	c-d	2464-1	山系縦	縦	束縛型	茂開窓下1	-	(7.0)	(2.0)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠。貼付 高台	密	良好	板殻瓶	50		
457	C19	B69	S26	e-f	2522-1	山系縦	縦	束縛型	茂開窓下1	-	6.8	(2.0)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠。板付 状圧瓦。貼付高 台	密	良好	板殻瓶	50		
458	C19	B87	S26	e-f	2662-2	山系縦	小底	束縛型	茂開窓下1	(9.3)	(5.1)	(3.1)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠	密	良好		50		
459	C19	B69	S26	k-l	2615-1	山系縦	縦	束縛型	丸石3	15.2	6.2	5.1	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠。貼付 高台	密	良好	底部内面黒ね じり痕。板殻 瓶	50		
460	C19	B87	S26	c-d	2558-1	山系縦	縦	束縛型	丸石3	-	6.4	(5.6)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠。貼付 高台	密	良好	板殻瓶	50	18	
461	C19	B69	S26	e-n	2638-1	山系縦	縦	束縛型	丸石3	-	(6.0)	(3.6)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠。貼付 高台	密	良好	板殻瓶	50	18	
462	C19	B79	S26	c-d	2573-2	山系縦	縦	束縛型	丸石3	(14.9)	(7.0)	6.8	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠。貼付 高台	密	良好	板殻瓶	50		
463	C19	B79	S26	c-d	2573-1	山系縦	縦	束縛型	紫原1	15.1	6.8	5.9	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠。貼付 高台	密	良好	板殻瓶	50	17	
464	C19	B69	S26	g-h	2523-1	山系縦	縦	束縛型	紫原1	(15.0)	5.6	5.9	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠。爪 瓶。貼付高台	密	良好	板殻瓶	50		
465	C19	B79	S26	k-l	2610-1	山系縦	縦	束縛型	紫原1	(15.5)	(6.4)	5.9	回転ナ ダ	回転ナダ。貼付 高台	密	良好	板殻瓶	50		
466	C19	B77	S26	c-d	2558-2	山系縦	縦	束縛型	白土原1	-	(5.8)	(2.5)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠。板付 状圧瓦。貼付高 台	密	良好	底部外側黒青 色「」。板殻 瓶	50		
467	C19	B88	S26	e-f	2925-1	山系縦	縦	束縛型	大隈大洞4	-	(4.6)	(2.8)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠。板付 状圧瓦。貼付高 台	密	良好	板殻瓶	50	18	
468	C19	B57	S26	a-b	2629-1	古瀬戸	縦	-	後1周	(10.8)	(6.0)	2.3	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠	密	良好		50		
469	C19	-	S26	e-f	2738-2	里恵忍	环身C	束縛型	里恵忍	(IV周-3)	-	(9.2)	(1.1)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠	密	良好	土浦灰色化 笠生	51	
470	C19	-	S26	3	2864-1	灰被陶器	片口純	束縛型	西坂1	-	(13.3)	(7.0)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 指押文。貼付高 台	密	良好		51		
471	C19	-	S26	3	2873-1	山系縦	縦	束縛型	第4式	-	7.1	(3.3)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠。貼付 高台	粗	良好	板殻瓶	51	18	
472	C19	B67	S26	c-d	2552-1	山系縦	小底	束縛型	谷沿縁2	10.0	5.5	3.6	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠。貼付 高台	密	良好	板殻瓶	51	18	
473	C19	-	-	II	2391-1	須恵器	無台縦	袋足縦	岩崎25	(15.3)	-	(3.4)	回転ナ ダ	回転ナダ	密	良好		54		
474	C19	-	-	II	2365-1	灰被陶器	縦	束縛型	丸石2	-	(6.2)	(2.3)	回転ナ ダ	回転ナダ切欠回転 ナダ。貼付高台	密	良好		54		
475	C19	-	-	II	2073-1	山系縦	縦	束縛型	谷沿縁2	-	(7.9)	(2.4)	回転ナ ダ	回転ナダ。底部 窓切欠。裏付 被物。貼付高台	やや 粗	良好	縫合部から体 部外側高台に 小口で墨汁漬 け。板殻瓶	54		

表34 土器觀察表 (20)

両版番号	出土地点	グリッド	通様名	層位	取上番号	様別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調査(内面)	調査(外面)	油土	機成	備考	博団番号	国版番号
476 C19 -	-	-	II	2332-1	古都P	楕円	-	後Ⅰ期～後Ⅲ期	-	10.8	(6.2)	回転ナダ。回転ヘラ削り。底部回転切欠き。	回転ナダ。回転ヘラ削り。底部回転切欠き。	密	良好	縫紉痕跡、底部内面彫刻なし。	54		
477 C19 B67	-	-	II	1732-2	大業製品	志野丸皿	-	第4段階	(9.8) (3.7)	1.9	回転ナダ。	回転ナダ。	密	良好		54			
478 C19 BP-B68	-	トレンチ	1682-1	土師器	長脚甌	-	第1～2段階	(24.0)	-	(7.2)	ナダ、ヨコハタ	ナダ、ナマメハケ、指捏え	やや粗	良好		54			
479 C19 BP6	-	トレンチ	1617-1	土師器	長脚甌	-	第2～3段階	(17.3)	-	(3.1)	ナダ、ヨコハタ	ナダ。タテハケ	粗	不良		54			
480 C19 BP6	-	トレンチ	1618-1	須惠器	碗	磁投産	東山11～東山44	-	-	(4.2)	回転ナダ。	回転ナダ。回転ヘラ削り。	やや粗	良好		54			
481 C19 -	-	トレンチ	2851-2	灰陶陶器	碗	東濃產	光ヶ丘1	-	(6.7)	(2.2)	回転ナダ。	回転ナダ。回転ヘラ削り。貼付高台	密	良好		54			
482 C19 -	-	トレンチ	2799-1	灰陶陶器	広口瓶	東濃產	光ヶ丘1	-	(13.5)	(2.7)	回転ナダ。	回転ナダ。底部押さえ、貼付高台	密	良好		54			
483 C19 -	-	トレンチ	2851-1	灰陶陶器	碗	東濃產	西坂1	-	7.2	(2.5)	回転ナダ。	回転ナダ。底部押さえ、貼付高台	密	良好		54			
484 C19 BP-B68	-	トレンチ	1686-1	山茶碗	片口杯	足型	第9～10型式	-	-	(6.8)	回転ナダ。	静止ヘラ削り。高台回転ナダ。貼付高台	粗	良好		54			
485 C19 BP-B67	-	トレンチ	1602-1	山茶碗	碗	東濃型	谷造闊2	-	7.0	(2.9)	回転ナダ。	回転ナダ。底部押さえ切欠き。貼付高台	密	良好	機鉛底	54			
486 C19 BP-B68	-	トレンチ	1638-2	山茶碗	碗	東濃型	浅間窓下1	-	(7.0)	(1.3)	回転ナダ。	回転ナダ。底部押さえ切欠き。貼付高台	密	良好	底部外面墨書き一。機鉛底	54			
487 C19 B67	-	トレンチ	2341-1	山茶碗	小皿	東濃型	浅間窓下1	8.9	4.9	2.7	回転ナダ。	回転ナダ。底部押さえ切欠き。	やや粗	良好	底部内面重ね縫合底	54			
488 C19 BP6	-	トレンチ	1642-1	山茶碗	碗	東濃型	紫原1	-	(5.5)	(3.8)	回転ナダ。	回転ナダ。底部押さえ切欠き。貼付高台	密	良好	底部外面墨書き「十」。機鉛底	54			
489 C19 BP6	-	トレンチ	1625-1	山茶碗	碗	東濃型	大根大洞4	-	(4.5)	(4.5)	回転ナダ。	回転ナダ。底部押さえ切欠き。贴付高台	密	良好	機鉛底	54			
490 C19 B66	-	トレンチ	1643-5	古都P	灰陶平碗	-	後IV期前	(14.7)	-	(4.8)	回転ナダ。	回転ナダ。下垂ヘラ削り後斜いハサード一部静止ヘラ削り	密	良好	歯土やや酸化	54			
491 C19 B66	-	トレンチ	1643-1	豐樂製品	楕円	-	第2段階	-	11.4	(4.4)	回転ナダ。	回転ヘラ削り	密	良好		54			
492 C19 B67	-	トレンチ	1675-1	豐樂製品	碗	-	第3段階	(14.8)	6.0	5.8	回転ナダ。	回転ナダ。底部回転ヘラ削り	密	不良	底土を底部外周に剥き落す。内面見込みに倒壊による	54	18		
493 C19 B67	-	トレンチ	1675-2	豊樂製品	灰陶丸皿	-	第3段階	(14.2)	-	(2.9)	回転ナダ。	回転ナダ。回転ヘラ削り	密	不良	機成が掌く瓦張の裏側の底部内面墨書き。底部内面墨書き	54			
494 C19 B66	-	トレンチ	1643-7	豊樂製品	灰陶丸皿	-	第3段階	(10.4)	-	(3.6)	回転ナダ。	回転ナダ。底部押さえ切欠き。貼付高台	密	良好	機鉛底	54			
495 C19 BP6	-	腰皿	2703-2	山茶碗	小碗	東濃型	矢立上野2	9.8	5.2	3.2	回転ナダ。	回転ナダ。底部押さえ切欠き。貼付高台	密	良好	底部内面墨書き(帆瀬不進)。機鉛底	54	18		
496 C19 BP6	-	腰皿	2703-1	山茶碗	小碗	東濃型	谷造闊2	9.9	4.2	3.4	回転ナダ。	回転ナダ。底部押さえ切欠き。貼付高台	密	良好	底部内面墨書き(帆瀬不進)。機鉛底	54			
497 C19 BP6	-	腰皿	2703-6	山茶碗	小碗	東濃型	谷造闊2	8.0	(4.2)	2.7	回転ナダ。	回転ナダ。底部押さえ切欠き。貼付高台	密	良好	機鉛底	54			

表35 木製品観察表

開拓番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	分類	器種	器種組分	細分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考	木取り	樹種	神田番号	國版番号
1	C16	-	SP2	I	585-1	壁部材	柱	柱桿	B2b	(51.6)	10.8	12.5	上端部欠損、下部表面炭化	芯材	マツ	14	22
132	C16	-	NR3	d-f	610-1	用途不明品	板状木製品	板材	-	(17.6)	2.0	1.1	上端部欠損、下端部芯を残して欠損	板目	ヒノキ	23	23
136	C17	A15	NR3	-	1472-1	道具	火付け棒	-	-	17.5	1.4	0.8	両端部炭化	板目	ヒノキ	23	24
152	C17	-	NR5	5	1555-1	容器	曲物身	曲物近耳付精円形	板	63.9	16.5	1.5	-	板目	ヒノキ	26	20
153	C17	-	NR5	5	1596-1	壁部材	柱	柱材	B1	(262.0)	11.4	10.5	下端部欠損及び腐敗、上端ホゾ状加工跡先端が炭化	芯材	カヤ	26	21
154	C17	-	NR5	5	1554-1	用途不明品	板状木製品	板材	-	96.8	27.5	9.0	-	板目	アカガシ	26	23
155	C17	-	NR5	5	1589-1	用途不明品	板状木製品	板材	-	(17.6)	2.1	0.3	-	板目	ヒノキ	26	23
156	C17	-	NR5	d-f	1504-1	祭祀具	香串	-	-	(17.2)	1.9	0.8	上端部欠損、下端部炭化	板目	コウヤマキ	27	23
157	C17	-	NR5	d-f	1504-3	道具	火付け棒	-	-	28.3	1.1	1.1	下端部炭化	板目	アヌロコ	27	24
158	C17	-	NR5	d-f	1504-2	道具	火付け棒	-	-	(12.2)	1.6	1.0	上端部欠損	板目	イヌマキ	27	24
159	C17	-	NR5	j-I	1512-1	道具	火付け棒	-	-	(9.8)	1.2	1.0	下端部炭化、上端欠損	板目	アヌロコ	27	24
160	C17	-	NR5	5	1559-2	道具	火付け棒	-	-	15.3	1.0	0.8	両端部炭化、下部削れ有	板目	アヌロコ	27	24
161	C17	-	NR5	5	1559-3	道具	火付け棒	-	-	9.2	0.9	0.6	下端部炭化、上端部丸尖	板目	イヌマキ	27	24
162	C17	-	NR5	a-i	1526-1	用途不明品	錐状木製品	錐状材	-	31.1	1.9	1.8	両端炭化、厚さ均一	板目	アヌロコ	27	23
170	C17	-	NR5	m-o	1551-1	壁部材	柱	柱材	B1	(136.2)	12.2	11.5	ホゾ加工有先端部が炭化	板目	ヒノキ	28	21
171	C17	-	NR5	p-r	1544-1	用途不明品	板状木製品	板材	-	(19.8)	9.7	6.8	ホゾ加工有先端部が炭化	板目	ヒノキ	28	24
172	C17	-	NR5	m-o	1548-1	用途不明品	板状木製品	板材	-	(76.7)	14.3	3.3	両端部欠損、一部炭化	板目	ヒノキ	28	24
173	C17	-	NR5	m-o	1550-1	用途不明品	板状木製品	板材	-	(102.9)	11.7	4.3	両端部欠損、上方炭化	板目	ヒノキ	28	24
174	C17	-	NR5	m-o	1552-1	壁部材	横架材	-	-	226.9	17.3	4.6	五重形の柱口を二つ有す	板目	ヒノキ	29	21
175	C17	-	NR5	m-o	1549-1	用途不明品	錐状木製品	錐状材	-	(84.2)	7.3	4.2	一部欠損	板目	ヒノキ	29	24
176	C17	-	NR5	p-r	1544-2	用途不明品	板状木製品	板材	-	(30.7)	3.9	2.8	ホゾ加工有	板目	ヒノキ	29	23
177	C17	-	NR5	m-o	1543-1	用途不明品	錐状木製品	錐状材	-	(20.5)	4.4	2.6	端部欠損、厚さ均一	芯材	アカガシ	29	23
220	C17	A15	-	III	1384-1	用途不明品	板状木製品	板材	-	18.4	6.7	0.6	-	板目	ヒノキ	32	23
221	C17	A15	-	III	1331-1	容器	蓋	漆器蓋	-	(9.0)	-	高さ(1.5)	全面黒漆	ヨコ	ケヤキ	32	20
222	C17	A15	-	III	1192-1	鉗子・袋身	下駄	漆庫下駄	B1	19.2	(7.5)	1.9	右表面部指狂痕	板目	ヒノキ	32	22
269	C16	AC4	-	幾	121-1	容器	椀	漆器椀	-	近底	-	高さ(2.5)	黒漆内面底部及び外側剥落	ヨコ	ケヤキ	34	29
273	C18	-	SBI-SPI1	1	1028-1	壁部材	柱	柱材	A2b	(40.3)	19.1	11.7	-	三分割材	カヤ	35	22
274	C18	-	SBI-SPI3	1	1061-1	壁部材	柱	柱材	A2a	(21.0)	(14.2)	(8.2)	-	三分割材	カヤ	35	22
276	C18	-	SQ2	a-b	1079-1	用途不明品	板状木製品	板材	-	13.4	5.1	1.2	端部に欠損が目立つ	板目	ヒノキ	38	23
277	C18	-	SQ2	a	1105-1	用途不明品	角柱木製品	角柱	-	(48.2)	19.2	9.7	表面黒漆	板目	カヤ	38	24
423	C19	-	SD7	k-n	2764-1	道具	火付け棒	-	-	(12.7)	1.0	0.7	上端部欠損、下端部2cm程度炭化	板目	ヒノキ	48	24
424	C19	-	SD7	k-n	2764-2	用途不明品	板状木製品	板材	-	(9.6)	3.7	0.7	上端部欠損	板目	ヒノキ	48	23

表36 石器・石製品観察表

開拓番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	器種	器種組分	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	材質	備考	神田番号	國版番号
133	C16	-	NR3	g-f	573-1	砾石	-	22.5	10.1	9.8	2676.9	砂岩	-		23
134	C16	A15	NR3	j-I	580-1	劍片	-	5.5	4.6	1.8	41.2	チャート	原縫面・捺縫面残存	-	23
178	C17	-	NR5	7	1560-1	劍片	-	4.7	2.1	1.4	10.7	チャート	縫面一部残存	-	29
368	C19	BS7	SD6	n-h	2324-1	砾石	(11.2)	13.6	7.0	-	1266.8	砂岩	帶斑、被熱後剝れ、炭化物付着	-	45

表37 金属製品観察表

開拓番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	器種	器種組分	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	材質	備考	神田番号	國版番号
223	C17	A15	-	III	1299-1	劍	-	4.5	2.3	0.4	4.5	鉄	-		32

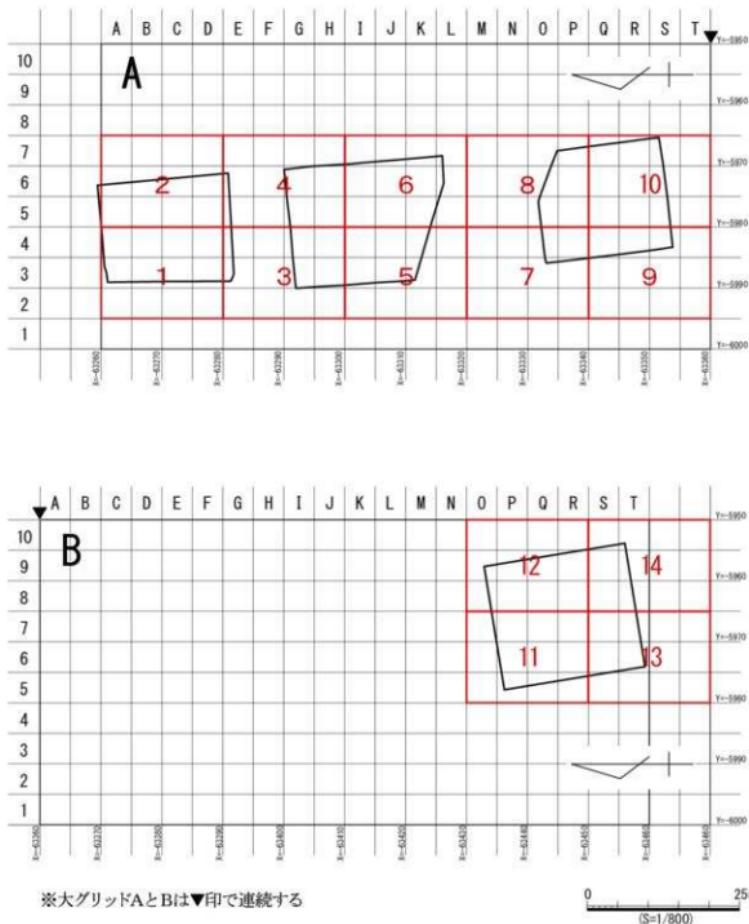


図55 発掘区全域図 割付図



図56 発掘区全域図 分割図1

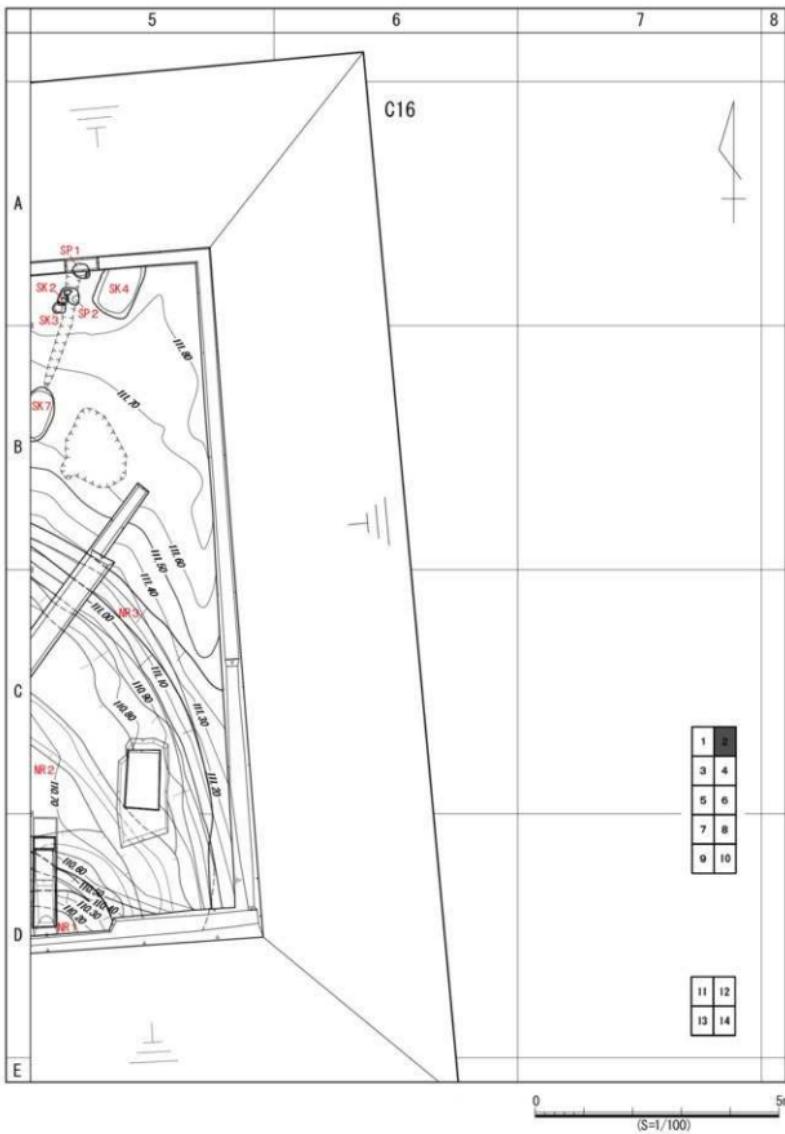


図57 発掘区全城図 分割図2

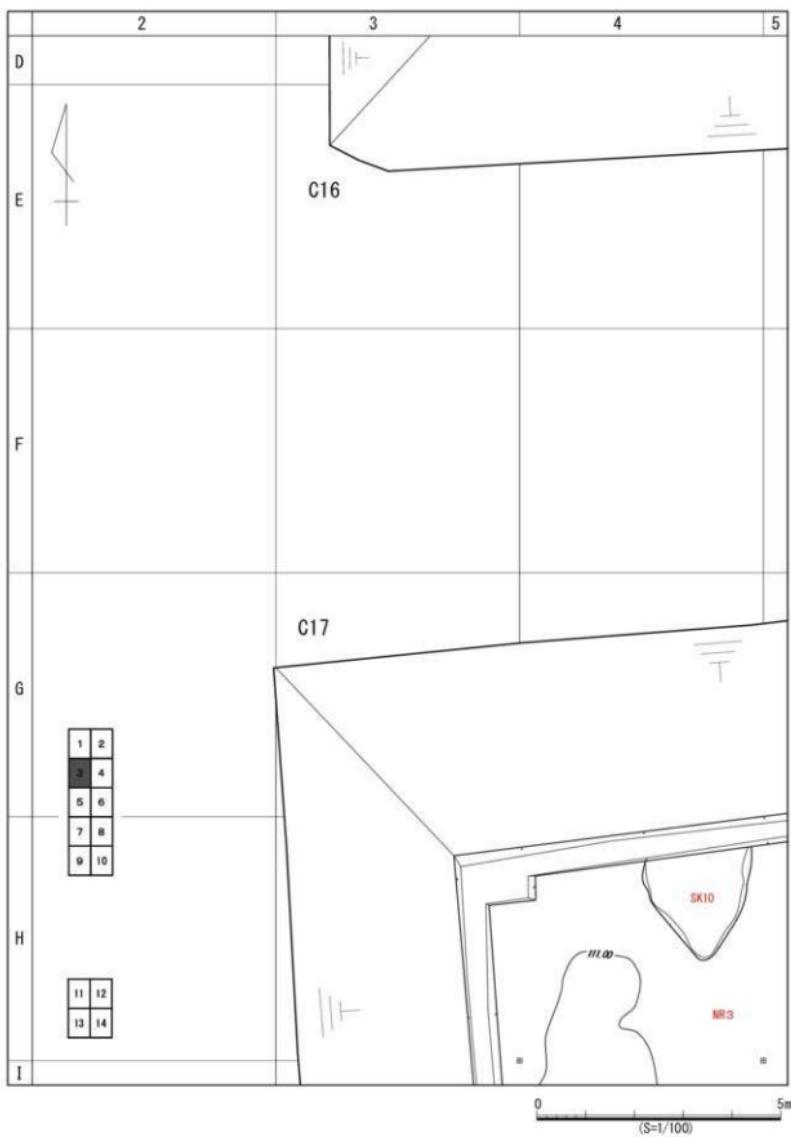


図58 発掘区全域図 分割図3

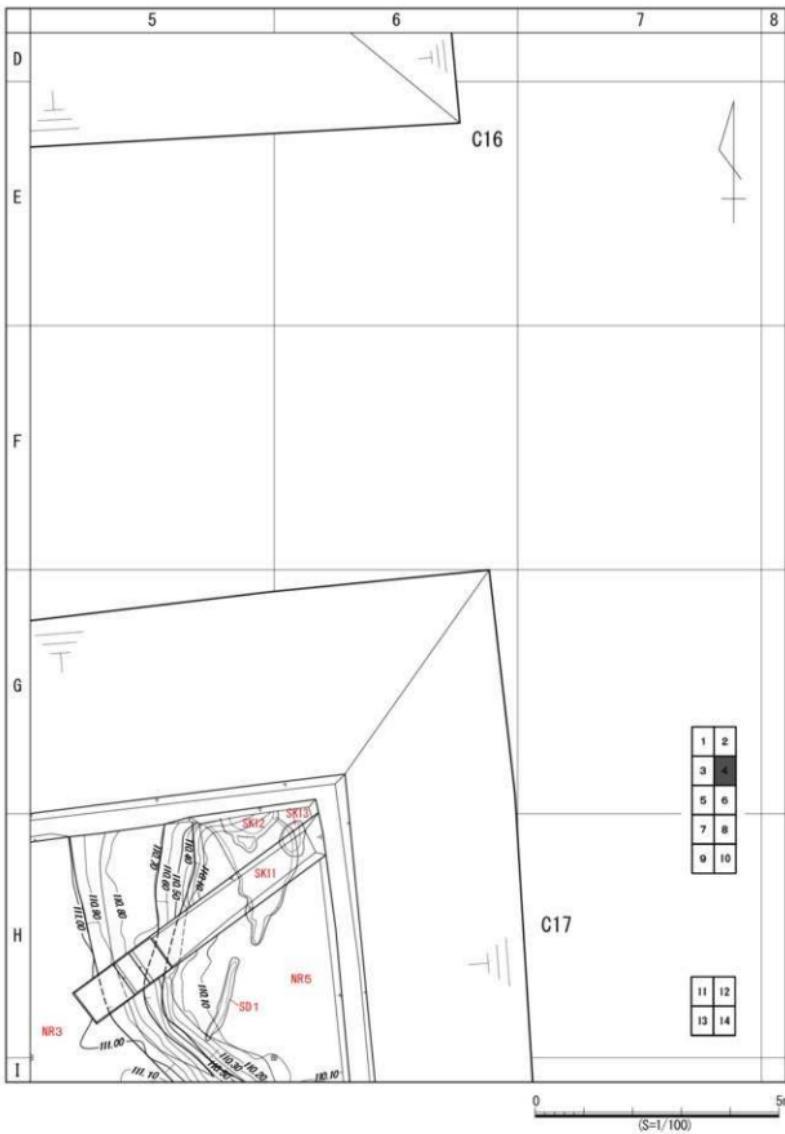


図59 発掘区全域図 分割図4

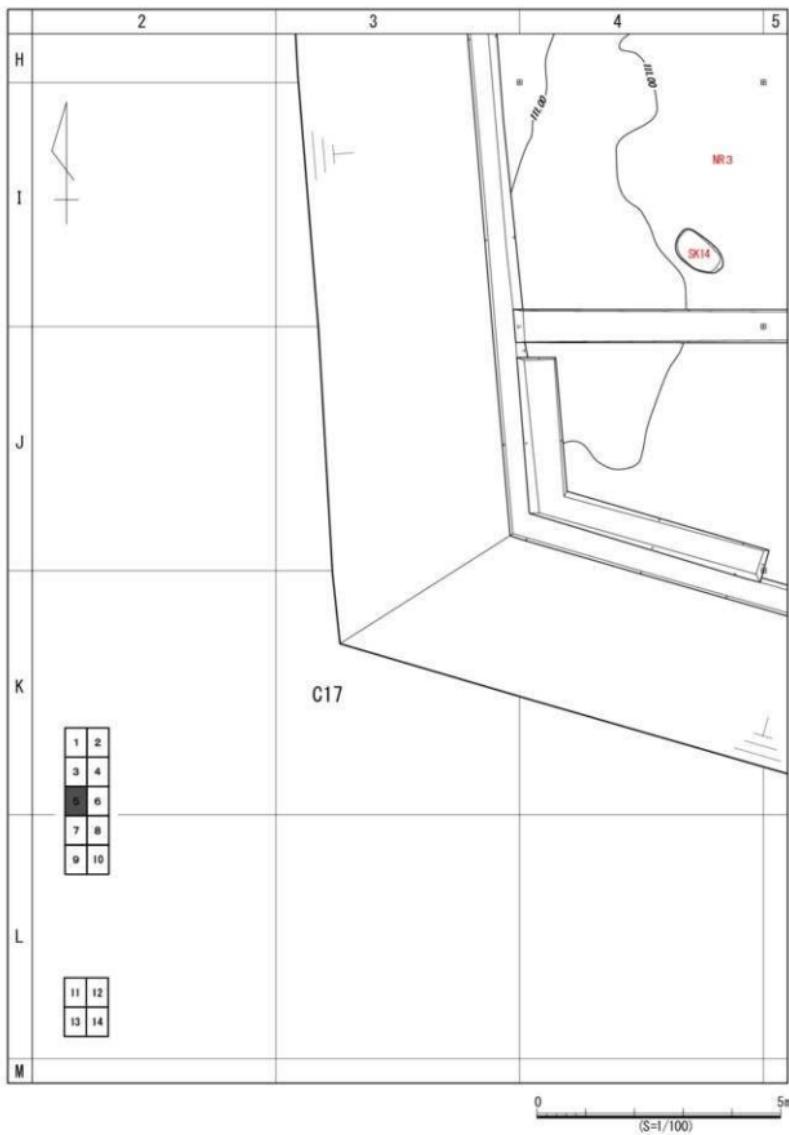


図60 発掘区全域図 分割図5

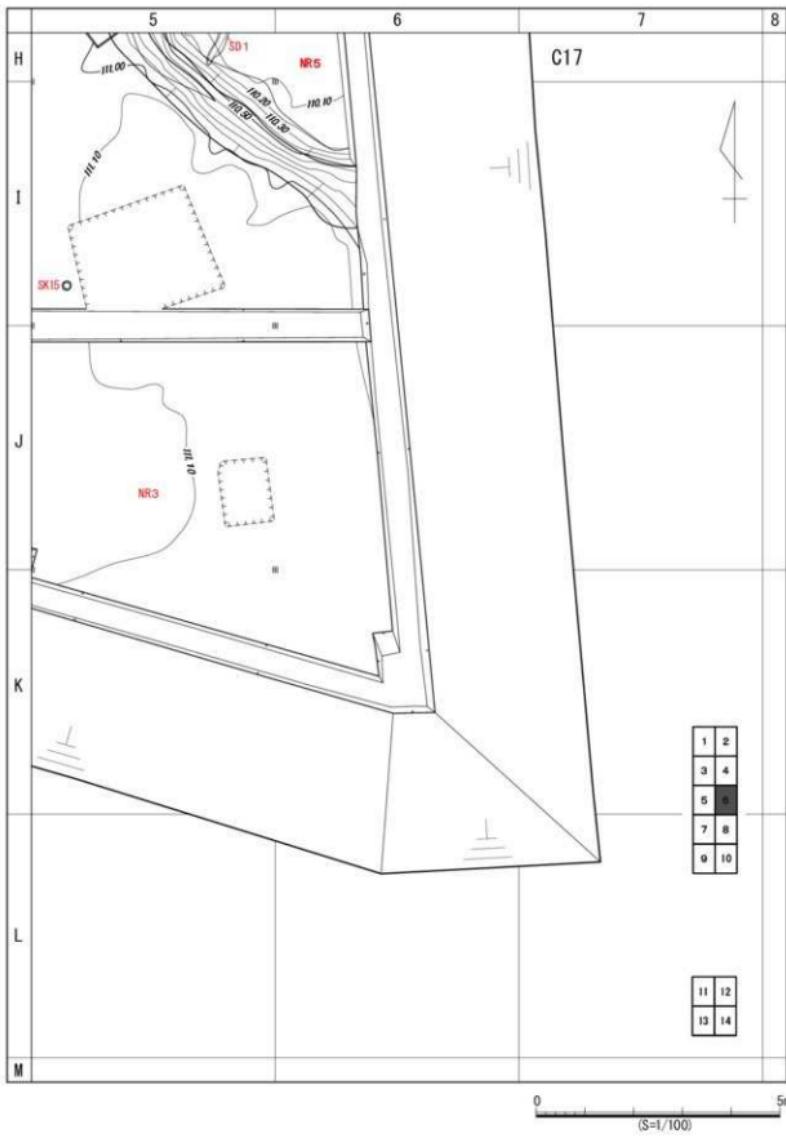


図61 発掘区全域図 分割図6

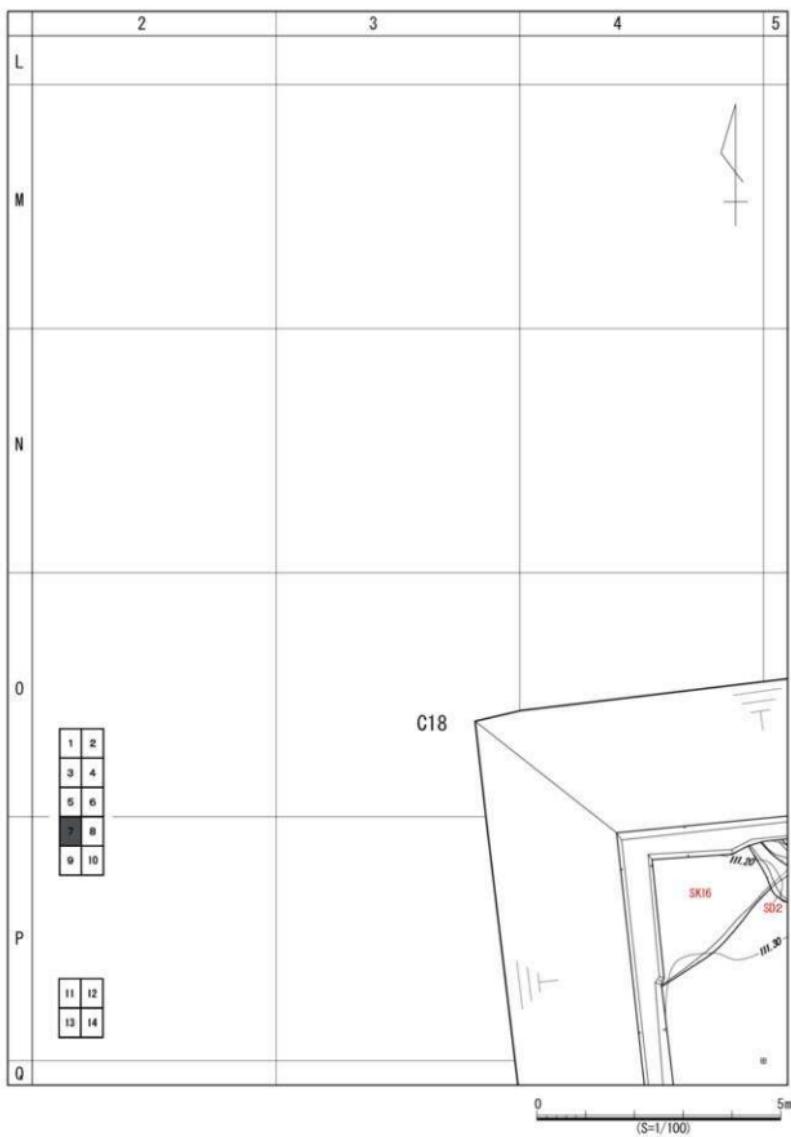


図62 発掘区全域図 分割図7

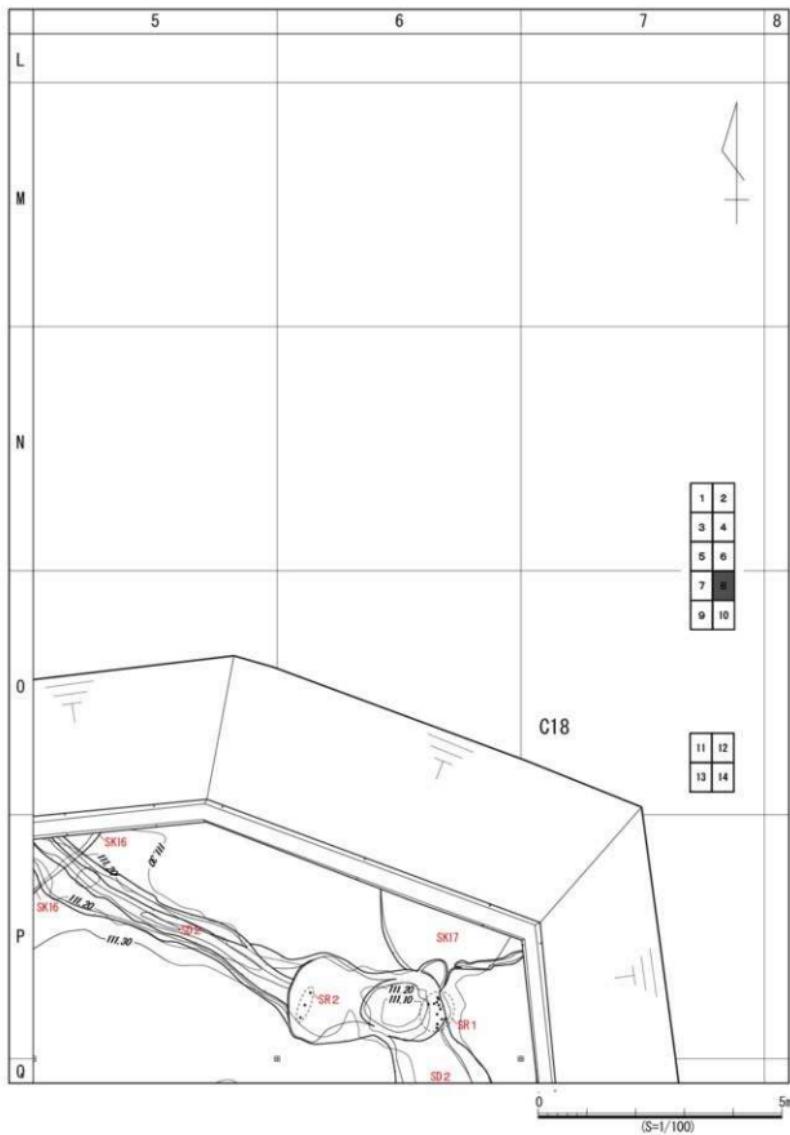


図63 発掘区全域図 分割図8

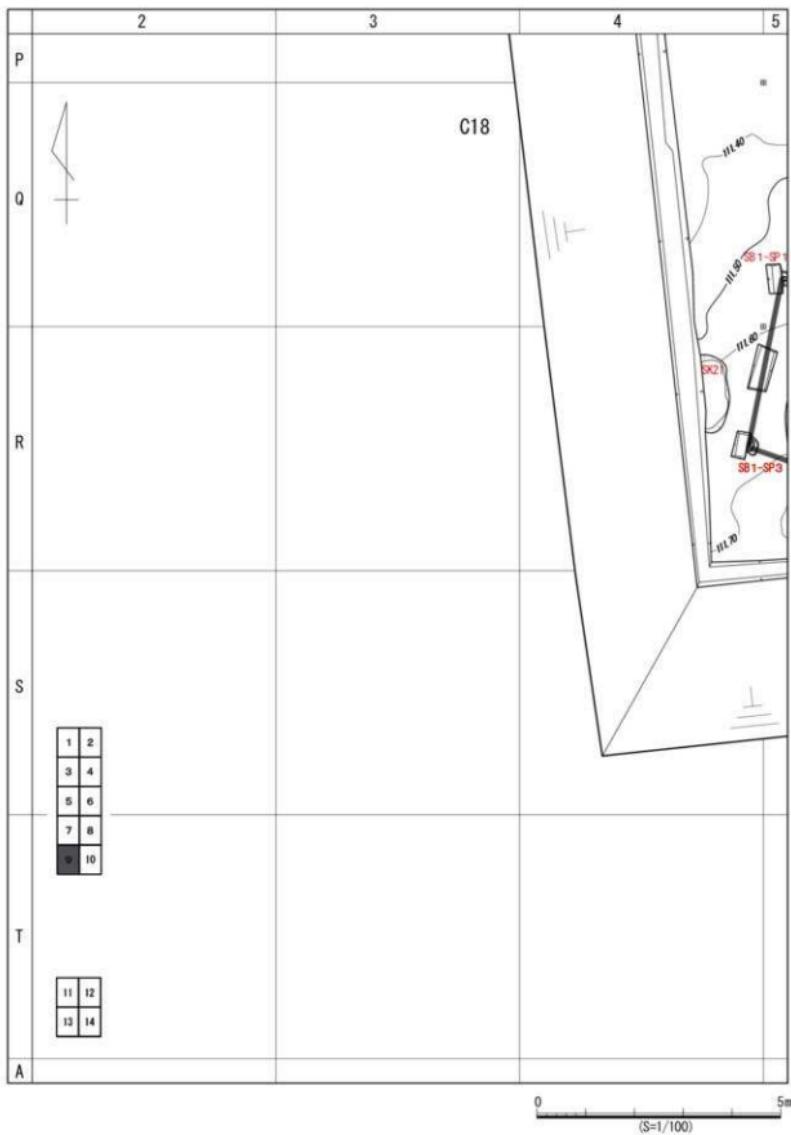


図64 発掘区全域図 分割図9

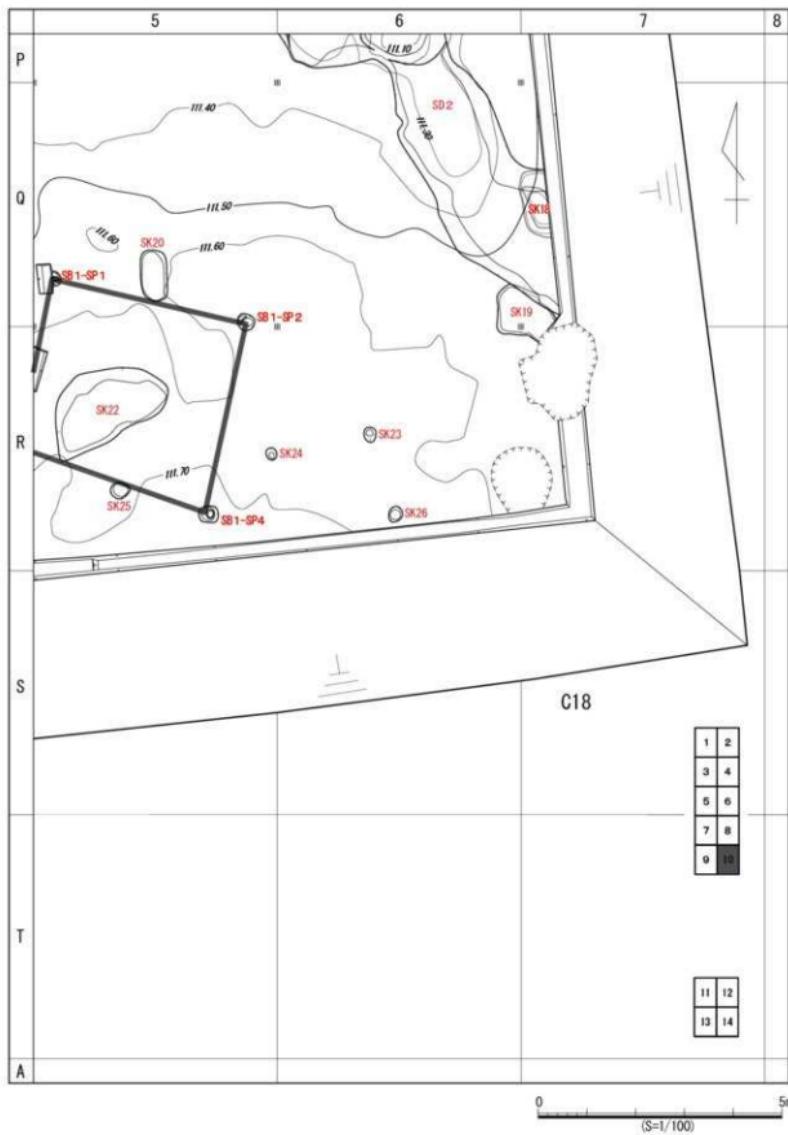


図65 発掘区全域図 分割図10

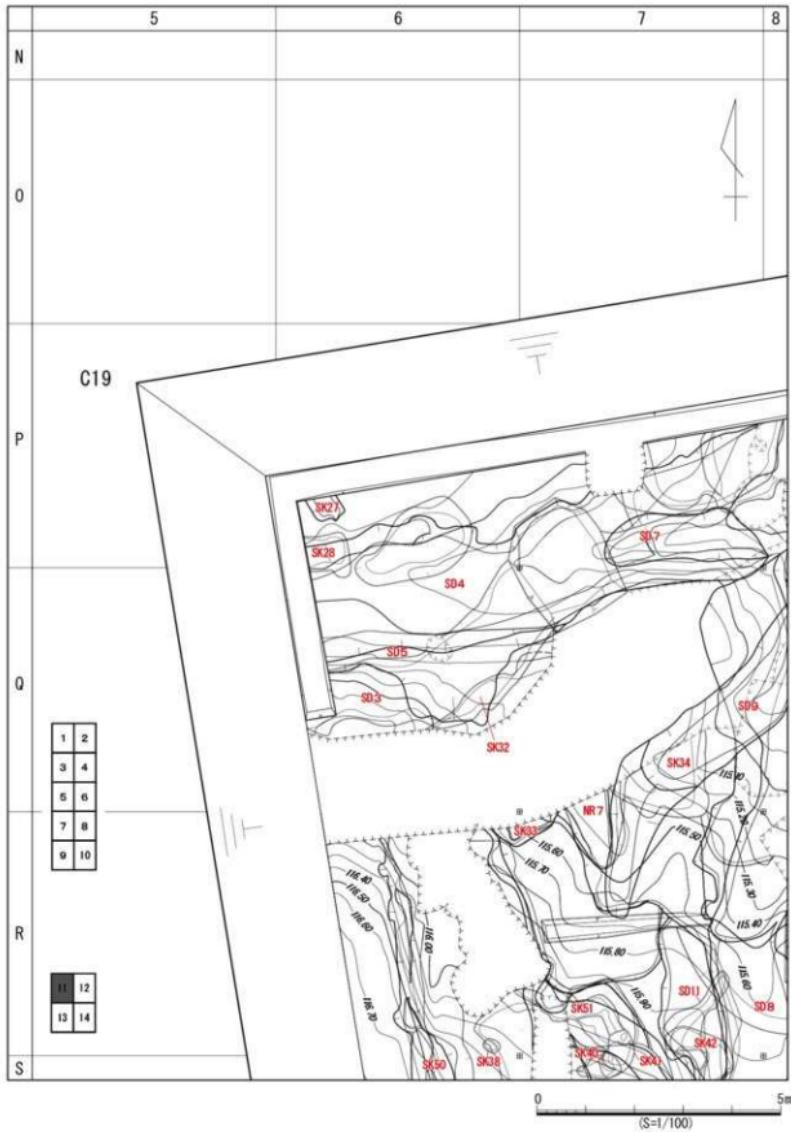


図66 発掘区全域図 分割図II

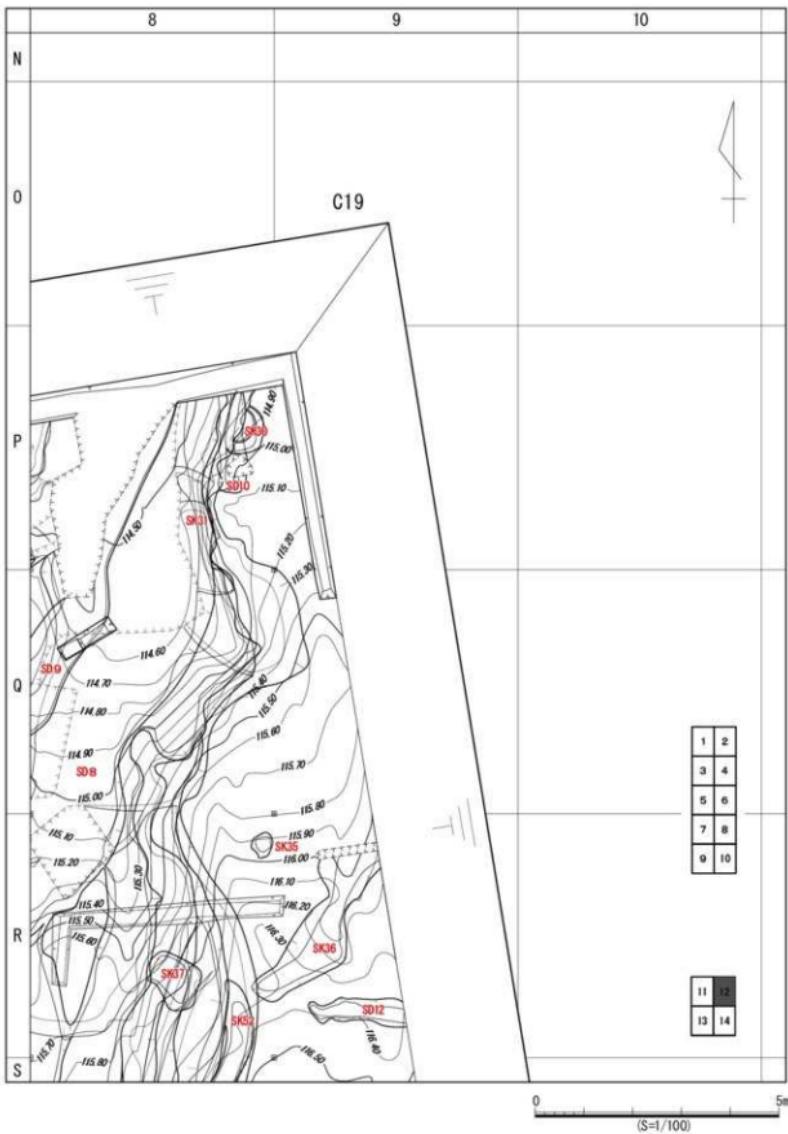


図67 発掘区全城図 分割図12



図68 発掘区全域図 分割図13

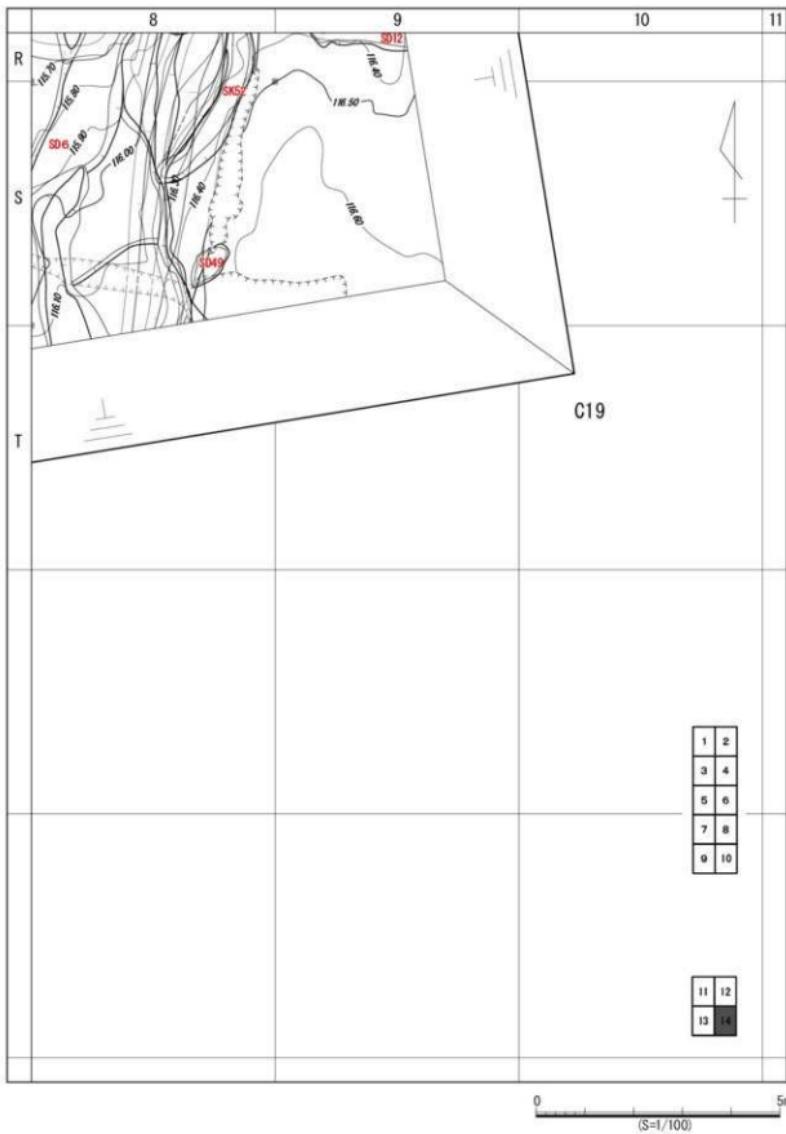


図69 発掘区全域図 分割図14

第4章 自然科学分析

第1節 分析の概要と成果

1 漆塗膜分析

分析の経緯 当遺跡では、漆塗りの木製品2点が出土した。これらの漆の塗装工程や下地材料を把握することで、漆器の質を明らかにし、使用者の階層や当遺跡の性格を考える一助とするために分析を実施した。

分析の結果と考察 分析の結果、いずれも炭粉漆下地に透明漆層が1層塗られる構造であることが判明した。当遺跡では比較的安価で量産型の漆器¹⁾が使用されていたことが分かった。

2 木製品の樹種同定

分析の経緯 当遺跡では、木製品が多数出土した。その中から特に状態が良好な遺物32点を対象に、遺物の樹種を明らかにすることで、当地・当該期における木製品の樹種選択のあり方を検討するため、樹種同定を実施した。

分析の結果と考察 平成調査において実施した分析から、当遺跡の木製品樹種はヒノキが非常に多く、弥生時代から近現代に至るまで継続的に利用され続けていたという特徴が明らかとなった²⁾が、今回の分析においても同様の結果を得た。器種による樹種選択性についても、平成調査と同様の傾向が見られ、目的の製品に適した木材が選択されていたことが判明した。出土層位や周辺の出土遺物の様相から、分析対象は古代から中世の遺物と考えられるものがほとんどであるが、有用材であるヒノキなどの針葉樹材が当地周辺では容易に入手できたことから、当該時期に操業していた東濃地区の窓跡の燃料材樹種であるコナラやクヌギ³⁾は選択されなかったと考えられる。

表38 植田遺跡出土木製品の樹種同定結果

樹種\器種	建築部材	漆製品	曲物底板	下駄	火付け木	柵串	用途不明品	合計
計 樹種	カヤ	3					1	4
	イスマキ				2			2
	マツ	1						1
	コウヤマキ					1		1
	ヒノキ	2	1	1	2		10	16
	アスナロ				3		1	4
広 葉 樹	アカガシ						2	2
	ケヤキ		2					2
合計	6	2	1	1	7	1	14	32

注

1) 四柳嘉章 1995「漆器」『概説中世の土器・陶磁器』、中世土器研究会

2) 財団法人岐阜県教育文化財团文化財保護センター2005『植田遺跡』(岐阜県教育文化財团文化財保護センター調査報告書第92集)

3) 2) と同じ

第2節 漆塗膜分析

1 はじめに

C16、17 地点の遺物包含層から出土した漆塗りの木製品（皿・椀）について、塗膜薄片を採取し、塗膜構造と材料について検討した。なお、分析は竹原弘展（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

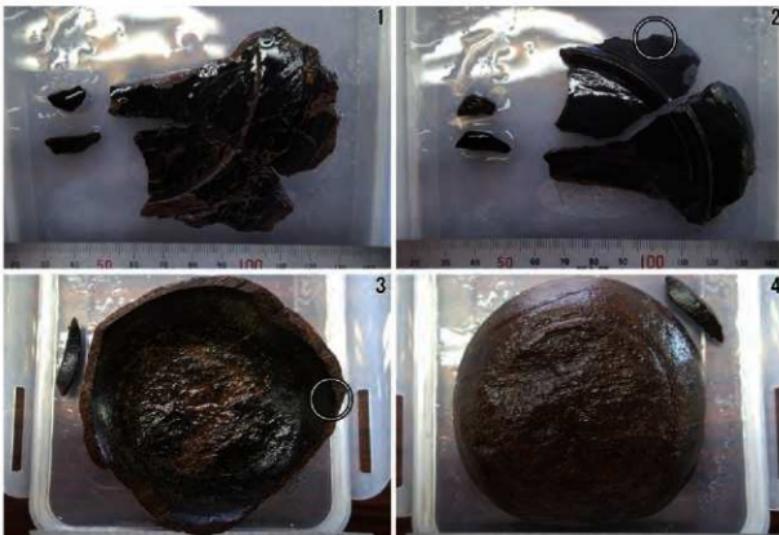
2 分析試料と方法

分析対象は、漆塗りの木製品2点である（表39、写真7）。出土層位及び周辺の出土遺物の様相から、No.1は13世紀後半～15世紀、No.2は12世紀後半～13世紀前半の遺物とみられている。塗膜片をカミソリで少量採取し、分析試料とした。

分析は、漆成分を調べるために、黒色塗膜について赤外分光分析を行った。また、塗膜構造を調べるために、薄片を作製して光学顕微鏡と走査型電子顕微鏡による観察を行った。

表39 分析対象一覧

No.	掲載番号	出土地点	出土層位	器種	寸法(cm)			特徴	採取位置	時期
					長さ	幅	厚さ			
1	221	C17	III	皿	7	4	2	両面黒色	外面黒色部	13世紀後半～15世紀
2	269	C16	III	椀	12	12	3	両面黒色	内面黒色部	12世紀後半～13世紀前半



1：分析No.1 内面 2：分析No.1 外面 3：分析No.2 内面 4：分析No.2 外面

写真7 遺物写真と試料採取位置

赤外分光分析では、手術用メスを用いて薄く削り取った試料を、押し潰して厚さ1mm程度に裁断した臭化カリウム(KBr)結晶板に挟み、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形し、測定試料とした。分析装置は日本分光株式会社製フーリエ変換型顕微赤外分光光度計FT/IR-410、IRT-30-16を使用し、透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。測定条件は、測定面積100μm角、測定時間200secである。同定にあたっては、市販の生漆の赤外吸収スペクトルと比較・検討した。

塗膜観察用の薄片は、高透明エポキシ樹脂を使用して試料を包埋し、薄片作製機及び精密研磨フィルム(#1000)を用いて厚さ約50μm前後に仕上げ、まず走査型電子顕微鏡(日本電子株式会社製JSM-5900LV)による反射電子像観察を行った。なお、赤色塗膜層及び無機質の下地層が確認された場合は、電子顕微鏡に付属するエネルギー分散型X線分析装置による定性・簡易定量分析を行っているが、今回の試料からは赤色塗膜層や無機質の下地層は観察されなかつた。その後、再度精密研磨フィルム(#1000)を用いて厚さ約20μm前後に調整した後、生物顕微鏡を用いて塗膜構造の観察を行つた。

3 分析結果と考察

写真8に、塗膜薄片の生物顕微鏡写真と、走査型電子顕微鏡反射電子像を示す。図70に、赤外吸収スペクトルを示す。図70の縦軸は透過率(%T)、横軸は波数(Wavenumber (cm⁻¹)；カイザー)である。各スペクトルはノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示した数字は、生漆の赤外吸収位置を示す(表40)。以下に塗膜の分析結果について述べる。各塗膜の特徴を表41にまとめた。

[分析No.1 (皿外面黒色塗膜)]

塗膜薄片では、木胎a層、炭粉と漆からなる下地b層、透明漆層c層が観察された(写真8-5、6)。赤外分光分析では、炭化水素の吸収(吸収No.1及びNo.2)が確認され、生漆を特徴づけるウルシオールの吸収(吸収No.6~8)が明瞭に確認され、漆と同定された(表40、図70)。下地b層は、肉渋せのない黄褐色透明の層に黒色物が多く混ざるといった特徴が、後述のNo.2の柿渋を使用した下地と異なっており、炭粉と漆からなる下地と考えられる。

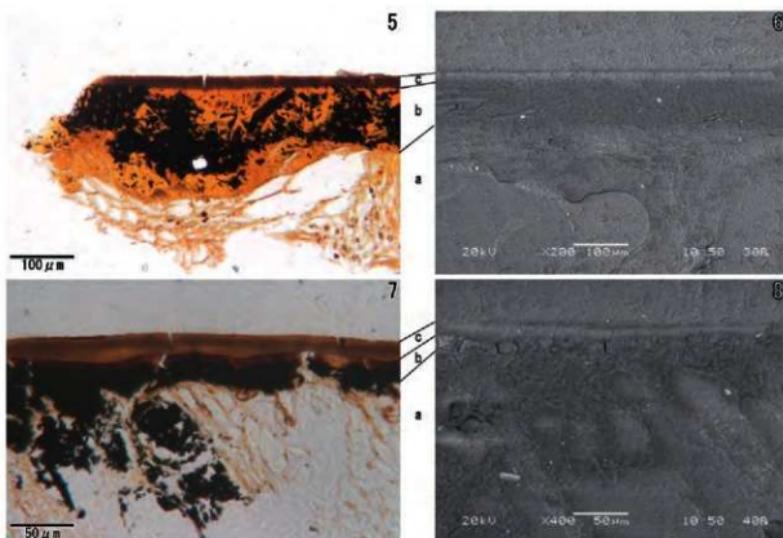
[分析No.2 (椀内面黒色塗膜)]

塗膜薄片では、木胎a層、炭粉と柿渋からなる下地b層、透明漆層c層が観察された(写真8-7、8)。赤外分光分析では、炭化水素の吸収(吸収No.1及びNo.2)が確認され、生漆を特徴づけるウルシオールの吸収(吸収No.6~8)が明瞭に確認され、漆と同定された(図70)。下地b層は、クラックの多く入った褐色透明の層に黒色物が多く混ざるといった特徴から、炭粉と柿渋からなる下地と考えられる。

柿田遺跡から出土した漆塗りの木製品2点について塗膜分析を行い、塗膜構造や材料について検討した。その結果、No.1(1331)の皿は、炭粉漆下地に透明漆層が1層塗られる構造と考えられた。No.2(121)の椀は、炭粉渋下地に透明漆層が1層塗られる構造と考えられた。

表40 生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収No.	生漆		ウルシ成分
	位置	強度	
1	2925.48	28.5337	
2	2854.13	36.2174	
3	1710.55	42.0346	
4	1633.41	48.8327	
5	1454.06	47.1946	
6	1351.86	50.8030	ウルシオール
7	1270.86	46.3336	ウルシオール
8	1218.79	47.5362	ウルシオール
9	1087.66	53.8428	
10	727.03	75.3890	



5・7 断面生物顕微鏡写真（5：分析No.1、7：分析No.2）

6・8 断面反射電子像（6：分析No.1、8：分析No.2）

写真8 漆製品の塗膜構造と反射電子像

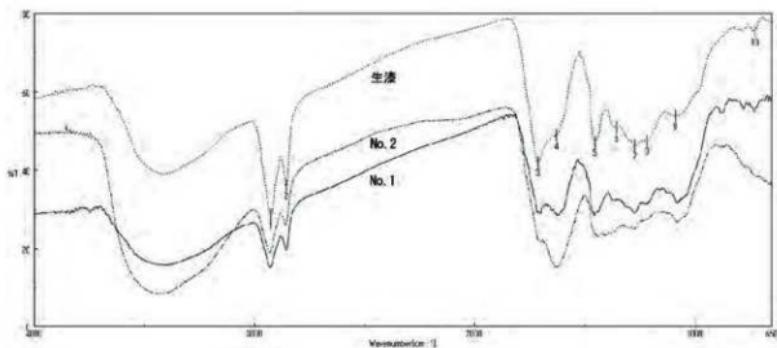
図70 試料及び生漆の赤外吸収スペクトル
(実線：No. 1、二点鎖線：No. 2、点線：生漆、数字：生漆の赤外吸収位置)

表41 塗膜分析結果

No.	器種	採取塗膜	下地	塗膜層
1	皿	外面黒色塗膜	炭粉塗下地	1層 透明塗層
2	椀	内面黒色塗膜	炭粉塗下地	1層 透明塗層

第3節 木製品の樹種同定

1 はじめに

当遺跡から出土した木製品について、樹種同定を行った¹⁾。分析は藤田秀臣（株式会社吉田生物研究所）が行った。

2 試料と方法

分析対象は、木製品32点である。剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。遺物の状態によりNo.17・26・28・29は木口の採取ができなかった。なお、顕微鏡はNikon DS-F1を使用した。

3 分析の結果

樹種同定結果（針葉樹6種、広葉樹2種）の表（表42）と顕微鏡写真（写真9～14）を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

(1) イチイ科カヤ属カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) (遺物No.2・4・8・15)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。晩材部は狭く、年輪界は比較的不明瞭である。軸方向柔細胞を欠く。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～4個ある。仮道管の壁には対になった螺旋肥厚が存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。カヤは本州（中・南部）、四国、九州に分布する。

(2) マキ科マキ属イヌマキ (*Podocarpus macrophyllus* Sweet) (遺物No.18・28)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はゆるやかであり、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個ある。短管型をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続（ストランド）をなして存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。イヌマキは本州（中・南部）、四国、九州、琉球に分布する。

(3) マツ科マツ属[二葉松類] (*Pinus* sp.) (遺物No.1)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が細胞間隙としてみられる。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内腔に向かって鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で1～15細胞高のものと、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属[二葉松類]はクロマツ、アカマツがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。

(4) コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ (*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.) (遺物No.16)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや緩やかで晩材部の幅は極めて狭い。柾目では放射組織の分野壁孔は小型の窓状で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。コウヤマキは本州（福島以南）、四国、九州（宮崎まで）に分布する。

(5) ヒノキ科ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.) (遺物No.3・6・7・9・10・13・14・22～25・27・

29～32)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州(福島以南)、四国、九州に分布する。

(6) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.) (遺物No.17・19・20・26)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在又は接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2~4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ、アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

(7) ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) (遺物No.5・21)

放射孔材である。木口では年輪に關係なくまちまちな大きさの道管(～200μm)が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に1~3細胞幅の独立帶状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は單穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で櫛状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州(宮城、新潟以南)、四国、九州、琉球に分布する。

(8) ニレ科ケヤキ属ケヤキ (*Zelkova serrata* Maki No.) (遺物No.11・12)

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管(～270μm)が1列で孔圈部を形成している。孔圈外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集團管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圈部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している(イニシアル柔組織)。放射組織は1~数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は單穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の1~3列のものと大部分を占める6~7細胞列のほぼ大きさの一様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

4 考察

試料32点のうち、針葉樹材28点、広葉樹材4点であった。針葉樹材はイチイ科カヤの4点、マキ科のイヌマキ2点、マツ科のマツ属[二葉松類]1点、コウヤマキ科のコウヤマキ1点、ヒノキ科のヒノキ属16点、アスナロ属4点である。広葉樹材のうち常緑樹材はブナ科のアカガシ亜属2点、落葉樹材はニレ科のケヤキ2点である。

同定した遺物は建築材、祭祀具、火付け木、漆器、服飾具等が見られる。建築材ではカヤ、マツ属[二葉松類]とヒノキ属が使用されていた。祭祀具では割裂性が高いコウヤマキが使用されている。また、

火付け木では割裂性に加えて、油分が高いイヌマキ、ヒノキ属とアスナロ属が使用されていた。容器では曲物底板にはヒノキ属が、漆器には高級品に使用されることが多いケヤキが用いられていた。服飾具の下駄には加工が容易なヒノキ属が使用されていた。それぞれに使用されている樹種は用途にあわせて選択していることが確認できる。

注

- 記載にあたっては、以下の文献を参考にした。

伊東隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～V」、京都大学木質科学研究所

北村四郎・村田源 1979 「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」、保育社

島地謙・伊東隆夫 1988 「日本の遺跡出土木製品総覽」、雄山閣出版

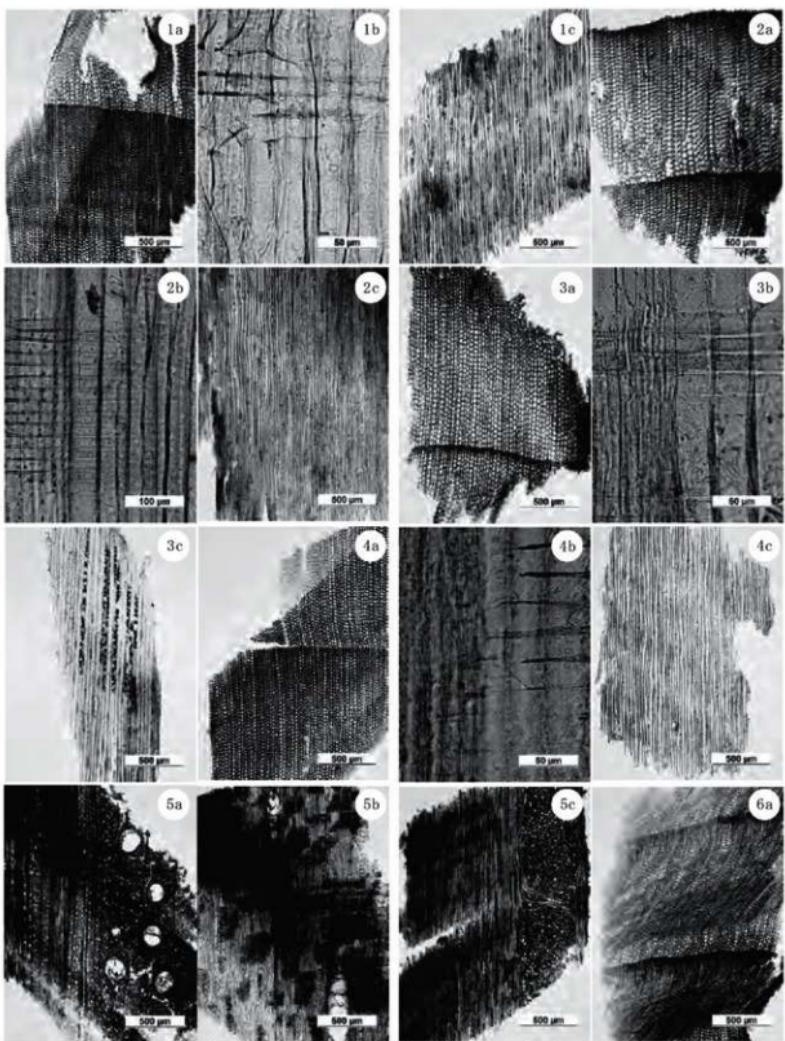
奈良国立文化財研究所 1985 「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」

奈良国立文化財研究所 1993 「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」

林昭三 1991 「日本産木材顕微鏡写真集」、京都大学木質科学研究所

表42 出土木製品の樹種同定結果一覧

No.	掲載番号	出土地点	出土遺構	出土層位	品名	樹種
1	1	C16	SP2	1	柱根	マツ科マツ属〔ニ葉松類〕
2	273	C18	SB1-SP1	1	柱根	イチイ科カヤ属カヤ
3	152	C17	NR5	5	曲物底板	ヒノキ科ヒノキ属
4	153	C17	NR5	5	柱材	イチイ科カヤ属カヤ
5	154	C17	NR5	5	板状木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
6	170	C17	NR5	m-o	柱材	ヒノキ科ヒノキ属
7	174	C17	NR5	m-o	横架材	ヒノキ科ヒノキ属
8	274	C18	SB1-SP3	1	柱根	イチイ科カヤ属カヤ
9	176	C17	NR5	p-r	棒状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
10	222	C17	-	III	下駄	ヒノキ科ヒノキ属
11	221	C17	-	III	漆器皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
12	269	C16	-	擾乱	漆器碗	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
13	132	C16	NR3	d-f	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
14	276	C18	SD2	a-b	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
15	277	C18	SD2	a	角柱状木製品	イチイ科カヤ属カヤ
16	156	C17	NR5	d-f	斎串	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
17	157	C17	NR5	d-f	火付け木	ヒノキ科アスナロ属
18	158	C17	NR5	d-f	火付け木	マキ科マキ属イヌマキ
19	159	C17	NR5	j-l	火付け木	ヒノキ科アスナロ属
20	162	C17	NR5	a-i	棒状木製品	ヒノキ科アスナロ属
21	177	C17	NR5	m-o	棒状木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
22	171	C17	NR5	p-r	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
23	172	C17	NR5	m-o	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
24	175	C17	NR5	m-o	棒状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
25	173	C17	NR5	m-o	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
26	160	C17	NR5	5	火付け木	ヒノキ科アスナロ属
27	155	C17	NR5	5	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
28	161	C17	NR5	5	火付け木	マキ科マキ属イヌマキ
29	423	C19	SD7	k-n	火付け木	ヒノキ科ヒノキ属
30	424	C19	SD7	k-n	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
31	220	C17	-	III	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
32	136	C17	NR3	-	火付け木	ヒノキ科ヒノキ属

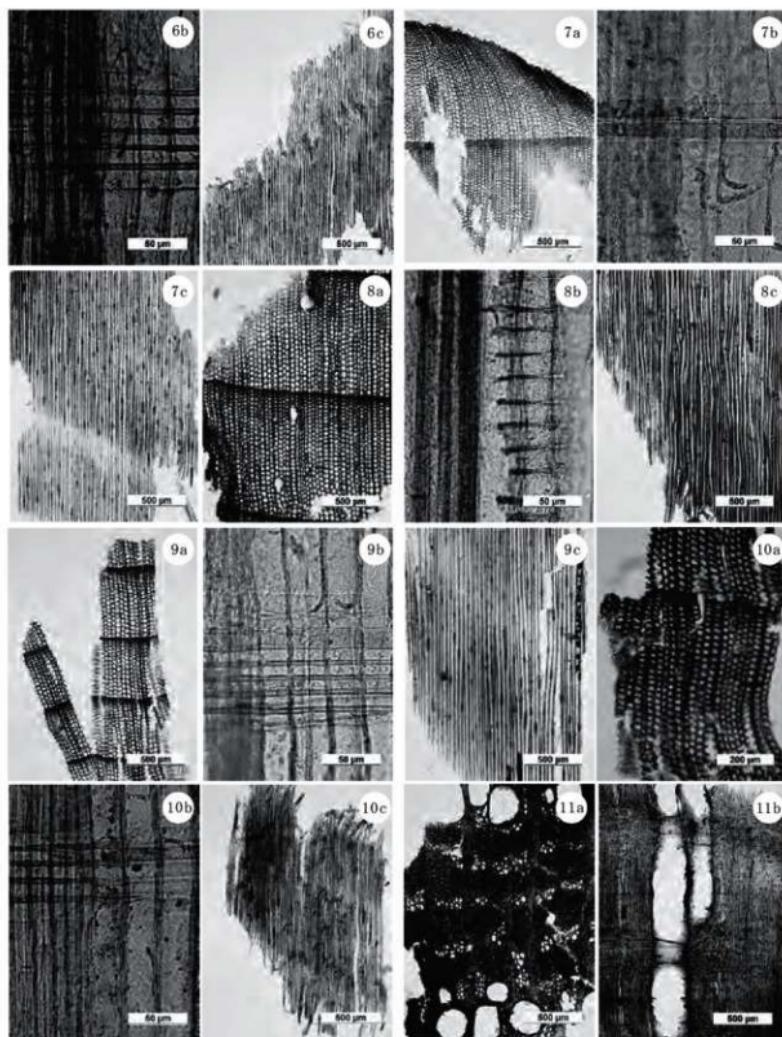


1a-1c. マツ(No. 1)、2a-2c. カヤ(No. 2)、3a-3c. ヒノキ(No. 3)、4a-4c. カヤ(No. 4)、

5a-5c. アカガシ(No. 5)、6a. ヒノキ(No. 6)

a:木口、b:柾目、c:板目

写真9 木製品の顕微鏡写真（1）

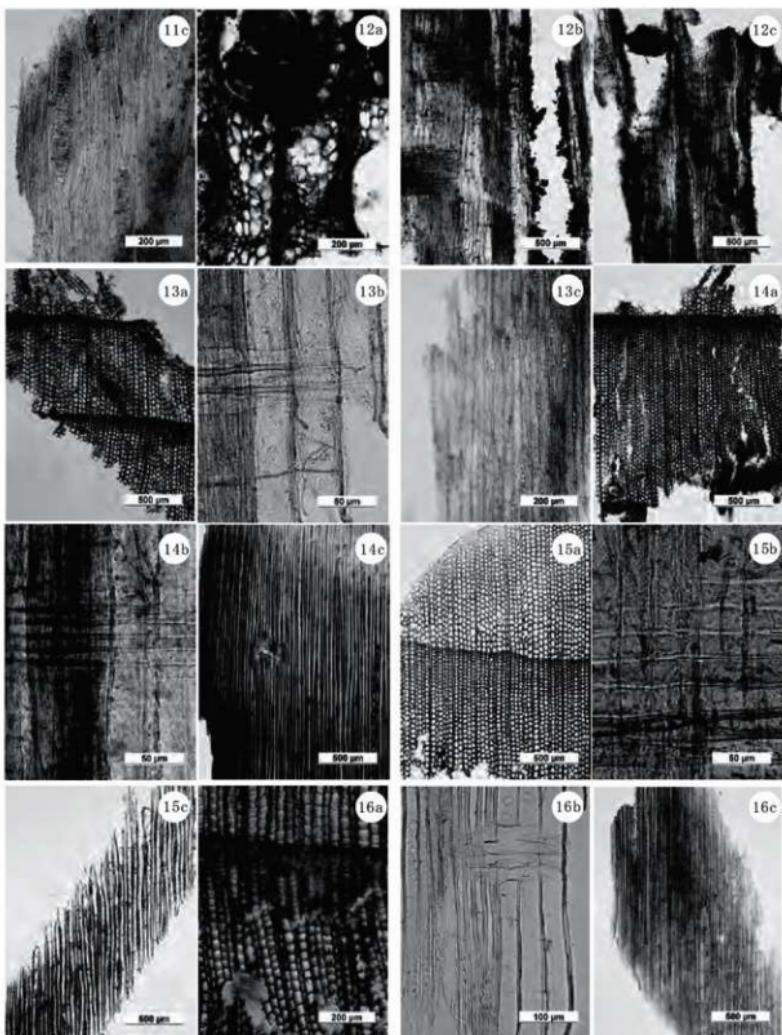


6b-6c. ヒノキ(No. 6)、7a-7c. ヒノキ(No. 7)、8a-8c. カヤ(No. 8)、9a-9c. ヒノキ(No. 9)、

10a-10c. ヒノキ(No. 10)、11a-11b. ケヤキ(No. 11)

a:木口、b:紋目、c:板目

写真 10 木製品の顕微鏡写真 (2)

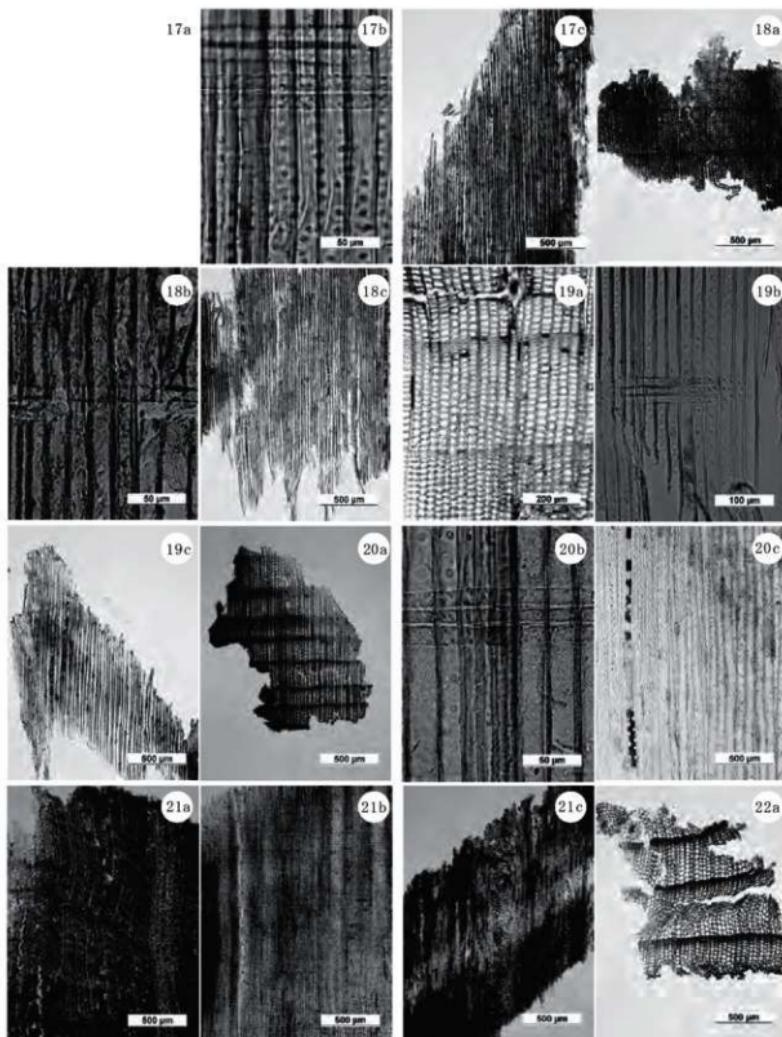


11c. ケヤキ(No. 11)、12a-12c. ケヤキ(No. 12)、13a-13c. ヒノキ(No. 13)、14a-14c. ヒノキ(No. 14)、

15a-15c. カヤ(No. 15)、16a-16c. コウヤマキ(No. 16)

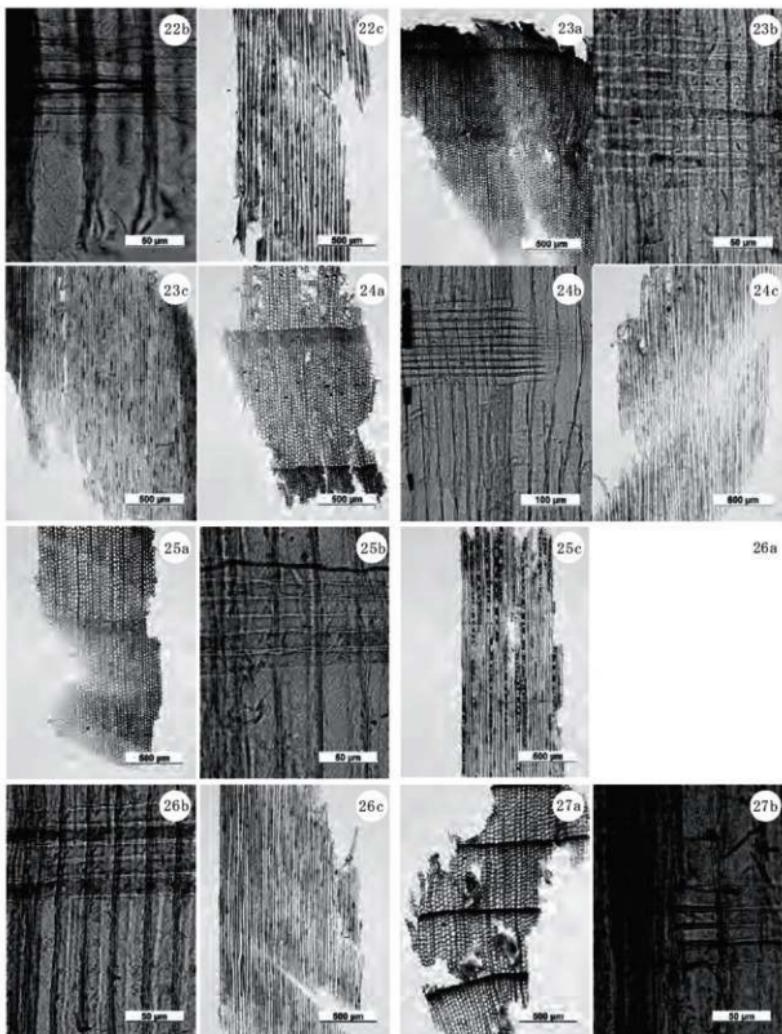
a:木口、b:柾目、c:板目

写真11 木製品の顕微鏡写真（3）



17a-17c. アスナロ(No. 17)、18a-18c. イヌマキ(No. 18)、19a-19. アスナロ(No. 19)、
20a-20c. アスナロ(No. 20)、21a-21c. アカガシ(No. 21)、22a. ヒノキ(No. 22)
a:木口、b:柾目、c:板目

写真 12 木製品の顕微鏡写真 (4)

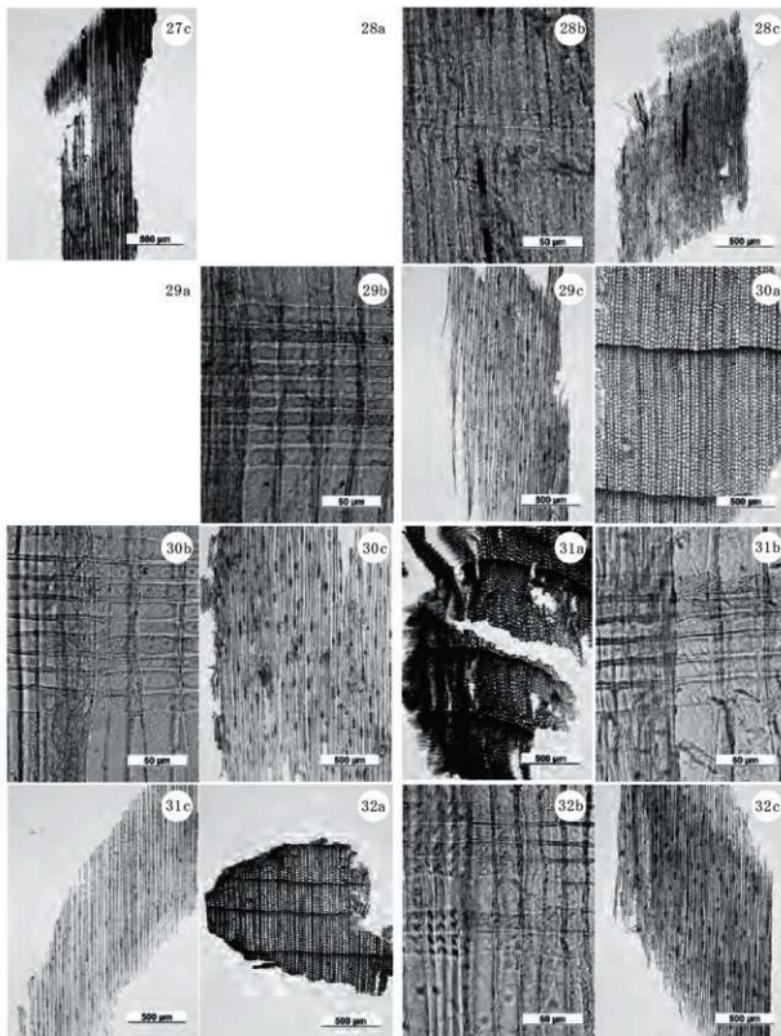


22b-22c. ヒノキ(No. 22)、23a-23c. ヒノキ(No. 23)、24a-24. ヒノキ(No. 24)、

25a-25c. ヒノキ(No. 25)、26a-26c. アスナロ(No. 26)、27a-27b. ヒノキ(No. 27)

a:木口、b:柾目、c:板目

写真 13 木製品の顕微鏡写真 (5)



27c. ヒノキ(No. 27)、28a-28c. イヌマキ(No. 28)、29a-29c. ヒノキ(No. 29)、
30a-30c. ヒノキ(No. 30)、31a-31c. ヒノキ(No. 31)、32a-32c. ヒノキ(No. 32)
a:木口、b:径目、c:板目

写真14 木製品の顕微鏡写真（6）

第5章 総括

第1節 文字資料について

平成調査では、文字資料を含む遺物が墨書き土器を中心に929点出土し、当遺跡は文字資料をとおして古代及び中世の人々の営みを考察できる遺跡として注目されている。本節では、文字資料について平成調査の成果を踏まえて検討する。

今回の調査において出土した文字資料には、墨書・ヘラ書きがあり、記された媒体はいずれも土器である。墨書き土器は32点確認した。墨書き土器の種別は須恵器・灰釉陶器・山茶碗であり、時期は平成調査の時期区分（第3章第2節）におけるV期（古代）からVII期（中世後期）である。ヘラ書き土器は1点確認した。ヘラ書き土器の種別は須恵器であり、時期はV期である。ここでいうヘラ書きとは、土器の表面を削って文字を記す刻書のうち、焼成前に文字を施したもの指す。なお、ヘラ記号が施されたV期に属する須恵器1点についても本節で取り扱う（表43）。

表43 出土文字資料時期別点数

時期	V期			VI期		VII期		計
	1	2	3	1	2	1	2	
墨書き土器		3	3	17	5	2	2	32
ヘラ書き土器		1						1
ヘラ記号		1						1
合計		5	3	17	5	2	2	34

1 V期（古代）の文字資料

墨書き土器（須恵器） 3点確認した。 表44 墨書き須恵器等出土点数

いずれもC18地点の遺物包含層（III層）から出土した、V-2期に属する猿投窯産の坏身である。墨書きされた部位は底部外面が2点、体部外面が1点である。年代は高藏寺2号窯式期に属するものが1点、高藏寺2

产地等	時期	点数	文字等
猿投	高藏寺2	2	「小器」1点、「大徳」1点
	高藏寺2～鳴海32	2	「□器」1点、积読不能1点
美濃須衛	IV期第3小期	1	「×」（ヘラ記号）1点
合計		5	

号窯式期から鳴海32号窯式期に属するものが2点であり、すべて8世紀代である。290は高藏寺2号窯式期の坏身B類で、体部外面に墨書きが確認できる。1文字目が「小」と积読でき、2文字目は上半部のみの残存であるが「器」と考えられる。291は高藏寺2号窯式期から鳴海32号窯式期の坏身B類若しくはC類で、底部外面に墨書きが確認できる。「器」と积読でき、その上部にも文字の一部が確認できる。8世紀代の須恵器に「器」と墨書きされた土器の出土例は全国で13件と少ないが、このうち約半数の7件が井戸跡から出土している¹⁾。また、平城京右京二条三坊六坪遺跡では、「器」と墨書きされた土器が、斎串若しくは土馬と共に供伴して出土した事例が2件報告されている（奈良市教育委員会1996）。このことから、「器」と墨書き

された土器は祭祀と関連する遺物である可能性がある。294は高藏寺2号窯式期から鳴海32号窯式期の坏身C類で、底部外面に墨書が確認できる。墨書された内容は訛読できないが、「ニ」若しくは「久」と考えられる筆跡が確認できる。

なお、平成調査においてC9地点及びC10地点で7点確認された「田村」若しくはその略とされる「田寸」、可児市教育委員会による調査地点（馬乗洞地点）で28点確認された「垣田」、「石井」は今回の発掘区では確認できなかった。「田村」、「垣田」、「石井」は『倭名類聚抄』可児郡の郷名には見あらないが、当時の地域名称と考えられている（可児市2007a）。

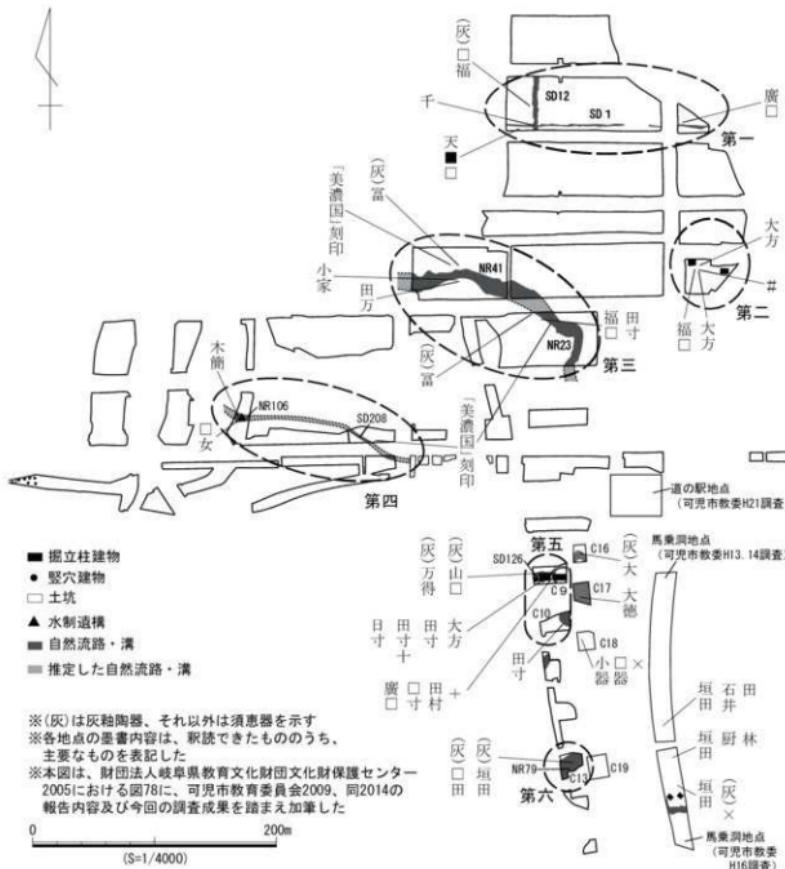


図71 V期主要文字資料分布図

ヘラ書き土器（須恵器） 1点確認した。182はC17地点の遺物包含層（III層）から出土した、猿投窯産高藏寺2号窯式期の坏蓋C類である。年代は8世紀初頭から前葉である。内面に「大徳」と刻書される。「大徳」は吉祥句若しくは徳の高い僧の意と考えられる。福井県今市岩畠遺跡では、内面に「大徳」と墨書きされた8世紀代の坏蓋が出土している。「大徳」は白山を開山したと伝えられ、「越の大徳（こしのだいとこ）」と称された高僧、泰澄大師（682年～767年）を指すと解釈されている（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター2008）。当遺跡周辺で「大徳」と称された高僧は特定できなかった。

ヘラ記号（須恵器） 1点確認した。299はC18地点の遺物包含層（III層）から出土した、美濃須衛窯産IV期第3小期の鉢である。年代は8世紀後葉から末である。底部外面に「×」と線刻される。

墨書き土器（灰釉陶器） 3点確認した。C16地点

表45 墨書き灰釉陶器出土点数

の遺物包含層（III層）若しくは攪乱から出土し、いずれもV-3期に属する。器種は碗が2点、皿が1点である。墨書きされた部位はすべて底部外面である。いずれも東濃窯産丸石2号窯式期に属することから、年代はすべて11世紀前葉から中葉である。

内容であるが、190は釈読不能、191は「□□[珍カ]」、242は「大」である。「珍」は珍の俗字であり、宝（寶）という意味があるとされ（平川2000）、良好な状態を表す「大」と同様に吉祥句と考えられる。平成調査においてC13地点NR79から出土した「垣田」は確認できなかった。

出土位置とまとめ 平成調査では、当該時期の文字資料を含む土器が特に多く出土した6箇所の「分布域」を報告している（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005）。このうち今回の発掘区は、第五分布域（C9地点・C10地点）及び第六分布域（C13地点）と可児市教育委員会による調査地点（馬乗洞地点）の間に位置する。しかし、文字資料を含む土器の出土数は少なく、地域名称を表すとされる「田村（田寸）」、「垣田」、「石井」は確認できなかった。検出した同時期の遺構は自然流路のみで、C9地点及び馬乗洞地点で確認された掘立柱建物群は確認できなかった。

2 VI-VII期（中世）の文字資料

墨書き土器（山茶碗） 26点を確認した。VI-1期に属するものが最も多く（表43）、器種は碗が20点、小皿が6点である。墨書きされた部位はすべて底部外面である。第5型式に属する尾張型山茶碗2点を除く24点が東濃型山茶碗であり、属する窯式は表34に示すとおりである。平成調査では、浅間窯下1号窯式期から白土原1号窯式期（12世紀後葉～13世紀中葉）に属するものに度数分布が集中するという結果を得たが、今回の調査では谷迫間2号窯式期に属するものが多く出土している。墨書きの内容であるが、釈読できたものは、「十」9点、「大」4点、「一」3点、「天」1点、「品」1点、「太」1点である。平成調査の墨書き土器分類（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005）では、「大」、「天」、「品」、「太」はIA1類（漢字一文字）、「十」、「一」はIA3類（漢数字状）に分類される。「大」は良好な状態を表す吉祥句と考えられる。また、「大」の表記が伊勢神宮の官司家若しくは造営役人の特注品であることを示すとの見解もある（田口1978）。当遺跡周辺では、御嵩町内に伊勢神宮領小泉御厨が存在したと伝わる²⁾。「天」の意味するところは不明であるが、「天」字は文字の上部を底部上端に寄せて記されており、平成調査において2点確認されている「天」と釈読できる墨書き土器と同様の特徴を呈する。「品」は多点記号「・・・」と解釈されることもある³⁾が、筆跡の観察から「○」ではなく「口」が3つ書かれてい

産地等	時期	点数	文字等
東濃	丸石2	3	「□□[珍カ]」1点、「大」1点、釈読不能1点
	合計	3	

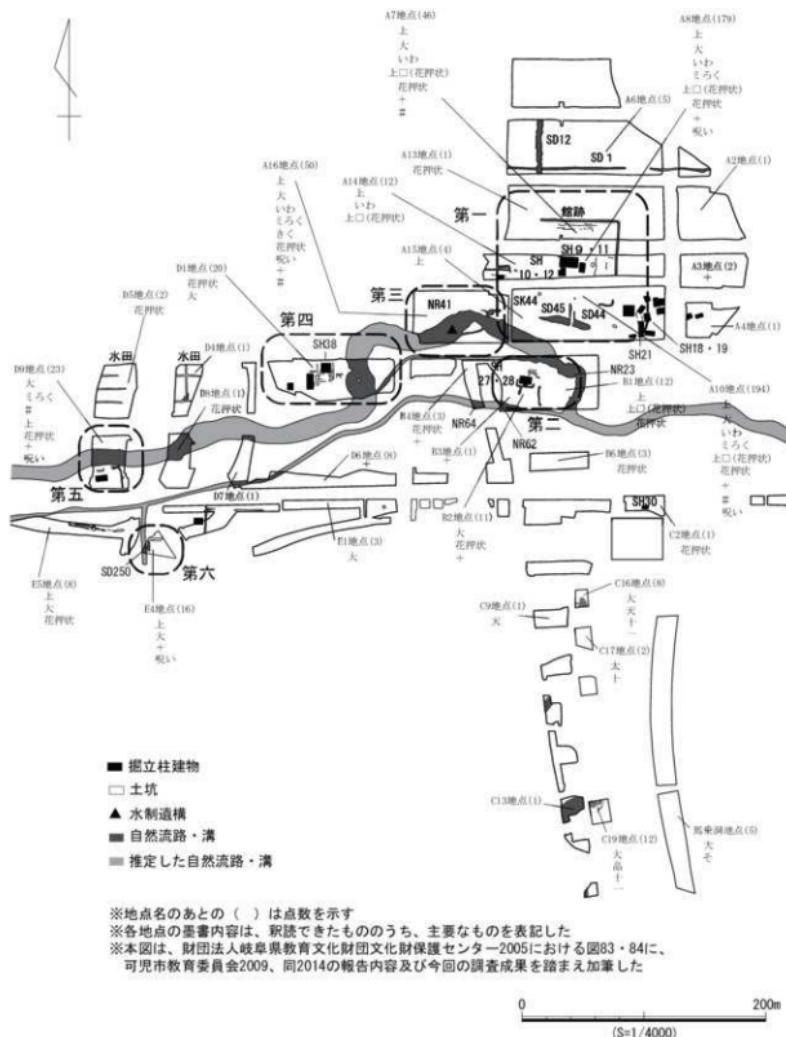


図72 VI期各地点墨書き点数及び主要墨書き内容

ると判断し、漢字と解釈した。「太」は吉祥句と考えられる。「十」は「×」若しくは「+」という記号、「一」は「|」という記号であった可能性があるため、II A 3類(漢数字状)に分類している。

出土位置とまとめ 今回の調査において墨書茶碗が出土した遺構及び層位を表47で示した。このうち、



図73 VII期各地点墨書き点数及び主要墨書き内容

表46 墨書き山茶碗出土点数

产地等	時期	点数	文字等
東濃型	矢戸上野2	0	
	谷迫間2	6	「十」2点、「大」1点、「天」1点、 読み不能2点
	浅間窯下1	3	「一」2点、「太」1点
	丸石3	0	
	窯洞1	6	「十」4点、「大」1点、 読み不能1点
	白土原1	5	「十」1点、「品」1点、 読み不能3点
	明和1	0	
	大畑大洞4 ～大谷洞14	2	「十」1点、読み不能1点
	大洞東1	2	「十」1点、「一」1点
	脇之島3	0	
	生田2	0	
尾張型	第5型式	2	「大」2点
合計		26	

表47 墨書き山茶碗出土遺構及び層位

地点	遺構・層位	時期	点数
C16	擾乱坑	VI-1	2
	II		1
	III		5
C17		VI-1	2
	III	VII-1	1
		VII-2	2
C18	III	VII-1	1
C19	トレンチ	VI-1	2
	SD6	VI-1	1
		VI-2	1
	SD7	VI-1	4
		VI-2	3
	SD8	VI-2	1
合計			26

C19地点ではSD6～SD8から墨書き山茶碗が出土しているが、他は遺物包含層(III層)等からの出土である。今回の調査に平成調査及び可児市教育委員会の調査成果を加え、柿田遺跡全体での墨書き山茶碗の出土分布と主要遺構配置を図74・75に示した。墨書き山茶碗の出土は、A7・A8・A10・D1地点のように、建物を中心とした遺構がある地点に集中する。今回の調査では、「十」や「大」など、平成調査で地点の区別なく出土した文字は確認できた。一方で、平成調査においては館跡周辺(第一分布域)で花押状の墨書きや、当遺跡特有の文字群(「いわ」・「きく」・「みろく」)⁴⁾の記された墨書きが集中して出土したが、館跡周辺(第一分布域)と離れている今回の調査地点(C16～C19地点)では確認できなかった。

注

- 1) 「明治大学日本古代学研究所 全国墨書き土器・刻畫土器、文字瓦横断検索データベース」による。
- 2) 可児郡御嵩町中の春日神社に保存されている中村荘の官宣旨(嘉徳4年(1238)、県重文)には、中村荘の東隣に伊勢神宮領小泉御厨が存在したことが記されており、小泉御厨は旧上之郷村及び旧御嵩町の東端付近が莊域とされている(御嵩町1992)。
- 3) 岐阜市千疊敷遺跡から同様の墨書きが確認できる東濃型山茶碗が出土しており、漢字「品」として報告されている(岐阜市教育委員会1990)。しかし、平成調査や額戸南遺跡(財團法人岐阜県文化財保護センター2000)における出土事例を含め、その多くは多点記号「:」として報告されている。
- 4) 他遺跡からの出土例がなく、複数の字形が確認できることから、当遺跡特有の集団を標章する文字の可能性が指摘されている(財團法人岐阜県教育文化財团文化財保護センター2005)。

第2節 土地利用の変遷

本節では、今回の調査における検出遺構や出土遺物に見られる特徴に、平成調査の成果（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005）、可児市教育委員会による発掘調査の成果（可児市教育委員会2009、2014）を併せ、C地区を中心に土地利用の変遷を概観する。なお、時期区分は平成調査における時期区分（第3章第2節）に従う。また、各時期の主な遺構配置を図74～80に示した。

1 I期（縄文時代）

今回の調査では、当該期の遺構・遺物は確認できなかった。平成調査でも当該期の遺構はほとんど確認されておらず、遺物は中期から晩期の縄文土器が76点出土したのみである。また、可児市教育委員会による調査でも、当該期の遺構・遺物は確認されていない。

2 II期（弥生時代～古墳時代前期前半）（図74）

今回の調査では、C16地点及びC17地点で自然流路1条（NR3）を検出した。当該期に属する遺物は、

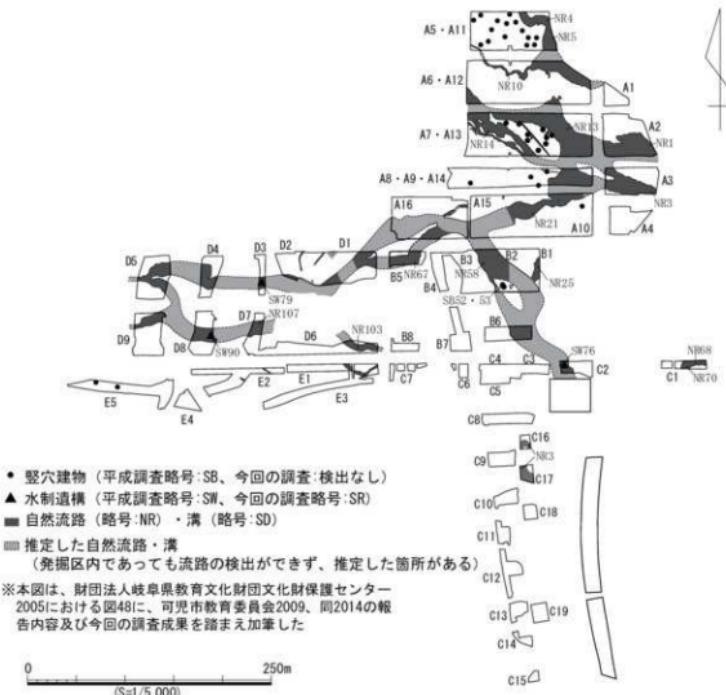


図74 II期の主な遺構配置図

流路で流されたと考えられ、殆どが摩滅の激しい小片であった。このうち、廻間I～II式の弥生土器(287・346)2点が最も古く位置付けられる。また、NR3肩部(C16地点)において、廻間III式の広口壺(掲載番号96、以下括弧内は掲載番号のみを記載)の破片がまとまって出土し、廻間III式の小型壺(102)が完形に近い状態で逆位で出土した(第3章第5節、図19・20)。これらは廃棄時の原位置を保っていると考えられる。

平成調査では、A地区において自然流路に囲まれた微高地上に弥生時代後期から古墳時代初頭に属する堅穴建物群(A5・A11地点)と古墳時代前期前半に属する堅穴建物群(A7・A13地点)が確認された他、A・B・D地区を中心に堅穴建物、溝、自然流路、水制造構などが検出された。C地区では、自然流路3条(NR68・70等)、水制造構1基(SW76)が検出された。平成調査では、C地区における弥生土器の出土数は他地区と比べて少ないと報告されているが、C1地点で検出された自然流路(NR70)からは、美濃第IV様式(主に高藏式併行)の壺(250～253)や美濃第V様式(山中式併行)の高坏(254)などの弥生土器が出土している。

可児市教育委員会による調査では、当該期の遺構・遺物は確認されていない。

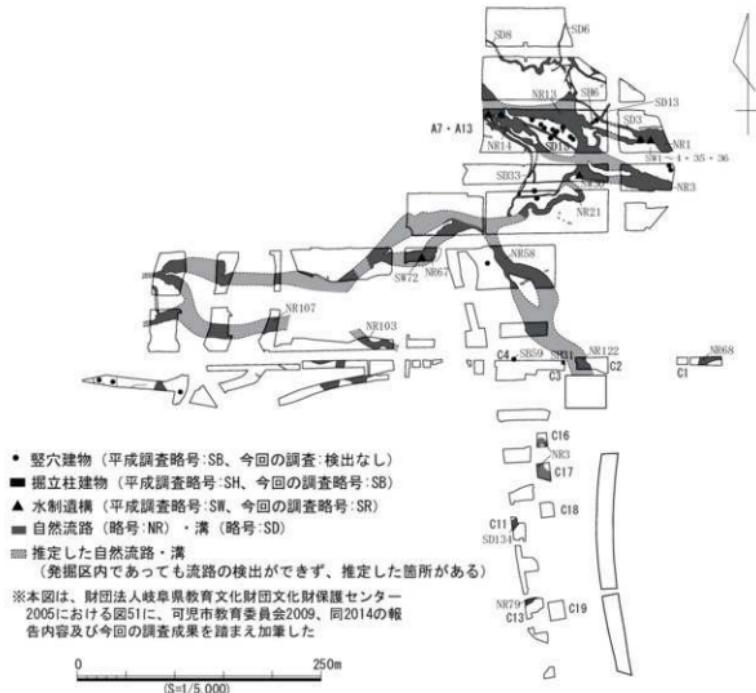


図75 III期の主な遺構配置図

当遺跡における当該期の遺構は、主としてA地区を中心とする可児川により形成された沖積平野上（以下、「沖積平野上」という。）に集中し、この範囲が居住域と考えられるが、C地区においても流路に関わる遺物が確認できる。

3 III期（古墳時代前期後半）（図75）

今回の調査では、C16地点及びC17地点で自然流路1条（NR3）を検出し、4,844点の土師器が出土した。平成調査では、堅穴建物群がA7・A13地点で確認された他、A・B・E地区を中心に堅穴建物、掘立柱建物、溝、自然流路、水制造構などが検出された。C地区では、堅穴建物1棟（SB59）、掘立柱建物1棟（SH31）、柱列跡1基、ピット5基、溝1条（SD134）、自然流路6条（NR68・79・122等）、土坑1基が検出された。このうち、NR79から5,406点の土師器が出土した。

可児市教育委員会による調査では、当該期の遺構は確認されていないと報告されている（可児市教育委員会2009）が、馬乗洞地点に土器埋設遺構が存在した可能性が高い。道の駅地点では、VI期の溝（SD3）から松河戸I式から宇田I式の土師器壺（22）の破片が出土した。馬乗洞地点では、平成14年度の調査において遺物包含層（⑥層）から松河戸II式の土師器高环の脚部（123）が、平成16年度の調査において松河戸I式の土師器壺（202）が完形に近い状態で出土した。このうち、202は埋設された土器であることから、祭祀に関連する可能性が指摘されている（可児市教育委員会2009）。

当遺跡における当該期の遺構は、II期と同様に主としてA地区を中心とする沖積平野上に集中し、この範囲が居住域の中心と考えられるが、C地区にも居住域が広がったと考えられる。

4 IV期（古墳時代後期）（図76）

今回の調査では、C18地点で溝1条（SD2）、C16地点及びC17地点で自然流路2条（NR3・5）、C18地点で水制造構2基（SR1・2）、C18地点で土坑1基を検出した。水制造構はいずれもSD2に伴う。

平成調査では、堅穴建物、掘立柱建物、水田跡、溝、自然流路、水制造構などが検出された。C地区では、堅穴建物3棟（SB60・61等）、掘立柱建物1棟（SH32）、溝3条（SD132・134等）、自然流路4条（NR68・79等）、水制造構1基（SW74）、土坑1基が検出された。このうち、NR79から2,239点、SD134から186点の須恵器が出土した。

可児市教育委員会による調査では、当該期の遺構は確認されていないが、道の駅地点で検出されたVI期の溝（SD3）から東山15号窯式期の猿投窯産須恵器高环（23）が出土し、馬乗洞地点では、平成16年度の調査においてV期の自然流路（NR1）から東山50号窯式期併行の土師器壺（206）が出土している。

なお、堅穴建物がE5地点、C8地点、C9地点などで1～数棟単位で確認されたことから、居住域は沖積平野上と浅間丘陵地の北側に展開する扇状地上（以下、「扇状地上」という。）に広がっていたと考えられる。また、II期及びIII期のように堅穴建物が集中する様相が確認できないことから、当該期には居住域が散在する様相に変化したと考えられる。

5 V期（古代）（図77）

今回の調査では、C18地点で掘立柱建物1棟（SB1）、C16地点及びC17地点で自然流路3条（NR2・3・5）を検出した。このうち、NR2から須恵器525点、灰釉陶器567点が出土した。また、VI～VII期の溝（SD7、C19地点）から須恵器405点、灰釉陶器351点、VII期の溝（SD8、C19地点）から須恵器310点、灰釉陶器139点が出土した。当該期の遺物は、岩崎17号窯式期から百代寺窯式期併行の猿投窯産及び美濃須衛窯産須恵器、光ヶ丘1号窯式期から西坂1号窯式期の東濃窯産灰釉陶器が確認できる。また、NR5（C17

地点) の3層埋土(粗砂、層厚5~10cm)から完形に近いミニチュアの美濃須衛窯産須恵器提瓶(147)が出土し、その周辺から須恵器甕や須恵器横瓶(145)の破片がまとめて出土した(図24、図版4)。これらは水辺の祭祀に関連する可能性がある。

平成調査では、E 5地点で竪穴建物群が確認された他、竪穴建物、掘立柱建物、道路状遺構(SD1~12)、水田跡、溝、自然流路、水制遺構などが検出された。C地区では、掘立柱建物5棟(SH33~37)、ピット44基、溝6条(SD134等)、自然流路2条(NR79等)、土坑3基が検出された。このうち、掘立柱建物はC 9地点に集中し、その下流にあたる溝(SD208、D 6地点)や自然流路(NR106、D 7地点)から木製祭祀具がまとまって出土していることから、C 9地点周辺で祭祀が行われていた可能性が指摘されている(財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005)。

可児市教育委員会による調査では、平成16年度の調査において、馬乗洞地点で掘立柱建物2棟(SH1・2)、自然流路2条(NR1等)が検出された。SH1・2はともに2×2間の建物で、NR1に隣接する場所に建てられていることから、利水に関連する施設であった可能性が指摘されている(可児市教育委員会2009)。当該期の遺物は、「垣田」と記されたIV期第3小期の美濃須衛窯産須恵器壺蓋(232)等の墨書き土



図76 IV期の主な遺構配置図

器を含む。道の駅地点では、当該期の遺構は確認されていないが、VI期の溝（SD3）から鳴海32号窯式期の猿投窯産須恵器無台坏（25）、折戸10号窯式期の猿投窯産須恵器盤（26）が出土している。

これらの状況から、沖積平野上は条里地割が施行され、水田地となり、居住域は沖積平野上からE5地点からC地区周辺の扇状地上に移ったと考えられる。

6 VI期（中世前期）（図78）

今回の調査では、C19地点で溝3条（SD7・9等）、C16地点及びC19地点で自然流路3条（NR1・2等）、C18地点及びC19地点で土坑7基を検出した。このうち、NR2から482点、SD7から2,310点の山茶碗が出土した。当該期の遺物は、矢戸上野2号窯式期から白土原1号窯式期の東濃型山茶碗が確認できる。

平成調査では、A8地点で方格地割を有する掘立柱建物（SH9～12）が確認された他、掘立柱建物、道路状遺構（SD1・SD12）、水田跡、溝、自然流路、水制遺構、土坑などが検出された。掘立柱建物が集中する箇所は、A4・10地点、A8地点、A14地点、B2地点、C2地点、D1・2地点、D9地点、E2地点の8箇所確認できる。これらは、概ね条里地割の一坪に1箇所ずつである。出土遺物の様相から各建物間には階層差が存在しており、なかでもA8地点における掘立柱建物周辺からは、儀礼的な饗宴の器と



図77 VI期の主な遺構配置図

される土師器皿がまとめて出土したため、当遺跡においてその場が中心的な役割を果たしていた可能性が指摘されている（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005）。C地区では、掘立柱建物1棟（SH30）、ピット10基、土器集積1基、溝14条（SD134）、自然流路2条（NR79）、土坑1基が検出された。このうち、NR79から1,505点の山茶碗が出土した。

可児市教育委員会による調査では、道の駅地点で溝2条（SD1・3）が検出された。馬乗洞地点では、当該期のものと特定できる遺構は報告されていないが、当該期の東濃型山茶碗及び尾張型山茶碗が出土しており、底部外面に「大」と墨書きされた丸石3号窯式期の東濃型山茶碗（265）等の墨書き山茶碗が含まれる。

これらの状況から、居住域は沖積平野上及びE2地点からC2地点周辺の扇状地上に条里地割に沿って散在して展開する。居住域のなかでA8地点における掘立柱建物周辺が中心的な役割を担っていたと考えられるが、C地区においても流路に関わる遺物が確認できる。

7 VI期（中世後期）（図79）

今回の調査では、C16地点で柱穴1基（SP2）、C19地点で溝9条（SD4・6・7・8等）、C19地点

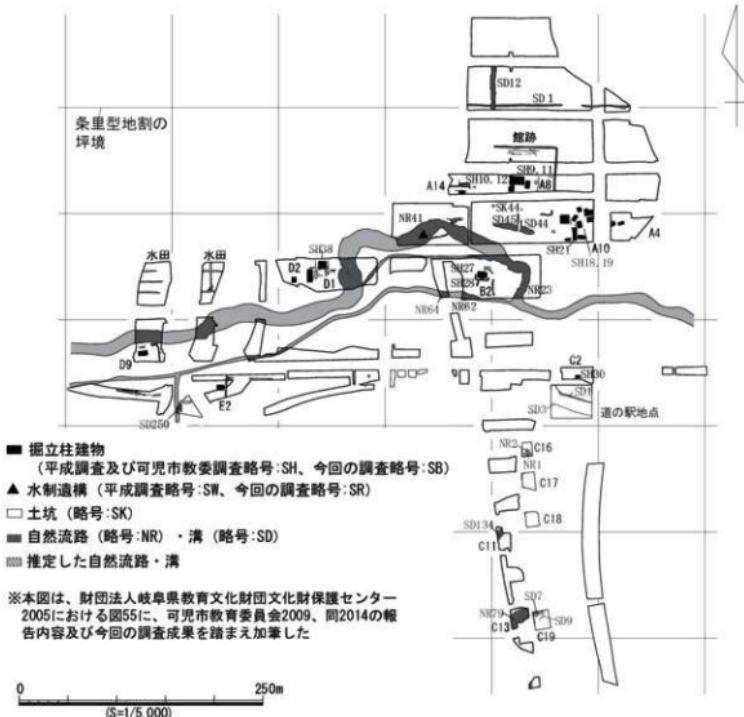


図78 VI期の主な遺構配置図

で自然流路1条、C18地点及びC19地点で土坑21基を検出した。このうち、SD4から656点、SD6から312点、SD7から2,310点、SD8から563点の山茶碗が出土した。SD4・6・7・8は、すべて地山（岩盤）を削って成形した痕跡が顕著に確認できる溝であり、溝幅を広げるようにして開削が繰り返されている。

平成調査では、掘立柱建物、水田跡、溝、自然流路、水制遺構などが検出された。水田跡は概ね15～16世紀に比定され、当遺跡のB6・D7・D8地点を除く沖積平野上のほぼ全面で検出されている。畦畔の方向は自然流路付近では自然流路の方向に規制され、それ以外では条里地割に規制されている。C地区では、畦畔22基、水田跡10基、溝11条、自然流路1条、土坑5基が検出された。

可児市教育委員会による調査では、道の駅地点で溝4条（SD1・2・4・5）が検出された。馬乗洞地点では、当該期の遺構は報告されていないが、当該期の山茶碗が出土しており、底部外面に「+」と墨書きされた大拙大洞4号窯式期の東濃型山茶碗（263）等の墨書き土器が含まれる。

これらの状況から、当遺跡の沖積平野上はほぼ全域が水田地化しており、C地区を含めた扇状地上は水田に水を供給するための水路等を整備した地域と考えられる。



図79 VII期の主な遺構配置図

8 VII期（近世～近代）（図80）

今回の調査では、C19地点で溝1条（SD3）及び土坑5基を検出した。このうち、SD3は登窯第1段階併行に比定され、地山（岩盤）を削って成形した痕跡が顕著に確認でき、柿釉灰流し碗（313）などの登窯製品10点が出土した。

平成調査では、ピット、水田跡、溝、土坑などが検出された。このうち、水田跡は登窯第1段階から登窯第2段階併行に比定され、B1地点及びA16地点で検出されたが、水田は沖積平野上に広く展開していると推測されている（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005）。溝はいずれも近代初頭に比定される。C地区では、ピット23基、溝3条、自然流路2条、土坑3基（SK149～151）が検出された。このうち、近現代の土坑（SK149～151）が報告されている。

可児市教育委員会による調査では、馬乗洞地点で溝2条（SD10・11）が検出された。SD10・11は登窯第2段階から登窯第3段階併行に比定され、内部に小石と礫で構成される石組を有する。

これらの状況から、VII期に引き続き、C地区を含めた扇状地上は沖積平野上に広がる水田に水を供給するための水路等を整備した地域と考えられ、このような土地利用の在り方は、現代にも引き継がれていると考えられる。



<引用・参考文献>

- 愛知県史編さん委員会2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 濱戸系』、愛知県
 愛知県史編さん委員会2010『愛知県史 資料編4 考古4 飛鳥～平安』、愛知県
 愛知県史編さん委員会2012『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』、愛知県
 愛知県史編さん委員会2015『愛知県史 別編 窯業1 古代 猿投系』、愛知県
 赤塚次郎・早野浩二2001「松河戸・宇田様式の再編」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第2号、
 愛知県埋蔵文化財センター
 荒木志伸1999「墨書土器にみえる諸痕跡について」『お茶の水史学』43号、お茶の水女子大学文教育
 学部人文科学科比較歴史学コース読史会
 上田秀夫1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』第2号、日本貿易陶磁研究会
 内堀信雄・井川祥子1996「美濃における古代土器師煮炊具の様相」『鍋と甕そのデザイン』（第4回
 東海考古学フォーラム）、東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
 大阪府立近つ飛鳥博物館2006『年代のものさし 陶邑の須恵器』（大阪府立近つ飛鳥博物館図録40）
 各務原市教育委員会1984『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』（各務原市資料調査報告書第4号）
 可児市2007a『可児市史』第1巻（通史編 考古・文化財）
 可児市2007b『可児市史』第2巻（通史編 古代・中世・近世）
 可児市2007c『可児市史』第4巻（自然編）
 可児市教育委員会1996『可児の地層と化石』（可児市の文化財第8集）
 可児市教育委員会1997『美濃の焼き物と可児』（可児市の文化財第9集）
 可児市教育委員会2006『可児市内遺跡発掘調査報告書』（可児市埋文報告36）
 可児市教育委員会2009『柿田遺跡馬乗洞地点』（可児市埋文報告42）
 可児市教育委員会2014『柿田遺跡（道の駅地点）・ほうの木古窯跡』（可児市埋文報告45）
 可児町1980『可児町史』（通史編）
 可児先生2001「中世の墨書土器～岐阜県を中心に～」『文字の登場、そして広まり—古代中世の人と
 文字をめぐって—』、美濃加茂市民ミュージアム
 北村和宏1996「尾張の「伊勢型鍋」」『鍋と甕そのデザイン』（第4回東海考古学フォーラム）、東
 海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
 北村和宏2001「古代「三河型甕」考」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第2号、愛知県埋蔵文
 化財センター
 岐阜県教育委員会2003『岐阜県教育史』（通史編 古代・中世・近世）
 岐阜県教育委員会・可児町教育委員会1973『可児町杉ヶ洞古墳発掘報告書』
 岐阜県文化財保護センター2014『今渡遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第130集）
 岐阜市教育委員会1990『千疊敷一畿田信長居館伝承地の発掘調査と史跡整備－』
 久馬一剛・永塚鎮男編1987『土壤学と考古学』、博友社
 工業善通1991『水田の考古学』（UP考古学選書12）、東京大学出版会
 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『石座神社遺跡』第1分
 冊（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第189集）
 財团法人愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集）

- 財団法人愛知県埋蔵文化財センター1994『松河戸遺跡』(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第48集)
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2000『顔戸南遺跡』(岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第58集)
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『金ヶ崎遺跡・青木横穴墓』(岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第78集)
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『杉ヶ洞3・5号古墳 前山2号古墳』(岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第85集)
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『柿田遺跡』(岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第92集)
- 高島英之2000『古代出土文字資料の研究』
- 田口昭二1978『中世陶器と池田御厨』『美濃の古陶』、美濃古窯研究会
- 太宰府市教育委員会2000『太宰府条坊跡X V』陶器器分類編(太宰府市の文化財第49集)
- 多治見市教育委員会1993『美濃窯の焼き物 特集 写真で見る美濃焼の歴史』(多治見の古窯第3号)
- 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所2010『出土建築部材における調査方法についての研究报告』
- 永井宏幸1995「奈良・平安時代の土師器甕について～大毛池田・沖遺跡出土資料を中心に～」『年報平成6年度』、財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 長瀬治義1994「柿田馬乗洞古窯の須恵器」『美濃の古陶』(美濃古窯研究会会報第7号)、美濃古窯研究会
- 奈良国立文化財研究所1985『木器集成図録 近畿古代編』(奈良国立文化財研究所史料第27冊)
- 奈良市教育委員会1995『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』
- 奈良市教育委員会1996『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』
- 奈良市教育委員会1997『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』
- 平川南2000『墨書き土器の研究』
- 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター2008『今市岩畠遺跡』(福井県埋蔵文化財調査報告第34集)
- 藤沢良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『三重県埋蔵文化財センター研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター
- 御嵩町1992『御嵩町史』(通史編)
- 森田勉1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』第2号、日本貿易陶磁研究会
- 山内伸浩2008「東農地域における灰釉陶器・山茶碗生産の一様相」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会2008年度愛知県大会実行委員会
- 山本智子2018「中世美濃須衛窯編年の再検討」『文研会紀要』第29号、愛知学院大学大学院文学研究科文研会
- 若尾正成1988「美濃の白瓷と山茶碗」『岐阜史学』第81号、岐阜史学会
- 渡邊博人2008「美濃須衛窯について」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会2008年度愛知県大会実行委員会

図版 1 発掘区全景（1）



C16 地点発掘区全景（東から）



C17 地点発掘区全景（東から）

図版2 発掘区全景（2）



C18 地点発掘区全景（東から）



C19 地点発掘区全景（北東から）

図版3 C16地点の遺構（1）



NR2 完掘状況（南から）



NR1 土層断面（東から）



NR2 遺物出土状況（東から）



SP1 柱根出土状況（北西から）

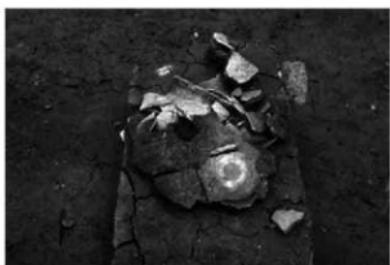


SP2 柱根・根石出土状況（南西から）

図版4 C16地点の遺構（2）、C17地点の遺構（1）



NR3 遺物出土状況（北西から）



NR3 遺物出土状況（北から）



NR3 遺物出土状況（南東から）



漆器碗出土状況（北西から）



NR5 3層遺物出土状況（南から）

図版5 C17地点の遺構（2）



NR5 5層底面遺物出土状況（北から）



NR5 5層底面遺物出土状況（南東から）



NR5 完掘状況（西から）



NR5 8層遺物出土状況（西から）



下駄出土状況（南から）

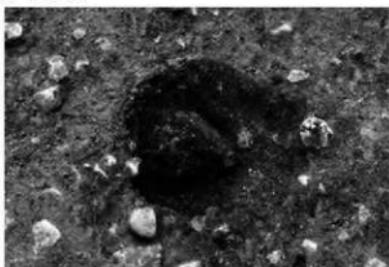
図版6 C18地点の遺構（1）



SB 1 完掘状況（西から）



SB 1-P 1 柱根出土状況（西から）



SB 1-P 2 础盤石出土状況（東から）



SB 1-P 3 柱根出土状況（西から）

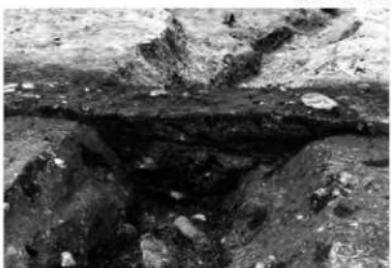


SB 1-P 4 础盤石出土状況（東から）

図版 7 C18 地点の遺構（2）



SD 2 完掘状況（北西から）



SD 2 土層断面（東から）



SD 2 遺物出土状況（東から）

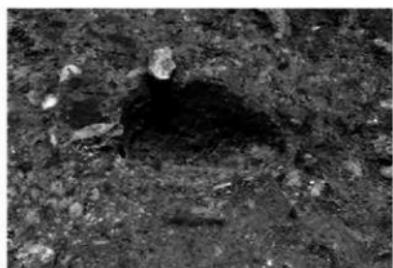


SR 1 検出状況（南西から）

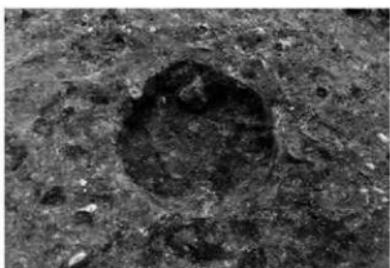


SR 2 検出状況（南東から）

図版8 C18地点の遺構(3)、C19地点の遺構(1)



SK24 完掘状況(西から)



SK25 完掘状況(西から)



SD3 土層断面(東から)



SD4 土層断面(東から)



SD3 完掘状況(西から)

図版9 C19地点の遺構（2）



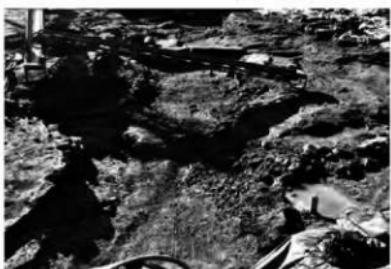
SD 4 完掘状況（北から）



SD 7 完掘状況（東から）



SD 7 土層断面（西から）



SD 8 完掘状況（北から）



SD 6・SD 8 土層断面（南から）

図版 10 C19 地点の遺構（3）



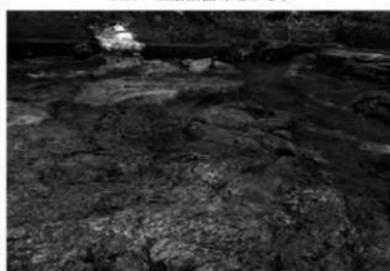
SK50 完掘状況（南東から）



SK50 土層断面（北から）



SK51 完掘状況（西から）



SD9 完掘状況（南から）



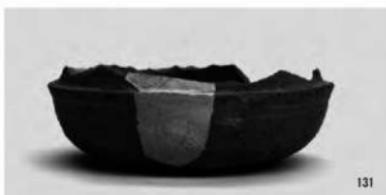
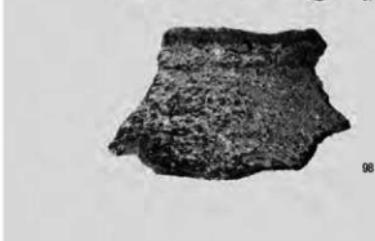
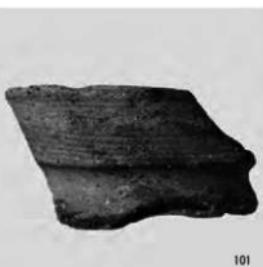
SD9 土層断面（南西から）



图版 12 出土遗物 (2)



圖版 13 出土遺物 (3)



图版 14 出土遗物 (4)





240



249



241



250



248



254



251



263



264



266



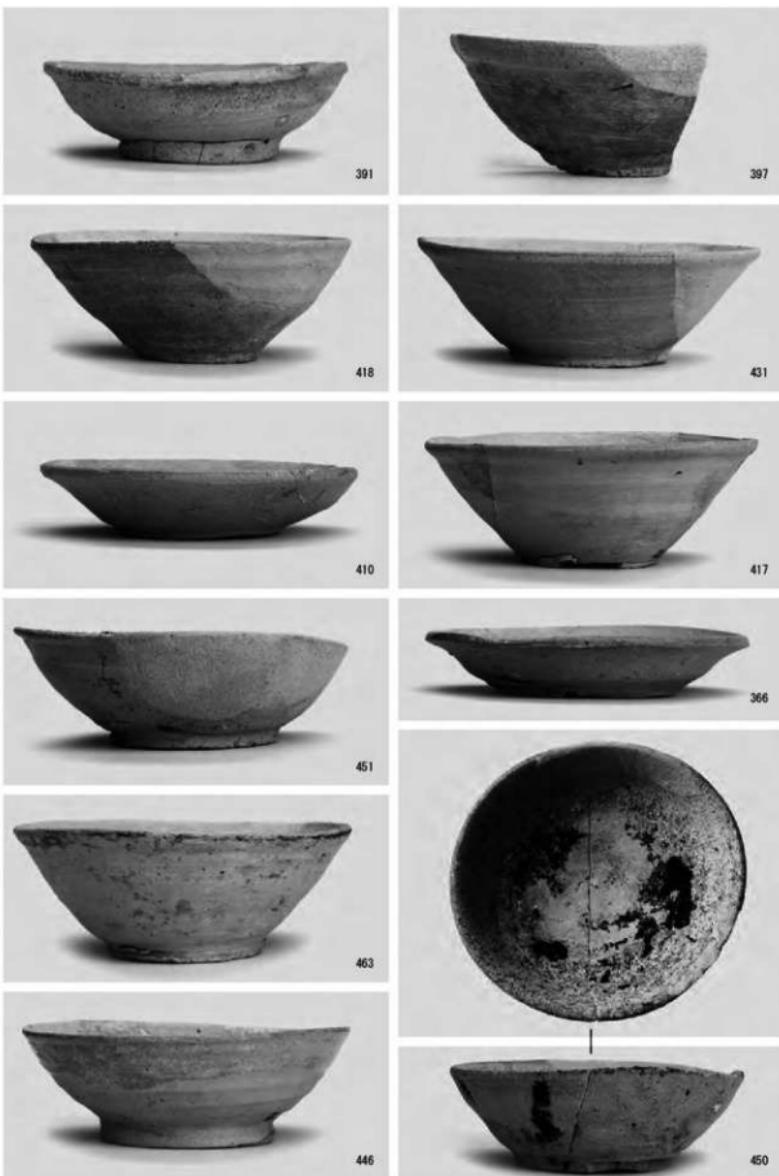
201



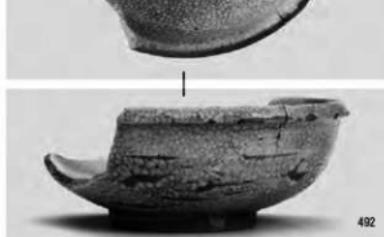
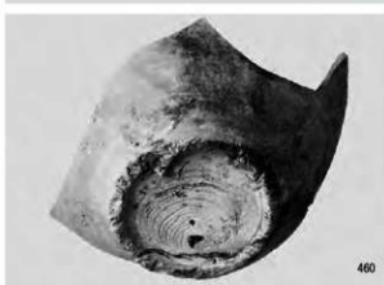
257

图版 16 出土遗物 (6)





图版 18 出土遗物 (8)



圖版 19 出土遺物 (9)



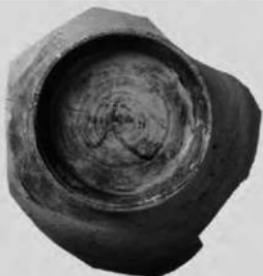
291



294



290



242



190



227

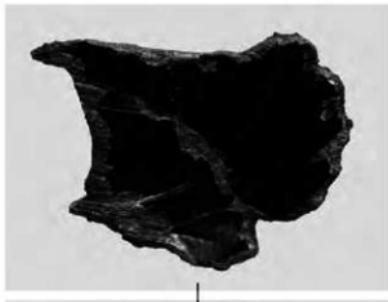


193

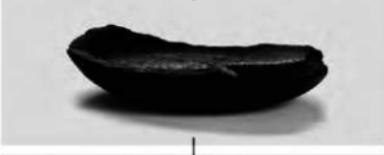
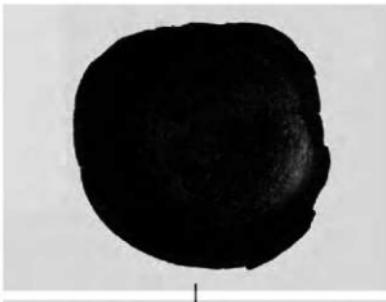


411

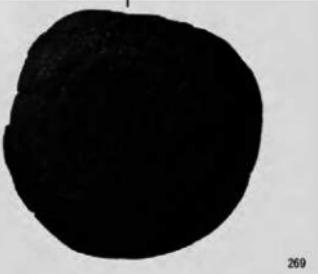
图版 20 出土遗物 (10)



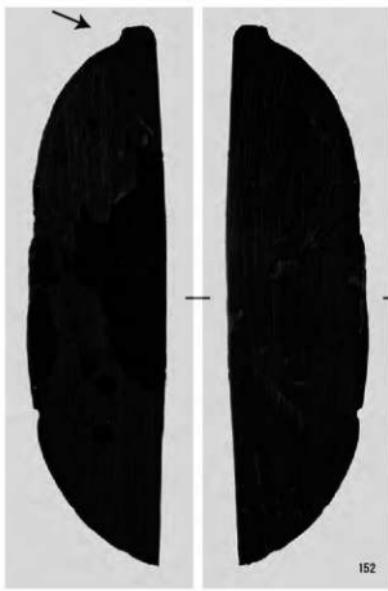
221



221



269

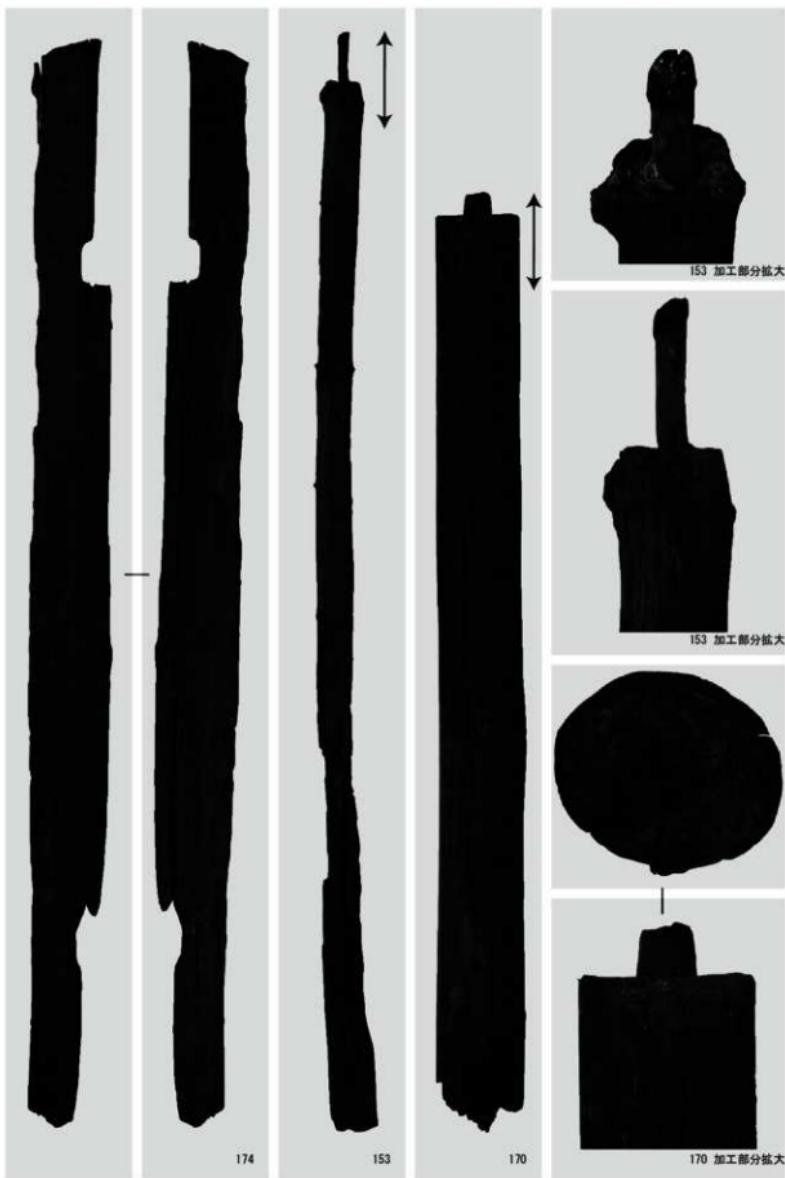


152

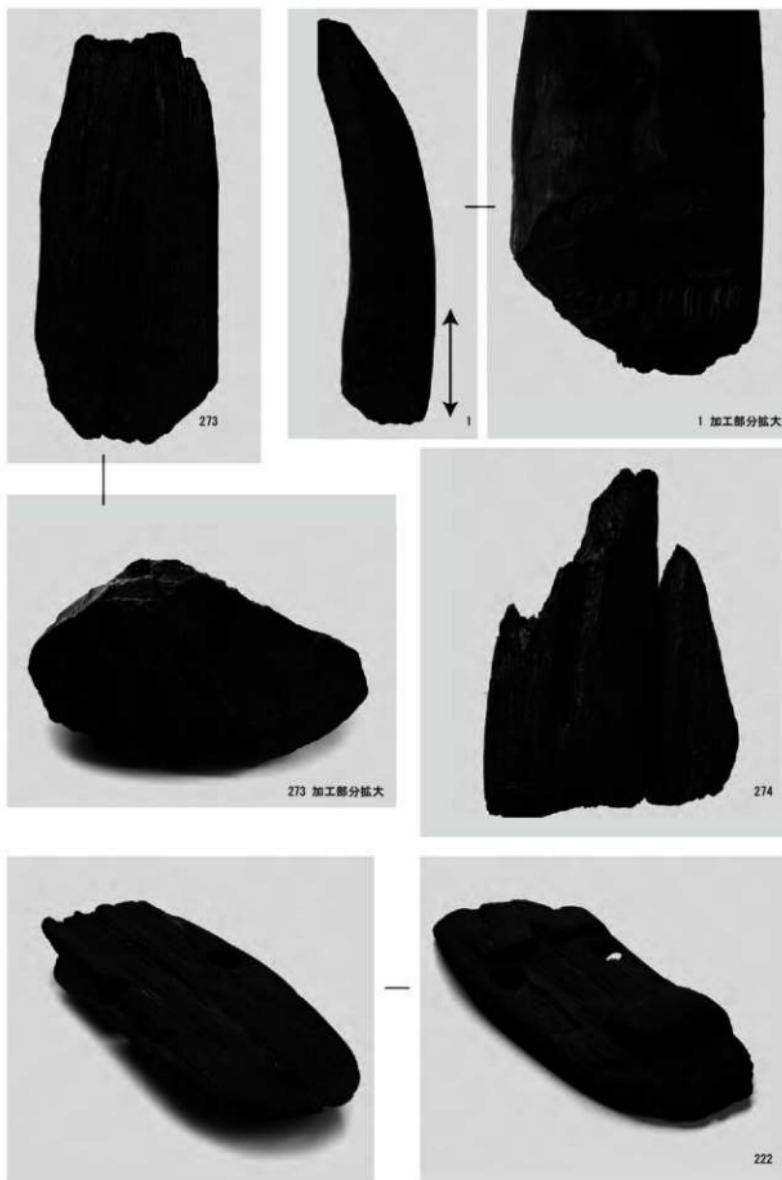


152 加工部分放大

図版 21 出土遺物 (11)



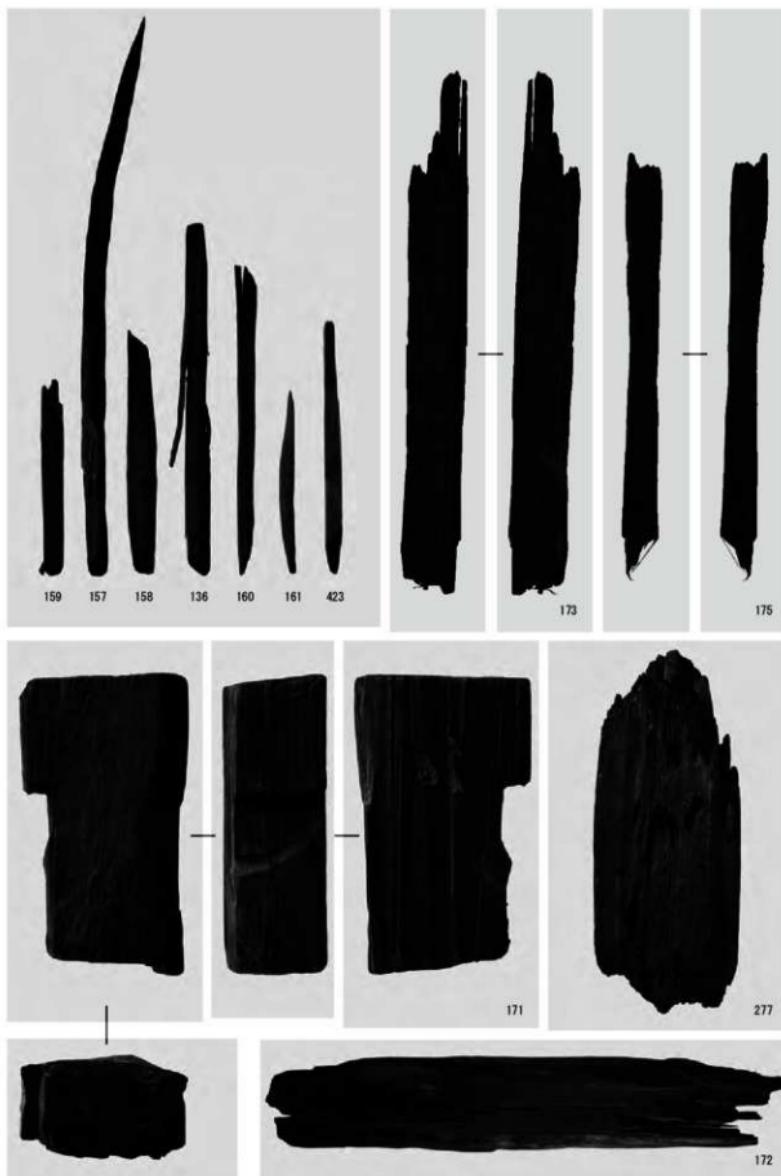
图版 22 出土遗物 (12)



圖版 23 出土遺物 (13)



図版 24 出土遺物 (14)



報 告 書 抄 錄

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第165集

柿 田 遺 跡 II

2024年3月8日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 株式会社もとすいんさつ

